

保育学科

分類	授業科目	方法	必修	選択	年次	期
基礎 教育科目	大学教育入門	講義	1		1	前
	データサイエンス基礎	講義	1		1	前
	茶道文化Ⅰ	演習	1		1	前
	茶道文化Ⅱ	演習	1		1	後
	茶道文化Ⅲ	演習	1		2	前
	茶道文化Ⅳ	演習	1		2	後
	日本国憲法	講義	2		1	前
	ジェンダー論	講義		2	1	後
	実践国語演習	演習		2	1	後
	英語Ⅰ	演習	2		1	前
	国際コミュニケーション演習	演習		2	1	後
	保育学特別演習	演習		2	1	後
	スポーツ科学	講義	1		2	前
	スポーツ実習	実技	1		2	後
	コンピュータ演習	演習		2	1	前
	保育のICT	演習		2	1	後
専門 教育科目	保育原理	講義	2		1	前
	教育原理	講義	2		2	前
	子ども家庭福祉	講義	2		1	前
	社会福祉	講義	2		1	前
	社会的養護Ⅰ	講義	2		1	後
	保育者論	講義		2	2	前・後
	教育方法論	講義		2	2	後
	教育経営論	講義		2	2	前
	保育の心理学	講義	2		1	後
	子ども家庭支援の心理学	講義		2	2	後
	子どもの理解と援助	演習	1		2	後
	臨床心理学	演習		2	2	前
	子どもの保健	講義	2		1	前
	子どもの健康と安全	演習	1		2	前
	子どもの食と栄養	演習	2		1	後
	子ども家庭支援論	講義		2	2	後
	カリキュラム論	講義	2		1	後
	保育内容総論	演習	2		1	前
	保育内容演習Ⅰ(健康)	演習		1	1	前
	保育内容演習Ⅰ(表現音楽活動)	演習		1	2	前
	保育内容演習Ⅰ(表現造形活動)	演習		1	2	前
	保育内容演習Ⅰ(人間関係)	演習		1	2	後
	保育内容演習Ⅰ(環境)	演習		1	2	前
	保育内容演習Ⅰ(言葉)	演習		1	1	後

分類	授業科目	方法	必修	選択	年次	期
専門 教育科目	乳児保育Ⅰ	講義	2		1	後
	乳児保育Ⅱ	演習		1	2	後
	特別支援教育概論	演習		2	2	後
	社会的養護Ⅱ	演習		1	2	前
	子育て支援	演習		1	2	後
	保育相談	講義		2	2	前
	総合保育技術Ⅰ	演習		1	1	前
	総合保育技術Ⅱ	演習		1	1	後
	総合保育技術Ⅲa	演習		1	2	前
	総合保育技術Ⅳa	演習		1	2	後
	総合保育技術Ⅲb	演習		1	2	前
	総合保育技術Ⅳb	演習		1	2	後
	総合保育技術Ⅲc	演習		1	2	前
	総合保育技術Ⅳc	演習		1	2	後
	総合保育内容Ⅱ(保育教材研究a)	演習		1	1	前
	総合保育内容Ⅱ(保育教材研究b)	演習		1	2	前
	総合保育内容Ⅱ(マーチングa)	演習		1	1	後
	総合保育内容Ⅱ(マーチングb)	演習		1	2	前
	子どもと表現(ピアノ・音楽Ⅰa)	演習		1	1	前
	子どもと表現(ピアノ・音楽Ⅰb)	演習		1	1	後
	子どもと表現(ピアノ・音楽Ⅱa)	演習		1	2	前
	子どもと表現(ピアノ・音楽Ⅱb)	演習		1	2	後
	子どもと表現(歌唱)	演習		1	1	後
	子どもと表現(造形a)	演習		1	1	前
	子どもと表現(造形b)	演習		1	1	後
	子どもの表現(リズム)	演習		1	1	前
	子どもと健康	演習		1	1	前
	子どもと言語	演習		1	1	前
	子どもの心	演習		1	1	前
	保育実習Ⅰ	実習		4	1・2	後・前
	保育実習Ⅱ	実習		2	2	後
	保育実習Ⅲ	実習		2	2	後
	教育実習	実習		4	2	前
	実習指導(保育実習指導Ⅰ・教育実習指導)	演習		2	2	前
	保育実習指導Ⅱ	演習		1	2	前
	保育実習指導Ⅲ	演習		1	2	前
	保育実践演習(教職実践演習 幼稚園)	演習		2	2	後
	卒業研究Ⅰ	演習		1	2	前
	卒業研究Ⅱ	演習		1	2	後

講義科目名称:日本国憲法	授業コード:
英文科目名称:The Constitution of Japan	ナンバリング:BS102

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
前期	1年	2単位	必修	講義
担当教員				
中野 明人				

授業概要	保育に携わる人材にはさまざまな資質が求められるが、この講義においては、日本国憲法の意義を理解し、主として2つの柱「基本的人権」「日本の国の仕組み(三権分立)」について学ぶ。具体的には、 ①明治憲法と日本国憲法との違いを理解する。日本国憲法の三大原則について理解する。天皇制について理解する。 ②明治憲法における人権について理解する。日本国憲法の主体について理解する。近代憲法の特徴について理解する。 ③平等権について理解する。自由権について理解する。社会権について理解する。 ④新しい人権の生まれた背景について理解する。新しい人権について具体的に知る。新しい人権について事例を通して学ぶ。 ⑤国会の仕組みについて理解する。内閣の仕組みについて理解する。裁判所の仕組みについて理解する。三権分立について理解する。
------	---

資質・能力	授業における到達目標	評価方法	評価比率
心豊かな人間力	・人権の基本的な意義を理解し、子どもたちをめぐりさまざまな人権について説明することができる。	・筆記試験	40%
確かな専門的知識や技能	・人権や日本の統治機構に関する課題について自分の考えを持つことができる。	・筆記試験	40%
コミュニケーション能力	・授業で得た知識をもとに自分の考えを授業の最後に行うコミュニケーションシートに表現することができる。	・授業後アンケート(コミュニケーションシート)	10%
課題解決能力			
主体的に学ぶ力	・日本国憲法が幼稚園教諭に必要な専門知識であることを理解し、積極的な学習ができる	・授業への参加・態度	10%
合計			100%
補足事項			
・本授業では、定期試験90%、授業後アンケート5%、授業への参加・態度5%の割合で評価する。 ・授業後に行うコミュニケーションシート以外にも、「Google Classroom」での質問も大いに歓迎します。 ・課題のフィードバックは授業内またはGoogle Classroomで行う。			

授業計画	授業の内容	実施形式	予習・復習の内容と時間
1回目	「ガイダンス この授業が目指すもの」	対面授業	・予習:「幼稚園教諭」の免許取

	・保育学科でなぜ「日本国憲法」を学ぶのか、資格要件の観点や、実際に保育者に求められる視点を説明する。 ・15回を通して何を学ぶのかを概観し、説明する。		得には何を学ぶことが求められるか調べる(2時間) ・復習: 保育学科で日本国憲法を学ぶ意義についてまとめる(2時間)
2回目	「憲法制定の歴史的経緯を振り返る」 ・明治憲法から日本国憲法に移り変わる経緯について説明する。 ・民主主義について説明する。 ・日本国憲法と明治憲法の違いについて説明する。	対面授業	・予習: 明治憲法の特徴を調べる(2時間) ・復習: 明治憲法の抱える問題点についてまとめる(2時間)
3回目	「国民主権と象徴天皇」 ・「国民主権」について説明する。 ・「象徴」について説明する。 ・天皇の権能について説明する。 ・天皇制の今と今後の課題について説明する。	対面授業	・予習: 平成天皇の退位と令和天皇の即位を調べる(2時間) ・復習: 天皇制の歴史と仕組みについてまとめる(2時間)
4回目	「基本的人権総論」 ・人権の確立の歴史について説明する。 ・基本的人権が何故生まれてきたのか説明する。	対面授業	・予習: これまで学んできた人権についてまとめる(2時間) ・復習: 基本的人権誕生の歴史的経緯をまとめる(2時間)
5回目	「包括的基本権」 ・人権の拡大について説明する。 ・社会権について説明する。 ・新しい人権について説明する。	対面授業	・予習: 新しい人権という言葉を調べる(2時間) ・復習: 新しい人権についてまとめる(2時間)
6回目	「平等権」 ・平等権が生まれてきた歴史的背景について説明する。 ・平等権にはどのようなものがあるか説明する。 ・「不平等」について説明する	対面授業	・予習: 「差別」について調べる(2時間) ・復習: 平等権の具体的内容をまとめる(2時間)
7回目	「精神的自由権」 ・思想・良心の自由について説明する。 ・信教の自由について説明する。 ・学問の表現の自由について説明する。	対面授業	・予習: 自分が考えると「表現」についてまとめる(2時間) ・復習: 表現の自由がなぜ重要なのかについてまとめる(2時間)
8回目	「経済的自由権」 ・居住移転の自由について説明する。 ・職業選択の自由について説明する。 ・財産権について説明する。	対面授業	・予習: 自分のなりたい職業についてまとめる(2時間) ・復習: 職業選択の意義についてまとめる(2時間)
9回目	「身体的自由権」 ・その必要性、重要性について説明する。 ・刑事手続き全般そして基本原則について説明する。 ・被疑者、被告人の人権について説明する。 ・死刑制度について説明する。	対面授業	・予習: 黙秘権という言葉について調べる(2時間) ・復習: 死刑制度について自分の考えをまとめる(2時間)
10回目	「参政権」 ・意義について説明する。 ・選挙制度について説明する。 ・選挙制度の問題点について説明する。	対面授業	・予習: 最近の選挙の結果について調べる(2時間) ・復習: 投票に行く意義についてまとめる(2時間)
11回目	「社会権」 ・生存権が生まれてきた経緯について説明する	対面授業	・予習: 生活保護という言葉について調べる(2時間)

	・意義について説明する。 ・教育を受ける権利について説明する。 ・勤労権について説明する。 ・労働基本権について説明する。		・復習:生存権の意義についてまとめる(2時間)
12回目	「国会」 ・三権分立について説明する。 ・国会の組織と権能について説明する。 ・国会議員の実際の活動を説明する	対面授業	・予習:自分の住んでいる街の国会議員について調べる(2時間) ・復習:衆議院と参議院の違いについてまとめる(2時間)
13回目	「内閣」 ・内閣制度やこれまでの内閣の変遷について説明する。 ・内閣の組織と権能について説明する。 ・現在の政権を例に、内閣の実際について説明する。	対面授業	・予習:首相官邸のホームページを見る(2時間) ・復習:内閣総理大臣の役割についてまとめる(2時間)
14回目	「裁判所」 ・裁判所の組織について説明する。 ・裁判官の権能について説明する。 ・裁判員裁判について説明する。	対面授業	・予習:裁判員裁判という言葉調べておく(2時間) ・復習:裁判所の基本的な機能についてまとめる(2時間)
15回目	まとめ ・本講義で何を学んだのかについて振り返る。 ・学んだことがこれからの保育士や幼稚園教諭としてどのような観点から役立つのかについて整理し説明する。 ・日本国憲法を学び、この15回を通して何を身につけたかを各人が考える。	対面授業	・予習:これまでのノートをふりかえる(2時間) ・これからの学生生活や卒業後の社会人としての生活にどのように生かすのかまとめる(2時間)
16回目	定期試験		授業外学修時間 60時間

科目(教職課程用)	日本国憲法
教育職員免許法施行規則に定める科目区分または事項等	「教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目」 必修2単位
教科書・参考書	①テキスト:「日本国憲法講義用テキスト」(中野明人著) ②参考書:授業内容に合わせて別途指示する。
履修条件	
履修上の注意	日頃からニュースなど時事問題に関心を持つことが大切です。必ずニュースに目を通して授業に臨んでください。
オフィスアワー	・木曜日の放課後をオフィスアワーとして設定しています。事前に予約を取って研究室を訪問してくださいと助かります。 ・また、水曜日以外の昼休みもオフィスアワーとして利用できますので、ぜひ質問にきてください。
備考・メッセージ	日本国憲法は、とっつきにくい印象をもたれがちですが、なるべく今の世の中で起きている事象に結び付けてわかりやすく解説し考えてもらいます。

講義科目名称:ジェンダー論	授業コード:
英文科目名称:	ナンバリング:BS201

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
後期	1	2	選択	講義
担当教員				
川原 ゆかり				

授業概要	ジェンダーとは何か、教育とは何か？ジェンダーと教育はどのようにつながるのか考える。歴史的・文化的・社会的に作られた「女」「男」の性別による「当たり前さ」や「常識」「自然」という考え方の中の女性の生き方について基本的な知識を修得する。性に不随した「ジェンダー役割」についての理解を深め、エンパワーメントについて見識を高めることができる。 各論として、女性と家族、母子世帯と社会福祉、貧困、結婚、子育て・労働・高齢者問題、DV、児童虐待などについての理解に必要な知識を養う。また、LGBTなどセクシ ャリティの多様性についての知識や理解を深めることで、多様な生き方を受け入れる事ができるようになる。
------	---

資質・能力	授業における到達目標	評価方法	評価比率
心豊かな人間力	多様な生き方・様々な考え方・価値観を知り、受容できるようになる	レポート	10%
確かな専門的知識や技能	女性を取り巻く社会情勢の中の様々な課題や問題点、福祉制度などについて理解し、自らの生き方の考察に繋げることができる。	定期試験	60%
コミュニケーション能力	多様な生き方・様々な考え方・価値観を知るために、グループディスカッションを通して、自己覚知することができる。	グループディスカッション	10%
課題解決能力	講義で得た知識や他の生き方を通して、自己課題を発見し、問題解決する力をレポート等で言語化して再認識し、行動かできる力を身に付ける。	定期試験 レポート	10%
主体的に学ぶ力	積極的に他とディスカッションし、新聞記事等の関連情報に自らリサーチできるようになる。	グループ討議 予習・復習力	10%
合計			100%

補足事項			
定期試験(60%) レポート(30%) グループ討議(10%) を総合して評価する。 ①オンラインで実施する場合は、事前に配布します。保育者としての自分を認識するため予習・復習をして受講して下さい。 ②保育者としての自分を認識するための各種の心理テスト等は予習・復習として実施して下さい。対面授業時に説明及び自己採点と解釈をします。 ③オンライン授業時は、カメラは基本的に「ON」、発言時以外は、マイクは「OFF」にして下さい。 ④課題やレポートは Word や Excel を必要に応じて活用して下さい。 ⑤授業開始から15分以前の早退及び授業時間中15分以上離席した際は欠席扱い、授業開始から15分経過した遅刻 3 回で欠席 1 回とみなします。			

授業計画	授業の内容	実施形式	予習・復習の内容と時間
1回目	ジェンダー総論 現代を取り巻く社会構造・概論とジェンダー	面接授業 オンライン可	予習:まずは女性の生き方のモデルに触れる(2時間)

			復習:女性から見た社会構造をまとめる(2時間)
2回目	ジェンダーの発達心理学 「女」になる、「男」になることとは？	面接授業 オンライン可	予習:学友と、性別・性差等についてディスカッションする(4時間)
3回目	性同一性の形成① 性の多様性(LGBT等)について理解を深める。 実話「ボーイズ・ドントクライ」を視聴する。	面接授業 オンライン可	予習:LGBTの文献を読む(2時間) 復習:資料を読み、LGBTの認識を深める(2時間)
4回目	性同一性の形成② トランスジェンダーについて理解を深める。	面接授業 オンライン可	予習:女性のトランスジェンダーに関する記事を読む(2時間) 復習:女性のトランスジェンダーの生きづらさをまとめる(2時間)
5回目	ジェンダーフリーと結婚 ジェンダーと結婚について考え、世界の結婚・日本の結婚の定義について学ぶ。	面接授業 オンライン可	復習:結婚とは何か、結婚の意義や社会的意味について学友とディスカッションする(4時間)
6回目	ジェンダーと出産について 世界10か国の女性の出産のドキュメンタリーを視聴し、性と生について考える。	面接授業 オンライン可	予習:出産に関する正しい知識を学ぶ(2時間) 復習:命がこの世に生まれる神秘をまとめる(2時間)
7回目	ジェンダーについて 社会的・文化的・歴史的慣習の中のジェンダー意識を理解する。差別と区別を知る。	面接授業 オンライン可	予習:自分と身近なジェンダー意識に気づく(2時間) 復習:女性誌研史を読む(2時間)
8回目	男子の生きる世界とジェンダー 配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する(DV法)法律について学ぶ。DVD「DV」を視聴する。	面接授業 オンライン可	予習:DVに関する文献を読む(2時間) 復習:DV法の趣旨とDVに対する自分の考えをまとめる(2時間)
9回目	生と性のグラデーション(共依存) 男女間で陥りやすい共依存について認識を深める。自立と依存について学ぶ。	面接授業 オンライン可	予習:依存に関する文献を読む(2時間) 復習:DV被害者の保護・その社会資源について知る(2時間)
10回目	老いとジェンダー革命 少子高齢社会の中の生き方を考える。一生の時間軸と人生の一般的なエピソードについて理解する。	面接授業 オンライン可	予習:人口構造について調べる(2時間) 復習:自分の10年後・30年後の人生をイメージしてまとめる(2時間)
11回目	ひとり親家庭と養育放棄 実話「誰も知らない」を視聴。ひとり親家庭の親子の生きざまや実態を理解する。	面接授業 オンライン可	予習:子どもにとっての親とは何か、学友とディスカッションする(2時間) 復習:親の立場から子育ての困難性を想像する(1時間)
12回目	ひとり親家庭と養育 経済的・社会的・法的・社会構造からみたひとり親家庭の位置づけを考える。	面接授業 オンライン可	予習:養育放棄・ネグレクト関連の図書を読む(2時間) 復習:子どもの予後を理解し、社会的養護に関する文献を読む(2時間)
13回目	女性のジェンダー意識と「幸せな家庭の幻想」 女性の就業と社会的自立に伴う子人生設	面接授業 オンライン可	予習:多様な働き方と保育ニーズについて調べる(2時間)

	計・自立の困難性及び育て環境の変化、保育制度について理解する。		復習：現代社会における保育制度と保育者を目指す自己理解をするために考えをまとめる（2時間）
14回目	総活・まとめ ジェンダー概論から各論にいたる一連の学びを整理し、時代と共に変化するデータ(数値)や概念をまとめる。	面接授業 オンライン可	予習：1～13回の資料を読む（2時間） 復習：諸々の概念や数値を理解し、記憶する（2時間）
15回目	模擬テスト 各種制度や概念、時代と共に変化する数値の意味と社会構造を理解し、総まとめとして正しい知識を得る。	面接授業 オンライン可	予習：記憶するための「穴空きプリント」を勉強する（1時間） 復習：定期試験の準備（3時）
16回目	定期試験		授業外学修時間 60時間

科目(教職課程用)	
教育職員免許法施行規則に定める科目区分または事項等	
教科書・参考書	ジェンダーで学ぶ教育 少子化時代のジェンダーと母親意識
履修条件	
履修上の注意	課題のフィードバックは授業内で行います。
オフィスアワー	特に定めません。質問がある場合は昼休み・放課後に行います。
備考・メッセージ	①原則対面授業ですが、オンライン授業を行う場合もあります。オンライン授業時は、カメラは基本的に「ON」、発言時以外は、マイクは「OFF」にして下さい。 ②オンライン授業のパワーポイント資料は事前に配布します。オンライン授業は課題提出を義務化し、出席とみなし、レポートの内容から教育効果の検証を行います。 ③ジェンダー論の観点から女性のリアルな生きざまと女性特有の取り巻く環境・価値感を指南しながら、実例や現状と課題を通して、自立した女性の生き方を探っていきます。 ④一人の人間・女性としての自立の先にある保育者としての子育て支援の視点を体現できる授業を通して、理論に結びつけていきます。 ⑤課題やレポートはWordやExcelを必要に応じて活用して下さい。

講義科目名称:実践国語演習	授業コード:
英文科目名称:	ナンバリング: BS202

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
後期	1年	2単位	選択	演習
担当教員				
山本 みづほ				

授業概要	保育者としてふさわしい国語力を修得するために、「会話表現」と「文章表現」の基礎を学び、応用力を身に付ける。子ども、保護者、職場の人それぞれに対する言葉遣いと気遣いができる人間力を養う。 本講義では、①保育現場において正しい言葉遣いで対応することができる、②広い視野で物事を捕らえ保育の実践をすることができる、③読みやすい文字で順序立てた文章を書くことができることを目標とする。
------	--

資質・能力	授業における到達目標	評価方法	評価比率
心豊かな人間力	・ビブリオバトルを通して自分の思いを伝えることができる。	・授業での発表	10%
確かな専門的知識や技能	・総合的な国語力を身に付けている。 ・保育士としての思いを的確に文章で表現できる。	・定期試験	50%
コミュニケーション能力	・グループ内で協力して「事例カード」による寸劇を作り上げることができる。	・グループディスカッションと授業での発表	10%
課題解決能力	・保育に関する新聞記事を読み、有効な解決策を考えることができる。	・レポート	10%
主体的に学ぶ力	・毎回の講義の感想や質問を文章で表現できる。	・授業への参加・態度 ・振り返りのメモ	20%
合計			100%
補足事項			
・本授業では、定期試験50%、毎回の授業の振り返り感想・質問メモと授業への参加・態度20%、及びビブリオバトル、グループディスカッション、レポート各10%の割合で評価する。 ・課題のフィードバックは授業内またはGoogle Classroomで行う。			

授業計画	授業の内容	実施形式	予習・復習の内容と時間
1回目	「オリエンテーション」 講義の進め方、保育士に求められる国語力について説明する。	対面授業 オンライン可	予習: 自己紹介(保育園・幼稚園時代の思い出エピソード)を考えておくこと(2時間) 復習: シラバスを再度確認しておく(2時間)
2回目	「会話表現1」 聞き取りやすい話し方の基本について説明する。 ・正しい発声、アクセント、プロミネンス	対面授業 オンライン可	予習: P20～P25を読んでおく(2時間) 復習: 早口言葉を書き、声に出して言う(2時間)
3回目	「会話表現2」ビブリオバトル	対面授業	予習: 紹介する本を準備し、

	4人グループで予選を行い、チャンプ本を決め、全体で代表者による決戦大会を行う。 ・本を持参(図書館で借りても良い)	オンライン可	5分間で話す練習をしておく(2時間) 復習:チャンプ本のどこに惹かれたかについてまとめる(2時間)
4回目	「会話表現3」 敬語について説明する。 ・敬語の種類 ・二重敬語に注意	対面授業 オンライン可	予習:P26~P30を読んでおく(1時間) 復習:敬語の種類についてまとめる(3時間)
5回目	「会話表現4」 実習先での自己紹介について説明する。(先生方、子ども、保護者の3つのパターン) 演習シートを用いて授業の理解を深める。	対面授業 オンライン可	予習:P32~P36を読んでおく(1時間) 復習:発表した内容の振り返りをする(3時間)
6回目	「会話表現5」 電話の応対について説明する。 ・ロールプレイ式 ・伝言メモの取り方	対面授業 オンライン可	予習:P37~P39、P55~P56を読んでおく(2時間) 復習:的確な応対に必要な知識をまとめる(2時間)
7回目	「会話表現6」 保育現場での話し方について説明する。 事例カードごとに園児役、先生役に分かれての寸劇 ・役になりきることが重要	対面授業 オンライン可	予習:P40~P45を読んでおく(2時間) 復習:各グループの良かった点をまとめる(2時間)
8回目	「文章表現1」 文字を正しく書くことについて説明する。 ・ペンの正しい持ち方 ・正しい表記	対面授業 オンライン可	予習:P58~P65を読んでおく(2時間) 復習:自分の文字の癖を再認識する(2時間)
9回目	「文章表現2」 文章作成上の留意点について説明する。 ・当て字、隠語、記号の用い方、重複表現、同じ言葉の多用	対面授業 オンライン可	予習:P66~P71を読んでおく(2時間) 復習:自分の文章の癖を再認識する(2時間)
10回目	「文章表現3」 文章の基本的な書き方について説明する。 ・毎回書いている振り返りメモを参考	対面授業 オンライン可	予習:P72~P76を読んでおく(2時間) 復習:自分の文章の癖を文章化する(2時間)
11回目	「文章表現4」 実習日誌の書き方を説明する。 ・ある保育士の1日のビデオを参照	対面授業 オンライン可	予習:P78~P87を読んでおく(2時間) 復習:実習日誌を完成させる(2時間)
12回目	「文章表現5」 指導計画、連絡帳の書き方について説明する。 ・指導計画の見本から学ぶ ・連絡帳を実際に書く	対面授業 オンライン可	予習:P88~P92及びP125~P132を読んでおく(2時間) 復習:グループで交換して見た連絡帳の長所をまとめる(2時間)
13回目	「文章表現6」 小論文の書き方を説明する。 ・原稿用紙の使い方、作文と小論文の違い、構成 ・過去に出されたタイトルから一つを選び実際に書く	対面授業 オンライン可	予習:P112~P124を読んでおく(2時間) 復習:時間内に提出した小論文の振り返りをする(2時間)
14回目	「文章表現7」 手紙、はがき、メールの書き方を説明する。 ・年賀状を書く	対面授業 オンライン可	予習:P93~P106を読んでおく(1時間) 復習:実際に年賀状を書いて出す(3時間)

15回目	「文章表現8」「会話表現7」 履歴書の書き方と面接の受け方を説明する。 ・履歴書を書き、それをもとにグループで面接練習をする。	対面授業 オンライン可	予習:P107~P111及び P46~P50を読んでおく(2時間) 復習:今日の学びの振り返りをする(2時間)
16回目	定期試験	対面のみ	授業外学修時間 60時間

科目(教職課程用)	
教育職員免許法施行規則に定める科目区分または事項等	
教科書・参考書	教科書:『保育者になるための国語表現』2020改訂版4刷 萌文書林 参考書、資料に関しては授業で提示する
履修条件	
履修上の注意	
オフィスアワー	授業の前後で質問に対応します
備考・メッセージ	・座席指定とする ・欠席の場合は欠席願(届)を必ず提出すること ・常に保育関連の新聞記事やニュースに注目しておくこと ・演習形式の授業なので、積極的に取り組み国語力を養おうとする意欲のある学生を望みます

講義科目名称:英語 I	授業コード:
英文科目名称:	ナンバリング:BS103

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
前期	1	2	卒業:必修 保育士:選択 幼二免:必修	演習
担当教員				
本土 源太郎				

授業概要	保育現場で役立つ英語表現(以下参照)の学習。 手遊び英語歌(Ten Little Pumpkins など)、保護者との英会話、ネイティブ講師との打合せに必要な英語、アレルギーや医療品に関する英語、園行事や遊具に関する英語などを学ぶ。また実習形式で、スクラブル等の教具の体験、浦島太郎などの洋書の読み聞かせを行う。さらに、各国のクリスマス事情などの調べ学習を通し異文化理解を深め、教養の涵養も促す。
------	--

資質・能力	授業における到達目標	評価方法	評価比率
心豊かな人間力	社会の様々な立場の人に親和的な態度で積極的に働きかけることができる。	授業への参加・態度	20%
確かな専門的知識や技能	英語で保育現場に役立つ身近な表現と語彙を用いて活用することができる。	定期試験・小テスト	80%
コミュニケーション能力	英語で相手や目的・場面に応じて自らの意志を的確に表現、理解することができる。	グループディスカッション プレゼンテーション	
課題解決能力	指示を待つのではなく、自らやるべきことを見つけて積極的に取り組むことができる。	レポート	
主体的に学ぶ力	自己について深く理解し、興味関心に基づき保育について考えることができる。		
合計			100%
補足事項			
授業中の携帯電話の使用は禁止します。 課題のフィードバックは授業内またはGoogle Classroomで行う。			

授業計画	授業の内容	実施形式	予習・復習の内容と時間
1回目	オリエンテーション 英語の会話に最低限必要な表現	面接授業	予習・復習の内容を説明 PreUnitの予習(2h)
2回目	Unit 1 自己紹介に関する英語表現	面接授業	Unit1の復習とUnit2の予習(4h)
3回目	Unit 2 場所に関する表現を説明する	面接授業	Unit2の復習とUnit3の予習(4h)
4回目	Unit 3 体調に関する英語表現を学習する	面接授業	Unit3の復習とUnit4の予習(4h)
5回目	Unit 4 好き嫌いに関する英語表現	面接授業	Unit4の復習とUnit5の予習(4h)
6回目	Unit 5 存在・状態に関する英語表現	面接授業	Unit5の復習とUnit6の予習(4h)
7回目	Unit 6 時間に関する英語表現	面接授業	Unit6の復習とUnit7の予習(4h)

8回目	Unit 7 病気・アレルギーに関する表現	面接授業	Unit7の復習とUnit8の予習(4h)
9回目	Unit 8 緊急事態に関する英語表現	面接授業	Unit8の復習とUnit9の予習(4h)
10回目	Unit 9 行事に関する英語表現	面接授業	Unit9の復習とUnit10の予習(4h)
11回目	Unit 10 天気に関する英語表現	面接授業	Unit10の復習とUnit11の予習(4h)
12回目	Unit 11 禁止・助言に関する英語表現	面接授業	Unit11の復習とUnit12の予習(4h)
13回目	Unit 12 病気に関する英語表現	面接授業	Unit12の復習とUnit13の予習(4h)
14回目	Unit 13 電話での応対に関する英語表現	面接授業	Unit13の復習とUnit14の予習(4h)
15回目	Unit 14 感謝の気持ちを表す英語表現	面接授業	Unit4の復習と試験勉強(6h)
16回目	定期試験		授業外学修時間 60h

科目(教職課程用)	
教育職員免許法施行規則に定める科目区分または事項等	
教科書・参考書	Happy English for Childcare 保育のための基礎英語
履修条件	教科書を忘れないこと
履修上の注意	
オフィスアワー	(前期)月曜日の3～4限目
備考・メッセージ	授業中の携帯電話の使用は禁止 毎回小テストを行うので必ず既習内容の復習を行うこと

講義科目名称:国際コミュニケーション演習	授業コード:
英文科目名称:Global Communication	ナンバリング:BS203

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
後期	1年	2単位	選択	講義
担当教員				
近藤 直美				

授業概要	この授業では、フォニックスの基本的な理論と実践を学びます。フォニックスは、英語の音声と文字の関係を理解するための教育的手法です。保育者として、子どもたちに英語の基本的な読み書きのスキルを教える上で、フォニックスは非常に重要な役割を果たします。
------	---

資質・能力	授業における到達目標	評価方法	評価比率
心豊かな人間力	・協力や共感を育む ・自己表現力を高める ・責任感を養う ・好奇心を刺激する ・他者への思いやりを育む	・授業中の態度 ・プレゼンテーション	20%
確かな専門的知識や技能	・フォニックスの基本的なルールとシステムを理解すること。 ・読み書きの基礎となるアルファベットの正しい発音を身につけること。 ・読み書きに必要な音素や音節を認識すること。 ・音の強勢やリズム、イントネーションなどの発音要素を理解すること。 ・児童の発達段階に合わせたフォニックス教材の選定と活用ができること。 ・児童の進捗状況を正確に把握し、適切な指導方法を実践すること。 ・フォニックスに関する専門用語や理論を理解し、児童にわかりやすく説明することができること。	・授業への参加意欲 ・プレゼンテーション	20%
コミュニケーション能力	・英語をはっきりと発音できるようになる。 ・聞き取った音を正しく認識し、それに合った文字を選び出すことができる。	・小テスト	20%
課題解決能力	・フォニックスの基本的なルールや音の組み合わせを理解し、音を読むことができるようになる。 ・読みにくい単語や難しい音を発音する時に、自分で問題を特定し、解決策を見つける能力を身につける。 ・同級生や教員とのコミュニケーションにおいて、フォニックスに関する問題や質問に対応できるようになる。	・小テスト ・授業中の態度 ・授業への参加意欲	20%
主体的に学ぶ力	・フォニックスに関する興味や関心を持ち、積極的に学ぼうとする姿勢を身につける。 ・自分の学びたいことを見つけ、主体的に探究する力を育てる。 ・自分の強みや課題を把握し、自己改善するための方法を見つける力を身につける。	・授業中の態度 ・授業への参加意欲	20%
合計			100%

補足事項

課題のフィードバックは授業内またはGoogle Classroomで行う。

授業計画	授業の内容	実施形式	予習・復習の内容と時間
1回目	フォニックスの基礎知識	対面授業	復習: テキストの音読と復習プリントを解いて次回の授業で提出する(3時間) 予習: 授業で学習した単語を覚え、小テストに備える(1時間)
2回目	フォニックスとは何か?	対面授業	復習: テキストの音読と復習プリントを解いて次回の授業で提出する(3時間) 予習: 授業で学習した単語を覚え、小テストに備える(1時間)
3回目	フォニックスの歴史と現在の状況	対面授業	復習: テキストの音読と復習プリントを解いて次回の授業で提出する(3時間) 予習: 授業で学習した単語を覚え、小テストに備える(1時間)
4回目	フォニックスの教育的価値	対面授業	復習: テキストの音読と復習プリントを解いて次回の授業で提出する(3時間) 予習: 授業で学習した単語を覚え、小テストに備える(1時間)
5回目	フォニックスの音声学	対面授業	復習: テキストの音読と復習プリントを解いて次回の授業で提出する(3時間) 予習: 授業で学習した単語を覚え、小テストに備える(1時間)
6回目	英語の発音ルールの概要	対面授業	復習: テキストの音読と復習プリントを解いて次回の授業で提出する(3時間) 予習: 授業で学習した単語を覚え、小テストに備える(1時間)
7回目	発音の基本的な認識	対面授業	復習: テキストの音読と復習プリントを解いて次回の授業で提出する(3時間) 予習: 授業で学習した単語を覚え、小テストに備える(1時間)
8回目	音声学の用語	対面授業	復習: テキストの音読と復習プリントを解いて次回の授業で提出する(3時間) 予習: 授業で学習した単語を覚え、小テストに備える(1時間)
9回目	フォニックスの文字学	対面授業	復習: テキストの音読と復習プリントを解いて次回の授業で提出する(3時間) 予習: 授業で学習した単語を覚え、小テストに備える(1時間)
10回目	アルファベットの認識	対面授業	復習: テキストの音読と復習プリントを解いて次回の授業で提出する(3時間) 予習: 授業で学習した単語を覚え、小テストに備える(1時間)
11回目	英語の文字の綴り方	対面授業	復習: テキストの音読と復習プリントを解いて次回の授業で提出する(3時間) 予習: 授業で学習した単語を覚え、小テストに備える(1時間)
12回目	フォニックスの実践	対面授業	復習: テキストの音読と復習プリントを解いて次回の授業で提出する(3時間) 予習: 授業で学習した単語を覚え、小テストに備える(1時間)

			トに備える(1時間)
13回目	フォニックスを使った教材と教具	対面授業	復習:テキストの音読と復習プリントを解いて次回の授業で提出する(3時間) 予習:授業で学習した単語を覚え、小テストに備える(1時間)
14回目	フォニックスを使用した子どもたちの読み書きの指導方法	対面授業	復習:テキストの音読と復習プリントを解いて次回の授業で提出する(3時間) 予習:授業で学習した単語を覚え、小テストに備える(1時間)
15回目	フォニックスを活用したゲームや活動のアイデア	対面授業	今まで学習した範囲を復習する(4時間)
			授業外学修時間 60時間

科目(教職課程用)	
教育職員免許法施行規則に定める科目区分または事項等	
教科書・参考書	書いて覚える楽しいフォニックス
履修条件	最大20名程度のクラスとする
履修上の注意	教科書は教員が購入する
オフィスアワー	授業内で指示
備考・メッセージ	

講義科目名称:保育学特別演習	授業コード:
英文科目名称:	ナンバリング:

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
前期	1	2	選択	演習
担当教員				
陣内・中尾・花城・友廣・戸田・滝川・吉元・末岡・下池・A				

授業概要	①文献などから現代の保育・教育に関する課題を理解する。 ②子育て支援機関の現状を知る。子育て支援機関の役割について考察する。保育・教育関連機関の連携の現状について理解を深める。 ③議論を通し自らの興味関心を探る。自己の保育観・保育者観を見つめる。 ④地域の保育・教育機関を訪問し調査する。調査の方法を習得する。 ⑤調査した結果や研修で学んだことをまとめる。調査結果や研修にて修得したことをもとに議論し、理解を深める。
------	---

資質・能力	授業における到達目標	評価方法	評価比率
心豊かな人間力			
確かな専門的知識 や技能			
コミュニケーション 能力	・保育に関する現代の社会的課題について問題意識を發表することができる ・保育の現場で得た学習内容とこれまでの学習内容を有機的に関連付けることができる	ディスカッションの参加度	30%
課題解決能力	・保育の現場で実際に起こっている課題を捉え、それについて考えることができる ・情報収集力を高めるため、タブレット等を活用し、自らの追求すべき研究課題を発見することができる ・地域の保育実践現場を見学し、課題の現状分析を行うことができる	授業への参加・態度 取り組みへの積極性・協調性	30% 40%
主体的に学ぶ力			
合計			100%
補足事項			
授業への参加・態度40%、取り組みへの積極性・協調性60%の割合で、テーマごとに評価する課題のフィードバックは授業内またはGoogle Classroomで行う。			

授業計画	授業の内容	実施形式	予習・復習の内容と時間
------	-------	------	-------------

第1回 1年CA	オリエンテーション 授業の概要、流れ、評価方法の説明 保育に関する現代の社会的課題について問題意識を共有する	対面授業を基本とする	予習: 毎回の活動内容に関する資料を収集し、調べておく(0.5時間) 復習: 毎回の活動内容を振り返り、改善点をまとめておくこと(0.5時間)
第2回 陣内	造形を通した子育て支援 造形ワークショップ実践による子どもと子育て事情の理解について ・造形活動における子どもの情操と創造性の発達についての理解 ・子どもいっしょに作って遊べる造形教材の開発 ※課題提出方法ならびに提出日は別途指示する	対面授業を基本とする	予習: 毎回の活動内容に関する資料を収集し、調べておく(0.5時間) 復習: 毎回の活動内容を振り返り、改善点をまとめておくこと(0.5時間)
第3回 中尾	子どもの健康について考える ～運動と食育活動を通して～ ・健康と運動の関係について体験を通して理解する ・健康と食育の関係について体験を通して理解する ・地域の運動遊びの環境、食育活動について体験を通して理解する。 ※課題提出方法ならびに提出日は別途指示する	対面授業を基本とする	予習: 毎回の活動内容に関する資料を収集し、調べておく(0.5時間) 復習: 毎回の活動内容を振り返り、改善点をまとめておくこと(0.5時間)
第4回 花城	地域の子育て環境について考える ～地域交流・フィールドワークを通して～ ・地域の子育て環境や様々な取組みについて考える ・地域の自然や公園等を調査し、子育てと自然環境の関わりについて考察する ・地域の自然環境を活かした遊びの教材開発を通して保育者に必要な資質を身に付ける ※課題提出方法ならびに提出日は別途指示する	対面授業を基本とする	予習: 毎回の活動内容に関する資料を収集し、調べておく(0.5時間) 復習: 毎回の活動内容を振り返り、改善点をまとめておくこと(0.5時間)
第5回 友廣	保育における音楽教育を考える ・保育における音楽活動について理解する ・保護者や子どもたちとの交流を通した音楽活動を実践する ・様々な身体表現を理解する ※課題提出方法ならびに提出日は別途指示する	対面授業を基本とする	予習: 毎回の活動内容に関する資料を収集し、調べておく(0.5時間) 復習: 毎回の活動内容を振り返り、改善点をまとめておくこと(0.5時間)
第6回 戸田	子どもとあそびについて ・子どもが「あそぶ」ことについて ・子どもの年齢・発達などに応じた保育教材を考え制作する ・「子ども」や「保育」に関するワークショップ等に参加し、様々な保育資源を知る ※課題提出方法ならびに提出日は別途指示する	対面授業を基本とする	予習: 毎回の活動内容に関する資料を収集し、調べておく(0.5時間) 復習: 毎回の活動内容を振り返り、改善点をまとめておくこと(0.5時間)
第7回 滝川	生命(いのち)の教育について ・生命の誕生について理解する。 ・生命を育むために必要な要素について理解する。 ※課題提出方法ならびに提出日は別途指示する	対面授業を基本とする	予習: 毎回の活動内容に関する資料を収集し、調べておく(0.5時間) 復習: 毎回の活動内容を振り返り、改善点をまとめておくこと(0.5時間)
第8回 A	ピア・グループ活動の体験 ・保育者としてピア関係を構築する意義を理解する ・自己表現と集団の凝集性を高めるワークを体験する	対面授業を基本とする	予習: 毎回の活動内容に関する資料を収集し、調べておく(0.5時間) 復習: 毎回の活動内容を振り返り、改善点をまとめておくこと(0.5時間)

	※課題提出方法ならびに提出日は別途指示する		
第9回 吉元	保育者と保護者の関わりについて ・保育者の役割について学ぶ ・保護者との関わりについて体験を通して学ぶ ・地域の子育て環境について体験を通して知る	対面授業を基本とする	予習: 毎回の活動内容に関する資料を収集し、調べておく(0.5時間) 復習: 毎回の活動内容を振り返り、改善点をまとめておくこと(0.5時間)
第10回 末岡	子どもを取り巻く環境と保育者の役割について ・子どもたちが過ごす環境について知る。 ・環境を通した保育について学ぶ。 ・自らの体験を通し、子どもの育ちと環境の関わりについて考察する。	対面授業を基本とする	予習: 毎回の活動内容に関する資料を収集し、調べておく(0.5時間) 復習: 毎回の活動内容を振り返り、改善点をまとめておくこと(0.5時間)
第11回 下池	子どもの発達と障害 ・子どもの発達に関する学習や調査を行う ・子どもの発達を体験を通して学ぶ ・障害児に対する支援やかかわりについて学ぶ ※課題提出方法並びに提出日は別途指示する	対面授業を基本とする	予習: 毎回の活動内容に関する資料を収集し、調べておく(0.5時間) 復習: 毎回の活動内容を振り返り、改善点をまとめておくこと(0.5時間)
第12回 中村		対面授業を基本とする	予習: 毎回の活動内容に関する資料を収集し、調べておく(0.5時間) 復習: 毎回の活動内容を振り返り、改善点をまとめておくこと(0.5時間)
第13回	調べ学習・グループ協議(1)	対面授業を基本とする	予習: 毎回の活動内容に関する資料を収集し、調べておく(0.5時間) 復習: 毎回の活動内容を振り返り、改善点をまとめておくこと(0.5時間)
第14回	調べ学習・グループ協議(2)	対面授業を基本とする	予習: 毎回の活動内容に関する資料を収集し、調べておく(0.5時間) 復習: 毎回の活動内容を振り返り、改善点をまとめておくこと(0.5時間)
第15回	グループ発表・	対面授業を基本とする	予習: 毎回の活動内容に関する資料を収集し、調べておく(0.5時間) 復習: 毎回の活動内容を振り返り、改善点をまとめておくこと(0.5時間)
			授業外学修時間 15時間

科目(教職課程用)	
教育職員免許法施行規則に定める科目区分または事項等	
教科書・参考書	各担当の教員の内容において、必要に応じて資料などを配布する
履修条件	1年前期成績上位20位以内
履修上の注意	自らの保育研究の課題解決のために、主体的な学修姿勢を心掛けること
オフィスアワー	各担当教員が授業の前後に質問を受け付ける
備考・メッセージ	各活動においては主体的な学ぶ姿勢をもち、地域に必要とされる保育人材になる

	るため資質向上に努めること
--	---------------

講義科目名称:スポーツ科学	授業コード:
英文科目名称: Sports Science	ナンバリング: BS301

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
前期	2年	1単位	必修	演習
担当教員				
中尾健一郎				

授業概要	①スポーツと人との関わりについて理解する ②体力テストのデータを分析し、健康と運動との関わり、効果的な体力維持向上の方法について理解する。 ③熱中症対策について理解する ④日本のスポーツの現状、スポーツ基本法、スポーツ基本計画について理解する ⑤自らの生活とスポーツとの関わりについて振り返り、生涯スポーツについて理解する
------	---

資質・能力	授業における到達目標	評価方法	評価比率
心豊かな人間力			
確かな専門的知識や技能	・する・みる・支える・創るなど人とスポーツの関わりと生涯スポーツについて説明できる ・スポーツ基本法、スポーツ基本計画について理解できる ・健康・体力づくりに果たす運動・スポーツの役割について説明できる ・健康体力を維持する方法及び熱中症対策について説明できる	定期試験(レポート)	40%
コミュニケーション能力			
課題解決能力			
主体的に学ぶ力	・保育者を目指すものとして、自らの生活と運動やスポーツとの関わりについて説明できる	定期試験(レポート) リフレクションカード 授業への参加・態度	20% 20% 20%
合計			100%

補足事項
オンライン・オンデマンド配信授業については、課題提出で出席とみなす 毎回、授業のポイント、意見・質問、授業態度の自己評価をリフレクションカードとして提出 リフレクションカードの意見・質問はgoogle classroom等や授業内にてコメントする 定期試験(レポート)60%、リフレクションカード20%、授業への参加・態度20%の割合で評価する 【面接授業における遅刻、早退、欠席について】 ・授業開始15分までを遅刻とし、それ以降は欠席とする。また、早退については75分間授業を受けていない場合は欠席とする。遅刻3回で1回の欠席としてカウントする

授業計画	授業の内容	実施形式	予習・復習の内容と時間
1回目	「オリエンテーション・スポーツと人の関わりと生涯スポーツの考え方について」 これまでの自分の運動やスポーツへの関わり	面接授業 (オンライン等の対応可能)	予習:これまでの自分の運動やスポーツへの関わりについて振り返る(1.5時間)

	について考える		復習:配布資料を参考に運動やスポーツとの関わりについてまとめる(1.5時間)
2回目	「健康・体力づくりに果たす運動・スポーツの役割について 1」 新体力テストを実施し、自らの体力の現状を理解する	面接授業: 実技	予習:新体力テストについて調べる(0.5時間) 復習:新体力テストの結果を振り返る(0.5時間)
3回目	「熱中症対策について」 熱中症について学び、その対策及び対応について学ぶ	面接授業: 講義	予習:熱中症対策について調べる(0.5時間) 復習:配布資料を参考に子どもの熱中症対策について振り返る(0.5時間)
4回目	「健康・体力づくりに果たす運動・スポーツの役割について 2」 新体力テストの結果についてデータを分析し、自身の健康づくりに向けて運動やスポーツに関わるきっかけとする	面接授業: 講義	予習:新体力テストのデータを振り返る(0.5時間) 復習:運動やスポーツとテスト結果の関りについて考える(0.5時間)
5回目	「健康・体力づくりに果たす運動・スポーツの役割について 3」 生涯スポーツ観点からニュースポーツに取り組み、その効果について学ぶ	面接授業: 実技	予習:ニュースポーツについて調べる(0.5時間) 復習:ニュースポーツの実践について振り返る(0.5時間)
6回目	「健康・体力づくりに果たす運動・スポーツの役割について 4」 健康づくりの観点から休養・栄養・運動について理解し、有酸素運動の効果、筋力トレーニングの効果について学ぶ	面接授業: 講義	予習:健康・体力づくりと食生活との関りについて調べる(0.5時間) 復習:配布資料を参考に健康体力づくりに果たす運動・スポーツの役割についてまとめる(0.5時間)
7回目	「健康・体力づくりに果たす運動・スポーツの役割について 5」 生涯スポーツ観点からニュースポーツに取り組み、その効果について学ぶ	面接授業: 実技	予習:ニュースポーツについて調べる(0.5時間) 復習:ニュースポーツの実践について振り返る(0.5時間)
8回目	「日本のスポーツの現状と課題、日本のスポーツ推進策について」 統計データから日本のスポーツの現状と課題、スポーツ基本法、スポーツ基本計画について学ぶ	面接授業: 講義	予習:日本のスポーツ振興の現状について調べる(0.5時間) 復習:配布資料を参考にスポーツ振興の現状と課題についてまとめる(0.5時間)
9回目	定期試験(レポート)		授業外学修時間 8時間

科目(教職課程用)	
教育職員免許法施行規則に定める科目区分または事項等	
教科書・参考書	教科書:必要に応じて資料を配布する 参考書:教養としてのスポーツ科学 大修館書店
履修条件	オンライン等の授業についてはPC、タブレット(パソコン)等を準備し、対応できるようにすること
履修上の注意	実技の際は、運動のできる服装に着替えてのぞむこと
オフィスアワー	質問等は授業の前後に教室にてまたはgoogle classroom等で受け付ける
備考・メッセージ	自分の健康に関心を持ち、運動やスポーツとの関わりを振り返りながら取り組むこと

講義科目名称:スポーツ実習	授業コード:
英文科目名称:	ナンバリング:BS401

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
後期	2年	1単位	必修	実技
担当教員				
釜元 晶子				

授業概要	本実習は、スポーツの楽しさと大切さを学び、スポーツを取り入れた豊かなライフスタイルについて考えることをねらいとしている。 本実習では、①体力テストなどから自分の現状が分かる、②さまざまなスポーツのルールが分かる、③自分にあうトレーニングのやり方が分かる、④スポーツを通したコミュニケーションができる、⑤運動の大切さが分かることを目標にする。
------	--

資質・能力	授業における到達目標	評価方法	評価比率
心豊かな人間力	・自身の健康に興味を持ち、スポーツに積極的に取り組むことができる ・自身にふさわしいスポーツ活動を選び、豊かなスポーツライフを考えることができる。	授業への参加・態度	50%
確かな専門的知識や技能	・スポーツのルールを理解して、試合に生かすことができる。	確認テスト	10%
コミュニケーション能力	・だれとでも、スポーツを通じて、交流することができる。	試合などのチーム活動	10%
課題解決能力	・実践を通して、自分の課題を見つけ、改善する方法を考えることができる。	レポート	10%
主体的に学ぶ力	・自分の体力やスポーツ技術を高めようと努力することができる。	スポーツテスト(2回)	20%
合計			100%
補足事項			
毎回のゲーム形式のチーム活動 10%、スポーツテスト 20%、ルール確認テスト 10%、レポート 10%、授業への参加・態度 50%を評価する。それらについては、都度指導及び評価についてフィードバックを行う。その際は Web 等で個別に対応もおこなう。 本授業では、遅刻 3 回で欠席 1 回とする。 課題のフィードバックは授業内またはGoogle Classroomで行う。			

授業計画	授業の内容	実施形式	予習・復習の内容と時間
1回目	体力テストの実施	面接授業	予習:ストレッチなどを行い、けがの予防について調べる(0.5時間) 復習:体力テストの結果から自分の生活を見直す(0.5時間)
2回目	バドミントンのルールの理解と用具の扱い方	面接授業	予習:ルール・用具について調べる(0.5時間) 復習:ルール・用具について復習する(0.5時間)

3回目	バドミントンのサーブを中心とした基本練習 リーグ戦形式でのゲーム	面接授業	予習:サーブについて調べる(0.5 時間) 復習:試合を観戦する(0.5 時間)
4回目	バドミントンのスマッシュ・カットを中心とした基本練習 リーグ戦形式でのゲーム	面接授業	予習:スマッシュ・カットについて調べる(0.5時間) 復習:試合を観戦する(0.5 時間)
5回目	バレーボールのルールの理解と用具の扱い方	面接授業	予習:ルール・用具について調べる(0.5時間) 復習:ルール・用具について復習する(0.5 時間)
6回目	バレーボールのパスを中心とした基本練習 リーグ戦でのゲーム	面接授業	予習:パスについて調べる 復習:試合を観戦する(0.5 時間)(0.5時間)
7回目	バレーボールのアタック、レシーブを中心とした基本練習 リーグ戦でのゲーム	面接授業	予習:アタック、レシーブについて調べる(0.5時間) 復習:試合を観戦して感想を書く(0.5時間)
8回目	卓球のルールの理解と用具の扱い方	面接授業	予習:ルール・用具について調べる(0.5時間) 復習:ルール・用具について復習する(0.5 時間)
9回目	卓球のサーブを中心とした基本練習 リーグ戦でのゲーム	面接授業	予習:サーブについて調べる(0.5 時間) 復習:試合を観戦して感想を書く(0.5時間)
10回目	卓球のスマッシュ、カットを中心とした基本練習 リーグ戦でのゲーム	面接授業	予習:スマッシュ、カットについて調べる(0.5 時間) 復習:試合を観戦した感想を書く(0.5時間)
11回目	バスケットのルールの理解と用具の扱い方	面接授業	予習:ルール・用具について調べる(0.5時間) 復習:ルール・用具について復習する(0.5 時間)
12回目	バスケットのパス、ドリブルを中心とした基本練習 リーグ戦でのゲーム	面接授業	予習:パス、ドリブルについて調べる(0.5 時間) 復習:試合を観戦して感想を書く(0.5時間)
13回目	バスケットのシュートを中心とした基本練習 リーグ戦でのゲーム	面接授業	予習:シュートについて調べる(0.5 時間) 復習:試合を観戦して感想を書く(0.5時間)
14回目	トレーニングについて 各スポーツの基礎技術の確認	面接授業	予習:トレーニングについて調べる(0.5時間) 復習:トレーニングの実践を各自で行う。(0.5 時間)
15回目	各競技のルールについて確認 自分のライフスタイルとスポーツについて考える	面接授業	予習:各競技のルールを調べる(0.5 時間) 復習:自分にあったスポーツを实践する(0.5 時間)
16回目	定期試験		授業外学修時間 15時間

科目(教職課程用)	
教育職員免許法施行規則に定める科目区分または事項等	
教科書・参考書	教科書: 必要に応じて資料を配布 参考書: 松野修二(監)『スポーツステップアップ DVD シリーズ バドミントンパーフェクトマスター』、新星出版社、2008 大林素子(監)『DVD で分かる! バレーボール基本・練習・実践テクニック』、西東社、2015 宮崎善仁(監)『絶対うまくなる! 卓球』、主婦の友社、2012 長谷川健志(監)『DVD 上達レッスン バasketボール』、成美堂出版、2007
履修条件	
履修上の注意	
オフィスアワー	授業の前後で対応
備考・メッセージ	積極的に運動に取り組む姿勢で参加すること 運動できる服装、体育館シューズが必要

講義科目名称:コンピュータ演習	授業コード:
実務教員	ナンバリング:BS104

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
前期	1年	2単位	選択	演習
担当教員				
小浦康平				

授業概要	①パソコンの基本操作や各種設定方法を身につけ、タッチタイピングを習得する。 ②インターネットを使用する上で必要な社会ルールやマナー、著作権について理解する。ホームページ閲覧や検索方法などを身につける。 ③Wordを使い、正確かつスピーディな文書作成が行えるよう、基本操作を学習する。保育現場で必要となる園だよりやポスターなどを作成する。 ④Excelを使い、計算式や関数の組み立て、表やグラフの作成、データベースの整理・集計などを学習する。行事カレンダーや出席簿などを作成する。 ⑤PowerPointを使い、プレゼンテーションの仕方および注意点等を学習する。電子絵本を作成し発表する。
------	--

資質・能力	授業における到達目標	評価方法	評価比率
心豊かな人間力			
確かな専門的知識 や技能	保育士として必要なWord、Excel、PowerPointの基本的な使い方を学ぶ。	課題提出	50%
コミュニケーション 能力			
課題解決能力	Office系アプリケーションを活用して、相手に伝わる資料やプレゼンテーションを構築する。	課題提出 成果発表	40%
主体的に学ぶ力	授業態度や完成まで取り組む姿勢を身に付ける。	課題提出	10%
合計			100%
補足事項			
本授業では毎回10分間のタイピング練習を行う。課題は指定した形式(データもしくは印刷物)での提出とする。 課題のフィードバックは授業内またはGoogle Classroomで行う。			

授業計画	授業の内容	実施形式	予習・復習の内容と時間
1回目	オリエンテーション Googleクラスルーム コンピュータの基礎知識:パソコンの基本操作、各種設定、ファイル保存、タイピングの基本	面接授業	予習:スマートフォンにGoogleアプリ(ドライブ、メール、ドキュメント、スプレッドシート、スライド)をインストールしてくる、パソコンがどのような仕組みで構成されているか、また、一般的な操作方法やファイルの保存方法などを確認する、タイピング練習を行う(4時間)
2回目	文書作成(1):Wordの基本操作、画面	面接授業	復習:ホームポジションを守った

	構成、タイピング、文字入力(ひらがな、カタカナ、漢字変換)		タッチタイピングを継続的に学習する、Wordでの図形の扱いに慣れる(2時間) 予習: Wordで文字装飾の機能について調べておく(2時間)
3回目	文書作成(2): ビジネス文書の作成(あいさつ文の挿入、文字の装飾、書式設定、拡張書式設定)	面接授業 オンライン可	復習: 中央揃えやインデントなど文字の配置や飾りつけの練習課題を行う(2時間) 予習: Wordでの表の扱い方について慣れておく(2時間)
4回目	文書作成(3): 表枠作成(表の挿入、列の分割・結合、罫線の装飾)	面接授業	復習: 表挿入のボタンの位置および完成例をもとにした表枠作成の練習課題を行う(2時間) 予習: 図形の操作、画像の取り扱い方、加工の仕方について調べておく(2時間)
5回目	文書作成(4): 図形の操作(図形の基本操作、クリップアート、オートシェイプ、写真)	面接授業	復習: 図形の拡大縮小・移動などの基本操作の確認と、図形を含む練習課題を行う(2時間) 予習: 文字書式、画像、図形、表、の複合的な扱いに慣れておく(2時間)
6回目	Wordのまとめ: 総復習・課題作成(園だより) 課題提出	面接授業	復習: レイアウトを整え、イラストや表枠を入れた見やすく楽しいオリジナルの園だよりを完成させる(2.5時間) 予習: Excelの入力方法に慣れておく(1.5時間)
7回目	Excelの基礎(1): 表計算の基本用語と概念、画面構成、データ入力の基礎、オートフィル、セルの書式設定	面接授業 オンライン可	復習: 効率の良い範囲選択や曜日などの自動入力など、テキストを見なおして例題を解く(2時間) 予習: よく使う関数について調べて練習しておく(2時間)
8回目	Excelの基礎(2): データを表に整理して集計、計算式(加減乗除、割合計算)、関数(合計、平均、カウント、最大、最小)適切なグラフ グラフからデータの結果を記述	面接授業	復習: 計算式の作成と関数の使用の練習課題を行う(2時間) 予習: やや複雑な関数について扱い方を調べておく(2時間)
9回目	Excelの基礎(3): いろいろな関数、データベースサンプルからデータの並べ替えと集計 適切なグラフ グラフからデータの結果を記述	面接授業	復習: 目的に応じた関数の使用、住所録などの並べ替えの練習課題を行う(2時間) 予習: テクニックを駆使して総合的な課題に取り組めるよう復習しておく(2時間)
10回目	Excelのまとめ: 総復習・課題作成(行事カレンダー・出席簿)	面接授業	復習: 適切な関数を活用し、レイアウトを整えた見やすい行事カレンダーや出席簿の作成を行う(2時間) 予習: インターネットやSNSを活用する上でのリスクについて調べておく(2時間)
11回目	情報モラルおよびインターネットの活用: インターネット社会のルール・マナー、著作権の保護、情報検索方法	面接授業	復習: インターネットを活用する際の危険な行為を再度認識し、ネット活用を行う(2時間)

			予習: PowerPointのスライドの作り方を調べておく(2時間)
12回目	PowerPointの基礎(1): スライドの作成、テキスト・図の挿入、アニメーションの設定	面接授業 オンライン可	復習: 文字や図を活用したスライド作成の練習課題を行う(2時間) 予習: 電子絵本の構成を考える(2時間)
13回目	PowerPointの基礎(2): スライドショー操作および発表の注意点、印刷・配布資料の作成、電子絵本作りの課題内容説明	面接授業	復習・予習: 電子絵本の構成を考え、PowerPointでどう表現するか、下書きなどを利用しながら考える(4時間)
14回目	PowerPointのまとめ: 課題作成(電子絵本)	面接授業	復習・予習: 電子絵本作りに必要な素材集めや、資料作成を行う(4時間)
15回目	PowerPointのまとめ・発表: 電子絵本のプレゼンテーション発表	面接授業	復習: プレゼンテーション発表を振り返り、より効果的な手法など改善点を考える(4時間)
16回目			授業外学修時間 60時間

科目(教職課程用)	
教育職員免許法施行規則に定める科目区分または事項等	
教科書・参考書	テキスト: コンピュータ演習(保育)(テキスト代: 1,000円)
履修条件	
履修上の注意	
オフィスアワー	月火水の放課後
備考・メッセージ	毎回の提出課題が評価に繋がるため休んだ場合も提出すること・

講義科目名称:保育のICT	授業コード:
英文科目名称:	ナンバリング:BS204

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
後期	1年	2単位	選択	演習
担当教員				
小浦康平				

授業概要	① 保育現場でのICT活用について現状を知る ② デバイスの違いや活用方法、情報セキュリティについて知り、上手に使いこなす ③ アンケートデータの取り扱い・まとめ方を学び、実践力を身に付ける ④ グループワークによるお互いを尊重し合う協働力により課題解決を達成する
------	---

資質・能力	授業における到達目標	評価方法	評価比率
心豊かな人間力			
確かな専門的知識 や技能	保育士として必要なWord、Excelの基本的な使い方を実践する。情報セキュリティや動画作成方法などを身に付ける。	課題提出	50%
コミュニケーション 能力			
課題解決能力	データの収集からまとめ方を学ぶ。 情報発信についての実践方法を身に付ける。	課題提出 成果発表	40%
主体的に学ぶ力	完成まで取り組む姿勢を身に付ける。	課題提出	10%
合計			100%
補足事項			
課題は指定した形式(データもしくは印刷物)での提出とする。 課題のフィードバックは授業内またはGoogle Classroomで行う。 毎回の授業の終わりに、Googleクラスルームでシェアした学習報告書を記入しお互いの学習状況を確認する。クラス全体の学びの状況に応じて授業内容のバランスを変化させる場合もある。			

授業計画	授業の内容	実施形式	予習・復習の内容と時間
1回目	【保育のICTIについて、オリエンテーション】 保育園幼稚園でのICTの活用状況など現状を知る	面接授業	予習:情報セキュリティについて予習しておく、タイピング練習を行う(4時間)
2回目	【Excelの機能活用】 保育のICTについて 時短で名簿を作成 Excelの印刷時の特徴や注意点	面接授業 オンライン可	予習:Excelの基本操作(セルの書式設定、簡単な関数、グラフの作成と編集、)について復習しておく(2h) 復習:タイピング練習(2h)
3回目	【保育のICTIについて考える1】 レポート課題 Googleクラスルームの機能の	面接授業	予習:保育業界でのICT活用の場面について調べてくる(2h) 復習:タイピング練習(2h)

	活用		
4回目	【保育のICTについて考える2】 前回のレポート課題について シェア 実践的なタイピングの練習	面接授業	予習:保育業界でのICT活用の場面について調べてくる(2h) 復習:タイピング練習(2h)
5回目	【Excelデータベースの扱い1】 データの入力と整理、並び替え、抽出、	面接授業	予習:テーブル形式とSubtotal関数について調べておく(2h) 復習:タイピング練習(2h)
6回目	【Excelデータベースの扱い2】 データから得られる結果、散布図、ヒストグラム、相関、	面接授業	予習:様々なグラフの使い分け、書式設定に慣れておく(2h) 復習:テーブル形式とSubtotal関数を組み合わせた集計を復習する(2h)
7回目	【Googleドライブの活用1】 GoogleとMicrosoftについて、メリット・デメリット、表示の違い 様々なデバイスの違いと特徴と活用	面接授業	予習:Googleの様々なサービス、活用方法について調べておく(2h) 復習:googleの様々なサービスを試してみる(2h)
8回目	【Googleドライブの活用2】 スプレッドシートとExcel、特徴の違いと上手な使い分け タイピング練習	面接授業	予習:Googleの様々なサービス、活用方法について調べておく(1h) 画面の解像度とインチについて調べておく(1h) 復習:課題を基にアンケート内容を考えておく(2h)
9回目	【アンケート練習】 アンケートの作成、様々な質問形式、質問項目と選択肢の設定 QRコードの作成 アンケートの集計と結果	面接授業	予習:Googleの様々なサービス、活用方法について調べておく(2h) 復習:課題を基にアンケート内容を考えておく(2h)
10回目	【Wordの実践演習】 テーマに沿ったWordの便利な機能の活用	面接授業	予習:wordでの文書作成を予習する、特にスタイル機能を使った見出し、様々な図や表の挿入方法などの操作方法を予習しておく(2時間) 復習:文字書式、画像、図形、表、の複合的な扱いに慣れる(2h)
11回目	【動画作成演習1】 撮影と編集について、撮影の注意点、データの著作権・プライバシー・セキュリティ 個人で動画作成演習 グループメンバー形成	面接授業	予習:課題を基に動画の構成を考えておく(2h) 復習:個人動画を完成させておく(2h)
12回目	【動画作成演習2】 グループワーク、動画作成演習、カット割りについて、オープニングとエンディング	面接授業 オンライン可	予習:グループメンバーを形成し、グループで課題を基に動画の構成を考えておく(2時間) 復習:動画の構成をグループで見直す(2時間)
13回目	【動画作成演習3】 動画作成演習、エフェクト、カット、フェードイン/アウト、BGMについて	面接授業 オンライン可	予習:動画撮影の準備(2時間) 復習:動画の撮影・編集を進めておく(2時間)
14回目	【動画作成演習4】 動画の完成とyoutubeへのアップロード、動画の保存形式、アップロードの手順と注意点、シェア	面接授業	予習:動画の撮影・編集を進めておく(3時間) 復習:youtubeのアップロードとチャンネル運営について手順を復習する(1時間)
15回目	【HP作成について】	面接授業	予習:HTML、CSSとは何か調べてくる(2時

	HPの仕組み、htmlとcss、 CMYKとRGB 新規作成のデモンストレーション 投稿時の注意点 総括		間) 復習:HPの仕組み、色について復習する(2 時間)
16回目			授業外学修時間 60時間

科目(教職課程用)	
教育職員免許法施行規則に定める科目区分または事項等	
教科書・参考書	テキスト:必要に応じて参考URLを配信
履修条件	自分専用のスマートフォン、タブレット、パソコンなどの端末を1つ以上所有していることが望ましい。
履修上の注意	IDとパスワードを大事にすること。 授業課題で作成した成果物は授業担当者が授業後も管理します。
オフィスアワー	月火水の放課後
備考・メッセージ	近年の急速なICTの発達により、現場の保育者も園のホームページを更新したり、動画の配信や様々なデータ集計を行わなければならない時代です。 この授業では主にアンケートデータの集計、動画作成・編集(youtubeの利用)、ホームページ作成のデモを行います。 情報リテラシーや知識を個人個人で身に付けながら、授業後半にはグループワークとなるため、将来の自分の為にも協力的に参加してください。 前期のコンピュータ演習(保育)よりも難易度が高い授業ですが、その分達成感は大いです。他では手に入らない知識やスキルをここで身に付けましょう!

講義科目名称:保育原理	授業コード:
実務教員	ナンバリング:EP101

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
前期	1	2	卒業:必修、保育士:必修、幼児:必修	講義
担当教員				
安部恵美子・川原ゆかり・戸田恵理子				

授業概要	本科目の目的は、保育の本質にかかわる専門的知識や考え方を習得し、保育者として自己探求できる力の基礎を養うことである。前半では、保育とは何かを考え、保育の意義や制度を学び、保育指針や教育要領に拠りながら保育の内容や方法について理解する。 後半では、保育の思想や歴史的変遷について取り上げ、現代の保育や子どもをめぐる状況を保護者支援など多角的に捉える視点を養い、現在とこれからの保育を考えていく力の基盤を養うことを目指す。
------	---

資質・能力	授業における到達目標	評価方法	評価比率
心豊かな人間力	保育者の基盤となる人間性について理解し、考えを述べることができる。	課題②	5%
確かな専門的知識や技能	保育の意義及び目的について理解している。 保育に関する法令及び制度を理解している。 保育指針・教育要領における保育の基本について理解している。 保育の思想と歴史的変遷について理解している。	課題① 定期試験	5% 60%
コミュニケーション能力	子どもや保育に関して、他者と意見を交わしたり、話し合ったりすることができる。	課題②	5%
課題解決能力	保育における課題について、自身の関心に基づき探究することができる。	課題② 課題③	5% 10%
主体的に学ぶ力	自らがめざす保育や保育者について考え、論じることができる。	課題③	10%
合計			100%

補足事項
定期試験(60%)、課題(40%)を総合して評価する。 ①資料・課題はオンラインで実施する前に配布します。保育者としての自分を認識するため予習・復習をして受講するようお願いします。 ②対面授業時に説明及び自己採点と解釈をします。定期試験後に解答を開示します。 ③オンライン授業時は、カメラは基本的に「ON」、発言時以外は、マイクは「OFF」にします。 ④課題やレポートはドキュメント等を必要に応じて活用願います。 ⑤授業開始から15分以前の早退及び授業時間中15分以上離席した際は欠席扱い、授業開始から15分経過した遅刻3回で欠席1回とみなします。

授業計画	授業の内容	実施形式	予習・復習の内容と時間
1回目	「保育」を学ぶことについて 保育者の資格やその職務について理解する (戸田)4月10日(水)	面接授業 (オンライン等の対応可能)	予習:テキスト第1章を読んでおく(2h) 復習:自身が考える保育・保

			育者について考えをまとめる(2h)
2回目	「子ども理解」保育における子どもの理解について学ぶ。かかわりを通した子どもの理解について学ぶ(戸田)4月16日(火)	面接授業 (オンライン等の対応可能)	予習:テキスト第2章を読んでおく(2h) 復習:授業を振り返り、重要事項を確認する(2h)
3回目	「保育の理念と目的」保育総論～保育とは何か、理念や目的、その概念を考える。(川原)4月17日(水)	面接授業 (オンライン等の対応可能)	予習:テキスト第4章を読んでおく(2h) 復習:授業を振り返り、重要事項を確認する(2h)
4回目	「保育の法令と制度」法令と制度から幼稚園・保育所・認定こども園について学ぶ(戸田)4月23日(火)	面接授業 (オンライン等の対応可能)	予習:テキスト第5章を読んでおく(2h) 復習:授業を振り返り、重要事項を確認する(2h)
5回目	「子ども観・保育観」西欧の保育思想について触れる。諸外国の保育事情を知る。ルソー、フレーベル、オーエン等、世界の保育思想家について理解する(安部)4月24日(水)	面接授業 (オンライン等の対応可能)	予習:テキスト第3章、第14章を読んでおく(2h) 復習:授業を振り返り、重要事項を確認する(2h)
6回目	「保育の目標・内容及びカリキュラム・マネジメント」保育指針・教育要領から保育の目的・内容、カリキュラム・マネジメントの考え方を理解する(戸田)4月30日(火)	面接授業 (オンライン等の対応可能)	予習:テキスト第7章を読んでおく(2h) 復習:授業を振り返り、重要事項を確認する(2h)
7回目	「保育の場」現代の子どもたちの育ちを支えている保育の現場について理解する(安部)5月1日(水)		予習:テキスト第6章を読んでおく(2h) 復習:授業を振り返り、重要事項を確認する(2h)
8回目	「子どもの発達に応じた保育」子どもの姿をとらえる視点について学ぶ。子どもの発達の特徴や保育の内容について理解する(戸田)5月7日(火)	面接授業 (オンライン等の対応可能)	予習:テキスト第9章を読んでおく(2h) 復習:3歳未満児及び3歳以上児の保育内容について整理する(2h)
9回目	「保育の計画と評価」子育て支援等に関する全体的な計画とその編成について理解する(戸田)5月14日(火)	面接授業 (オンライン等の対応可能)	予習:テキスト第10章を読んでおく(2h) 復習:授業を振り返り、内容を整理する(2h)
10回目	「保育の方法」保育の形態や、保育者チームによる役割・機能分担について理解する。保育の社会的役割と責任を知る。社会的隔離と子どもの発達を知る(川原)5月15日(水)	面接授業 (オンライン等の対応可能)	予習:テキスト第8章を読んでおく(2h) 復習:授業を振り返り、重要事項を確認する(2h)
11回目	「子育て支援」様々な保育の施設における子育て支援の必要性について考える(戸田)5月21日(火)	面接授業 (オンライン等の対応可能)	予習:テキスト第13章を読んでおく(2h) 復習:授業を振り返り、内容を整理する(2h)
12回目	「日本の保育の現状と課題」子どもの権利養護(赤ちゃんポスト)等の事例を通して、子どもを取り巻く様々な課題について理解する(川原)5月22日(水)	面接授業 (オンライン等の対応可能)	予習:テキスト第12章を読んでおくことその他に、新聞・TV・ネットニュースなどから関連情報の収集を行う(2h) 復習:授業を振り返り、学びを整理する(2h)
13回目	「子どもの育ち・学びの連続性」就学前の子どもたちの様々な経験が小学校(義務教育)以降の学びの繋がりについて理解する。幼・保・小のゆるやかな連携および課題について理解		予習:テキスト第8章を読んでおく(2h) 復習:授業を振り返り、重要事項を確認する(2h)

	する(戸田)5月28日(火)		
14回目	「日本における保育・幼児教育施設の誕生」明治期以降の幼稚園・保育所の歴史を理解する(安部)5月29日(水)	面接授業 (オンライン等の対応可能)	予習:テキスト第3章、第14章を読んでおく(2h) 復習:授業を振り返り、重要事項を確認する(2h)
15回目	「保育者のあり方」本授業での学びを振り返り、“子どもと共に生きる人”として求められる姿について考えをまとめる(戸田)6月4日(火)	面接授業 (オンライン等の対応可能)	予習:これまでの学習を振り返っておく(2h) 復習:授業を振り返り、自分なりに考えた保育者像をイメージしたり考えをまとめる(2h)
16回目	定期試験		授業外学修時間 60時間

科目(教職課程用)	教育の基礎的理解に関する科目
教育職員免許法施行規則に定める科目区分または事項等	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想
教科書・参考書	教科書 改訂版 生活事例からはじめる保育原理(第6版) 神蔵幸子 宮川萬寿美・中川秋美 編著 青踏社 2015年 参考書:平成29年告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領<原本>
履修条件	
履修上の注意	A4サイズのファイル準備 課題のフィードバックは授業内またはGoogle Classroomで行う
オフィスアワー	授業、会議、実習巡回等が入っていない場合は随時対応いたします。
備考・メッセージ	①テキストを用いる他に、適宜プリントを配布します ②子ども・保育・子育て等に関する社会の動向に関心を持ち、報道等にも目を向けておきましょう ③授業回毎にリフレクションカード記入を実施します ④オンデマンドの場合は課題提出等をもって対応します

講義科目名称:教育原理	授業コード:
英文科目名称:	ナンバリング:EP301

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
前期	1	2	卒業:必修、保育士:必修、幼免:必修	講義
担当教員				
末吉 敬				

授業概要	①人間について考察し、人はなぜ教育を必要とするのか等教育の意味・意義についての理解を深める。 ②現在の日本、欧米、アジアにおける幼稚園、保育所、学校に関する教育の歴史・思想について知り将来の在り方を探る。 ③学校(幼児教育・保育を含む)における教育(保育)計画、評価、カリキュラムの歴史について具体的に理解する。 ④ケアリングとしての教育や発達障害と特別支援教育等幼稚園、保育所、学校における今日的課題について考える。 ⑤教師の仕事、子どもや家庭が望む教師像、教師と権威について考え、自己の教師像を確認する。
------	--

資質・能力	授業における到達目標	評価方法	評価比率
心豊かな人間力	・教育原理のねらいを十分に理解し、教育者として必要な資質・能力について自分の考えを述べることができる。	・受講者の発表	5%
確かな専門的知識や技能	・学校における教育について、学習内容を基に自分の考えを発表することができる。	・受講者の発表	5%
コミュニケーション能力	・指名や指示に対して、あいさつや返事が出来たり、自分の考えを発表することができる。	・発問に対する応答	5%
課題解決能力	・授業で課題提示された内容について、その解決に向けて、ディスカッションを通して共に考え、自らの考えを述べるができる。	・受講者の発表	5%
主体的に学ぶ力	・人はなぜ教育を必要とするのか等教育の意味や意義についての理解を深め、幼児教育について自分の考えを持ち積極的に学習ができる。 ・多様な教育方法の知識を身に付け、実践的に遂行できる。	・授業ごとの小論文 ・講義全体のまとめのレポート	50% 30%
合計			100%

補足事項
・授業に関する質問等は直接のほかGoogle Classroomで受け付け、直接あるいは以降の授業回で答える。 ・本授業では、授業ごとの小論文50%、講義全体のまとめのレポート30%、各授業への参加態度・発表20%の割合で評価する。 ・レポートは紙媒体とする。 ・授業に遅刻したり、授業を早退したりする場合は、事前又は事後に届け出ること。

授業計画	授業の内容	実施形式	予習・復習の内容と時間
1回目	・「オリエンテーション」授業の進め方と授業内容の概要を説明する。 ・「原理としての教育」について学習し、教育の必要性について考察する。	面接授業	シラバス及び教科書P2～20をよく読み(2.5時間)、人間と教育に関する学習内容を確認する(1.5時間)。

2回目	・「育ち・学びと教育」について学習し、人間と教育に関する関連性を考察する。	面接授業	教科書P22～40をよく読み(1.5時間)、学修課題「虐待について」を仕上げ授業に備える(2.5時間)。
3回目	・「学校の歴史」について学習し、学校の歴史とこれからについて考察する。	面接授業	教科書P42～66をよく読み(1.5時間)、学修課題「学校の歴史とこれから」を仕上げ授業に備える(2.5時間)
4回目	・「学校のしくみ」について学習し、学校を取り巻く様々な環境について考察する。	面接授業	教科書P68～88をよく読み(1.5時間)、学修課題「学校を取り巻く様々な環境について」を仕上げ授業に備える(2.5時間)。
5回目	・「学習・教育課程」について学習し、学ぶことの意義を考察する。	面接授業	教科書P90～111をよく読み(1.5時間)、学修課題「学ぶということ」を仕上げ授業に備える(2.5時間)。
6回目	・「学習指導要領・教科書・評価・学力」について学習し、指導と学力の関連について考察する。	面接授業	教科書P114～134をよく読み(1.5時間)、学修課題「学力について」を仕上げ授業に備える(2.5時間)。
7回目	・「教えるという仕事」について学習し、教師としての在り方を考察する。	面接授業	教科書P136～160をよく読み(1.5時間)、学修課題「学級担任とは」を仕上げ授業に備える(2.5時間)。
8回目	・「教えるという仕事と学校文化」について学習し、生徒指導や学級の在り方を考察する。	面接授業	教科書P162～188をよく読み(1.5時間)、学修課題「学級集団について」を仕上げ授業に備える(2.5時間)。
9回目	・「教師としての成長」について学習し、子どもたちと共に成長する教師の在り方を考察する。	面接授業	教科書P190～210をよく読み(1.5時間)、学修課題「どんな教師に」を仕上げ授業に備える(2.5時間)。
10回目	・「子どもへの支援と学校」について学習し、学校と臨床教育学、発達障害と特別支援教育について考察する。	面接授業	教科書P214～228をよく読み(1.5時間)、学修課題「特別支援教育について」を仕上げ授業に備える(2.5時間)。
11回目	・「子どもへの支援と学校」について学習し、不登校、いじめ、学級崩壊、非行問題などについて考察する。	面接授業	教科書P230～246をよく読み(1.5時間)、学修課題「いじめについて」を仕上げ授業に備える(2.5時間)。
12回目	・「地域・社会と学校」について学習し、地域の役割について考察する。	面接授業	教科書P248～268をよく読み(1.5時間)、学修課題「地域の役割について」を仕上げ授業に備える(2.5時間)。
13回目	・「地域・社会と学校」について学習し、学校の安全とリスクマネジメントについて考察する。	面接授業	教科書P270～288をよく読み(1.5時間)、学修課題「学校の安全」を仕上げ授業に備える(2.5時間)。
14回目	・集団討論会「研究発表(1)」 教育に関するテーマについて個人研究を行い研究レポートにまとめる。 6人程度の小グループで発表し合い、互いに考えを深め合う。	面接授業	教科書での既習事項だけでなく、自分が気になっている教育課題などを取り上げ(1.0時間)、研究し、レポートにまとめる(4.0時間)。

15回目	・集団討論会「研究発表(2)」 小グループでの研究協議の内容について、主なものをグループの代表が全体に発表する。 集団討論を行い、研究内容を共有する。	面接授業	これまでの学習を振り返り(1.0時間)、目指す教師像についてまとめる(2.0時間)。
16回目	定期試験		授業外学修時間 60時間

科目(教職課程用)	教職の基礎的理解に関する科目
教育職員免許法施行規則に定める科目区分または事項等	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想
教科書・参考書	参考書: やわらかアカデミズム・〈わかる〉シリーズ『よくわかる教育原理』、幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定子ども園教育・保育要領
履修条件	
履修上の注意	講義終了後は、教育原理に関する知識の定着や自分の考えをまとめるなど、復習を十分行い次の講義に備えること。
オフィスアワー	授業の前後で対応します。
備考・メッセージ	幼稚園等での実習経験をふまえ、日常生活の中で自ら教育に対する考えをもち授業に臨む。

講義科目名称:子ども家庭福祉	授業コード:
英文科目名称:	ナンバリング:EP102

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
前期	1年	2単位	必修	講義
担当教員				
西 司				

授業概要	“子どもの人権をどうまもるのか”全体を通した大きなテーマとして、各講義の中でそれぞれの講義内容で小テーマを掲げて、日本の現状でおきている実態を知り、その課題について考え、子ども家庭福祉の視点から、子どもの権利について、さまざまな側面から考えていきます。 そして、“子ども家庭福祉をなぜ学ぶのか？”保育士として、対人サービスを担う専門職としての理解を深めていくことを目標に学習を進めていきます。 人権を基軸とし、学んだ知識を実践につなげる能力を培う。
------	---

資質・能力	授業における到達目標	評価方法	評価比率
心豊かな人間力	現代の子どもと家庭が置かれた状況と課題について理解できる。	定期試験	20%
確かな専門的知識や技能	子どもの問題状況が深刻化している状況がなぜ変わっていかないのか、そのためには何が必要なのか、などの「問題意識」を明確にできる。 問題状況に対応する制度の理解と課題を考えることができる。	定期試験	50%
コミュニケーション能力			
課題解決能力	自身の保育実践の延長線上に、子どもと家庭の福祉を想定することができ、それを実現するための方法(制度、施策、サービス等)を考えることができる。	定期試験	20%
主体的に学ぶ力	子ども家庭支援の課題を理解し積極的な学習ができる。	積極的な授業への参加・態度	10%
合計			100%
補足事項			
授業は毎回PowerPointを使って、配布資料を中心に進めます。 子ども家庭福祉に関する社会の情勢等に関心をもって、学校で学んだこととの関連性をしっかり考えることができる、このことを、授業を通して学生への意識化を図りたいです。			

授業計画	授業の内容	実施形式	予習・復習の内容と時間
1回目	オリエンテーション 全体的な講義内容の説明 特に子ども家庭福祉を学ぶ意義について、現代の子ども家庭福祉問題情報をもとに、説明する。	面接授業	予習・復習は各回4時間
2回目	今、私たちの社会で進行していること、少子高齢化をキーワードとして、問題現象の背後について考える。	面接授業	配布資料の各データから少子化の現状を確認する。
3回目	「子ども家庭福祉の理念」	面接授業	講義内容を振り返って理

	について理解する		解を深めておく。
4回目	「子どもの人権と子ども家庭福祉」 子どもの人権を保障する、守る、ということはどういうことなのかを理解する。	面接授業	講義内容を振り返って理解を深めておく。
5回目	「子どもの人権と子ども家庭福祉」 子どもの人権に関わる法律の体系を理解する	面接授業	講義内容を振り返って理解を深めておく。
6回目	「子ども家庭福祉の歴史の変遷」 子ども家庭福祉の歴史から子どもの人権保障の歩みを学ぶ。	面接授業	講義内容を振り返って理解を深めておく。
7回目	「子育て不安・孤立化」 子育て不安の様々な要因と、その家庭への個別的配慮について考える。	面接授業	講義内容を振り返って理解を深めておく。
8回目	「子育て不安・孤立化」 さまざまな事件の背景について、子育て不安、孤立化との関連性を学ぶ	面接授業	講義内容を振り返って理解を深めておく。
9回目	「子ども虐待・DV」 子ども虐待とDVの実情を理解し、なぜ虐待が起きるのか、未然防止について考える。	面接授業	講義内容を振り返って理解を深めておく。
10回目	「子どもの貧困と人権」 子どもの貧困とはどのようなものか、子育てにどう関係するのか、対応する制度について学習する。	面接授業	講義内容を振り返って理解を深めておく。
11回目	「社会的養護」 社会的養護の基本理念、実施体制、現状について、新ビジョンの背景等、学習する。	面接授業	講義内容を振り返って理解を深めておく。
12回目	「子ども家庭福祉の制度と法体系」 子どもの福祉と子育て家庭を中心とする法律について学習する。	面接授業	講義内容を振り返って理解を深めておく。
13回目	「子ども家庭福祉の実施体制」 子ども家庭福祉の行政のしくみ、支援体制について理解する。	面接授業	講義内容を振り返って理解を深めておく。
14回目	「子ども・子育て支援法を中心とする子ども・子育て支援制度」について学習する	面接授業	講義内容を振り返って理解を深めておく。
15回目	「子ども家庭福祉の今後について」 全体講義の振り返りを行う。	面接授業	これまでの復習をして、試験に備える。
16回目	定期試験		授業外学修時間 60時間

科目(教職課程用)	
教育職員免許法施行規則に定める科目区分または事項等	
教科書・参考書	新版「子ども家庭福祉」 建帛社 ISBN978-4-7679-5117-1
履修条件	
履修上の注意	課題のフィードバックは原則として授業内で行う。
オフィスアワー	講義の前後
備考・メッセージ	今、私たちの社会でどのようなことが起き、何が進行しているのか、その問題現象の背景について考えをめぐらし、子どもの育ちにとって、家庭や社会のもつ意味を考え、その支援の一端を担う保育士の役割の重要性を深く考える機会としてほしい。

講義科目名称:社会福祉	授業コード:
英文科目名称:	ナンバリング:EP103

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
前期	1年	2単位	必修	講義
担当教員				
橋之口 裕太				

授業概要	社会福祉とは何か。社会福祉を学ぶ視点、意味・内容を学び、社会福祉の分野(子どもと家族、障害者、高齢者、地域)について理解を深める。本講義では、①社会福祉を学ぶ視点について説明できる、②社会福祉の法体系(福祉六法)を理解できる、③社会保障の要素(社会保険や生活保護制度など)を理解できる、④社会福祉(子どもの家族の福祉、障害のある人の福祉など)について説明できる、⑤子どもと家族の福祉における保育士の役割を説明できることを目標とする。
------	--

資質・能力	授業における到達目標	評価方法	評価比率
心豊かな人間力			
確かな専門的知識 や技能	・社会福祉を学ぶ視点について説明できる。 ・社会福祉の法体系を理解できる。 ・社会保障の要素を理解できる。 ・社会福祉について説明できる。	定期試験	60%
コミュニケーション 能力			
課題解決能力	社会福祉の課題について考えることができる。	レポート	30%
主体的に学ぶ力	社会福祉における保育士の役割について考えることができる。	授業への参加・態度	10%
合計			100%
補足事項			
本授業では、定期試験60%、レポート課題の提出30%、授業への参加・態度10%の割合で評価する。課題のフィードバックは授業内またはGoogle Classroomで行う。			

授業計画	授業の内容	実施形式	予習・復習の内容と時間
1回目	・シラバスについて ・保育と社会福祉について	面接授業	予習:社会福祉を学ぶ視点を読んでおくこと(2時間)。 復習:講義の内容を振り返り理解を深めておくこと(2時間)。
2回目	・社会福祉の道すじについて	面接授業	予習:保育のたどった道すじを読んでおくこと(2時間)。 復習:講義の内容を振り返り理解を深めておくこと(2時間)。
3回目	・社会福祉の道すじについて	面接授業	予習:社会福祉の法体系を調べておくこと(2時間)。

			復習:講義の内容を振り返り理解を深めておくこと(2時間)。
4回目	・社会福祉の意味と考え方について	面接授業	予習:社会福祉の動向を読んでおくこと(2時間)。 復習:講義の内容を振り返り理解を深めておくこと(2時間)。
5回目	・社会福祉の実施体制と財源について	面接授業	予習:社会保障の財源について調べておくこと(2時間)。 復習:講義の内容を振り返り理解を深めておくこと(2時間)。
6回目	・社会保障制度について	面接授業	予習:社会保険の種類を調べておくこと(2時間)。 復習:講義の内容を振り返り理解を深めておくこと(2時間)。
7回目	・子どもと家族の福祉について	面接授業	予習:生活保護制度について調べておくこと(2時間)。 復習:講義の内容を振り返り理解を深めておくこと(2時間)。
8回目	・子どもと家族の福祉について	面接授業	予習:子どもと家族の福祉を学ぶ視点を読んでおくこと(2時間)。 復習:講義の内容を振り返り理解を深めておくこと(2時間)。
9回目	・障害のある人の福祉について	面接授業	予習:子ども・子育て家庭への支援を読んでおくこと(2時間)。 復習:講義の内容を振り返り理解を深めておくこと(2時間)。
10回目	・高齢者の福祉について	面接授業	予習:ノーモライゼーションについて調べておくこと(2時間)。 復習:講義の内容を振り返り理解を深めておくこと(2時間)。
11回目	・地域福祉について	面接授業	予習:障害のある人に対する福祉サービスについて調べておくこと(2時間)。 復習:講義の内容を振り返り理解を深めておくこと(2時間)。
12回目	・社会福祉の専門職と倫理	面接授業	予習:保育士に求められる役割を読んでおくこと(2時間)。 復習:講義の内容を振り返り理解を深めておくこと(2時間)。
13回目	・保育士とソーシャルワークについて	面接授業	予習:ソーシャルワーカーとしての保育士の機能を読んでおくこと(2時間)。 復習:講義の内容を振り返り理解を深めておくこと(2時間)。
14回目	・保育士とソーシャルワークについて	面接授業	予習:配布したプリントを整理しておくこと(2時間)。 復習:講義の内容を振り返り理解を深めておくこと(2時間)。
15回目	・利用者の権利養護とサービスの質について	面接授業	復習:これまでの講義の内容を振り返り理解を深めておくこと(4時間)。
16回目	定期試験		授業外学修時間 60時間

科目（教職課程用）	
教育職員免許法施行規則に定める科目区分または事項等	
教科書・参考書	教科書『保育士をめざす人の社会福祉』（みらい）
履修条件	
履修上の注意	
オフィスアワー	水・木の5限目。
備考・メッセージ	児童の福祉に関する社会の動きに関心をもつようにする。

講義科目名称:社会的養護 I	授業コード:
英文科目名称:	ナンバリング:EP201

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
4Q	1	2	卒業:必修 保育士:必修	
担当教員				
花城 暢一				

授業概要	現代社会における社会的養護の現状と課題および基本的な考え方を理解し、保育士に必要な知識を養う。本講義では以下の事項を目標とする。 ①現代社会における社会的養護の意義と歴史的な変遷について理解する ②社会的養護の基本的な考え方について理解する ③社会的養護の制度や実施体系等について理解する ④社会的養護の対象、関係機関および専門職等について理解する ⑤社会的養護の現状と課題、保育士の役割について理解する
------	--

資質・能力	授業における到達目標	評価方法	評価比率
心豊かな人間力	社会的養護における保育士の役割や必要な資質について理解することができる。	・レポート課題 ・学習に取り組む姿勢	10% 10%
確かな専門的知識 や技能	社会的養護における保育士に求められる専門的な知識や技能について理解することができる。	・レポート課題 ・定期試験	5% 25%
コミュニケーション 能力	社会的養護における対象を理解し、関係者と協働する必要性について理解を深めることができる。	・レポート課題	10%
課題解決能力	現代社会の社会的養護の現状と課題を踏まえ、課題解決に必要な実践力を身につけることができる。	・レポート課題 ・事例検討	5% 10%
主体的に学ぶ力	社会的養護の歴史的変遷を踏まえ、今日の社会的養護の課題を理解することができる。	・定期試験	25%
合計			100%
補足事項			
○授業内で実施するレポート課題(30%) ○定期試験・事例検討(60%) ○事例検討など、授業全体を通じた学習に取り組む姿勢(10%)を総合して評価を行う。			

授業計画	授業の内容	実施形式	予習・復習の内容と時間
1回目	オリエンテーション 講義のねらいと進め方について	対面授業	予習:シラバスを読んで授業内容を確認する(2時間) 復習:配布資料を読む(2時間)
2回目	社会的養護と保育士 社会的養護の意味、目標、視点を学習する	対面授業	予習:社会的養護の意義を考える(2時間) 復習:配布資料を読む(2時間)
3回目	社会的養護の成り立ちと最近の動向 社会的養護の歴史を学ぶ	対面授業	予習:児童福祉の歴史を振り返る(2時間) 復習:配布資料を読む(2時間)

4回目	社会的養護の基本的な考え方 子どもの権利、自立支援等について学ぶ	対面授業	予習:子どもの権利について振り返る(2時間) 復習:配布資料を読む(2時間)
5回目	社会的養護の形態1 社会的養護の形態を学ぶ	対面授業	予習:児童福祉の体系を振り返る(2時間) 復習:配布資料を読む(2時間)
6回目	社会的養護の形態2 施設養護の内容を学ぶ～養護系施設～	対面授業	予習:児童福祉施設を振り返る(2時間) 復習:配布資料を読む(2時間)
7回目	社会的養護の形態3 施設養護の内容を学ぶ～養護系施設～	対面授業	予習:児童福祉施設を振り返る(2時間) 復習:配布資料を読む(2時間)
8回目	社会的養護の形態4 施設養護の内容を学ぶ～障がい系施設～	対面授業	予習:児童福祉施設を振り返る(2時間) 復習:配布資料を読む(2時間)
9回目	社会的養護の形態5 施設養護の内容を学ぶ～障がい系施設～	対面授業	予習:児童福祉施設を振り返る(2時間) 復習:配布資料を読む(2時間)
10回目	社会的養護の形態6 施設養護の内容を学ぶ～治療・育成系施設～	対面授業	予習:児童福祉施設を振り返る(2時間) 復習:配布資料を読む(2時間)
11回目	社会的養護の形態7 家庭的養護の種類と内容を学ぶ	対面授業	予習:グループホーム等の役割を振り返る(2時間) 復習:配布資料を読む(2時間)
12回目	社会的養護の形態8 家庭養護の種類と内容を学ぶ	対面授業	予習:里親制度を振り返る(2時間) 復習:配布資料を読む(2時間)
13回目	施設と関係機関 施設と児童相談所等の関係機関の関わりを学ぶ	対面授業	予習:児童相談所の機能を振り返る(2時間) 復習:配布資料を読む(2時間)
14回目	地域における家庭への支援 家庭の養育機能、地域子育て支援における保育士の役割を学習する	対面授業	予習:家庭の機能について考える(2時間) 復習:配布資料を読む(2時間)
15回目	保育士の役割と専門性 社会的養護における保育士の役割と専門性について学ぶ	対面授業	予習:これまでの授業内容を振り返る(2時間) 復習:配布資料を読む(2時間)
16回目	定期試験	対面授業	授業外学修時間 60時間

科目(教職課程用)	
教育職員免許法施行規則に定める科目区分または事項等	
教科書・参考書	テキスト:参考資料をその都度配布します。 参考書:『保育と社会的養護原理』大竹智 他 編集 みらい 『保育福祉小六法』みらい
履修条件	
履修上の注意	原則、指定された座席で受講すること。(席の移動を希望する場合はご相談下さい) 授業時間のうち、15分以上退室すると欠席扱いとなります。 課題のフィードバックは授業内またはGoogle Classroomで行います。
オフィスアワー	授業、会議、実習巡回、出張等が入っていない場合は随時対応します。
備考・メッセージ	授業の出欠確認は出席カード(感想記入シート等)を活用して実施します。

講義科目名称: 保育者論	授業コード:
英文科目名称:	ナンバリング: EP302

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
前期	2	2	卒: 選択、保育士: 必修、幼稚園: 必修	講義
担当教員				
安部恵美子・川原ゆかり				

授業概要	保育職が携わるフィールドや保育・教育者の社会的意義を理解する素養を育て、子どもとの関係構築の基本や公教育の目的とその担い手である保育・教育者の存在意識の理解力を向上させる。保育資格の位置づけ、関連諸法令・規則・「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「保育・教育要領」を理解することができる。さらに、子育て支援の場に求められる保育者の資質向上を目指し、保育職の社会的使命を会得するために仲間と共に学びあい、考察に繋げることができる。
------	---

資質・能力	授業における到達目標	評価方法	評価比率
心豊かな人間力	グループで子育て支援の事例等をディスカッションし、「保育職の保育職による保育支援」について意見交換し、異なる意見を聴いて、感じる取る感受性を豊かにする。	レポート	5%
確かな専門的知識や技能	保育資格の位置づけ、関連諸法令・規則・「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「保育・教育要領」を理解する。さらに、子育て支援の場に求められる保護者支援の基本を学び、考察する。	定期試験	80%
コミュニケーション能力	子育て支援や保護者支援に不可欠なコミュニケーション能力を醸成するために、グループ討議や意見交換・意見発表を行い、自己見聞を広げる。	レポート	5%
課題解決能力	対人援助職に必要な能力の考察と洞察を行い、自分の考えを言語化する力を養う。決められた時間・期限内に課題レポートをまとめる事ができる。	レポート	5%
主体的に学ぶ力	保育職の専門性を認識し、ワークやグループディスカッションに積極的に取り組むことができる。	レポート	5%
合計			100%

補足事項

- ①資料・課題はオンラインで実施する前に配布します。
- ②保育者としての自分を認識するための各種の心理テスト等は予習・復習として実施して下さい。
- ③対面授業時に説明及び自己採点と解釈をします。
- ④オンライン授業時は、カメラは基本的に「ON」、発言時以外は、マイクは「OFF」にして下さい。
- ⑤課題やレポートは Word や Excel を必要に応じて活用して下さい。

授業計画	授業の内容	実施形式	予習・復習の内容と時間
1回目	「保育者像を描く」保育者に必要な10か条を自己採点する。1年後の自分に手紙を書き、将来の保育者像をイメージする。(川原)	対面授業 オンライン可	予習: 保育者に必要な要素をまとめる(2H) 復習: 採点結果を確認し、努力すべき項目に関連する

			図書を読む(2H)
2回目	「具体的な保育者像の目標を掲げる」目指す保育者像の主な具体的項目を掲げ、自分の課題を考え、深めていく。(川原)	対面授業 オンライン可	予習:テキストのP13～19を読み込む(2H) 復習:課題に対する取り組みをまとめる(2H)
3回目	「保育者の仕事と役割」幼稚園・保育所・幼保連携型認定こども園・児童養護施設の仕事と役割を理解する。(川原)	対面授業 オンライン可	予習:テキストのP19～45を読み、児童福祉施設における保育者の業務を理解する(2H) 復習:保育施設の実習に必要な要素を理解する(2H)
4回目	「保育士・幼稚園教諭になるために」DVD「保育所・幼稚園の1日」等を視聴し、子どもと保育者の1日をイメージし、保育観を作っていく。(川原)	対面授業 オンライン可	予習:保育者としての保育所・幼稚園の1日の動きと流れをまとめる(2H) 復習:自己課題を発見後、修正する(2H)
5回目	「現役保育者の現状(本音)を知る」現役の3人の保育者のインタビュー内容から保育職の意義や役割、やり甲斐や課題を理解する。(川原)	対面授業 オンライン可	予習:保育者に求められる資質(P71～82)を読む(2H) 復習:3人の保育者のインタビュー内容を熟読し、自己課題をまとめる(2H)
6回目	「保育者を取り巻く現状を知る」全国保育士・幼稚園教諭3万人調査を読み、現状を分析すると共に保育者像を作りあげる。(川原)	対面授業 オンライン可	予習:発達年齢毎の保育者の役割の違いを知る(2H) 復習:現場の実態をイメージして、自分の課題と対策をまとめる(2H)
7回目	「幼稚園教育要領」幼稚園教育要領を読み、保育・教育の理念や役割の理解を深める。(川原)	対面授業 オンライン可	予習:幼稚園教育要領を読む(2H) 復習:幼稚園教育要領開設を熟読し、仕事をイメージする(2H)
8回目	「保育制度の変遷と保育者の先達(1)」公的な教育・保育制度の派生要因と、西欧の保育の先達たち(コメニウス・ルソー・オーエン・ペスタロッチ)の業績とその後の社会に与えた影響を理解する。(安部)	対面授業 オンライン可	予習:テキスト第9章(151p～)を下読みする(2H) 復習:授業時配布資料を確認し、まとめプリント①を完成させる(2H)
9回目	「保育制度の変遷と保育者の先達(2)」幼児教育に影響を与えたフレーベル・モンテッソーリ・エレンケイの思想を、現代の保育理論に当てはめながら理解を深める。(安部)	対面授業 オンライン可	予習:テキスト第9章(151P～)を8回目授業の内容と関連させて読む(2H) 復習:授業時配布資料を確認し、まとめプリント②を完成させる(2H)
10回目	「保育制度の変遷と保育者の先達(3)」近代以降のわが国の保育思想や実践の先達の業績を理解し、現代の保育制度や保育内容方法への影響についての知見を深める。「現代の保育者の役割と機能」現代が求める保育者の役割や機能について考え、意見をまとめる。(安部)	対面授業 オンライン可	予習:テキスト第9章(151P～)を9回目授業の内容と関連させて読む(2H) 復習:授業時配布資料を確認し、まとめプリント③を完成させる(2H)
11回目	「現代社会の変化と保育者の仕事や役割」現代社会に求められる保育者の資質と子育て支援の専門性を高める。(川原)	対面授業 オンライン可	予習:今時の保育ニーズに関する文献を読む(2H) 復習:配布資料をもとに自分の課題をまとめる(2H)
12回目	「子どもの育ちの危機と子育て支援①」気になる子どもと育ちの変化について理解を深める。(川原)	対面授業 オンライン可	予習:テキストP116～129を読み、子育て環境の変化をまとめる(2H)

			予習:配布プリントをまとめる(2H)
13回目	「子どもの育ちの危機と子育て支援 ②」気になる子どもと特別支援教育及び子育て支援と保育者の役割 について理解を深める。(川原)	対面授業 オンライン可	予習:特別支援教育について知る(1H) 復習:子育て支援の観点をまとめる(2H)
14回目	「保育者の職務と生活」子育て・子育て支援と保護者支援の理解を深める。(川原)	対面授業 オンライン可	予習:テキストP129～136を読む(1H) 復習:保護者支援の困難性の文献を読む(2H)
15回目	「卒業生と業界研究誌による保育の仕事」卒業生によるメッセージと業界研究による保育士に求められる7つの力を理解する。(川原)	対面授業 オンライン可	予習:卒業のメッセージを読む(1H) 復習:業界研究誌からママたちが求める保育士の要件をまとめる(2H) 試験勉強(3H)
16回目	定期試験		授業外学修時間 60H

科目(教職課程用)	
教育職員免許法施行規則に定める科目区分または事項等	
教科書・参考書	「新時代の保育双書今に生きる～保育者論・第4版～」 幼稚園教育要領
履修条件	
履修上の注意	課題のフィードバックは授業内またはGoogle Classroomで行います。
オフィスアワー	特に定めませんが、質問がある場合は授業前後・昼休みに行います。
備考・メッセージ	①原則対面授業ですが、オンライン授業を行う場合もあります。 ②オンライン授業時は、カメラは基本的に「ON」、発言時以外は、マイクは「OFF」にしてください。 ③オンライン授業のパワーポイント資料は事前に配布します。 ④課題やレポートはWordやExcelを必要に応じて活用して下さい。オンライン授業は課題提出を義務化し、出席とみなし、レポートの内容から教育効果の検証を行います。 ⑤保育教育現場のリアルな実際と実践例、保護者支援現状と課題を通して、子育て・子育て支援の視点から体现できる授業を通して、理論に結びつけていきます。

講義科目名称:教育方法論	授業コード:
英文科目名称:	ナンバリング:EP401

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
後期	2年	2単位	必修	講義
担当教員				
川上 知子				

授業概要	人格形成の基礎を培う乳幼児期にふさわしい保育方法への理解を深め、この学びが保育現場での実践に生かされることを目標とする
------	---

資質・能力	授業における到達目標	評価方法	評価比率
心豊かな人間力	・日々のあいさつ、返事が笑顔ででき、コミュニケーション能力を培う。 ・肯定的なものの見方・考え方ができ、豊かな人間性を培う	・授業への参加・態度	5%
確かな専門的知識や技能	・実習等で学んだことを授業の中にフィードバックし、正しく検証することができる ・専門的なことを、日々の保育に生かす工夫ができ、発達年齢に応じた保育の方法を創意することができる	・授業への参加・態度 ・プリント ・定期試験 ・レポート	5% 5% 20% 10%
コミュニケーション能力	・対指導者ときちんとあいさつ、返事、応答等ができる ・グループワーク(ディスカッション)で、相手の意見を傾聴し、受容でき、自分の意見を明確に伝えることができる ・常に相手の思いに寄り添いながら聴くことができる。	・グループワーク(またはディスカッション)	5%
課題解決能力	・課題に対して、自分なりの考えを明確に述べる ことができる	・定期試験 ・レポート	30% 10%
主体的に学ぶ力	・諸エピソードについて、自分なりの解決方法を考えることができる	・レポート ・プリント	5% 5%
合計			100%
補足事項			
・本授業は対面授業を主として展開するが、状況に応じて一部zoomを用いたオンライン授業を行うこともある。 ・本授業では、定期試験50%、レポート・プリント35%、授業への参加・態度、グループワーク 15%の割合で評価する。 ・オンライン授業を実施する場合は、課題をレポートとして提出したことにより出席とみなす。 ・授業の予習としてのレポート課題を課すことがあり、テーマについては随時授業で連絡する。 ・グループディスカッションでの気づきやレポートのフィードバックは毎回の授業で行う。			

授業計画	授業の内容	実施形式	予習・復習の内容と時間
1回目	「保育方法とは何か？」について理解する	対面授業	テキストのエピソードについて復習する(4h)
2回目	保育の方法は子ども理解が出发点であること	対面授業	子ども理解の方法について

	を知る		て予習する(4h)
3 回目	環境を通しての保育とは何かを理解する	対面授業	実習でどんな環境構成があったか予習する(4h)
4 回目	遊び＝学びであることを理解し、そのための援助の仕方を考えさせる	対面授業	“遊び”をどう捉えるか予習する(4h)
5 回目	乳幼児期の集団の育ちについて理解させる	対面授業	個と集団の育ちについて復習する(4h)
6 回目	子どもにとってふさわしい園生活について考えさせる	対面授業	実習で学んだことを予習しておく(4h)
7 回目	3.4.5 才児の発達と保育方法を考えさせる	対面授業	保育の原理と方法を振り返る(4h)
8 回目	0.1.2 才児の発達と保育方法を考えさせる	対面授業	保育の原理と方法を振り返る(4h)
9 回目	PDCA のサイクルを説明し、実践への理解を図る	対面授業	保育の方法のステップアップを考えておく(4h)
10 回目	実際に部分保育の計画をパソコンで作らせる	対面授業	保育計画のテーマを決めておく(4h)
11 回目	保育におけるメディアの活用とメディアとの向き合い方を理解させる	対面授業	前回作成した計画案を準備しておく(4h)
12 回目	具体的な実践事例について考察する	対面授業	実習での経験例を考えておく(4h)
13 回目	社会や家庭との連携の必要性とその方法を理解させる	対面授業	なぜ連携なのか考えておく(4h)
14 回目	幼・保・小連携のあり方について理解させる	対面授業	小学校学習指導要領にふれておく(4h)
15 回目	“ちょっと気になる子”への保育の実際を理解する	対面授業	「ちょっと気になる子」の意味を考えておく(4h)
16 回目	レポートにより確かな保育観が確立できたか		レポート 授業外学修時間 60時間

科目(教職課程用)	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目
教育職員免許法施行規則に定める科目区分または事項等	教育の方法及び技術
教科書・参考書	教科書: 保育方法・指導法 ミネルヴァ書房(2年前期: 教育経営論で使用する教科書)
履修条件	
履修上の注意	
オフィスアワー	授業前後で対応可能
備考・メッセージ	各自が確かな保育観・子ども観を確立できるよう、まじめに授業に臨むこと。また、教育的な愛着をもって具体的な子どもをイメージしながら学びを深めるとともに、自分の良さを生かした保育の在り方についての考えも深めていきましょう。

講義科目名称:教育経営論	授業コード:
英文科目名称:	ナンバリング:EP303

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
前期	2年	2単位	卒:選 幼:必	講義
担当教員				
川上 知子				

授業概要	①社会状況の変化を踏まえ学級経営や教育経営の概要・理念について理解する。 ②子どもの生活の変化や幼児の発達について理解し教育運営の具体的な展開について計画立案する。 ③5領域の保育内容に関する基本原理や活動を理解し学級づくりの進め方が分かる。 ④幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型子ども園教育・保育要領等の関係法規・教育行政の理念について理解し保育記録の書き方や要録の記入方法が分かる。 ⑤個に応じた指導、地域社会や家庭との連携など保育の背景と広がりについて理解する。 ⑥保育施設を取り巻く安全管理について具体的な取り組みを理解する。
------	--

資質・能力	授業における到達目標	評価方法	評価比率
心豊かな人間力	・学級経営及び保育について理解し成果として制作及び表現ができる。 ・講義内容を理論的に考察できる。	・定期試験	20%
確かな専門的知識 や技能		・レポート ・課題制作の成果	10% 5%
コミュニケーション能力	・グループ内で協議し内容をまとめ表現することができる。	・グループディスカッション及び発表	10%
課題解決能力	・課題を考察しレポートを作成できる。	・レポート ・定期試験	10% 30%
主体的に学ぶ力	・教育経営論が保育教諭にとって必要な専門知識であることを理解し積極的な学習ができる。	・授業への参加・態度 ・プリント	5% 10%
合計			100%
補足事項			
・本授業は対面授業を主として展開するが、状況に応じてzoomを用いてオンライン授業を行うこともある。 ・本授業では、定期試験50%、レポート・課題・プリントの成果35%、授業への参加・態度、グループディスカッション15%の割合で評価する。 ・オンライン授業を実施する場合は、課題をレポートあるいは創作物として提出したことにより出席とみなす。 ・授業の予習としてのレポート課題を課すことがあり、テーマについては随時授業で連絡する。 ・グループディスカッションでの気づきやレポートのフィードバックは毎回の授業で行う。			

授業計画	授業の内容	実施形式	予習・復習の内容と時間
1 回目	オリエンテーション 学級経営の概要・教育政策 理想の保育士像について考察する	対面授業	本時の復習、次時予習:朝の会の内容を構想する (毎回4時間)
2 回目	学級経営の理念 学級経営の理念と信頼される保育者の在り方 朝の会の内容を決定する	対面授業	復習、次時予習:学級経営計画準備の確認
3 回目	学級経営計画準備 5領域の保育内容に関する基本原理や教育・保育課程 指導計画の立案	対面授業	復習、次時予習:メダルの構想を練り計画書を書く
4 回目	学級経営計画運営 1 【心を育てる場としてのクラス】 園児に贈るメダルを作成する	対面授業	復習、予習:学級経営計画と運営の確認、教科書を読みプリントにまとめる
5 回目	学級経営計画運営2 3～5歳児の発達とクラス運営 【仲間関係と共同的活動】	対面授業	復習、予習:保育内容と領域別活動、教科書を読みプリントにまとめる
6 回目	保育内容と領域別活動 5領域の保育内容と実践事例の理解 保育者の関わりについてまとめる	対面授業	復習、予習:人との関わり・言葉の獲得につき教科書を読みプリントにまとめる
7 回目	集団形成の過程と学級づくり 人とのかかわり・言葉の獲得に関する育ちと活動についての理解と事例対応	対面授業	復習、予習:環境の構成と再構成について教科書を読みまとめる
8 回目	学級づくりの進め方 環境の構成と再構成、感性と表現に関する育ちと活動についての理解、保育者の関わりについてまとめる	対面授業	復習、予習:発達に課題のある子についてネットで調べプリントにまとめる
9 回目	個に応じた指導 個の特性及び発達に課題のある子どもの指導について理解する	対面授業	予習:安全教育の確認 危険箇所や行為について ネットで調べまとめる
10 回目	安全教育 危機管理や事例を基にした事故対応を含む学校安全についてまとめる	対面授業	予習:保育指針、こども園教育・保育要領を読みアンダーラインを引く
11 回目	幼稚園と保育所、認定こども園 幼稚園教育要領、保育所指針、認定こども園教育・保育要領を踏まえた関係法規・教育理念等の理解	対面授業	復習、予習:保護者向けのお便りの構想を練る

12 回目	保育の記録と評価 指導要領をもとにした評価資料の記録の在り方と保育要録の記入方法の理解 保護者連携 保護者向けの学年だよりを作成する	対面授業	復習、予習：保育の背景と広がりについて教科書を読みプリントにまとめる
13 回目	保育の背景と広がり 先駆者たちの教育思想と保育施設の関わり、地域社会や家庭との連携について	対面授業	復習、予習：連携教育について教科書を読みプリントにまとめる
14 回目	連携教育について 保幼小連携の在り方、家庭との連携及び保護者との関りについての理解	対面授業	復習、予習：保育者の研修の確認とスピーチの構想をねり練習する
15 回目	保育者の研修と評価 保育者の自己研鑽と研修体制及び自己評価	対面授業	総復習 定期試験に備えて教科書や資料、レポートを見直す
16 回目	定期試験		レポート 授業外学修時間 60時間

科目(教職課程用)	教育の基礎理論に関する科目
教育職員免許法施行規則に定める科目区分または事項等	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項
教科書・参考書	教科書：教科書：保育方法・指導法 ミネルヴァ書房(2年後期：教育方法論でも使用) 参考書：幼稚園教育要領保育所保育指針幼保連携型認定子ども園教育・保育要領
履修条件	
履修上の注意	
オフィスアワー	授業の前後で対応します
備考・メッセージ	授業・課題には真摯に取り組む、社会的な保育・教育の動向にも注視してください。また、教育的な愛着をもって具体的な子ども像、集団形成をイメージしながら学びを深めるとともに、自分の良さを生かした保育の在り方、学級経営の在り方についての考えも深めていきましょう。

講義科目名称:保育の心理学	授業コード:
英文科目名称:	ナンバリング:UC201

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
後期	1年	2単位	必修	講義
担当教員				
講師 園田 文香				

授業概要	乳幼児期までは保育心理学とよばれ、児童期以降の発達・教育心理学と同義である。保育目標は保育学が設定するのに対し、保育目標に到達させるための客観的手続きやスキルを研究・実践するのが保育心理学の役割である。古来よりルソーやフレーベル、モンテッソーリらは、それぞれ独自の子ども観を提唱し、恩物やピンクタワーなどの教具を用い保育実践を行った。本邦の保育目標は保育所保育指針であるが、その実践となると様々なアプローチがあり定式化されてはいない。しかしながら発達心理学で得られた「科学の知」を基に、乳幼児の成長発達に不可欠な基本原理を紹介し、将来の様々な保育実践場面で普遍的に応用できる心理学の理論や実践について講じる。
------	--

資質・能力	授業における到達目標	評価方法	評価比率
心豊かな人間力			
確かな専門的知識 や技能	・子どもの成長・発達の過程や基本原理を理解し、 発達を捉える視点について述べるができる。 ・子どもの発達に影響を与える要因について、子 どもの発達を中心とし、それを支える家庭や保育 環境まで幅広く学びとることができる。	ミニッツペーパー(講義 の感想や気づきも含 む) 定期試験	20% 50%
コミュニケーション 能力	・心理学理論や知見を理解し、養護の及び教育 の一体性、発達に即した援助の基本となる子ども の理解とともに自分なりの人間観や発達観につ いて述べるができる。	授業内レポート(1)	15%
課題解決能力	・心理学の知見は「文脈ごとの発達」というアプ ローチとともに、現場で求められる保育者としての 考えをくぐらせて学び、「保育の文脈の中でどう活 かしていくか」を考えることができる。	授業内レポート(2)	15%
主体的に学ぶ力			
合計			100%
補足事項			
・対面授業を基本とし、そのうち2回(第5、10)にあたる授業は授業後半を授業内レポート作成とする(これま での講義内容の理解度、学んだ理論や知見を通しての自分なりの人間観・発達観を述べる)。また第15回 は、筆記試験とする。追・再試験は行わない。 ・授業に関する質問は直接またはミニッツペーパー(授業終盤に授業に関する気づきや感想を記入する用 紙)、Google classで受け付け、その中からいくつか翌週の授業で紹介し、共有する。 ・評価は、筆記試験50%、授業内レポート(1)(2)30%、ミニッツペーパー 20%とする。			

授業計画	授業の内容	実施形式	予習・復習の内容と時間
1回目	I. 発達を捉える視点(1) 発達とは何か(定義、基本原理)、 子どもの発達を理解することの意義	対面	予習:教科書のもくじとシラバスを読む (1時間) 復習:「発達とは」の配布資料と教科書 の整理(1時間)
2回目	I. 発達を捉える視点(2) 子どもの発達と環境 遺伝論 vs. 環境論、 行動遺伝学からみる遺伝と環境	対面	予習:自分の好きな食べ物、行動(癖 や趣味等)、性格や両親の好きな食べ 物や行動、性格等、ピックアップしてみ る(1時間) 復習:発達を規定する要因(1時間)
3回目	I. 発達を捉える視点(3) 発達理論と子ども観・保育観	対面	予習:人の一生における発達の變化を 絵で表してみよう」絵は必ずしも「人間 で表さなくてもよい(花、動物等)」(1時 間) 復習:発達理論について整理する(1時 間)
4回目	II. 子どもの発達過程(1) 赤ちゃんの能力、身体的機能と運動機 能の発達 ①胎児期・乳児期:原始反射 ②乳児期・幼児期:身体・運動発達	対面	予習:原始反射とは何か、発達すると 統合され消失していくが何のためにあ るのか調べておく(1時間) 復習:社会性等の心の発達と身体・運 動の関係についてまとめる。また保育 場面における身体・運動機能を高める 関わりを整理する(1時間)
5回目	II. 子どもの発達過程(2) 非認知的スキル(社会情動的スキル) ①情動表出 【後半、授業内レポート作成】	対面	予習:5回までの講義を踏まえて「自身 の子ども観・保育観」についてまとめて おく(1時間) 復習:非認知(社会情動)的スキルとは 何か整理する(1時間)
6回目	II. 子どもの発達過程(3) 社会的情動発達 ②認知的スキルと社会情動的スキル	対面	予習:「粘り強さ」はどうしたら発揮で きるのか、自分の場合を考えておく(1時 間) 復習:子どもが「粘り強い」行動を発揮 する保育者サポート、環境設定につい てまとめておく(1時間)
7回目	II. 子どもの発達過程(4) 自我の芽生えから自己の発達へ	対面	予習:子どもの自己理解に関する資料 を読む(1時間) 復習:2～3歳児の「ブラブラ」行動につ いてどのような意味があるのか整理し ておく(1時間)
8回目	II. 子どもの発達過程(5) 認知・社会性の発達	対面	予習:これまで見たこともない物体を理 解するときの反応を調べる(1時間) 復習:子どもが未知なる世界を垣間見 た時の「わくわく感」に対する保育者の 立ち位置についてまとめておく(1時 間)
9回目	II. 子どもの発達過程(6) 道徳・正義感の発達	対面	予習:善悪の判断やルールについて幼 児の発達の的な特徴を調べておく(1時 間) 復習:心の理論、道徳性の発達をまと める(1時間)

10回目	Ⅱ. 子どもの発達過程(7) 乳幼児期の学びを支える理論 思考力の芽生え	対面	予習:乳幼児期の思考・認知の発達について調べておく(1時間) 復習:子どもの思考力を引き出す環境とは何か、物的環境、人的環境、知的環境のあり方についてまとめる(1時間)
11回目	Ⅲ. 子どもの発達と環境(1) 保育における自然との関わり・生命尊重	対面	予習:生活している地域の自然についてマップを描いて子どもたちの散歩や遊び場となりそうな場所、どのような自然に気づいて欲しいか考えてみよう(1時間) 復習:アニミズム、生命観(擬人化的生命観、生氣論的生命観)についてまとめておく(1時間)
12回目	Ⅲ. 子どもの学びと保育(2) 乳幼児期の学びを支える保育 数量や図形、標識・文字への関心	対面	予習:子どもが文字に関心を示す時期、子どもが読み書きの前兆となる行動について調べておく(1時間) 復習:子どもの言葉の選択が間違っていた時(読み間違い・書き間違い、数え間違い)に保育者はどのように対応するのが良いかまとめておく(1時間)
13回目	Ⅳ. 子どもの学びと保育(3) 言葉の発達とコミュニケーション	対面	予習:家族や周囲の人から初めて話した言葉について調査する 復習:言葉の発達過程で生じる問題をまとめる(1時間)
14回目	Ⅳ. 発達を支える保育 ①乳幼児期の発達の特徴と遅れ ②乳幼児期の子どもを持つ保護者を支える	対面	予習:具体的な保育場面で見た「子どもの問題行動」について思い出してノートにまとめておく(1時間) 復習:予習で取り上げた「子どもの問題行動」について講義を踏まえその意味や機能を推測する(1時間)
15回目	期末試験	対面	予習:第1回から第14回までまとめたノート配布資料、テキストを読み返し、まとめておく(1時間) 復習:心理学の視点を得ることで子ども理解がどのように変化したかをまとめ、これからの学び、やるべきことについてもあげる(1時間)
			授業外学習時間 30時間

科目(教職課程用)	
教育職員免許法施行規則に定める科目区分または事項等	
教科書・参考書	片桐正敏・藤本 諭・川口めぐみ編『保育の心理学』2022
履修条件	
履修上の注意	発達に関する用語を具体的事象との関連から理解していきます。
オフィスアワー	授業の前後で教室または研究室で質問を受け付けます。
備考・メッセージ	発達理論等の心理学的知識を踏まえて、育てる・教えるだけでなく、個々の子ども

	もの育つ過程や発達をとらえる視点や姿勢を学んでください。
--	------------------------------

講義科目名称:子ども家庭支援の心理学	授業コード:
英文科目名称:	ナンバリング:UC301

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
後期	2年	2単位	保育士:必修、卒業:選択	講義
担当教員				
講師 園田文香				

授業概要	本邦における社会病理学的な問題行動の中でも児童虐待又はその疑いがあるとして警察から児童相談所に通告した児童数は年々増加しており、2023年は12万2806人で、児童相談所まで繋がった件数は7073件で、10年前と比べると、約3倍になり、毎年過去最高が更新されている悲惨な状況である。少子化は進む一方で児童虐待は増加するという負の相関状態が常態化しつつあるといっても過言ではない。U.ブロンフェンブレナーは、彼の生態学的システム論において、子どもの環境をミクロ、メゾ、エクソ、マクロシステムの4つに分類し、ミクロの家庭とメゾの近隣の環境が子どもの発達に最も影響を及ぼすと唱えた。将来、保育士を目指す学生諸君は、今や家族システムや家族システムの病理についての知見を深めることは必須の事項となっている。今後の保育者に求められるのは、他の専門機関や専門職との円滑な連携とコワーカーとしての自覚をもつということである。本講義では、家族システムの特性、歪んだ家族システムの発生の予防、他の専門機関や専門職との連携など、実践的な知見について講じる。
------	--

資質・能力	授業における到達目標	評価方法	評価比率
心豊かな人間力	子どもや家庭の援助行動のみならず、自身も安定した心のゆとりを持つことを理解し、これを踏まえてカウンセリングマインドの意義を述べることができる。	授業参加(取り組み)・態度	10%
確かな専門的知識や技能	・生涯発達心理学の視点から子どもの発達や家族関係に関する包括的知識を学び、保育の実践にどうつながるか、自分なりに説明できる。 ・保育者として子どもの専門諸機関と連携するコワーカーとしての態度や役割を述べることができる。	ミニツツペーパー 定期試験	10% 40%
コミュニケーション能力	保育者として乳幼児や家族の悩みに寄り添う態度やエンパワメントの役割を説明できる。	ミニツツペーパー	10%
課題解決能力	子どもや家庭の問題についてなぜその問題行動に注目したのか、その原因の探求や問題の背景への着目という両視点をもち、述べることができる。	授業内レポート	30%
主体的に学ぶ力			
合計			100%

補足事項	
・基本的には対面授業とする。 ・授業に関する質問は直接または授業終盤のミニツツペーパー(授業終盤に授業に関する気づきや感想を記入する用紙)で受け付け、翌週の授業回での紹介での共有やGoogle classで回答する。 ・提出課題は、授業内で提出・回収し、評価後に返却する。 ・定期試験40%、授業内レポート30%、ミニツツペーパー20%、授業参加(取り組み)・態度10%	

授業計画	授業の内容	実施形式	予習・復習の内容と時間
1回目	・オリエンテーション	対面講義	予習:なぜ、「子供」ではなく、

	(授業の目的、進め方、評価方法等) ・近年の子どもの家庭における心理的支援の動向(生涯発達心理学の視点から考える子ども家庭支援について)		「子ども」なのか？考える (2時間) 復習:オリエンテーション資料等をまとめておく(2時間)
2回目	・エリクソンのライフサイクル論 ・U.ブロンフェンブレナーの生態学からみた家族や近隣の子どもの発達に与える影響性	対面講義	予習:E.H.エリクソン、U.ブロンフェンブレナーについて調べておく(2時間) 復習:配布資料についてまとめる(2時間)
3回目	・家族・家庭の意義と機能 家族システムのライフサイクル論 <u>授業内レポート①</u> :家族・家庭のライフサイクルについてレポート作成・提出	対面講義	予習:家庭と家族の意義について調べておく(2時間) 復習:配布資料についてまとめる(2時間)
4回目	現代社会と家族① 心理的歪みをもつ家族、家庭(家族システムの問題について世代間伝達、IP等)について学ぶ	対面講義	予習:ニュース等になっている家族、家庭問題をあげてみる (2時間) 復習:配布資料についてまとめる(2時間)
5回目	現代社会と家族② 現代の家族システムを巡る問題として、児童虐待の急増化などの本邦の家族を巡る問題について学ぶ	対面講義	予習:現代社会の家族、家庭問題について家族システムから考えてみる(2時間) 復習:配布資料についてまとめる(2時間)
6回目	親子関係・家族関係の理解と援助 家族のライフサイクルと形態維持と変化 ジェノグラムとエコマップ作成 親子関係と養育態度	対面講義	予習:家族の形が変わるのはどのような時か考える(2時間) 復習:配布資料についてまとめる(2時間)
7回目	子育て経験と親としての育ちの理解と支援 ・親になると何が変化するか？ 親になることの発達と多様な子育て支援	対面講義	予習:親になると何が変化するのか考えてみる(2時間) 復習:配布資料についてまとめる(2時間)
8回目	多様な家庭への理解と支援 ・ひとり親家庭とステップファミリー ・里親制度 ・外国にルーツを持つ家庭の支援	対面講義	予習:子ども支援に関わる専門機関を調べる(2時間) 復習:専門機関を支援対応ごとにまとめる(2時間)
9回目	保育現場と児童虐待に関する諸機関との連携 ・児童虐待防止法 ・児童虐待の種類、児童虐待に対応する専門機関について(児童相談所、保健所 子ども家庭支援センター等)	対面授業	予習:子ども支援に関わる諸専門機関を調べる(2時間) 復習:専門機関を支援対応ごとにまとめる(2時間)
10回目	リスク要因をもった保護者への対応① 保育士としての自分をメタ認知する ・カウンセリングマインド ・C.R.ロジャーズの来談者中心療法 ・TEGを用い自分の自我の特質を知る	演習	予習:カウンセリングマインドとは何か調べる(2時間) 復習:配布資料と演習の自分の自我状態についてまとめる(2時間)
11回目	リスク要因をもった保護者への対応② ・エンカウンターグループ ・ <u>授業内レポート②</u> 自身の自我状態の特質と他者との対人関係について	演習	予習:前回の自我状態をより良くするためにどのようなことが必要か考えてみる(2時間) 復習:自分の気をつけるべき対人関係のまとめ(2時間)
12回目	リスク要因をもった保護者への対応③ カウンセリングの演習 事例検討:コトバの遅れ、吃音・構音障害	演習	予習:生涯発達心理学の視点から子どもの問題行動を保育実践の経験等からあげる(2時間)

	夜尿が治らないetc.		復習:子ども問題行動の対応の仕方についてまとめる(2時間)
13回目	リスク要因をもった保護者への対応④ こんなときどうする?(保護者への対応) カウンセリングの演習 事例検討	演習	予習:生涯発達の視点から保護者の抱える問題、対応について自分なりに考えてみる(2時間) 復習:保護者への対応についてまとめておく(2時間)
14回目	リスク要因をもった保護者への対応⑤ こんな時、どうする?(各種神経発達症) カウンセリングの演習 事例検討	演習	予習:神経発達症(発達障害)について調べておく(2時間) 復習:神経発達症(発達障害)についてまとめる(2時間)
15回目	定期試験: 論述形式の試験		予習:これまでの配布資料を読み返し、まとめておく(2時間) 復習:これまでの授業の総まとめを自分なりに行う(2時間)
			授業外学習時間 60時間

科目(教職課程用)	
教育職員免許法施行規則に定める科目区分または事項等	
教科書・参考書	参考書:小原倫子/小林佐智子著『エピソードで学ぶ子どもの家庭支援の心理学』ミネルヴァ書房、2024 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育保育要領
履修条件	
履修上の注意	
オフィスアワー	授業の前後にGoogle class、教室、研究室で質問を受け付けます。
備考・メッセージ	授業に関する質問や要望については、授業の終盤にミニツツペーパー(授業終盤に授業に関する気づきや感想を記入する用紙)を記述してもらいます。授業についての意見や疑問、子どもや家庭についての学び方など書いてください。次回の授業で紹介・共有も行いたいと思います。

講義科目名称: 子どもの食と栄養	授業コード:
英文科目名称:	ナンバリング: UC202

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
後期	1年	2単位	必修	講義
担当教員				
小玉智章・石橋由香里				

授業概要	保育士が接する乳幼児期は人生の始まりの時期であり、適切な発育のために栄養は必要不可欠である。本科目では、保育士が子どもの発育を栄養面からも支援できるように、栄養学の基礎を理解し、実践できることを目指す。また、近年は栄養面で特別な配慮を必要とする子どもが増えており、特にアレルギー対応は一步間違えると命に関わる。本科目ではアレルギーについて、その成り立ちから対応を理解し、保育所で他の業種と関わりながら実践できることも目指す。
------	--

資質・能力	授業における到達目標	評価方法	評価比率
心豊かな人間力			
確かな専門的知識や技能	・栄養学の基礎知識を理解し、説明できる ・子どもの成長に合った栄養を理解し、実践できる ・アレルギーの基礎と保育所における対応を理解し、説明できる ・特別な配慮が必要な子どもにおける栄養を理解し、説明できる	定期試験(筆記) 定期試験(実技)	80% 10%
コミュニケーション能力	・他者と協働し、適切に調理実習ができる	提出物 授業態度	5% 5%
課題解決能力			
主体的に学ぶ力			
合計			100%
補足事項			
・本授業は面接授業を基本とするが、状況に応じてMeetによるオンライン授業を行うことがある。 ・授業外の質問はGoogle Classroomで受け答えすることができる。 ・授業は収録し、YouTubeで限定公開するので復習等に利用すること。 ・本授業では、定期試験(筆記、実技)80%、小テスト10%、授業への参加・態度10%の割合で評価する。 ・課題のフィードバックは授業内またはGoogle Classroomで行う。			

授業計画	授業の内容	実施形式	予習・復習の内容と時間
1回目	オリエンテーション 本授業の進め方、評価の観点等の説明 栄養の基礎知識① 消化吸収のしくみ	面接授業(状況によってMeetで行う)	予習: シラバスを読んでおく、教科書P26～27を読んでおく 復習: YouTubeの配信を見返す(合わせて4時間)
2回目	栄養の基礎知識② 栄養とは？ 五大栄養素のはたらき①	面接授業(状況によってMeetで行う)	予習: 教科書P28～35を読んでおく 復習: 配布プリントをまとめる・YouTubeの配信を見返す(合わせ

			て4時間)
3回目	栄養の基礎知識② 五大栄養素のはたらき② 食事摂取基準	面接授業(状況によって Meetで行う)	予習:教科書P36~43を読んでおく 復習:配布プリントをまとめる・ YouTubeの配信を見返す(合わせて4時間)
4回目	乳児期の栄養① 乳児の特徴	面接授業(状況によって Meetで行う)	予習:教科書P50~61を読んでおく 復習:配布プリントをまとめる・ YouTubeの配信を見返す(合わせて4時間)
5回目	調理実習 実習室使用の仕方 調乳	面接授業(状況によって Meetで行う)	予習:教科書P65~68を読んでおく 復習:配布プリントをまとめる・ YouTubeの配信を見返す(合わせて4時間)
6回目	調理実習 離乳の準備	面接授業(状況によって Meetで行う)	予習:教科書P69~73を読んでおく 復習:配布プリントをまとめる・ YouTubeの配信を見返す(合わせて4時間)
7回目	調理実習 離乳初期の食事①	面接授業(状況によって Meetで行う)	予習:教科書P50~73を読んでおく 復習:配布プリントをまとめる・ YouTubeの配信を見返す(合わせて4時間)
8回目	調理実習 離乳初期の食事②	面接授業(状況によって Meetで行う)	予習:教科書P69~73を読んでおく 復習:配布プリントをまとめる・ YouTubeの配信を見返す(合わせて4時間)
9回目	乳児期の栄養② 乳児の栄養補給 離乳食とは	面接授業(状況によって Meetで行う)	予習:教科書P62~73を読んでおく 復習:配布プリントをまとめる・ YouTubeの配信を見返す(合わせて4時間)
10回目	幼児期の栄養 幼児の特徴と食生活	面接授業(状況によって Meetで行う)	予習:教科書P74~79を読んでおく 復習:配布プリントをまとめる・ YouTubeの配信を見返す(合わせて4時間)
11回目	調理実習 離乳後期の食事①	面接授業(状況によって Meetで行う)	予習:教科書P69~73を読んでおく 復習:配布プリントをまとめる・ YouTubeの配信を見返す(合わせて4時間)
12回目	調理実習 離乳後期の食事②	面接授業(状況によって Meetで行う)	予習:教科書P69~73を読んでおく 復習:配布プリントをまとめる・ YouTubeの配信を見返す(合わせて4時間)
13回目	食物アレルギー 食物アレルギーとは 食物アレルギーの対応	面接授業(状況によって Meetで行う)	予習:教科書P136~138を読んでおく 復習:配布プリントをまとめる・ YouTubeの配信を見返す(合わせて4時間)
14回目	調理実習 幼児期のおやつ	面接授業(状況によって Meetで行う)	予習:教科書P74~79を読んでおく 復習:配布プリントをまとめる (合わせて4時間)

15回目	調理実習 幼児期のおやつ	面接授業(状況によって Meetで行う)	予習:教科書74～79を読んでおく 復習:配布プリントをまとめる(合わせて4時間)
16回目	定期試験		授業外学修時間 60時間

科目(教職課程用)	
教育職員免許法施行規則に定める科目区分または事項等	
教科書・参考書	「子どもの食と栄養 第2版 保育現場で活かせる食の基本」太田百合子、堤ちはる編(羊土社)
履修条件	
履修上の注意	調理実習の際は、エプロン、三角巾、上履きを持参すること
オフィスアワー	火曜午後(事前に予約することが望ましい)
備考・メッセージ	積極的な受講態度、自主学修への取り組みを期待します。

講義科目名称:保育の心理学	授業コード:
英文科目名称:	ナンバリング:UC201

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
後期	1年	2単位	必修	講義
担当教員				
講師 園田 文香				

授業概要	乳幼児期までは保育心理学とよばれ、児童期以降の発達・教育心理学と同義である。保育目標は保育学が設定するのに対し、保育目標に到達させるための客観的手続きやスキルを研究・実践するのが保育心理学の役割である。古来よりルソーやフレーベル、モンテッソーリらは、それぞれ独自の子ども観を提唱し、恩物やピンクタワーなどの教具を用い保育実践を行った。本邦の保育目標は保育所保育指針であるが、その実践となると様々なアプローチがあり定式化されてはいない。しかしながら発達心理学で得られた「科学の知」を基に、乳幼児の成長発達に不可欠な基本原理を紹介し、将来の様々な保育実践場面で普遍的に応用できる心理学の理論や実践について講じる。
------	--

資質・能力	授業における到達目標	評価方法	評価比率
心豊かな人間力			
確かな専門的知識 や技能	・子どもの成長・発達の過程や基本原理を理解し、 発達を捉える視点について述べるができる。 ・子どもの発達に影響を与える要因について、子 どもの発達を中心とし、それを支える家庭や保育 環境まで幅広く学びとることができる。	ミニッツペーパー(講義 の感想や気づきも含 む) 定期試験	20% 50%
コミュニケーション 能力	・心理学理論や知見を理解し、養護の及び教育 の一体性、発達に即した援助の基本となる子ども の理解とともに自分なりの人間観や発達観につ いて述べるができる。	授業内レポート(1)	15%
課題解決能力	・心理学の知見は「文脈ごとの発達」というアプ ローチとともに、現場で求められる保育者としての 考えをくぐらせて学び、「保育の文脈の中でどう活 かしていくか」を考えることができる。	授業内レポート(2)	15%
主体的に学ぶ力			
合計			100%
補足事項			
・対面授業を基本とし、そのうち2回(第5、10)にあたる授業は授業後半を授業内レポート作成とする(これま での講義内容の理解度、学んだ理論や知見を通しての自分なりの人間観・発達観を述べる)。また第15回 は、筆記試験とする。追・再試験は行わない。 ・授業に関する質問は直接またはミニッツペーパー(授業終盤に授業に関する気づきや感想を記入する用 紙)、Google classで受け付け、その中からいくつか翌週の授業で紹介し、共有する。 ・評価は、筆記試験50%、授業内レポート(1)(2)30%、ミニッツペーパー 20%とする。			

授業計画	授業の内容	実施形式	予習・復習の内容と時間
1回目	I. 発達を捉える視点(1) 発達とは何か(定義、基本原理)、 子どもの発達を理解することの意義	対面	予習:教科書のもくじとシラバスを読む (1時間) 復習:「発達とは」の配布資料と教科書 の整理(1時間)
2回目	I. 発達を捉える視点(2) 子どもの発達と環境 遺伝論 vs. 環境論、 行動遺伝学からみる遺伝と環境	対面	予習:自分の好きな食べ物、行動(癖 や趣味等)、性格や両親の好きな食べ 物や行動、性格等、ピックアップしてみ る(1時間) 復習:発達を規定する要因(1時間)
3回目	I. 発達を捉える視点(3) 発達理論と子ども観・保育観	対面	予習:人の一生における発達の變化を 絵で表してみよう」絵は必ずしも「人間 で表さなくてもよい(花、動物等)」(1時 間) 復習:発達理論について整理する(1時 間)
4回目	II. 子どもの発達過程(1) 赤ちゃんの能力、身体的機能と運動機 能の発達 ①胎児期・乳児期:原始反射 ②乳児期・幼児期:身体・運動発達	対面	予習:原始反射とは何か、発達すると 統合され消失していくが何のためにあ るのか調べておく(1時間) 復習:社会性等の心の発達と身体・運 動の関係についてまとめる。また保育 場面における身体・運動機能を高める 関わりを整理する(1時間)
5回目	II. 子どもの発達過程(2) 非認知的スキル(社会情動的スキル) ①情動表出 【後半、授業内レポート作成】	対面	予習:5回までの講義を踏まえて「自身 の子ども観・保育観」についてまとめて おく(1時間) 復習:非認知(社会情動)的スキルとは 何か整理する(1時間)
6回目	II. 子どもの発達過程(3) 社会的情動発達 ②認知的スキルと社会情動的スキル	対面	予習:「粘り強さ」はどうしたら発揮で きるのか、自分の場合を考えておく(1時 間) 復習:子どもが「粘り強い」行動を発揮 する保育者サポート、環境設定につい てまとめておく(1時間)
7回目	II. 子どもの発達過程(4) 自我の芽生えから自己の発達へ	対面	予習:子どもの自己理解に関する資料 を読む(1時間) 復習:2～3歳児の「ブラブラ」行動につ いてどのような意味があるのか整理し ておく(1時間)
8回目	II. 子どもの発達過程(5) 認知・社会性の発達	対面	予習:これまで見たこともない物体を理 解するときの反応を調べる(1時間) 復習:子どもが未知なる世界を垣間見 た時の「わくわく感」に対する保育者の 立ち位置についてまとめておく(1時 間)
9回目	II. 子どもの発達過程(6) 道徳・正義感の発達	対面	予習:善悪の判断やルールについて幼 児の発達の的な特徴を調べておく(1時 間) 復習:心の理論、道徳性の発達をまと める(1時間)

10回目	Ⅱ. 子どもの発達過程(7) 乳幼児期の学びを支える理論 思考力の芽生え	対面	予習:乳幼児期の思考・認知の発達について調べておく(1時間) 復習:子どもの思考力を引き出す環境とは何か、物的環境、人的環境、知的環境のあり方についてまとめる(1時間)
11回目	Ⅲ. 子どもの発達と環境(1) 保育における自然との関わり・生命尊重	対面	予習:生活している地域の自然についてマップを描いて子どもたちの散歩や遊び場となりそうな場所、どのような自然に気づいて欲しいか考えてみよう(1時間) 復習:アニミズム、生命観(擬人化的生命観、生氣論的生命観)についてまとめておく(1時間)
12回目	Ⅲ. 子どもの学びと保育(2) 乳幼児期の学びを支える保育 数量や図形、標識・文字への関心	対面	予習:子どもが文字に関心を示す時期、子どもが読み書きの前兆となる行動について調べておく(1時間) 復習:子どもの言葉の選択が間違っていた時(読み間違い・書き間違い、数え間違い)に保育者はどのように対応するのが良いかまとめておく(1時間)
13回目	Ⅳ. 子どもの学びと保育(3) 言葉の発達とコミュニケーション	対面	予習:家族や周囲の人から初めて話した言葉について調査する 復習:言葉の発達過程で生じる問題をまとめる(1時間)
14回目	Ⅳ. 発達を支える保育 ①乳幼児期の発達の特徴と遅れ ②乳幼児期の子どもを持つ保護者を支える	対面	予習:具体的な保育場面で見た「子どもの問題行動」について思い出してノートにまとめておく(1時間) 復習:予習で取り上げた「子どもの問題行動」について講義を踏まえその意味や機能を推測する(1時間)
15回目	期末試験	対面	予習:第1回から第14回までまとめたノート配布資料、テキストを読み返し、まとめておく(1時間) 復習:心理学の視点をすることで子ども理解がどのように変化したかをまとめ、これからの学び、やるべきことについてもあげる(1時間)
			授業外学習時間 30時間

科目(教職課程用)	
教育職員免許法施行規則に定める科目区分または事項等	
教科書・参考書	片桐正敏・藤本 諭・川口めぐみ編『保育の心理学』2022
履修条件	
履修上の注意	発達に関する用語を具体的事象との関連から理解していきます。
オフィスアワー	授業の前後で教室または研究室で質問を受け付けます。
備考・メッセージ	発達理論等の心理学的知識を踏まえて、育てる・教えるだけでなく、個々の子ども

	もの育つ過程や発達をとらえる視点や姿勢を学んでください。
--	------------------------------

講義科目名称:子ども家庭支援の心理学	授業コード:
英文科目名称:	ナンバリング:UC301

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
後期	2年	2単位	保育士:必修、卒業:選択	講義
担当教員				
講師 園田文香				

授業概要	本邦における社会病理学的な問題行動の中でも児童虐待又はその疑いがあるとして警察から児童相談所に通告した児童数は年々増加しており、2023年は12万2806人で、児童相談所まで繋がった件数は7073件で、10年前と比べると、約3倍になり、毎年過去最高が更新されている悲惨な状況である。少子化は進む一方で児童虐待は増加するという負の相関状態が常態化しつつあるといっても過言ではない。U.ブロンフェンブレナーは、彼の生態学的システム論において、子どもの環境をミクロ、メゾ、エクソ、マクロシステムの4つに分類し、ミクロの家庭とメゾの近隣の環境が子どもの発達に最も影響を及ぼすと唱えた。将来、保育士を目指す学生諸君は、今や家族システムや家族システムの病理についての知見を深めることは必須の事項となっている。今後の保育者に求められるのは、他の専門機関や専門職との円滑な連携とコワーカーとしての自覚をもつということである。本講義では、家族システムの特性、歪んだ家族システムの発生の予防、他の専門機関や専門職との連携など、実践的な知見について講じる。
------	--

資質・能力	授業における到達目標	評価方法	評価比率
心豊かな人間力	子どもや家庭の援助行動のみならず、自身も安定した心のゆとりを持つことを理解し、これを踏まえてカウンセリングマインドの意義を述べることができる。	授業参加(取り組み)・態度	10%
確かな専門的知識や技能	・生涯発達心理学の視点から子どもの発達や家族関係に関する包括的知識を学び、保育の実践にどうつながるか、自分なりに説明できる。 ・保育者として子どもの専門諸機関と連携するコワーカーとしての態度や役割を述べることができる。	ミニッツペーパー 定期試験	10% 40%
コミュニケーション能力	保育者として乳幼児や家族の悩みに寄り添う態度やエンパワメントの役割を説明できる。	ミニッツペーパー	10%
課題解決能力	子どもや家庭の問題についてなぜその問題行動に注目したのか、その原因の探求や問題の背景への着目という両視点をもち、述べることができる。	授業内レポート	30%
主体的に学ぶ力			
合計			100%

補足事項	
・基本的には対面授業とする。 ・授業に関する質問は直接または授業終盤のミニッツペーパー(授業終盤に授業に関する気づきや感想を記入する用紙)で受け付け、翌週の授業回での紹介での共有やGoogle classで回答する。 ・提出課題は、授業内で提出・回収し、評価後に返却する。 ・定期試験40%、授業内レポート30%、ミニッツペーパー20%、授業参加(取り組み)・態度10%	

授業計画	授業の内容	実施形式	予習・復習の内容と時間
1回目	・オリエンテーション	対面講義	予習:なぜ、「子供」ではなく、

	(授業の目的、進め方、評価方法等) ・近年の子どもの家庭における心理的支援の動向(生涯発達心理学の視点から考える子ども家庭支援について)		「子ども」なのか？考える (2時間) 復習:オリエンテーション資料等をまとめておく(2時間)
2回目	・エリクソンのライフサイクル論 ・U.ブロンフェンブレナーの生態学からみた家族や近隣の子どもの発達に与える影響性	対面講義	予習:E.H.エリクソン、U.ブロンフェンブレナーについて調べておく(2時間) 復習:配布資料についてまとめる(2時間)
3回目	・家族・家庭の意義と機能 家族システムのライフサイクル論 <u>授業内レポート①</u> :家族・家庭のライフサイクルについてレポート作成・提出	対面講義	予習:家庭と家族の意義について調べておく(2時間) 復習:配布資料についてまとめる(2時間)
4回目	現代社会と家族① 心理的歪みをもつ家族、家庭(家族システムの問題について世代間伝達、IP等)について学ぶ	対面講義	予習:ニュース等になっている家族、家庭問題をあげてみる (2時間) 復習:配布資料についてまとめる(2時間)
5回目	現代社会と家族② 現代の家族システムを巡る問題として、児童虐待の急増化などの本邦の家族を巡る問題について学ぶ	対面講義	予習:現代社会の家族、家庭問題について家族システムから考えてみる(2時間) 復習:配布資料についてまとめる(2時間)
6回目	親子関係・家族関係の理解と援助 家族のライフサイクルと形態維持と変化 ジェノグラムとエコマップ作成 親子関係と養育態度	対面講義	予習:家族の形が変わるのはどのような時か考える(2時間) 復習:配布資料についてまとめる(2時間)
7回目	子育て経験と親としての育ちの理解と支援 ・親になると何が変化するか？ 親になることの発達と多様な子育て支援	対面講義	予習:親になると何が変化するのか考えてみる(2時間) 復習:配布資料についてまとめる(2時間)
8回目	多様な家庭への理解と支援 ・ひとり親家庭とステップファミリー ・里親制度 ・外国にルーツを持つ家庭の支援	対面講義	予習:子ども支援に関わる専門機関を調べる(2時間) 復習:専門機関を支援対応ごとにまとめる(2時間)
9回目	保育現場と児童虐待に関する諸機関との連携 ・児童虐待防止法 ・児童虐待の種類、児童虐待に対応する専門機関について(児童相談所、保健所 子ども家庭支援センター等)	対面授業	予習:子ども支援に関わる諸専門機関を調べる(2時間) 復習:専門機関を支援対応ごとにまとめる(2時間)
10回目	リスク要因をもった保護者への対応① 保育士としての自分をメタ認知する ・カウンセリングマインド ・C.R.ロジャーズの来談者中心療法 ・TEGを用い自分の自我の特質を知る	演習	予習:カウンセリングマインドとは何か調べる(2時間) 復習:配布資料と演習の自分の自我状態についてまとめる(2時間)
11回目	リスク要因をもった保護者への対応② ・エンカウンターグループ ・ <u>授業内レポート②</u> 自身の自我状態の特質と他者との対人関係について	演習	予習:前回の自我状態をより良くするためにどのようなことが必要か考えてみる(2時間) 復習:自分の気をつけるべき対人関係のまとめ(2時間)
12回目	リスク要因をもった保護者への対応③ カウンセリングの演習 事例検討:コトバの遅れ、吃音・構音障害	演習	予習:生涯発達心理学の視点から子どもの問題行動を保育実践の経験等からあげる(2時間)

	夜尿が治らないetc.		復習:子ども問題行動の対応の仕方についてまとめる(2時間)
13回目	リスク要因をもった保護者への対応④ こんなときどうする?(保護者への対応) カウンセリングの演習 事例検討	演習	予習:生涯発達の視点から保護者の抱える問題、対応について自分なりに考えてみる(2時間) 復習:保護者への対応についてまとめておく(2時間)
14回目	リスク要因をもった保護者への対応⑤ こんな時、どうする?(各種神経発達症) カウンセリングの演習 事例検討	演習	予習:神経発達症(発達障害)について調べておく(2時間) 復習:神経発達症(発達障害)についてまとめる(2時間)
15回目	定期試験: 論述形式の試験		予習:これまでの配布資料を読み返し、まとめておく(2時間) 復習:これまでの授業の総まとめを自分なりに行う(2時間)
			授業外学習時間 60時間

科目(教職課程用)	
教育職員免許法施行規則に定める科目区分または事項等	
教科書・参考書	参考書:小原倫子/小林佐智子著『エピソードで学ぶ子どもの家庭支援の心理学』ミネルヴァ書房、2024 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育保育要領
履修条件	
履修上の注意	
オフィスアワー	授業の前後にGoogle class、教室、研究室で質問を受け付けます。
備考・メッセージ	授業に関する質問や要望については、授業の終盤にミニツツペーパー(授業終盤に授業に関する気づきや感想を記入する用紙)を記述してもらいます。授業についての意見や疑問、子どもや家庭についての学び方など書いてください。次回の授業で紹介・共有も行いたいと思います。

講義科目名称:子どもの理解と援助	授業コード:
英文科目名称:	ナンバリング:UC401

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
後期	2年	1単位	必修	演習
担当教員				
講師 園田 文香				

授業概要	本科目は、臨床心理学でいえば心理アセスメントや心理療法に該当する科目である。しかしながら皆様は保育士を目指す皆様であるから、乳幼児の定型発達を再学習し、その後乳幼児期にみられる代表的な問題といえる、DSM-5-TRによれば自閉症スペクトラム症、ADHD、限局性学習症、知的発達症などの基本を学び、心理職などの他の専門家のコンサルテーションの正しい理解や、保育園での神経発達症を有する子どもの行動観察の仕方、記録の取り方などの基本を学び、将来、地域の心の専門家らとの円滑なコラボレーションが遂行可能な保育士になるために、基本的な心理検査の結果の見方や発達障害などを有する子どもへの予防的支援の在り方、保健所や児童相談所などの専門機関の業務の在り方などについて演習的に学び、地域のメンタルヘルスに貢献するチームコミュニティの一員となれるよう多職種連携の意識も高めることを目的とする。
------	--

資質・能力	授業における到達目標	評価方法	評価比率
心豊かな人間力			
確かな専門的知識 や技能	・子どもの発達研究で明らかになったエビデンスや理論を学び、さらにその結果や理論を踏まえ、保育現場や子育て支援の現場で、発達を捉える視点について理解する。	学習参加(態度)・取り組み グループ・ディスカッション	20%
	・その後の「保育」につなげられるよう関連付けながら、自身の実習や体験との連続性を踏まえて、心理学の包括的な知識を基盤に、子ども、保護者、保育者自身のそれぞれにアプローチできる可能性を探っていく視点をもつ。	授業内レポート課題 (第1回)	20%
コミュニケーション能力	・子どもの姿や行動、発達を伝える言葉を豊かにもち、他者へわかるように説明することができる。	口頭発表	30%
課題解決能力	・子どもとの関わりといった関係論だけでなく、遊びや日課のあり方といった活動論からもとらえ、子どもの内的要因にのみ帰属させない視点を持つことができる。	授業内レポート課題 (第15回)	30%
主体的に学ぶ力			
合計			100%
補足事項			

- ・基本は対面授業とする。(変更する場合がある)
- ・授業に関する質問は直接またはミニッツペーパー(授業終盤に授業に関する気づきや感想を記入する用紙)、Google classで受け付け、翌週の授業またはGoogle classで回答する。
- ・Google classにて配信されたオンデマンド授業は履修者が必要な際に復習できる。
- ・評価は、第1回目の提出課題①15%、第15回の提出課題②40%、授業内の学習態度、取り組み、グループ・ディスカッション15%、授業内課題の口頭発表30%とする。
- ・第1回目の課題提出は、授業後半に課題を作成し、以降の授業で学生の経験した事例として活用しながら展開(フィードバック)する。
- ・第15回目は授業内レポートのため、授業内でレポートを作成し、提出する。

授業計画	授業の内容	実施形式	予習・復習の内容と時間
1回目	I. オリエンテーション ①子どもの実態に応じた発達や学びの把握 (1)保育における子どもの理解の意義 実習で体験した子どもの行動と理解 【授業内レポート作成・提出】	対面	予習:実習日誌や記録を準備する(1時間) 復習:配布資料の見直し(1時間)
2回目	I. 子どもの実態に応じた発達や学びの把握(2)子どもの理解に基づく養護及び教育の一体的展開	対面	予習:習経験における養護と教育の及び教育の目標を再確認(1時間) 復習:配布資料の見直し(1時間)
3回目	I. 子どもの実態に応じた発達や学びの把握(3)子どもへの共感的理解と保育者の関わり	対面	予習:実習経験における「子どもに共感できなかった場面」を整理(1時間) 復習:配布資料の見直し(1時間)
4回目	II. 子どもを理解する視点(1)子どもの生活や遊び —真似をすることの発達の意味・学習—	対面	予習:実習経験における「子どもの真似行動」を整理(1時間) 復習:配布資料の見直し(1時間)
5回目	II. 子どもを理解する視点(2)子ども相互の関わりと関係づくり —遊びの終わり方—	対面	予習:実習経験における「子ども同士のいざこざ」を整理(1時間) 復習:配布資料の見直し(1時間)
6回目	II. 子どもを理解する視点(3) 集団における経験と育ち —自己発揮・対話—	対面	予習:実習経験における「子どもとの対話場面」を整理(1時間) 復習:配布資料(1時間)
7回目	II. 子どもを理解する視点(4) 人的環境としての保育者と子どもの発達 —試し行動の理解—	対面	予習:実習経験における「試し行動」の抽出(1時間) 復習:配布資料の見直し(1時間)
8回目	II. 子どもを理解する視点(5) 試し行動への対応 動画視聴・ディスカッション	対面	予習:実習経験における「試し行動への対応」を整理(1時間) 復習:配布資料の見直し(1時間)
9回目	II. 子どもを理解する視点(6) 保育環境の理解と構成・環境の変化や移行	対面	予習:実習経験における「年齢別における保育環境の気づき」を整理(1時間) 復習:配布資料の見直し(1時間)
10回目	III. 子どもを理解する方法(1) 観察・記録・省察・評価・職員間の対話・保護者との情報の共有 —子どもの嘘を例に—	対面	予習:実習経験における「子どもの嘘の種類」を整理(1時間) 復習:配布資料の見直し(1時間)
11回目	III. 子どもを理解する方法(2) 保育巡回の活用・心理士との連携 —場面緘黙を例に—	対面	予習:実習経験における「対応が困難な子どもの様子」を整理(1時間) 復習:配布資料の見直し(1時間)
	IV. 子どもの理解に基づく発達援助(1)	対面	予習:実習経験における「子どもの質

12回目	発達の課題に応じた援助と関わり —質問を繰り返す子—		問行動」を整理(1時間) 復習:配布資料(1時間)
13回目	IV. 子どもの理解に基づく発達援助(2) 特別な配慮を要する子どもの理解と援助 —他児と関わりが持ちにくい子—	対面	予習:実習経験における「特別な配慮 例」を整理(1時間) 復習:配布資料の見直し(1時間)
14回目	IV. 子どもの理解に基づく発達援助(3) 発達の連続性と就学支援 レポートのポイント解説	対面	予習:実習経験における「 年長クラスの1年間の目標」を整理(1 時間) 復習:配布資料の見直し(1時間)
15回目	本講義のまとめ 心理学の視点を得ることで子ども理解がど のように変化したかレポートにまとめる 【レポート提出】	対面	予習:第1回で記述した自分の体験を 振り返り、現段階の気づきを記入(1時 間) 復習:確認テストを解く(1時間)
			授業外学修時間 30時間

科目(教職課程用)	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目
教育職員免許法施行規則に定める科目区分または事項等	幼児理解の理論及び方法
教科書・参考書	授業時に資料を配布。必要に応じて文献を紹介する。
履修条件	
履修上の注意	実習経験を扱うので、日誌や記録を活用すること。 事例発表の際は個人が特定されないようプライバシーの保護について配慮すること。
オフィスアワー	授業後に直接あるいはミニッツペーパーで質問を受け付けます。
備考・メッセージ	実習経験を振り返り、具体的な子どもの行為・行動について知識を用い、子どもの行動・行為のわけを考え合う語り合いを核とする授業です。本授業では、「わかる」や「気づく」ことよりも、こうか、ああか、と「考える」こと、「わかろうとする」ことが重要となります。「子どもはこうだ」と決めつけず、「わからない、理解できない」という気持ちを「もっとよく見よう、考えよう」という思いへ向かわせる、保育者の重要な視点を養うことがねらいとなります。

講義科目名称:こどもの保健	授業コード:
英文科目名称:Child Health	ナンバリング:UC101

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
前期	1年	2単位	保育士:必修、卒業:必修	講義
担当教員				
滝川 由香里				

授業概要	子どもの心身の健康と保健の意義・子どもの身体発育について理解する。さらに子どもの疾病とその予防についての知識を習得し、適切な対応について学びを深める。
------	---

資質・能力	授業における到達目標	評価方法	評価比率
心豊かな人間力			
確かな専門的知識や技能	子どもの発達・発育、健康や保健活動の意義について理解し、述べることができる。	定期試験 小テスト	70% 10%
コミュニケーション能力	子どもの健康増進に関する課題について、グループで協力して議論することができる。	グループディスカッションおよび発表	5%
課題解決能力	子どもの疾病と予防、健康増進に関する適切な対応について述べることができる。	レポート	10%
主体的に学ぶ力	授業を受講する際に、質問や発言をするなど、積極的に授業に参加することができる。	授業参加の意欲・態度	5%
合計			100%

補足事項	
・本授業では、定期試験70%、小テスト10%、レポート10%、グループディスカッションおよび発表5%、授業参加の意欲・態度5%で評価する。なお、レポートは提出期限を指定し、回収後授業内でフィードバックを行う。 ・状況に応じて、授業をオンライン等で行う場合があるが、その場合の授業中の質問は、チャット内で受け付ける。	

授業計画	授業の内容	実施形式	予習・復習の内容と時間
1回目	保健活動の意義と目的、健康の概念、健康指標、母子保健の現状	オンライン等で行う場合がある	予習:教科書p9～18を読み、内容をノートにまとめ、疑問点を抽出し、質問の用意をする。(2時間) 復習:授業内容を復習し、ノートに要点をまとめ、p18の「やってみよう」を解く。(2時間)
2回目	生物としての成り立ち、身体測定、発育曲線、運動機能の発達	オンライン等で行う場合がある	予習:教科書p19～29、p66～69を読み、内容をノートにまとめ、疑問点を抽出し、質問の用意をする。(2時間) 復習:授業内容授業内容を復習し、ノートに要点をまとめる。(2時間)

3回目	子どもの貧困、医療的ケア児、インクルーシブ保育、児童虐待について	オンライン等で行う場合がある	予習:教科書p13～18を読み、内容をノートにまとめ、疑問点を抽出し、質問の用意をする。(2時間) 復習:子どもの貧困、医療的ケアのいずれかについて、レポートを作成する。(2時間)
4回目	呼吸機能、循環機能、免疫機能、	オンライン等で行う場合がある	予習:教科書p30～32を読み、内容をノートにまとめ、疑問点を抽出し、質問の用意をする。(2時間) 復習:授業内容を復習し、ノートに要点をまとめる。(2時間)
5回目	消化機能、排泄機能、水分代謝、体温調節	オンライン等で行う場合がある	予習:教科書p32～35を読み、内容をノートにまとめ、疑問点を抽出し、質問の用意をする。(2時間) 復習:授業内容を復習し、ノートに要点をまとめる。(2時間)
6回目	内分泌の発達、睡眠・覚醒リズム、感覚・神経機能	オンライン等で行う場合がある	予習:教科書p35～40を読み、内容をノートにまとめ、疑問点を抽出し、質問の用意をする。(2時間) 復習:授業内容を復習し、ノートに要点をまとめる。(2時間)
7回目	健康観察と対応について、体調不良時によくみられる症状、健康診断、身体発育についての評価、保護者との健康情報の共有	オンライン等で行う場合がある	予習:教科書p59～71を読み、内容をノートにまとめ、疑問点を抽出し、質問の用意をする。(2時間) 復習:授業内容をノートに要点をまとめる。(2時間)
8回目	子どもの疾病の特徴、感染症、予防接種 ウイルス性感染症①	オンライン等で行う場合がある	予習:教科書p73～81を読み、内容をノートにまとめ、疑問点を抽出し、質問の用意をする。(2時間) 復習:感染経路とその予防法、それぞれのウイルス感染症の特徴をまとめ整理する。(2時間)
9回目	ウイルス性感染症②、細菌性感染症	オンライン等で行う場合がある	予習:教科書p82～84を読み、内容をノートにまとめ、疑問点を抽出し、質問の用意をする。(2時間) 復習:授業内容を復習し、それぞれの感染症の特徴についてまとめ、整理する。(2時間)
10回目	先天異常、アレルギー	オンライン等で行う場合がある	予習:教科書p84～89を読み、内容をノートにまとめ、疑問点を抽出し、質問の用意をする。(2時間) 復習:授業内容を復習し、特にそれぞれのアレルギーの特徴と予防法、対処法についてまとめる(2時間)
11回目	消化器疾患、呼吸器疾患、循環器疾患、血液疾患	オンライン等で行う場合がある	予習:教科書p89～92を読み、内容をノートにまとめ、疑問点を抽出し、質問の用意をする。(2時間) 復習:授業内容の復習を復習し、各疾患について整理する。(2時間)
12回目	悪性腫瘍、神経疾患、腎・泌尿器疾患	オンライン等で行う場合がある	予習:教科書p92～95を読み、内容をノートにまとめ、疑問点を抽出し、質問の用意をする。(2時間)

			復習:授業内容を復習し、各疾患の特徴について整理する。P100の「やってみよう」③を解く。(2時間)
13回目	感覚器の疾患,整形外科疾患、内分泌・代謝疾患	オンライン等で行う場合がある	予習:教科書p96～100を読み、内容をノートにまとめ、疑問点を抽出し、質問の用意をする。(2時間) 復習:授業内容を復習し、ノートに要点をまとめる。(2時間)
14回目	発達に即応した基本的生活習慣の形成 生活リズム形成における睡眠の意義について	オンライン等で行う場合がある	予習:教科書p41～50を読み、内容をノートにまとめ、疑問点を抽出し、質問の用意をする。(2時間) 復習:授業内容を復習し、ノートに要点をまとめる。(2時間)
15回目	清潔習慣、歯磨きについて	オンライン等で行う場合がある	予習:教科書p50～58を読み、内容をノートにまとめ、疑問点を抽出し、質問の用意をする。(2時間) 復習:授業内容を復習し、ノートに要点をまとめ、p57の演習問題を解く。(2時間)
16回目	定期試験		授業外学修時間 60時間

科目(教職課程用)	
教育職員免許法施行規則に定める科目区分または事項等	
教科書・参考書	教科書:子どもの保健(ななみ書房)
履修条件	特になし
履修上の注意	必ず予習を行い、専門用語等不明なところは積極的に質問する事。 小テストを実施します。
オフィスアワー	授業時間前後に教室で質問を受け付ける。
備考・メッセージ	保育士には子どもの命を守る責任があります。覚えることが沢山ありますが、真摯な態度で学びを深めて下さい。

講義科目名称:子どもの健康と安全	授業コード:
英文科目名称:	ナンバリング:CM301

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
前期	2年	1単位	卒業:必修、保育士:必修	演習
担当教員				
井田 裕子				

授業概要	1 乳幼児の日常生活の養護の実際を学び実習する。 2 バイタルサインの測定・記録および評価の実際、体調不良や障害が発生した場合の対応とケアについて学ぶ。 3 感染予防の3原則を理解する。排泄物の処理方法を理解する。効果的な手洗い・うがいを体験する。 4 子どもの事故と発生要因を理解する。気道内異物時の模擬演習、心肺蘇生法の模擬演習、包帯法などを実習する。 5 集団保育における年間保健安全計画、施設設備の消毒、保育者自身の生活習慣の整え方と健康管理にふれる。
------	--

資質・能力	授業における到達目標	評価方法	評価比率
心豊かな人間力			
確かな専門的知識や技能	1 保育における保健的観点を踏まえた保育環境や援助について理解する。 2 保育における衛生管理・事故防止および安全対策・危機管理・災害対策について、具体的に理解する。 3 子どもの体調不良等に対する適切な対応について、具体的に理解できる。 4 保育における感染症対策について、具体的に理解する。 5 保育における保健的対応の基本的な考え方を踏まえ、関連するガイドラインや近年のデータ等に基づく子どもの発達や状態等に即した適切な対応について具体的に理解する。 6 子どもの健康および安全の管理に関わる組織的取組や保健活動の計画および評価等について、具体的に理解する。	筆記試験 実習・提出物	50% 40%
コミュニケーション能力			
課題解決能力			
主体的に学ぶ力		学習への取り組み・態度	10%
合計			100%
補足事項			
筆記試験(50%)、実習・提出物(40%)、学習への取り組み・態度(10%)を総合して評価を行う。 課題のフィードバックは授業内またはGoogle Classroomで行う。			

授業計画	授業の内容	実施形式	予習・復習の内容と時間
1回目	保育的観点を踏まえた保育環境および援助	講義	学習したことを振り返りまとめておく(各回4時間)

2回目	子どもの健康と発育発達状態の把握	講義	プリント作成
3回目	保育における健康および安全の管理①	講義	内容をまとめておく
4回目	保育における健康および安全の管理②	講義	具体的対策をまとめておく
5回目	子どもの体調不良に対する適切な対応①	講義	ガイドライン作成、対応をまとめておく
6回目	子どもの体調不良に対する適切な対応②	講義	対処方法をまとめておく
7回目	子どもの体調不良に対する適切な対応③	講義・実演	実践と復習をしておく
8回目	感染症対策	講義(感染症の種類、症状を知る)	教科書で復習
9回目	保育における保健的対応①	講義・実演(抱き方、オムツ・衣服交換)	お人形で練習
10回目	保育における保健的対応②	講義・実演(清潔、沐浴の見学・実施)	パンフレット作成、提出
11回目	保育における保健的対応③	講義	内容をまとめておく
12回目	保育における保健的対応④	講義	ガイドライン作成
13回目	健康および安全の管理の実施体制①	講義	復習しておく
14回目	健康および安全の管理の実施体制②	講義	連携ガイドラインの作成
15回目	健康および安全の管理の実施体制③	講義	年間計画の作成
16回目	定期試験		授業外学修時間 60時間

科目(教職課程用)	
教育職員免許法施行規則に定める科目区分または事項等	
教科書・参考書	テキスト「子どもの健康と安全」中根淳子/佐藤直子 編著 ななみ書房 参考書「子どもの健康と安全 演習ノート」小林美由紀 編著 診断と治療社
履修条件	
履修上の注意	
オフィスアワー	前期:月曜日3・4限目
備考・メッセージ	実技の実習を自分で実践したり、教科書をよく読んでおくこと。

講義科目名称:子どもの食と栄養	授業コード:
英文科目名称:	ナンバリング:UC202

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
後期	1年	2単位	必修	講義
担当教員				
小玉智章・石橋由香里				

授業概要	保育士が接する乳幼児期は人生の始まりの時期であり、適切な発育のために栄養は必要不可欠である。本科目では、保育士が子どもの発育を栄養面からも支援できるように、栄養学の基礎を理解し、実践できることを目指す。また、近年は栄養面で特別な配慮を必要とする子どもが増えており、特にアレルギー対応は一步間違えると命に関わる。本科目ではアレルギーについて、その成り立ちから対応を理解し、保育所で他の業種と関わりながら実践できることも目指す。
------	--

資質・能力	授業における到達目標	評価方法	評価比率
心豊かな人間力			
確かな専門的知識や技能	・栄養学の基礎知識を理解し、説明できる ・子どもの成長に合った栄養を理解し、実践できる ・アレルギーの基礎と保育所における対応を理解し、説明できる ・特別な配慮が必要な子どもにおける栄養を理解し、説明できる	定期試験(筆記) 定期試験(実技)	80% 10%
コミュニケーション能力	・他者と協働し、適切に調理実習ができる	提出物 授業態度	5% 5%
課題解決能力			
主体的に学ぶ力			
合計			100%
補足事項			
・本授業は面接授業を基本とするが、状況に応じてMeetによるオンライン授業を行うことがある。 ・授業外の質問はGoogle Classroomで受け答えすることができる。 ・授業は収録し、YouTubeで限定公開するので復習等に利用すること。 ・本授業では、定期試験(筆記、実技)80%、小テスト10%、授業への参加・態度10%の割合で評価する。 ・課題のフィードバックは授業内またはGoogle Classroomで行う。			

授業計画	授業の内容	実施形式	予習・復習の内容と時間
1回目	オリエンテーション 本授業の進め方、評価の観点等の説明 栄養の基礎知識① 消化吸収のしくみ	面接授業(状況によってMeetで行う)	予習:シラバスを読んでおく、教科書P26～27を読んでおく 復習:YouTubeの配信を見返す(合わせて4時間)
2回目	栄養の基礎知識② 栄養とは？ 五大栄養素のはたらき①	面接授業(状況によってMeetで行う)	予習:教科書P28～35を読んでおく 復習:配布プリントをまとめる・YouTubeの配信を見返す(合わせ

			て4時間)
3回目	栄養の基礎知識② 五大栄養素のはたらき② 食事摂取基準	面接授業(状況によって Meetで行う)	予習:教科書P36~43を読んでおく 復習:配布プリントをまとめる・ YouTubeの配信を見返す(合わせて4時間)
4回目	乳児期の栄養① 乳児の特徴	面接授業(状況によって Meetで行う)	予習:教科書P50~61を読んでおく 復習:配布プリントをまとめる・ YouTubeの配信を見返す(合わせて4時間)
5回目	調理実習 実習室使用の仕方 調乳	面接授業(状況によって Meetで行う)	予習:教科書P65~68を読んでおく 復習:配布プリントをまとめる・ YouTubeの配信を見返す(合わせて4時間)
6回目	調理実習 離乳の準備	面接授業(状況によって Meetで行う)	予習:教科書P69~73を読んでおく 復習:配布プリントをまとめる・ YouTubeの配信を見返す(合わせて4時間)
7回目	調理実習 離乳初期の食事①	面接授業(状況によって Meetで行う)	予習:教科書P50~73を読んでおく 復習:配布プリントをまとめる・ YouTubeの配信を見返す(合わせて4時間)
8回目	調理実習 離乳初期の食事②	面接授業(状況によって Meetで行う)	予習:教科書P69~73を読んでおく 復習:配布プリントをまとめる・ YouTubeの配信を見返す(合わせて4時間)
9回目	乳児期の栄養② 乳児の栄養補給 離乳食とは	面接授業(状況によって Meetで行う)	予習:教科書P62~73を読んでおく 復習:配布プリントをまとめる・ YouTubeの配信を見返す(合わせて4時間)
10回目	幼児期の栄養 幼児の特徴と食生活	面接授業(状況によって Meetで行う)	予習:教科書P74~79を読んでおく 復習:配布プリントをまとめる・ YouTubeの配信を見返す(合わせて4時間)
11回目	調理実習 離乳後期の食事①	面接授業(状況によって Meetで行う)	予習:教科書P69~73を読んでおく 復習:配布プリントをまとめる・ YouTubeの配信を見返す(合わせて4時間)
12回目	調理実習 離乳後期の食事②	面接授業(状況によって Meetで行う)	予習:教科書P69~73を読んでおく 復習:配布プリントをまとめる・ YouTubeの配信を見返す(合わせて4時間)
13回目	食物アレルギー 食物アレルギーとは 食物アレルギーの対応	面接授業(状況によって Meetで行う)	予習:教科書P136~138を読んでおく 復習:配布プリントをまとめる・ YouTubeの配信を見返す(合わせて4時間)
14回目	調理実習 幼児期のおやつ	面接授業(状況によって Meetで行う)	予習:教科書P74~79を読んでおく 復習:配布プリントをまとめる (合わせて4時間)

15回目	調理実習 幼児期のおやつ	面接授業(状況によって Meetで行う)	予習:教科書74～79を読んでおく 復習:配布プリントをまとめる(合わせて4時間)
16回目	定期試験		授業外学修時間 60時間

科目(教職課程用)	
教育職員免許法施行規則に定める科目区分または事項等	
教科書・参考書	「子どもの食と栄養 第2版 保育現場で活かせる食の基本」太田百合子、堤ちはる編(羊土社)
履修条件	
履修上の注意	調理実習の際は、エプロン、三角巾、上履きを持参すること
オフィスアワー	火曜午後(事前に予約することが望ましい)
備考・メッセージ	積極的な受講態度、自主学修への取り組みを期待します。

講義科目名称:子ども家庭支援論	授業コード:
英文科目名称:	ナンバリング:EP402

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
後期	2年	2単位	卒業:選択、保育士:必修	講義
担当教員				
橋之口 裕太				

授業概要	子ども家庭支援について、その目標、保育士の役割、支援の内容と対象について理解を深める。本講義では、①子ども家庭支援の目標と機能を理解できる、②子ども家庭支援における保育士の役割を説明できる、③子ども家庭支援における保育士の基本的態度を説明できる、④子育て家庭に対する支援の体制を説明できる、⑤子ども家庭支援の内容と対象を理解できることを目標とする。
------	--

資質・能力	授業における到達目標	評価方法	評価比率
心豊かな人間力			
確かな専門的知識 や技能	①子ども家庭支援の意義と必要性を理解し、その 目的・機能を理解できる。 ②保育士の専門性を生かした子ども家庭支援の 基本的な考え方を理解できる。 ③子育て家庭に対すると多様な支援の展開と関係 機関との連携の方法などについて理解できる。	定期試験	70%
コミュニケーション 能力			
課題解決能力	子ども家庭支援における保育士の役 割について レポートをまとめること ができる。	レポート	10%
主体的に学ぶ力	近年の社会情勢に関心をもって、学校で学んだ こととの関連性を考える視点をもつこと ができる。 子ども家庭支援の課題を理解し積極 的な学習 ができる。	授業への参加・態 度	10%
		意見発表	10%
合計			100%
補足事項			
本授業では、定期試験 70%、レポート 10%、主体的に学ぶ力（意見発表、社会情勢への視点 10%と授業 への参加・態度 10%）の割合で評価する。			

授業計画	授業の内容	実施形式	予習・復習の内容と時間
1回目	オリエンテーション 全体的な講義内容の説明 特に子ども家庭支援の意義と必要性について説明する。	面接授業	予習:子ども家庭支援の目標と機能を読んでおくこと(2時間) 復習:講義の内容を振り返り理解を深めておくこと(2時間)
2回目	子ども家庭支援の目標と機能について説明する。	面接授業	予習:保育所保育指針を調べておくこと(2時間)。 復習:前回に同じ
3回目	子ども家庭支援における保育士の役	面接授業	予習:バイステックの 7 原則を調べておく

	割について理解する。		こと(2時間) 復習: 前回に同じ
4回目	保育士に求められる基本的態度について説明する。	面接授業	予習: 保育士の専門性を生かした子ども家庭支援を読んでおくこと(2時間) 復習: 前回に同じ
5回目	保育士の専門性を生かした子ども家庭支援を理解する。	面接授業	予習: 信頼関係について調べておくこと(2時間) 復習: 前回に同じ
6回目	保護者との信頼関係の形成について理解する。	面接授業	予習: 子どもの発達段階について調べておくこと(2時間) 復習: 前回に同じ
7回目	家庭の状況に応じた支援について説明する。	面接授業	予習: 子育て家庭の福祉を図るための社会資源を読んでおくこと(2時間) 復習: 前回に同じ
8回目	子育て家庭の福祉を図るための社会資源について説明する。	面接授業	予習: 子ども子育て新制度について調べておくこと(2時間) 復習: 前回に同じ
9回目	子育て支援の施策と次世代育成の支援策について説明する。	面接授業	予習: 子ども家庭支援の内容と対象を読んでおくこと(2時間) 復習: 前回に同じ
10回目	子ども家庭支援の内容と対象について説明する。	面接授業	予習: 保育所を利用する子ども家庭への支援を読んでおくこと(2時間) 復習: 前回に同じ
11回目	保育所を利用する子ども家庭への支援について理解する。	面接授業	予習: 地域子育て支援センターの役割について調べておくこと(2時間) 復習: 前回に同じ
12回目	地域の子育て家庭への支援について説明する。	面接授業	予習: 要保護児童およびその家庭に対する支援を読んでおくこと(2時間) 復習: 前回に同じ
13回目	要保護児童およびその家庭に対する支援について説明する。	面接授業	予習: 保育の現場での子育て支援の現状と課題を読んでおくこと(2時間) 復習: 前回に同じ
14回目	保育の現場での子育て支援の現状と課題について理解する。	面接授業	予習: 配布したプリントを整理しておくこと(2時間) 復習: 前回に同じ
15回目	全体講義の振り返りを行う。	面接授業	復習: 定期試験に向けた学修(4時間)
16回目	定期試験		授業外学修時間 60時間

科目(教職課程用)	
教育職員免許法施行規則に定める科目区分または事項等	
教科書・参考書	教科書『子ども家庭支援論』(建帛社)
履修条件	
履修上の注意	課題のフィードバックは授業内またはGoogle Classroomで行う。
オフィスアワー	授業の前後に教室で質問を受け付ける。
備考・メッセージ	

講義科目名称:カリキュラム論	授業コード:
英文科目名称:	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
後期	1年	2単位	必修	講義
担当教員				
安部 祥子				

授業概要	教育・保育の計画と評価に関する意義や基本的な考え方を学ぶ。その後、教育課程・全体的な計画を基盤に、子ども理解を踏まえた指導計画を作成する力を身につける。また、カリキュラム・マネジメントの考え方を理解し、保育の質を高めていく方法を学ぶ。これらを通して、保育者としての専門性を身につけるとともに、学び続けることのできる保育者になるための基盤となる力を養うことを目指す。
------	--

資質・能力	授業における到達目標	評価方法	評価比率
心豊かな人間力	子どもを理解しようとし、健やかな発達を願う気持ちをもって、学びに向かうことができる。	授業への参加・態度	10%
確かな専門的知識や技能	保育における計画と評価について、基本的理論を理解し、実践的に取り組むことができる。	課題(指導計画の作成)	50%
コミュニケーション能力	他者と意見を交わし、互いに高め合うことができる。	グループワーク	10%
課題解決能力	質の高い保育を目指して、試行錯誤を重ねながら指導計画の作成や評価に取り組むことができる。	模擬保育	20%
主体的に学ぶ力	保育の計画の立案やカリキュラム・マネジメントが、保育者にとって重要な職務であることを理解し、積極的に学ぶことができる。	授業への参加・態度	10%
合計			100%
補足事項			
・本授業は面接授業を基本とするが、状況によってオンライン等で行う場合がある。 ・授業に関する質問は、直接またはMellyでも受け付け、Web上または授業の際に回答する。			

授業計画	授業の内容	実施形式	予習・復習の内容と時間
1回目	「教育・保育の計画と評価の基本」 ・授業の進め方について確認する。 ・教育・保育における計画と評価の意義やカリキュラムの基礎理論を学ぶ。	面接授業	予習:教科書第1章を読んでおく。(2時間) 復習:授業を振り返り、重点と考えをまとめる。(2時間)
2回目	「教育・保育の計画と評価の基本」	面接授業	予習:教科書第1章を読んで

	・教育課程・保育課程の変遷と社会的背景について学ぶ。 ・PDCAサイクルの理解と保育の質の向上について学ぶ。		おく。(2時間) 復習:授業を振り返り、重点と考えをまとめる。(2時間)
3回目	「幼稚園、保育所、認定こども園における教育・保育の計画」 ・教育・保育における全体的な計画と指導計画のつながりを理解する。	面接授業	予習:教科書第2章を読んでおく。(2時間) 復習:授業を振り返り、重点と考えをまとめる。(2時間)
4回目	「教育課程および全体的な計画等の編成の実際」 ・教育・保育の理念に基づいた編成について理解する。	面接授業	予習:教科書第3章を読んでおく。(2時間) 復習:授業を振り返り、重点と考えをまとめる。(2時間)
5回目	「教育課程および全体的な計画等の編成の実際」 ・教育課程・保育の全体的な計画の実際について学ぶ。	面接授業	予習:教科書第3章を読んでおく。(2時間) 復習:授業を振り返り、重点と考えをまとめる。(2時間)
6回目	「教育・保育の指導計画の作成にあたって」 ・指導計画の作成の基本的な考え方、内容、留意点等を理解する。	面接授業	予習:教科書第4章を読んでおく。(2時間) 復習:授業を振り返り、重点と考えをまとめる。(2時間)
7回目	「指導計画(長期的・短期的)の作成」 ・指導計画(長期的・短期的)について理解する。	面接授業	予習:教科書第5章を読んでおく。(2時間) 復習:授業を振り返り、重点と考えをまとめる。(2時間)
8回目	「指導計画の実際」 ・指導計画の重要性や基本の考え方を踏まえ、実際に指導計画を作成する。	面接授業	予習:教科書第6章を読んでおく。(2時間) 復習:授業を振り返り、重点と考えをまとめる。(2時間)
9回目	「指導計画の実際」 ・指導計画の重要性や基本の考え方を踏まえ、実際に指導計画を作成する。 ・模擬保育の準備と打ち合わせをする。	面接授業	予習:指導計画を作成する。(3時間) 復習:指導計画を完成させる。(2時間)
10回目	「指導計画の実際」 ・模擬保育を行う。	面接授業	予習:模擬授業の準備・練習を行う。(5.5時間) 復習:模擬保育を振り返り、評価する。(2時間)
11回目	「指導計画の実際」 ・PDCAサイクルを用いて、模擬保育を振り返る。	面接授業	予習:指導計画と保育の質を高められるよう、改善点を明確にする。(2時間) 復習:授業を振り返り、重点と考えをまとめる。(2時間)
12回目	「教育・保育の記録と省察」 ・教育・保育の記録と省察の意義について理解する。 ・記録の種類や作成について学ぶ。	面接授業	予習:教科書第7章を読んでおく。(2時間) 復習:授業を振り返り、重点と考えをまとめる。(2時間)
13回目	「教育・保育の評価と改善」 ・教育・保育における評価と改善の重要性を学ぶ。	面接授業	予習:教科書第8章を読んでおく。(2時間) 復習:授業を振り返り、重点と考えをまとめる。(2時間)
14回目	「指導計画(日案)の作成」 ・指導計画(日案)について理解し、子どもの育ちと保育者の配慮を考えながら、立案する。	面接授業	予習:指導計画(日案)について調べておく。(2時間) 復習:指導計画を作成する。(5時間)
15回目	「指導計画(日案)の作成」 ・指導計画(日案)を完成させる。	面接授業	予習:指導計画を作成する。(2時間)

	・自身で見直し、指導計画作成の留意点を明確にする。		復習:指導計画を完成させる。(2時間)
--	---------------------------	--	---------------------

科目(教職課程用)	保育の基礎的理解に関する科目
教育職員免許法施行規則に定める科目区分または事項等	教育課程の意義及び編成の方法(カリキュラム・マネジメントを含む。)
教科書・参考書	●教科書 ・宮川萬寿美編著(2019)『保育計画と評価 ー豊富な例で1からわかる<第3版>』萌文書林 ●参考書 ・平成29年告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領<原本>
履修条件	
履修上の注意	
オフィスアワー	授業の前後で対応する。
備考・メッセージ	指導計画を立案し、内容を検討していく過程も大切な学びになる。自宅学習を有効に使い、課題に取り組むことを期待する。

講義科目名称:保育内容総論	授業コード:
英文科目名称:	ナンバリング:CM101

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
前期	1年	2単位	必修	演習
担当教員				
安部 祥子(第1回～第8回) 末岡 まゆり(第9回～第15回)				

授業概要	幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領における幼児教育・保育の基本と構造を理解し、子どもの発達や実態に即した保育の展開を学ぶ。子どもの生活を取り巻く社会背景、保育内容の歴史的変遷を学び、保育内容の基本的な考え方を理解する。これらを通して、子ども理解を深め、保育力を高める観察と、記録・保育計画・省察など保育者として必要な知識と技術を身に付けていく。
------	---

資質・能力	授業における到達目標	評価方法	評価比率
心豊かな人間力	子どもにかかわる際の基本的な態度を身につけている。	授業内レポート	10%
確かな専門的知識や技能	保育において重要な専門用語や基本的な考え方を理解し、説明することができる。	定期試験	60%
コミュニケーション能力	他者と意見を交わし、互いに高め合うことができる。	グループワーク 授業での発表	10%
課題解決能力	内容に関する諸課題の解決を目指して取り組むことができる。	授業内レポート	10%
主体的に学ぶ力	子どもの発達を支える保育について、学習成果をもとに考えを述べることができる。 保育者に必要な専門性を理解し、意欲的に学習できる。	確認試験	10%
合計			100%
補足事項			
・本授業は面接授業を基本とするが、状況によってオンライン等で行う場合がある ・授業に関する質問は、直接またはメールでも受け付け、個別または授業の際に回答する			

授業計画	授業の内容	実施形式	予習・復習の内容と時間
1回目	「保育内容とは何か」 ・授業の進め方について確認する。 ・保育内容と保育の基本を学ぶ。	面接授業	予習:教科書pp.3-21を読んでおく。(2時間) 復習:授業を振り返り、重点と考えをまとめる。(2時間)
2回目	「保育内容の歴史的変遷」 ・保育内容の変遷を振り返りながら、保育内容を構成する原理や原則について理解する。	面接授業	予習:教科書pp.22-35を読んでおく。(2時間) 復習:授業を振り返り、重点と考えをまとめる。(2時間)
3回目	「保育内容の歴史的変遷」 ・保育内容の変遷を振り返りながら、保育内容を構成する原理や原則に	面接授業	予習:教科書pp.36-49を読んでおく。(2時間) 復習:授業を振り返り、重点と考えを

	ついて理解する。		まとめる。(2時間)
4回目	「個と集団の発達と保育内容」 ・指針・要領等を基に、個と集団の発達を理解する。	面接授業	予習:教科書pp.74-87を読んでおく。 (2時間) 復習:授業を振り返り、重点と考えをまとめる。(2時間)
5回目	「保育における観察と記録」 ・保育における観察の視点と記録の意義や記録と保育のつながりについて学ぶ。	面接授業	予習:教科書pp.51-70を読んでおく 復習:授業を振り返り、重点と考えをまとめる
6回目	「養護と教育が一体的に展開する保育」 ・幼児教育・保育における養護と教育の関係性を理解し、養護と教育が一体的に展開する保育について考える。	面接授業	予習:教科書pp.88-100を読んでおく。(2時間) 復習:授業を振り返り、重点と考えをまとめる。(2時間)
7回目	「環境を通して行う保育」 ・環境を通して行う教育・保育の意義を理解し、環境構成と保育の展開について考える。	面接授業	予習:教科書pp.101-113を読んでおく。(2時間) 復習:授業を振り返り、重点と考えをまとめる。(2時間)
8回目	「授業の振り返りと確認試験」	面接授業	これまでの授業の復習をしておく。 (4時間)
9回目	「遊びによる総合的な保育」 ・遊びの本質を捉え、幼児教育・保育における遊びの実際や課題を考える。	面接授業	予習:教科書pp.114-123を読んでおく。(2時間) 復習:授業を振り返り、重点と考えをまとめる。(2時間)
10回目	「生活や発達の連続性に考慮した保育」 ・生活と発達の関係性を理解し、生活と発達の連続性を踏まえた保育を考える。	面接授業	予習:教科書pp.124-135を読んでおく。(2時間) 復習:授業を振り返り、重点と考えをまとめる。(2時間)
11回目	「家庭、地域、小学校との連携を踏まえた保育」 ・家庭、地域、小学校との連携について理解する。	面接授業	予習:教科書pp.136-151を読んでおく。(2時間) 復習:授業を振り返り、重点と考えをまとめる。(2時間)
12回目	「乳児保育」 ・乳児保育の意義と、保育者として乳児保育に臨む基本的な姿勢について学ぶ。	面接授業	予習:教科書pp.152-164を読んでおく。(2時間) 復習:授業を振り返り、重点と考えをまとめる。(2時間)
13回目	「長時間保育と保育の現代的な課題」 ・保育や子育て家庭の現状を理解し、それぞれの課題について考える。	面接授業	予習:教科書pp.165-175を読んでおく。(2時間) 復習:授業を振り返り、重点と考えをまとめる。(2時間)
14回目	「特別な支援を必要とする子どもの保育」 ・特別な支援を必要とする子どもについて理解し、保育者の関わりや保育を考える。	面接授業	予習:教科書pp.176-191を読んでおく。(2時間) 復習:授業を振り返り、重点と考えをまとめる。(2時間)
15回目	「多文化共生の保育」 ・多様な社会の現状と、子どもの人権を踏まえ、幼児期における多文化共生の保育について理解する。 ・授業の振り返りとまとめ	面接授業	予習:教科書pp.206-212を読んでおく。(2時間) 復習:授業を振り返り、重点と考えをまとめる。(2時間)

16回目	定期試験		定期試験に向けて復習する。 (7.5時間)
------	------	--	--------------------------

科目(教職課程用)	領域及び保育内容の指導法に関する科目
教育職員免許法施行規則に定める科目区分または事項等	保育内容の指導法(情報機器及び教材の活用を含む。)
教科書・参考書	●教科書 ・佐藤哲也編(2018)『子どもの心によりそう 保育内容総論(改訂版)』福村出版 ・平成29年告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領<原本>
履修条件	
履修上の注意	
オフィスアワー	授業の前後で対応する
備考・メッセージ	15回の授業全体を通して、学生に意見を求めたりグループ内での意見交換を行ったりしていく予定である。積極的な参加を期待する。

講義科目名称: 保育内容演習 I (健康)	授業コード:
英文科目名称: Introduction to Childcare I (Health)	ナンバリング: CM202

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
後期	1年	1単位	卒業: 選択、保育士: 選必、幼免: 必修	演習
担当教員				
中尾健一郎				

授業概要	「領域『健康』に関する専門的事項」として「子どもと健康」で学んだ内容をベースに「保育内容『健康』の指導法」について、「子どもの健康と運動」との関係を中心に環境構成や教材等の実践例を参考に専門的事項や理論を踏まえた根拠に基づく指導ができるよう以下を目標にして知識や技術を学ぶ。 ①子どもの健康と運動との関係について理解する ②子どもの運動経験に関係する保育現場や家庭の問題点について理解する ③運動遊びの指導及び日常生活における身体活動について理解する ④子どもの運動に関する安全教育・安全管理について理解する ⑤子どもの健康と運動に関する指導場面を想定した保育を構想する方法を理解する
------	--

資質・能力	授業における到達目標	評価方法	評価比率
心豊かな人間力			
確かな専門的知識や技能	・子どもの健康と運動との関係について説明できる ・子どもの運動経験に関係する保育現場や家庭の問題点について説明できる ・運動遊びの指導のポイントについて説明できる ・子どもの運動に関する安全教育・安全管理について説明できる	定期試験(レポート)	60%
コミュニケーション能力			
課題解決能力			
主体的に学ぶ力	・保育者を目指す者として、健康を意識し積極的な学習ができる	リフレクションカード 授業への参加・態度	20% 20%
合計			100%

補足事項
オンライン・オンデマンド配信授業については、課題提出で出席とみなす 毎回、googleclassroom等を使って、授業のポイント、意見質問、授業態度の自己評価をリフレクションカードとして提出すること リフレクションカードの意見・質問はgoogleclassroom等や授業内にてコメントする。 定期試験(レポート)60%、リフレクションカード20%、授業への参加・態度20%の割合で評価する 【面接授業における遅刻、早退、欠席について】 授業開始15分までを遅刻とし、それ以降は欠席とする。また、早退については75分間授業を受けていない場合は欠席とする。遅刻3回で1回の欠席としてカウントする

授業計画	授業の内容	実施形式	予習・復習の内容と時間
1回目	「オリエンテーション・子どもの健康と運動との関係について」 本科目の位置づけ、到達目標や授業内容、評価方法について学ぶ	面接授業：教室での講義 (オンライン等の対応可能)	予習：シラバスに目を通しておく (0.5時間) 復習：配布資料を参考に子どもの健康と運動との関係について復習する(0.5時間)
2回目	「運動遊びに関わる指導について 1」 ニュースポーツを体験を通して、遊びとしての運動の重要性について学ぶ	面接授業：体育館での実技	予習：ニュースポーツについて調べる(0.5時間) 復習：配布資料を参考に遊びとしての運動の重要性について復習する(0.5時間)
3回目	「運動遊びに関わる指導について 2」 ニュースポーツを体験を通して、乳幼児にふさわしい運動指導の在り方について学ぶ①	面接授業：体育館での実技	予習：運動指導について調べる (0.5時間) 復習：配布資料を参考に運動指導の在り方について復習する(0.5時間)
4回目	「運動遊びに関わる指導について 3」 ニュースポーツを体験を通して、乳幼児にふさわしい運動指導の在り方について学ぶ②	面接授業：体育館での実技	予習：運動指導について調べる (0.5時間) 復習：配布資料を参考に運動指導の在り方について復習する(0.5時間)
5回目	「運動遊びに関わる指導について 3」 幼児期運動能力検査による運動能力の測定評価方法の実践を通して、子どもの運動能力の特徴について学ぶ	面接授業：体育館での実技	予習：子どもの運動能力の現状について調べる(0.5時間) 復習：配布資料を参考に運動能力検査の方法について復習する(0.5時間)
6回目	「運動遊びに関わる指導について 4」 ネイチャーゲームの体験を通して自然環境を利用した遊びについて学ぶ①	面接授業：体育館及び屋外での実技	予習：自然環境でどのような遊びを体験してきたか振り返る(0.5時間) 復習：ネイチャーゲームのポイントについてまとめる(0.5時間)
7回目	「運動遊びに関わる指導について 5」 ネイチャーゲームの体験を通して自然環境を利用した遊びについて学ぶ②	面接授業：体育館及び屋外での実技	予習：自然環境でどのような遊びを体験してきたか振り返る(0.5時間) 復習：ネイチャーゲームのポイントについてまとめる(0.5時間)
8回目	「運動遊びに関わる指導について 6」 移動系の運動遊びの体験を通して環境構成と指導のポイントについて学ぶ	面接授業：体育館の実技	予習：体験したことのある鬼ごっこ遊びを振り返る(0.5時間) 復習：移動系の運動遊びのポイントについてまとめる(0.5時間)
9回目	「運動遊びに関わる指導について 7」 操作系の運動遊びの体験を通して環境構成と指導のポイントについて学ぶ	面接授業：体育館の実技	予習：体験したことのある用具を使った遊びについて振り返る(0.5時間) 復習：操作系の運動遊びの環境構成と指導のポイントについてまとめる(0.5時間)
10回目	「運動遊びに関わる指導について 8」 平衡系の運動遊びの体験を通して環境構成と指導のポイントについて学ぶ	面接授業：体育館の実技	予習：体験したことのある鉄棒、平均台、跳び箱等を使った遊びを振り返る(0.5時間) 復習：平衡系の運動遊びの環境構成と指導のポイントについてまとめる(0.5時間)

11回目	「運動遊びの計画と発表 1」 サーキット遊びをグループで計画する	面接授業:教室での講義 (オンライン等の対応可能)	予習:サーキット遊びについて調べておく(0.5時間) 復習:サーキット遊びの留意点についてまとめる(0.5時間)
12回目	「運動遊びの計画と発表 2」 企画したサーキット遊びを発表し、評価する	面接授業:体育館の実技	予習:企画した内容を確認しておく(0.5時間) 復習:実施した内容を振り返り、改善点を見つける(0.5時間)
13回目	「運動遊びの計画と発表 3」 運動会種目をグループで計画する	面接授業:体育館の実技	予習:運動会種目について調べておく(0.5時間) 復習:運動会企画の留意点についてまとめる(0.5時間)
14回目	「運動遊びの計画と発表 4」 企画した運動会種目の内容を発表し、評価する	面接授業:体育館の実技	予習:企画した内容を確認しておく(0.5時間) 復習:実施した内容を振り返り、改善点を見つけておく(0.5時間)
15回目	「子どもの運動に関する安全教育・安全管理について」 子どもの運動場面における安全教育と安全管理について学ぶ 15回のまとめ	面接授業:教室での講義 (オンライン等の対応可能)	予習:安全教育・管理について調べる これまでの授業内容について配布資料を参考に振り返っておく(0.5時間) 復習:配布資料を参考に安全教育・管理について復習する 課題レポート作成に向けて配布資料を復習しておく(0.5時間)
16回目	定期試験(レポート)		授業外学修時間 15時間

科目(教職課程用)	領域及び保育内容の指導法に関する科目
教育職員免許法施行規則に定める科目区分または事項等	保育内容の指導法(情報機器及び教材の活用を含む。)
教科書・参考書	教科書:必要に応じて資料を配布する 参考書:乳幼児教育・保育シリーズ 保育内容 健康 吉田伊津美 砂川史子 松崎洋子編著 光生館 :幼児期における運動発達と運動遊びの指導 杉原 隆/河邊貴子 編著 ミネルヴァ書房 :0~5歳児の発達にあった楽しい運動遊び 柳澤秋孝著 ナツメ社 :幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 幼児期運動指針
履修条件	
履修上の注意	実技の際は、必ず運動ができる服装に着替え、体育館シューズも準備すること (できれば学科指定のジャージ、シューズが望ましい) 更衣をしていない場合は減点の対象とする オンライン等の授業についてはPC、タブレット(パソコン)等を準備し、対応できるようにすること
オフィスアワー	質問等は授業の前後に教室にてまたはgoogle classroom等で受け付ける
備考・メッセージ	保育者を目指す者として自分の健康にも関心を持ち、身体を動かす習慣を身につけ、健康維持に努めること

講義科目名称:保育内容演習Ⅰ(表現音楽活動)	授業コード:
英文科目名称:	ナンバリング:CM302

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
前期	2	1	卒業:選択、保育士:選必、幼免:必修	演習
担当教員				
友廣憲子				

授業概要	本演習は、音楽の楽しさと大切さを学び、音楽表現を取り入れた活動について学ぶことをねらいとしている。 ①わらべうたの実践、手や身体を使ったあそび ②食べ物がでてくるあそび ③歌うことを中心とした表現活動 ④ダルクローズリトミック、コダーイ、オルフの教育について学ぶ。
------	---

資質・能力	授業における到達目標	評価方法	評価比率
心豊かな人間力			
確かな専門的知識や技能	子どもの年齢に応じたわらべうた、手や身体を使った活動、歌うことができること、リトミックを理解し実践することができる。	実技テスト	60%
コミュニケーション能力	様々な活動を楽しむことができる。	授業への参加・態度	20%
課題解決能力			
主体的に学ぶ力	表現活動の実践力を高めようと努力することができる。	授業への参加・態度	20%
合計			100%
補足事項			
実技試験 (60%)、授業時の参加での、態度、課題に対する取り組みや積極性を評価する(40%) ①基本的には面接授業を行います。 ②質問等は授業前後に直接またはclassroomで受け付け、以降の授業回またはclassroomで回答します。			

授業計画	授業の内容	実施形式	予習・復習の内容と時間
1回目	オリエンテーション 授業の内容とねらいについて	面接授業	予習:音楽表現について調べまとめてくる (0.5h) 復習:授業を振り返り、音楽表現のねらいについて考えをまとめる。(0.5h)
2回目	わらべうたについて わらべうたの特徴	面接授業	予習:わらべうたについて調べまとめてくる (0.5h) 復習:様々なわらべうたを調べる(0.5h)
3回目	手や身体を使ったあそび	面接授業	予習:テーマについて調べてくる (0.5h) 復習:授業を振り返りノートにまとめる。(0.5h)
4回目	食べ物がでてくるあそび	面接授業	予習:テーマについて調べまとめてくる (0.5h) 復習:食べ物の活動についてノートにま

			とめておく(0.5h)
5回目	歌うことを中心とした活動1	面接授業	予習:歌うことについて調べまとめてくる(0.5h) 復習:授業を振り返り、歌う活動の留意点をノートにまとめておく。(0.5h)
6回目	歌うことを中心とした活動2	面接授業	予習:呼吸の仕方について調べまとめてくる(0.5h) 復習:授業を振り返り学んだことをノートにまとめておく。(0.5h)
7回目	リトミックについて	面接授業	予習:リズム活動について調べてくる(0.5h) 復習:授業を振り返り、リズムについてノートにまとめておく。(0.5h)
8回目	リトミックの実践1	面接授業	予習:リトミックの本を読む(0.5h) 復習:授業を振り返り、リズムについてノートにまとめておく。(0.5h)
9回目	リトミックの実践2	面接授業	予習:ダルクロワーズについて調べておく。(0.5h) 復習:授業を振り返りノートにまとめておく。(0.5h)
10回目	身体全体を使ったあそび1	面接授業	予習:テーマについて調べまとめてくる(0.5h) 復習:授業を振り返り、身体表現についてノートにまとめる。(0.5h)
11回目	身体全体を使ったあそび2	面接授業	予習:テーマについて調べまとめてくる(0.5h) 復習:授業を振り返りノートにまとめる。(0.5h)
12回目	オルフの教育について	面接授業	予習:テーマについて調べまとめてくる(0.5h) 復習:授業を振り返り、活動をノートにまとめる。(0.5h)
13回目	コダーイの教育について	面接授業	予習:集団活動について調べてくる(0.5h) 復習:授業を振り返り、グループ活動について今日の活動をノートにまとめる。(0.5h)
14回目	グループ活動1	面接授業	予習:動きを覚えてくる(0.5h) 復習:授業を振り返り今日の活動をノートにまとめる。(0.5h)
15回目	グループ活動2	面接授業	予習:ダンスを踊りこんでくる(0.5h) 復習:授業を振り返りノートにまとめる。(0.5h)
16回目	グループ活動実技試験		授業外学修時間 60時間

科目(教職課程用)	
教育職員免許法施行規則に定める科目区分または事項等	
教科書・参考書	教科書:たのしい子どものうたあそび 「同文書院」 参考書:
履修条件	

履修上の注意	
オフィスアワー	授業への参加を積極的行いましょう。
備考・メッセージ	必要に応じてプリントを配布します。

講義科目名称:保育内容演習Ⅰ(表現造形活動)	授業コード:
英文科目名称:	ナンバリング:CM303

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
前期	2年	1単位	卒業:選択、保育士:選必、幼児:必修	演習・単独
担当教員				
陣内 敦				

授業概要	①保育現場における造形活動のねらいと内容を理解する 造形活動による幼児の発達について理解する 造形活動における人間関係の構築について考察する ②幼児の造形の目的を理解する 幼児の造形の喜びを理解する 望ましい幼児の造形活動を計画する ③造形活動を活性化させる保育者の役割を考察する 年齢に応じた事前準備を理解する 対象児と場に応じた環境構成を理解する ④幼児の思考の展開を促す支援内容を理解する 幼児の安全な活動を支える支援方法を理解する 子ども達の状況や発達に望ましい造形活動のあり方を考察する ⑤保育教材の役割を理解する 保育教材の考案法を理解する 保育教材を用いた保育実践をおこなう
------	---

資質・能力	授業における到達目標	評価方法	評価比率
心豊かな人間力			
確かな専門的知識や技能	・幼児の造形活動を計画する方法を習得する ・幼児の造形活動を支える事前準備と環境構成について理解する ・幼児の造形活動に対する保育者の支援内容(指導法)を修得する ・幼児の造形活動についての重要性を理解する	作品の成果 作品の成果 作品の成果 作品の成果	20% 20% 20% 20%
コミュニケーション能力	・保育の様々な活動を支える造形の役割を体験する	学修の取り組み	20%
課題解決能力			
主体的に学ぶ力			
合計			100%
補足事項			
課題のフィードバックは授業内またはGoogle Classroomで行う。			

授業計画	授業の内容	実施形式	予習・復習の内容と時間
1回目	はじめに 手づくりおもちゃ① 子どもとの造形活動のねらいと内容についてのイントロダクション(指導案について)	面接授業を基本とする	予習:造形のねらいと内容について、自分なりの考えを持つ(2時間) 復習:造形の意義について確認

	身近な材料(紙コップ)で手づくりおもちゃを制作する「紙コップのおもちゃ」 ※課題提出方法ならびに提出日は別途指示する		する(2時間)
2回目	小さな自然観察 近所を散策し、子どもの視点で自然を観察する。草花や虫などを写真に撮り、感想をまとめる「小さな自然観察レポート」 ※課題提出方法ならびに提出日は別途指示する	面接授業を基本とする	予習:子どもの自然に触れる様子についてイメージしておく(2時間) 復習:自然の豊かさに関心を持つ(2時間)
3回目	手づくりおもちゃ② 丸いうちわの材料を用いて手づくりおもちゃを制作する「いないいないばあ! or へんし〜ん!」 ※課題提出方法ならびに提出日は別途指示する	面接授業を基本とする	予習:子どもたちが遊ぶ様子をイメージしていく(2時間) 復習:子どもの発達と遊び方について考える(2時間)
4回目	手づくりおもちゃ③ 「紙コップのおもちゃ」の発表 紙皿を用いて手づくりおもちゃを制作する「皿コプター」 ※課題提出方法ならびに提出日は別途指示する	面接授業を基本とする	予習:子どもたちが遊ぶ様子をイメージしていく(2時間) 復習:子どもの発達と遊び方について考える(2時間)
5回目	手づくりおもちゃ④ 「小さな自然観察レポート」の掲示発表 ジャバラに折った画用紙を用いて手づくりおもちゃを制作する「パクパクおもちゃ」 ※課題提出方法ならびに提出日は別途指示する	面接授業を基本とする	予習:子どもたちが遊ぶ様子をイメージしていく(2時間) 復習:子どもの発達と遊び方について考える(2時間)
6回目	フィールドマップ① 自分の思い出の場所や現在の生活地域の地図を制作する「フィールドマップ」	面接授業を基本とする	予習:周辺の風景を概観しておく(2時間) 復習:学生それぞれの感性を認め合う(2時間)
7回目	フィールドマップ② 自分の思い出の場所や現在の生活地域の地図を制作する「フィールドマップ」	面接授業を基本とする	予習:場の中にある思い出や想いを記録する(2時間) 復習:子どもの場に対する感性を想像する(2時間)
8回目	想像あそび 切り紙とらくがきを組み合わせたあそび「これなんだ」 ※課題提出方法ならびに提出日は別途指示する	面接授業を基本とする	予習:子どもの発想についてイメージしてみる(2時間) 復習:子どもの想像性について考える(2時間)
9回目	粘土あそび 「フィールドマップ」の発表 粘土あそびをして、子どもの心の動きを知る ※課題提出方法ならびに提出日は別途指示する	面接授業を基本とする	予習:子どもの頃の粘土遊びの様子を思い出す(2時間) 復習:創造性や癒しの大切さについて考える(2時間)
10回目	手づくりおもちゃ⑤-1 ダンボールとプラネジを用い手作りおもちゃを制作する「くねくねペープサート」 ※課題提出方法ならびに提出日は別途指示する	面接授業を基本とする	予習:これからおこなう保育の場面を想定する(2時間) 復習:子どもとの語らいの中での遊びの展開を考える(2時間)
11回目	手づくりおもちゃ⑤-2 ダンボールとプラネジを用い手作りおもちゃを制作する「くねくねペープサート」 ※課題提出方法ならびに提出日は別途指示する	面接授業を基本とする	予習:これからおこなう保育の場面を想定する(2時間) 復習:子どもとの語らいの中での遊びの展開を考える(2時間)
12回目	造形材料探索 小石と木っ端の収集	面接授業を基本とする	予習:子どもが様々な物を収集する好奇心についてイメージしておく(2時間)

			復習: 自然物の形や手触りや形のおもしろさに関心を持つ(2時間)
13回目	石ころアート 収集した小石にペイント「石ころアート」 ※課題提出方法ならびに提出日は別途指示する	面接授業を基本とする	予習: 収集した物をしっかりと見つめ、想像性を働かせる(2時間) 復習: 子どもの想像性について考える(2時間)
14回目	木の工作① 収集した木っ端を用いて工作する「木の工作」	面接授業を基本とする	予習: 収集した物をしっかりと見つめ、想像性を働かせる (2時間) 復習: 子どもの想像性について考える(2時間)
15回目	木の工作② 「木の工作」 まとめ ※課題提出方法ならびに提出日は別途指示する	面接授業を基本とする	予習: 保育に携わる心の準備をおこなう(2時間) 復習: 自らの造形支援方法について反省をおこなう(2時間)
16回目			授業外学修時間 60時間

科目(教職課程用)	領域及び保育内容の指導法に関する科目
教育職員免許法施行規則に定める科目区分または事項等	保育内容の指導法(情報機器及び教材の活用を含む。)
教科書・参考書	課題ごとに、必要な参考資料を提示。また、手順を解説したプリントを配布。 参考書: 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領
履修条件	特になし
履修上の注意	自らの創造力を活性化させるよう、感性を磨くことに心掛けること。
オフィスアワー	授業時間前後に教室で質問を受け付ける。任意に研究室を訪ね質問することも可能である。
備考・メッセージ	課題ごとの材料と道具は、一括購入する物と各自準備する物との別があり、事前連絡に留意すること。 また、課題ごとに設けた作品提出期限を厳守すること。

講義科目名称:保育内容演習Ⅰ(人間関係)	授業コード:
英文科目名称:	ナンバリング:CM401

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
後期	2学年	1単位	卒業:選択、保育士:選必、幼免:必修	演習
担当教員				
下池 洸史朗				

授業概要	この授業では、人間関係の基盤を築いていく乳幼児期において、子どもたちがいかにして人や環境とかかわりながら、人間関係を形成していき、その中でどのような体験を経験することが必要なのかということについて考えてもらいます。また子どもは、乳幼児期からの他者とのかかわりやつながりを通して、さまざまな知識や技能、態度を身につけていきます。このような子どもの育ちを支える保育者としての専門的な知識や関わり、環境構成の視点を養うことを目指します。この授業が終了した際に、受講者のみなさんが次のような知識、技能、態度を身につけることを目標とします。 ①乳幼児期の教育及び保育に関する基本的な知識を説明できる。 ②乳幼児期の「人間関係」に関連する子どもの発達について説明できる。 ③乳幼児期の子どもと他者(子ども・保育者)との関係性を「人間関係」の視点で考察することができる。 ④子どもの遊びから子どもの他者とのやりとりにおける心情・意欲・態度について整理・考察することができる。 ⑤乳幼児期の人間関係の形成を援助する保育者としての自己理解と向上心を持って課題に取り組むことができる。
------	--

資質・能力	授業における到達目標	評価方法	評価比率
心豊かな人間力			
確かな専門的知識や技能	子どもの人間関係を中心とした発達についての基本的な知識を説明できる	定期試験	60%
コミュニケーション能力	乳幼児期の子どもと他者(子ども・保育者)との関係性を「人間関係」の視点で考察することができる。	ディスカッション	10%
課題解決能力	子どもの遊びから子どもの他者とのやりとりにおける心情・意欲・態度について整理・考察することができる。	課題・レポート	20%
主体的に学ぶ力	乳幼児期の人間関係の形成を援助する保育者としての自己理解と向上心を持って課題に取り組むことができる。	参加・取り組み	10%
合計			100%

補足事項
授業に関する質問は、直接のほか Google classroom でも受けつけ、Web上または授業回で答える 本授業は、定期試験60%、ディスカッション10%、課題・レポート10%、参加・取り組み10%の割合で評価する。 事例作成は、MicrosoftのWordを使用して作成し、提出すること。 各授業で出された課題について、授業終了時に回収します。また、課題の内容については、授業内で取り扱います。

授業計画	授業の内容	実施形式	予習・復習の内容と時間
1回目	オリエンテーション 事例を通した学び(作成)①	面接授業	予習:教科書を通読しておく。(1時間) 復習:配布された課題に取り組む。(1時間)
2回目	これからの子どもたちに求められる 保育と「人間関係」	面接授業 オンライン授業対応可	予習:教科書P10~39を通読しておく。(1時間) 復習:授業内で配布された資料で復習する。(1時間)
3回目	子どもの人間関係をめぐる課題と将来像	面接授業 オンライン授業対応可	予習:教科書P40~50を通読しておく。(1時間) 復習:授業内で配布された資料で復習する。(1時間)
4回目	子どもの人間関係①—おおむね0歳から3歳未満—	面接授業 オンライン授業対応可	予習:教科書P51~73を通読しておく。(1時間) 復習:授業内で配布された資料を復習する。(1時間)
5回目	子どもの人間関係①—おおむね0歳から3歳未満—	面接授業 オンライン授業対応可	予習:教科書P51~73を通読しておく。(1時間) 復習:授業内で配布された資料で復習する。(1時間)
6回目	子どもの人間関係②—おおむね3歳以上—	面接授業 オンライン授業対応可	予習:教科書P74~87を通読しておく。(1時間) 復習:授業内で配布された資料で復習する。(1時間)
7回目	子どもの人間関係②—おおむね3歳以上—	面接授業 オンライン授業対応可	予習:教科書P74~87を通読する。(1時間) 復習:授業内で配布された資料で復習する。(1時間)
8回目	遊びと人間関係の発達	面接授業 オンライン授業対応可	予習:教科書P88~99を通読する。(1時間) 復習:授業内で配布された資料で復習する。(1時間)
9回目	事例を通した学び(作成)②	面接授業 オンライン授業対応可	予習:指定された課題に取り組む。(1時間) 復習:指定された課題に取り組む(1時間)
10回目	保育者に求められるもの	面接授業 オンライン授業対応可	予習:教科書P100~112を通読する。(1時間) 復習:授業内で配布された資料で復習する。(1時間)
11回目	保育者に求められる援助の視点 ①—自立に向けて—	面接授業 オンライン授業対応可	予習:教科書P113~135を通読する。(1時間) 復習:授業内で配布された資料で復習する。(1時間)
12回目	保育者に求められる援助の視点 ②—協同に向けて—	面接授業 オンライン授業対応可	予習:教科書P136~152を通読する。(1時間) 復習:授業内で配布された資料で復習する。(1時間)
13回目	事例を通した学び(検討)③	面接授業	予習:指定された課題に取り組む。(1時間) 復習:課題の振り返りを行う。(1時間)

14回目	人間関係を結ぶ保育	面接授業 オンライン授業対応可	予習:教科書P153~170を通読する。(1時間) 復習:授業内で配布された資料で復習する。(1時間)
15回目	授業全体の総括	面接授業 オンライン授業対応可	予習:教科書P200~212を通読する。(1時間) 復習:授業内で配布された資料で復習する。(1時間)
16回目	定期試験		授業外学修時間 30時間

科目(教職課程用)	領域及び保育内容の指導法に関する科目
教育職員免許法施行規則に定める科目区分または事項等	各教科の指導法(情報機器及び教材の活用を含む。)
教科書・参考書	教科書:保育内容 人間関係[第2版] (新時代の保育双書) 濱名 浩 (編集) みらい 参考資料:幼稚園教育要領, 保育所保育指針, 幼保連携型認定こども園教育・保育要領とその解説
履修条件	
履修上の注意	
オフィスアワー	授業時間後の時間もしくは教員の空き時間等に対応します(研究室)
備考・メッセージ	授業を受講するにあたり、他の受講者の権利を侵害する行為、もしくは受講する学生としての規範を逸脱する行為を行った場合は厳しく対応を行います。

講義科目名称:保育内容演習Ⅰ(環境)	授業コード:
英文科目名称:	ナンバリング:CM304

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
前期	2	1	卒業:選択 保育士:選必 幼二免:必修	演習
担当教員				
黒崎 朗				

授業概要	① 幼児にとっての環境のとらえ方、環境の変化と幼児の生活、変化した環境と保育問題について、課題意識を持つことができる。 ② 環境との関わり方や保育者に必要な資質と配慮について理解し、授業設定の知識や能力の素地を育てる。 ③ 季節や身の回りの変化に関心を持ち、自然のものをを使った遊びや作品づくり、動物の飼育や植物の栽培に積極的に関わることができる。 ④ 幼児期の環境活動の重要性を理解し、将来の保育者として主体的に学び続ける意欲を養う。
------	--

資質・能力	授業における到達目標	評価方法	評価比率
心豊かな人間力	・将来の保育者として誠意を持って幼児に関わる心構えを育てる。		
確かな専門的知識や技能	・幼児の置かれている環境について理解し、教育的観点から望ましい園環境を理解することができる。 ・身近な環境に親しみ、自然の様々な事象に興味を持ち、積極的に関わることができる。	・定期試験 ・課題の提出物	60% 20%
コミュニケーション能力	・様々な意見・アイデアを取り入れながら、グループ活動に積極的に取り組むことができる。		
課題解決能力	・幼児の置かれている現状をつかみ、解決に向けた取り組みを話し合うことができる。	・レポート	20%
主体的に学ぶ力	・主体的に実習や演習に関わろうとする意欲を養う。		
合計			100%
補足事項			
授業の中で PCの活用を推進する。(野草の名前、野菜の栽培の様子、科学遊びの検索 等) Google classroom、Gmailの効果的な活用を行っていく 課題のフィードバックは授業内またはGoogle Classroomで行う。			

授業計画	授業の内容	実施形式	予習・復習の内容と時間
1回目	オリエンテーション 授業の進め方についての説明 夏野菜を栽培について	面接授業	予習:シラバスを見て、講義の流れを把握しておく(1時間) 復習:プランターで栽培する作物を決め、準備する
2回目	(第1章) 領域「環境」の意義 幼児が「環境とかかわる」ことの意味と	面接授業	予習:幼児の発達と環境の関係について調べておく(1時間) 復習:配布資料に目を通し、理解できな

	意義について学ぶ		かったところを調べる(1時間)
3回目	(第2章) 幼児の発達と環境 幼児期の発達特性を踏まえての環境がもつ意味について	面接授業	予習: 保育内容の5分野について確認しておく(1時間) 復習: 配布資料に目を通し、理解できなかったところを調べる(1時間)
4回目	実習 自然に学ぶ 春の草花で遊ぼう 春の野原の散策・昆虫等の観察と採集	面接授業	予習: 春の野草や昆虫についてネットで調べておく(1時間) 復習: 春の草花で遊ぶ(2時間)
5回目	(第3章) 幼児の発達と自然環境① 保育における動植物の役割	面接授業	予習: 飼育栽培活動における保育者の役割について調べておく(1時間) 復習: 配布資料に目を通し、理解できなかったところを調べる(1時間)
6回目	(第3章) 幼児の発達と自然環境② 保育における動植物の役割・動植物の生き方、育ち方を知ろう	面接授業	予習: 飼育栽培活動における保育者の役割について調べておく(1時間) 復習: 配布資料に目を通し、理解できなかったところを調べる(1時間)
7回目	(第4章) 幼児の発達と園の環境① 園内環境が発達に及ぼす影響について考える	面接授業	予習: 園内環境保育者の役割と専門性について調べておく(1時間) 復習: 配布資料に目を通し、理解できなかったところを調べる(1時間)
8回目	(第4章) 幼児の発達と園の環境② 環境による教育の実践について 七夕について	面接授業	予習: 七夕について調べておく(1時間) 復習: 配布資料に目を通し、理解できなかったところを調べる(1時間)
9回目	(第5章) 人的環境としての友だち・保育者の役割 保育者の役割と専門性について考える	面接授業	予習: 保育者の役割と専門性について調べておく(1時間) 復習: 配布資料に目を通し、理解できなかったところを調べる(1時間)
10回目	(第7章) 好奇心・興味・関心を育てる環境① 園児に好奇心や関心を持たせる方について作成した作品をもとに話し合う	面接授業	予習: 作成した遊具の提示法について考えておく(1時間) 復習: 配布資料に目を通し、理解できなかったところを調べる(1時間)
11回目 12回目	演習 「科学遊び」をしよう 紙、ゴム、ストロー、プラスチック容器、(ペットボトル)を使った遊具を作成する	面接授業	予習: 「科学遊び」の内容を考えておく(1時間) 復習: 「科学遊び」の作品を完成させる(2時間)
13回目	(第6章) 幼児の発達と物的環境の役割 園内の物的環境とその働きについて理解する	面接授業	予習: 遊びが幼児の発達に与える影響を調べておく(1時間) 復習: 配布資料に目を通し、理解できなかったところを調べる(1時間)
14回目	(第7章) 好奇心・興味・関心を育てる環境② 園児に好奇心や関心を持たせる方についていろいろな素材をもとに話し合う	面接授業	予習: 栽培活動のまとめ方について考えておく(1時間) 復習: 配布資料に目を通し、理解できなかったところを調べる(1時間)
15回目	(第8章) これからの幼児教育と課題 幼児を取り巻く問題から保育活動の見直し	面接授業	予習: 幼稚園教育実習への抱負についてまとめておく(1時間) 復習: 教科書や配布資料に目を通し、定期試験に備える(1時間)
16回目	定期試験		授業外学修時間 31時間

科目(教職課程用)	領域および保育内容の指導法に関する科目
教育職員免許法施行規則に定める科目区分または事項等	保育内容の指導法(情報機器及び教材の活用を含む。)
教科書・参考書	『保育内容・環境 第三版』横山 文樹編著 同文書院
履修条件	
履修上の注意	
オフィスアワー	授業の前後に対応
備考・メッセージ	

講義科目名称:保育内容演習Ⅰ(言葉)	授業コード:
英文科目名称:	ナンバリング:CM203

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
後期	1	1	卒業:選択 保育士:選必 幼二免:必修	演習
担当教員				
新井 悦子				

授業概要	①言葉の機能・言葉の獲得・発達の基礎を作るものを踏まえ、幼児教育において育みたい資質・能力を理解する。 ②幼稚園教育要領・保育所保育指針の領域「言葉」のねらいや内容について理解を深める。 ③幼児の発達に即した初語の頃までの発達の特徴、乳幼児期の発達の特徴および乳幼児期の言葉の発達過程について概観し、主体的・対話的な保育を構想する方法を身に付ける。 ④幼児期の発達や学びの過程を理解し、遊びの中での関わり方・活動の中での関わり方を学ぶ。 ⑤絵と言葉の豊かな世界(絵本、紙芝居)、劇や物語(パネルシアター、エプロンシアター、ペープサート等)、想像や言葉のリズム(素話・言葉遊び)を学ぶ。
------	---

資質・能力	授業における到達目標	評価方法	評価比率
心豊かな人間力			
確かな専門的知識や技能	①言葉の役割、領域「言葉」について理解ができる ②子どもの言葉の発達と保育者の関わりについて理解ができる ③言葉を育む児童文化財について知識を持ち、素話などの大切さを理解し、発表できる	定期試験 小レポート 個人での発表	60% 10% 10%
コミュニケーション能力	④グループ内で協力をし、手遊び、シアター系、劇遊び等の児童文化財の発表ができる	グループディスカッション グループでの発表	5% 10%
課題解決能力			
主体的に学ぶ力	⑤子どもの言葉を育てる環境、児童文化財の大切さを理解し、積極的な学習ができる	授業への参加・態度	5%
合計			100%
補足事項			
提出物は次回以降の授業にて返却するものもある			

授業計画	授業の内容	実施形式	予習・復習の内容と時間
1回目	「オリエンテーション」 領域「言葉」のねらいと内容言葉とは何か	面接授業	復習 領域「言葉」のねらいと内容に関する学習内容の確認(0.5h) 予習 新生児の持つ力と話し言葉出現以前の行動の確認(0.5h)

2回目	「言葉の発達 ①初語のころまで」 新生児の持つ力を知り、話しことば 出現以前の行動を知る	面接授業	復習 新生児の持つ力と話言葉出現以前 の行動に関して振り返る(0.5h) 予習 幼児期前期の言葉の発達の特徴 についてと、子どもの発語意欲をどのよう に育てるか考える(0.5h)
3回目	「言葉の発達 ②幼児期前期」 幼児期前期の言葉の発達の特徴を 知り、子どもの発語意欲をどのように 育てるか話し合う	面接授業	復習 幼児期前期の言葉の発達について と、子どもの発語意欲をどのように育てる かに関する学習内容の確認(0.5h) 予習 幼児期後期の言葉の特徴について 知る(0.5h)
4回目	「言葉の発達 ③幼児期後期」 幼児期後期の言葉の発達の特徴を 知り、子どもの発語意欲をどのように 育てるか話し合う	面接授業	復習 幼児期後期の言葉の発達について と、子どもの発語意欲をどのように育てる かに関する学習内容の確認(0.5h) 予習 言葉の発達を支える環境について 調べる(0.5h)
5回目	「言葉の発達 ④言葉の背景にあるもの」 言葉の発達を支える環境について 考える	面接授業	復習 言葉の発達を支える環境について 振り返る(0.5h) 予習 子どもとの信頼関係を強める共感 の言葉について考える(0.5h)
6回目	「子どものことばと保育者」 子どもとの信頼関係を強める共感 の言葉について考える	面接授業	復習 子どもとの信頼関係を強める共感 の言葉について振り返る(0.5h) 予習 特別な配慮の必要な子どもについ て調べる(0.5h)
7回目	「子どものことばと保育者」 子どもとの信頼関係を強める共感 の言葉について考える	面接授業	復習 援助の仕方や対応の仕方と情報機 器等の有効的な活用法について振り返る (0.5h) 予習 わらべうたや手遊びなどについて 調べる(0.5h)
8回目	「児童文化と内容 ①歌や触れ合いを楽しむ遊び」 わらべうたや手遊びなどが育てるも のについて理解する	面接授業	復習 わらべうたや手遊びなどが育てるも のについて振り返る(0.5h) 予習 絵本や紙芝居にはどのようなもの があるか調べる(0.5h)
9回目	「児童文化と内容 ①歌や触れ合いを楽しむ遊び」 わらべうたや手遊びなどが育てるも のについて理解する	面接授業	復習 わらべうたや手遊びなどが育てるも のについて振り返る(0.5h) 予習 絵本や紙芝居にはどのようなもの があるか調べる(0.5h)
10回目	「児童文化と内容 ②絵と言葉の世界」 絵本や紙芝居は何を育てるか考える	面接授業	復習 絵本や紙芝居が育てるものについ て振り返る(0.5h) 予習 パネルシアター、エプロンシアター、 ペープサート、人形劇とは何か調べる (0.5h)
11回目	「児童文化と内容③劇や物語」 パネルシアター、エプロンシアター、 ペープサート、人形劇の実演技術を 身につける	面接授業	復習 パネルシアター、エプロンシアター、 ペープサート、人形劇の実演について振 り返る(0.5h) 予習 素話・言葉遊びについて調べる (0.5h)
12回目	「児童文化と内容③劇や物語」 パネルシアター、エプロンシアター、 ペープサート、人形劇の実演技術を 身につける	面接授業	復習 パネルシアター、エプロンシアター、 ペープサート、人形劇の実演について振 り返る(0.5h) 予習 素話・言葉遊びについて調べる (0.5h)
13回目	「児童文化と内容 ④想像や言葉のリズム」 素話・言葉遊びの教育的効果につ	面接授業	復習 素話・言葉遊びの教育的効果につ いて振り返る(0.5h) 予習 素話を覚える(0.5h)

	いて整理し、発表する		
14回目	「児童文化と内容 ④想像や言葉のリズム」 素話の発表(語り)をする	面接授業	復習 素話・言葉遊びの教育的効果について振り返る(0.5h) 予習 劇遊びについて調べる(0.5h)
15回目	「復習・総まとめ」 これまで学習してきた内容の確認 学習課題	面接授業	復習 これまで学習してきた内容を振り返る(1h)
16回目	定期試験		授業外学修時間 15h

科目(教職課程用)	領域および保育内容の指導法に関する科目
教育職員免許法施行規則に定める科目区分または事項等	保育内容の指導法(情報機器及び教材の活用を含む。)
教科書・参考書	テキスト:購入『保育内容・言葉』太田光洋 編著 同文書院 (前期の「子どもと言語」と同じ教科書) 参考書:必要に応じて資料を配布 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定子ども園教育・保育要領
履修条件	
履修上の注意	
オフィスアワー	授業の前後で対応します。
備考・メッセージ	個人での発表、グループでの討議・発表において、積極的な参加を期待します

講義科目名称:乳児保育 I	授業コード:
英文科目名称:	ナンバリング:CM204

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
後期	1年次	2単位	卒業:必修、保育士:必修	講義
担当教員				
戸田恵理子				

授業概要	1. 乳児保育の意義・目的と歴史的変遷及び役割等について理解する。 2. 保育所、乳児院等多様な保育の場における乳児保育の現状と課題について理解する。 3. 3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育の内容と運営体制について理解する。 4. 乳児保育における職員間の連携・協働及び保護者や地域の関係機関との連携について理解する。
------	--

資質・能力	授業における到達目標	評価方法	評価比率
心豊かな人間力	・乳児の心や体の育ちを丁寧に理解し ようと努めることができる。	・レポート ・定期試験	10% 10%
確かな専門的知識 や技能	・保育所や乳児院における乳児保育の 現状を理解し、3 歳未満時における乳児保育の役割と機能を理解できる。 ・3歳未満児の発育・発達の個人差を理解し、それに 応じた知識・技術に基づく援助や関わりができる。	・定期試験	30%
コミュニケーション 能力	グループ活動に積極的に取り組むことができる。	・レポート	5%
課題解決能力	乳児保育の計画と記録・評価について 模擬保育や保育実践の振り返りから 課題を明確にできる。 乳児保育の環境づくりについて理解 できる。	・レポート ・定期試験	20% 20%
主体的に学ぶ力	子どもの発達や学びの過程、子育て支援等に関する 様々な事柄に常に問題意識を持ちながら積極的に学 ぶことができる。	・レポート	5%
合計			100%

補足事項	
①評価に関しては、定期試験 60% レポート 40% を総合して評価する。 ②オンライン・オンデマンド授業の場合、事前に資料を配布もしくはGoogleClassroom にて配信。 ・オンライン授業時は、カメラは基本的に「ON」、発言時以外は、マイクは「OFF」にします。 ・本授業のレポートは Google ドキュメントを使用する。 ・課題のフィードバック等は授業内またはGoogle Classroomで行う。 ③課題やレポートはドキュメント 等 を必要に応じて活用願います。 ④授業開始から 15 分以前の早退及び授業時間中 15 分以上離席した際は欠席扱い、授業開始から15分経過した遅刻 3 回で欠席 1 回とみなします。 ⑤保育者としての自分を認識するため予習・復習をして受講するよう願います。	

授業計画	授業の内容	実施形式	予習・復習の内容と時間
1回目	乳児保育の意義・目的と歴史的変遷について・乳児保育の定義について説明できる ・乳児保育の背景や歴史的変遷について説明できる ・乳幼児の教育・保育を行う施設の種類と機能について理解する ・乳児期における養護及び教育の一体性について説明できる	面接授業 オンライン可	予習: 内容を確認しておくこと(2時間) 復習: 乳幼児の施設について整理する(2時間)
2回目	乳児保育および子育て家庭に対する支援をめぐる社会的状況と課題について・子育て世代を取り巻く社会的状況について説明できる ・乳児保育への関心の高まりと背景について理解する ・乳児保育と子育て支援について説明できる	面接授業 オンライン可	予習: 子育て世代が抱える諸問題について調べておくこと(2時間) 復習: 乳児保育のニーズが高まった背景について整理する(2時間)
3回目	保育所における乳児保育について・保育所の位置づけや役割について説明できる ・保育所における乳児保育の現状・課題について説明できる	面接授業 オンライン可	予習: 保育所の役割について確認しておくこと(2時間) 復習: 保育所における乳児保育の課題に関連する記事を収集する(2時間)
4回目	保育所以外の児童福祉施設(乳児院等)における乳児保育について・児童福祉施設と乳児保育について説明できる ・乳児院の現状と課題について・乳児院の勤務について理解する	面接授業 オンライン可	予習: 児童福祉施設の種類について調べておくこと(2時間) 復習: 乳児院で生活する子どもを支える保育士の役割について整理する(2時間)
5回目	家庭的保育・小規模保育における乳児保育について・家庭的保育・小規模保育の位置づけの説明ができる ・乳児及び1歳以上3歳未満児の保育の重要性について説明できる	面接授業 オンライン可	予習: 家庭的保育・小規模保育の施設の特徴について理解しておくこと(2時間) 復習: 家庭的保育・小規模保育における保護者との対応の課題を挙げ整理する(2時間)
6回目	3歳未満児とその家庭を取り巻く環境と子育て支援の場について・子育て支援の現状について説明できる ・子ども理解から保護者の理解について説明できる ・地域子育て支援拠点における支援の実践について説明できる	面接授業 オンライン可	予習: 保育所・保育者に対する保護者の多様なニーズに関する記事を収集しておくこと(2時間) 復習: 収集記事のスクラップブックの作成(2時間)
7回目	3歳未満児の生活と環境について・乳児保育における生活の場としての環境の整え方について説明できる ・応答的で豊かな言語環境について理解する	面接授業 オンライン可	予習: 乳児が生活するにふさわしい環境についてまとめておくこと(2時間) 復習: 子どもとの個別的・応答的なかわりの際の丁寧な声掛けについてまとめておく(2時間)
8回目	3歳未満児の遊びと環境について・環境を通して行う保育・遊びについて説明できる ・0歳児の遊び環境の安全配慮について説明できる ・1歳以上3歳未満児の遊び(学び)環境の整え方について説明できる	面接授業 オンライン可	予習: 環境を通して行う保育や遊びの重要性についてまとめておくこと(2時間) 復習: 3歳未満児の生活と遊びの際の環境構成について整理する(2時間)

9回目	3歳以上児の保育に移行する時期の保育について ・0歳児から1歳児の移行の検討事項について説明できる ・3つの視点にみえる0歳児から1歳児の移行について説明できる	面接授業 オンライン可	予習:乳児保育の前提について確認しておくこと(2時間) 復習:乳児保育の中の「移行」における子ども及び保護者に対する具体的な配慮について整理する(2時間)
10回目	3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育者による援助やかかわりについて ・保育所保育指針改定にみる保育の特性と援助の実践について説明できる ・0歳児の保育の配慮事項について説明できる ・1歳以上3歳未満児の保育の配慮事項について説明できる	面接授業 オンライン可	予習:保育所保育指針を参照に3歳未満児の保育の原則について内容をまとめておくこと(2時間) 復習:3歳未満児の保育を展開する上で留意すべき点を整理する(2時間)
11回目	3歳未満児の保育・発達をふまえた保育における配慮について ・乳児の保育において特に配慮する事項について説明できる。 ・1歳以上3歳未満児の保育において特に配慮する事項について説明できる ・保育中の安全管理について説明できる	面接授業 オンライン可	予習:保育全般にかかわる配慮事項についてまとめておくこと(2時間) 復習:保育中における子どもの健康状態を把握する視点を掲げた一覧表を作成する(2時間)
12回目	乳児保育の計画・記録・評価とその意義について ・保育の計画と実践について説明できる ・実践の記録から評価へつなげる重要性について説明できる ・記録と保育の質の向上について説明できる	面接授業 オンライン可	予習:なぜ乳児保育における計画が柔軟に対応する必要があるのかを考える(2時間) 復習:保育におけるPDCAサイクルを再度確認する(2時間)
13回目	職員間の連携・協働について ・乳児保育における保育者の業務と役割について説明できる ・チームで進める保育について説明できる ・保育者の最も重要な専門性について説明できる	面接授業 オンライン可	予習:乳児保育における保育者の専門性について自分の考えをまとめておく(2時間) 復習:保育者を目指すためにこれから準備できる内容の考案及び関連情報を収集しスクラップブックにまとめる(2時間)
14回目	保護者との連携・協働について ・子育て支援の必要性と保育者の役割について説明できる ・保護者に対する相談援助の原則について説明できる ・事例を通して保護者との連携・協働について説明できる	面接授業 オンライン可	予習:実習依頼施設の子育て支援活動について調べておくこと(2時間) 復習:保育所における保護者への支援について整理すること(2時間)
15回目	自治体や地域の関係機関との連携・協働・保育所と地域の社会資源について ・保育所における関係機関との連携について説明できる ・家庭的保育・小規模保育との連携について説明できる	面接授業 オンライン可	予習:地域の社会資源について調べておくこと(2時間) 復習:子どもを取り巻く関係諸機関との連携方法についてまとめる(2時間)
16回目	定期試験		授業外学修時間 60時間

教育職員免許法施行規則に定める科目区分または事項等	
教科書・参考書	教科書:講義で学ぶ乳児保育 参考書:平成29年告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領<原本>
履修条件	
履修上の注意	乳幼児の保育に携わるため、日ごろの生活及び受講態度や身だしなみにも十分配慮すること
オフィスアワー	(前期)月曜日の1・2限目(研究室) (後期)木曜日の1・2限目(研究室) 授業時間・会議等以外の時間は対応可能
備考・メッセージ	・次回の授業内容を予習し、内容に応じた準備(服装・身なり・資料等)し受講する ・学習内容の定着化を図るため、必ず予習・復習する ・専門用語等の意味等を調べておく

講義科目名称:乳児保育Ⅱ	授業コード:
英文科目名称:	ナンバリング:CM402

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
前期	2年	1単位	卒業:選択、保育士:必修	演習
担当教員				
滝川 由香里				

授業概要	1. 3歳未満児の発達・発育の過程や特性を踏まえた援助や関わりの基本的な考え方について理解する。 2. 養護及び教育の一体性を踏まえ、3歳未満児の子どもの生活や遊びと保育の方法及び環境について、具体的に理解する。 3. 乳児保育における配慮の実践について、具体的に理解する。 4. 上記1～3を踏まえ、乳児保育における計画の作成について、具体的に理解する。
------	---

資質・能力	授業における到達目標	評価方法	評価比率
心豊かな人間力	豊かな愛情と感性にあふれ、情緒の安定を保ちながら、乳幼児への関わりを持つことができる。	課題(演習含む)	10%
確かな専門的知識や技能	3歳未満児の発育・発達を踏まえた生活と遊びの援助について具体的な理解ができる。	確認テスト(実技含む)	30%
	子どもの心身の健康・安全と情緒の安定を図るための配慮等について理解できる。	課題(演習含む)	10%
コミュニケーション能力	3歳未満児の発育・発達を踏まえた生活と遊びの援助について具体的な理解ができる。 - 子どもの心身の健康・安全と情緒の安定を図るための配慮等について理解できる。	グループワーク	10%
課題解決能力	演習を通して、反省・課題点を抽出しながら、改善できる方法・手段を考えることができる。	課題(演習含む)	10%
主体的に学ぶ力	学習内容ごとに課題意識を持ちながら積極的に学ぶことができる。	グループワーク 確認テスト(実技含む)	10% 20%
合計			100%

補足事項
確認テスト(50%) 課題(演習含む)(30%) グループワーク(20%) を総合して評価する。 ※レポートは、Google Class Room(G-CR)での提出を求める場合がある。授業前後にはG-CRの確認を必ず行うこと ① 演習を円滑に行い、理解を深めるためにも予習・復習をすること。 ② 欠席時は、次の授業開始前日までに資料を受け取り、欠席時の授業内容の理解に努める事。 ③ 課題提出後は、その後の授業にて振り返りを行う。 ④ オンライン授業時は、G-CRに資料を添付するため、各自事前に準備をし、受講する事。 ⑤ 授業開始から15分以上経過した遅刻および授業時間中15分以上離席した際は欠席扱い、遅刻3回で

欠席 1 回とみなす。

授業計画	授業の内容	実施形式	予習・復習の内容と時間
1回目	乳児保育の意義	面接授業 (オンライン等の対応可能)	予習:p14～17、192～200を読み、内容をノートにまとめ、疑問点を抽出し、質問の用意をする。(2時間) 復習:授業内容を復習し、ノートに要点をまとめる。(2時間)
2回目	0～3歳までの発育・発達	面接授業 (オンライン等の対応可能)	予習:p202～210、p232～239、p262～26、p372～37および乳児保育Ⅰで配布したプリントに目を通し、発達・発育についての内容をノートにまとめ、疑問点を抽出し、質問の用意をする。(2時間) 復習:授業内容を復習し、ノートに要点をまとめる。(2時間)
3回目	0歳児の保育内容と配慮・遊び 1. 生理的欲求・心理的欲求の受容 2. 関わりのポイント	面接授業 (オンライン等の対応可能)	予習:p212～230を読み、内容をノートにまとめ、疑問点を抽出し、質問の用意をする。(2時間) 復習:授業内容を復習し、ノートに要点をまとめる。(2時間)
4回目	1歳児の保育内容と配慮・遊び 1. 基本的生活習慣の自立 2. 手作りおもちゃ	面接授業 (オンライン等の対応可能)	予習:p242～258を読み、内容をノートにまとめ、疑問点を抽出し、質問の用意をする。(2時間) 復習:授業内容を復習し、ノートに要点をまとめる。(2時間)
5回目	2歳児の保育内容と配慮・遊び 1. 2歳児の育みたい資質・能力 2. 手指の発達を促す遊び	面接授業 (オンライン等の対応可能)	予習:p272～288を読み、内容をノートにまとめ、疑問点を抽出し、質問の用意をする。(2時間) 復習:授業内容を復習し、ノートに要点をまとめる。(2時間)
6回目	乳児保育における指導計画 1. 長期的な指導計画と短期的な指導計画 2. 個別的な指導計画と集団の計画 3. 危機管理について	面接授業 (オンライン等の対応可能)	予習:P292～299、p326～246を読み、内容をノートにまとめ、疑問点を抽出し、質問の用意をする。(2時間) 復習:授業内容を復習し、ノートに要点をまとめる。(2時間)
7回目	乳児の抱っことおんぶについて①	面接授業 (オンライン等の対応可能)	予習:事前に配布された資料を読み、疑問点を抽出し、質問の用意をする。(2時間) 復習:授業内容を復習し、ノートに要点をまとめる。(2時間)
8回目	乳児の抱っことおんぶについて②(おんぶ)	面接授業	予習:抱っことおんぶに関する要点をまとめ、手順をまとめる。 復習:演習内容を振り返り課題・要点をノートにまとめる。
9回目	乳児の身体計測について	面接授業	事前に配布された資料を読み、疑問点を抽出し、質問の用意をする。(2時間) 復習:授業内容を復習し、ノートに要点をまとめる。(2時間)
10回目	排泄の援助と環境①	面接授業 (オンライン等の対応可能)	予習:P364～365を読み、疑問点を抽出し、質問の用意をする。(2時間) 復習:授業内容を復習し、ノートに要点をまとめる。(2時間)

11回目	排泄の援助と環境②(おむつ交換)	面接授業	予習:おむつ交換の要点を復習し、手順・配慮事項をまとめる。(2時間) 復習:演習内容を復習し、課題・要点をノートにまとめる。(2時間)
12回目	清潔に関する援助と環境①	面接授業 (オンライン等の対応可能)	予習:P365を読み、疑問点を抽出し、質問の用意をする。(2時間) 復習:授業内容を復習し、ノートに要点をまとめる。(2時間)
13回目	清潔に関する援助と環境②(着脱・沐浴)	面接授業	予習:清潔・沐浴に関する要点を復習し、手順をまとめる(2時間) 復習:演習内容を復習し、課題・要点をノートにまとめる。(2時間)
14回目	まとめ①(確認テスト含む)	面接授業	予習:演習内容に応じた事前の練習を繰り返し行う(2時間) 復習:演習を振り返り、課題を明確にし、解決策をまとめる(2時間)
15回目	まとめ②(確認テスト含む)	面接授業	予習:演習内容に応じた事前の練習を繰り返し行う(2時間) 復習:演習を振り返り、課題を明確にし、解決策をまとめる(2時間)
16回目	定期試験		授業外学修時間 60時間

科目(教職課程用)	
教育職員免許法施行規則に定める科目区分または事項等	
教科書・参考書	乳児保育Ⅰ・Ⅱ 寺田清美他編集、児童育成協会監修、中央法規、2022. 参考書:演習で学ぶ乳児保育、善本眞弓編著、わかば社、2020.
履修条件	特になし
履修上の注意	必ず予習を行い、専門用語等不明なところは積極的に質問する事。
オフィスアワー	授業時間前後に教室で質問を受け付ける。
備考・メッセージ	乳児の発達を促す援助方法をしっかりと身に付けられるよう積極的に学びを深めてください。

講義科目名称:特別支援教育概論	授業コード:
英文科目名称:	ナンバリング:CM403

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
5Q	2学年	2単位	選択	演習
担当教員				
下池 洸史朗				

授業概要	この授業では、障害のある子どもおよび保育における気になる子どもについて専門的な知識と理解、援助の方法について身につけていきます。また、障害のある子どもの保護者に対する理解と支援や、障害のある子どもを取り巻く社会・医療・福祉・教育のつながりについても取り扱っていきます。この授業が終了した際に、受講者のみなさんが次のような知識、技能、態度を身につけることを目標とします。 ①障害児の教育や保育についての基本的な理念を説明できる。 ②障害のある子どもについての専門的な知識および援助方法を説明できる。 ③障害のある子どもの活動および環境構成について計画・記録を行うことができる。 ④障害のある子どもに関連する機関、家庭、園との協働について説明できる。 ⑤障害のある子どもとその保護者に対して積極的な関心を向けることができる。
------	--

資質・能力	授業における到達目標	評価方法	評価比率
心豊かな人間力			
確かな専門的知識 や技能	・障害のある子どもや保護者についての基本的な知識および理解、援助について説明できる。	定期試験	70%
コミュニケーション 能力			
課題解決能力	・障害のある子ども・その家族への支援・援助について効果的な方法を考えることができる。	課題	20%
主体的に学ぶ力	・インクルーシブ保育・特別支援教育について積極的に関心を向けることができる。	レポート	10%
合計			100%
補足事項			
授業に関する質問は、直接のほか Google classroom でも受けつけ、Web上または授業回で答える。 本授業は、定期試験70%、課題20%、レポート10%の割合で評価する。 課題に取り組む際は、スマホ・PC・タブレットを積極的に活用して行うこと。 各授業で出された課題について、授業終了時に回収します。また、課題の内容については、授業内で取り扱います。			

授業計画	授業の内容	実施形式	予習・復習の内容と時間
1回目	障害児保育・特別支援教育の基本	面接授業 オンライン授業対応可	予習:事前に配布された課題に取り組む。(2時間) 復習:授業内で配布された資料を復習する。(2時間)
2回目	子どもの育ちと発達のアセスメント	面接授業	予習:事前に配布された課題に取り組む

		オンライン授業 対応可	む。(2時間) 復習:授業内で配布された資料で復 習する。(2時間)
3回目	知的障害の理解と保育での援助	面接授業 オンライン授業 対応可	予習:事前に配布された課題に取り組 む。(2時間) 復習:授業内で配布された資料で 復習する。(2時間)
4回目	自閉症スペクトラム障害の理解と保育 での援助	面接授業 オンライン授業 対応可	予習:事前に配布された課題に取り組 む。(2時間) 復習:授業内で配布された資料で復 習する。(2時間)
5回目	注意欠如多動性障害の理解と保育で の援助	面接授業 オンライン授業 対応可	予習:事前に配布された課題に取り組 む。(2時間) 復習:授業内で配布された資料で復 習する。(2時間)
6回目	学習障害の理解と保育での援助	面接授業 オンライン授業 対応可	予習:事前に配布された課題に取り組 む。(2時間) 復習:授業内で配布された資料で復 習する。(2時間)
7回目	コミュニケーション障害の理解と保育で の援助	面接授業 オンライン授業 対応可	予習:事前に配布された課題に取り組 む。(2時間) 復習:授業内で配布された資料で復 習する。(2時間)
8回目	肢体不自由(運動障害)の理解と保育 での援助	面接授業 オンライン授業 対応可	予習:事前に配布された課題に取り組 む。(2時間) 復習:授業内で配布された資料で復 習する。(2時間)
9回目	視覚障害・聴覚障害の理解と保育	面接授業 オンライン授業 対応可	予習:事前に配布された課題に取り組 む。(2時間) 復習:授業内で配布された資料を復 習する。(2時間)
10回目	特別な配慮を要する子どもの理解と保 育での援助①	面接授業 オンライン授業 対応可	予習:事前に配布された課題に取り組 む。(2時間) 復習:授業内で配布された資料で復 習する。(2時間)
11回目	特別な配慮を要する子どもの理解と保 育での援助②	面接授業 オンライン授業 対応可	予習:事前に配布された課題に取り組 む。(2時間) 復習:授業内で配布された資料で復 習する。(2時間)
12回目	個々の発達を促す環境構成/子ども同 士の関わりと育ちあい/個別の支援計画 の作成	面接授業 オンライン授業 対応可	予習:事前に配布された課題に取り組 む。(2時間) 復習:授業内で配布された資料を復 習する。(2時間)
13回目	家族支援と小学校・専門機関との連携	面接授業 面接授業 オンライン授業 対応可	予習:事前に配布された課題に取り組 む。(2時間) 復習:授業内で配布された資料で復 習する。(2時間)
14回目	保育現場における障害児保育・特別支 援教育の実際	面接授業 オンライン授業 対応可	予習:事前に配布された課題に取り組 む。(2時間) 復習:授業内で配布された課題に取り 組む。(2時間)
15回目	全体の総括	面接授業	予習:事前に配布された課題に取り組 む。(2時間)

			復習:授業内で配布された資料で復習する。(2時間)
16回目	定期試験		授業外学修時間 60時間

科目(教職課程用)	教育の基礎的理解に関する科目
教育職員免許法施行規則に定める科目区分または事項等	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解
教科書・参考書	参考書:よくわかる障害児教育[第4版]石部元雄(編集), 上田征三(編集), 高橋実(編集), 柳本雄次(編集) ミネルヴァ書房
履修条件	
履修上の注意	
オフィスアワー	授業時間後の時間もしくは教員の空き時間等に対応します(研究室)
備考・メッセージ	授業を受講するにあたり、他の受講者の権利を阻害する行為、もしくは受講する学生としての規範を逸脱する行為を行った場合は厳しい対応を行います。

講義科目名称:社会的養護Ⅱ	授業コード:
英文科目名称:	ナンバリング:CM305

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
前期	2年	1単位	卒業:選択、保育士:必修	演習
担当教員				
橋之口 裕太				

授業概要	社会的養護方法など基本的な内容について理解し、社会的養護のもとで生活する子どもの保育者として必要な知識、考え方を養う。①子どもの権利擁護の基本を理解し、支援方法の具体的方法・考え方を理解する。②施設養護と家庭養護の生活特性を理解し、支援のあり方について考える力を養う。③保育士として社会的養護施設で働く意義、地域とのかかわりの重要性を理解し、「新しい社会的養育ビジョン」に基づいて、今後の社会的養護の課題と方向性について考える力を養う。この3つを基本柱とした授業を進める。
------	--

資質・能力	授業における到達目標	評価方法	評価比率
心豊かな人間力	施設養護における心のケアとは何かについて理解できる。	小テスト	5%
確かな専門的知識 や技能	社会的養護におけるソーシャルワークの視点・実践力をつける学びの方法を理解できる。	小テスト 定期試験	5% 60%
コミュニケーション 能力			
課題解決能力	与えられた課題に対して、学習したことが活かされ、適切に対応することができる。	課題レポート	20%
主体的に学ぶ力	聴く意識・意見発表・質問等積極的な学習ができる。	授業への参加・態度	10%
合計			100%
補足事項			
本授業では、定期試験 60%、レポート 20%、小テスト 10%、授業への参加・態度 10%の割合で評価する。 課題のフィードバックは授業内またはGoogle Classroomで行う。			

授業計画	授業の内容	実施形式	予習・復習の内容と時間
1回目	講義のポイントと進め方について	対面授業	
2回目	社会的養護の基本原則、現状と課題の大筋を理解させ、学習目的を共有する。	対面授業	予習:配布資料を読む(4h)以下予習は毎回事様
3回目	子どもの権利擁護の基本を理解する	対面授業	復習:子どもの権利養護について振り返る(4h)
4回目	子どもの権利擁護を図る取組みと支援の理解	対面授業	復習:子どもの権利養護について振り返る(4h)

5回目	社会的養護の下で生活する子どもの特徴を理解し、支援する際の留意点を考える。	対面授業	復習：子どもの理解の仕方について振返る(4h)
6回目	日常生活支援の必要性について理解する。	対面授業	復習：日常生活支援はなぜ必要か振返る(4h)
7回目	社会的養護の子どもの自立について考える。	対面授業	復習：日常生活支援はなぜ必要か振返る(4h)
8回目	定期試験	対面授業	前半講義の振返り(4h)

科目(教職課程用)	
教育職員免許法施行規則に定める科目区分または事項等	
教科書・参考書	図解で学ぶ保育 社会的養護Ⅱ 萌文書林 別途資料を配布する。
履修条件	
履修上の注意	指定された座席で受講すること。
オフィスアワー	原則・火・木に研究室で対応します。
備考・メッセージ	我が国においては、昨年4月にこども家庭庁が発足し「こどもがまんなかの社会」を実現するため様々な取組がなされている。 一方で、子どもの貧困や虐待など子どもを取り巻く課題は複雑化・深刻化しており、これまで以上に専門職に求められる期待は大きい。 授業を通じて、社会的養護について理解を深め、様々な知識やスキルの向上に向けて意欲的に学ぶ学生であることを期待している。

講義科目名称:子育て支援	授業コード:
英文科目名称:	ナンバリング:CM306

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
6Q	2	1	卒業:選択 保育士:必修	演習
担当教員				
花城 暢一				

授業概要	授業では、以下の事項を踏まえ、保育相談支援を担う保育者に求められる専門的な知識や技能を様々な演習を通して習得することを目標とする。 ①保護者に対する相談・助言、情報提供等の支援について、その専門的な特性と展開について具体的に理解する。 ②保育士の行う子育て支援について、様々な場面や対象に即した支援の内容と方法及び技術を、実践事例等を通して具体的に理解する。
------	--

資質・能力	授業における到達目標	評価方法	評価比率
心豊かな人間力	保育者に求められる役割や資質について理解を深めることができる。	レポート課題	定期試験60% レポート・事例検討・グループ協議30% 学習に取り組む姿勢10%
確かな専門的知識や技能	保育相談支援に必要な方法・技術についての理解を深めることができる。	事例検討 定期試験	
コミュニケーション能力	子どもや保護者等とのコミュニケーションについて理解を深めることができる。	レポート課題 定期試験	
課題解決能力	事例分析等を用いて保育相談支援の具体的展開について理解を深めることができる。	事例検討 定期試験	
主体的に学ぶ力	保育者として社会生活上の諸問題に関心を高めることができる。	定期試験 グループ討議	
合計			100%
補足事項			
○授業内で実施するレポート課題・事例検討(30%) ○定期試験(60%) ○授業全体を通じた学習に取り組む姿勢(10%)を総合して評価を行う。 ○課題のフィードバックは授業内またはGoogle Classroomで行う。			

授業計画	授業の内容	実施形式	予習・復習の内容と時間
1回目	オリエンテーション 講義のねらいと進め方についての説明	対面授業	予習:シラバスを読み授業内容を確認する(2時間) 復習:配布資料を読む(2時間)
2回目	保育士の行う子育て支援の特性1 子どもの保育とともに行う保護者の支援	対面授業	予習:保育士の役割について考察する(2時間) 復習:配布資料を読む(2時間)
3回目	保育士の行う子育て支援の特性2 保護者や家庭の抱える支援のニーズへの気づきと多面的な理解	対面授業	予習:保護者が抱える生活課題について考える(2時間) 復習:配布資料を読む(2時間)
4回目	保育士の行う子育て支援の特性3 子ども・保護者が多様な他者と関わる機会や場の提供	対面授業	予習:子育て支援のネットワークについて考察する(2時間) 復習:配布資料を読む(2時間)

5回目	保育士の行う子育て支援の展開1 支援計画と環境構成、実践・記録・評価・カンファレンス	対面授業	予習:(2時間) 復習:配布資料を読む(2時間)
6回目	保育士の行う子育て支援とその実際1 保育所等における支援、地域の子育て家庭に対する支援	対面授業	予習:保育士に求められる援助の視点について考察する(2時間) 復習:配布資料を読む(2時間)
7回目	保育士の行う子育て支援とその実際3 障がいのある子ども及びその家庭に対する支援特別な配慮を要する子ども及びその家庭に対する支援	対面授業	予習:配慮を必要とする子どもについて実習体験を振り返る(2時間) 復習:配布資料を読む(2時間)
8回目	子育て支援と保育者 授業の振り返りとまとめ	対面授業	予習:いままでの資料を復習する(2時間) 復習:配布資料を読む(2時間)
9回目	定期試験		授業外学修時間 32時間

科目(教職課程用)	
教育職員免許法施行規則に定める科目区分または事項等	
教科書・参考書	配布資料:参考資料をその都度配布します。
履修条件	
履修上の注意	原則、指定された座席で受講すること。(座の移動を希望する場合はご相談下さい) 授業時間のうち、15分以上退室すると欠席扱いとなります。
オフィスアワー	授業、会議、実習巡回、出張等が入っていない場合は随時対応します。
備考・メッセージ	授業の出欠確認は出席カード(感想記入シート等)を活用して実施します。

講義科目名称:保育相談	授業コード:
英文科目名称:	ナンバリング:UC303

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
前期	2年	2単位	卒業:選択、幼免:必修	講義
担当教員				
安永 香織				

授業概要	現代の日本では、都市化による地域の変化、女性の社会進出に伴う家族の在り方の変化、核家族や少子化など保育をとりまく社会環境は大きく変わり、「子育て支援」への関心が高まっている。保育者はそのような社会背景を理解し、子ども理解と子育てに関わる親への支援、地域との連携、保育者のメンタルヘルスなどについて学んでいく必要がある。 本講義では保育者の資質として必要な教育相談(カウンセリングマインド)の必要性について理解し、保育実践の今日的課題に向き合うための基本的知識、子育てに関する教育相談(カウンセリング)理論・技法・応用について学ぶ。
------	---

資質・能力	授業における到達目標	評価方法	評価比率
心豊かな人間力			
確かな専門的知識や技能	・保育、教育相談の意義を理解し、幼児理解と支援、カウンセリングマインドの重要性について説明できる ・カウンセリングマインドを用いた子どもの理解と支援を言語化できる	ケースシートの提出	50%
コミュニケーション能力	・保育現場で必要とする協働する態度をもち、課題に取り組む意欲を維持できる	ビデオ製作 授業後の課題提出	20%
課題解決能力	・カウンセリングマインドを用いた子どもの課題理解と保育者の役割について考え、適切な解決方法を述べることができる	ビデオ製作 授業後の課題提出	20%
主体的に学ぶ力	・他者の意見を参考に自分の考えを再構築(修正・追加)することができる	授業への参加態度	10%
合計			100%

補足事項	
・授業は基本的には対面授業とするが、補講にあたる授業はオンデマンド配信授業とする。(変更する場合がある) ・授業に関する質問は直接またはGoogle classで受け付け、以降の授業回またはGoogle classで回答する。 ・Google classにて配信されたオンデマンド音声授業は履修者が必要な際に復習できる。 ・評価は、課題シート5枚の提出 50%、コメントに対するフィードバック 10%、授業内課題の提出40%とする。 ・課題シートは 授業内回収とし、指定日の17時まで受け付ける。(Google classにて提出の場合は写真で提出) ・オンデマンド配信された内容は、履修者が復習できるよう閲覧可能な形態とする。	

授業計画	授業の内容	実施形式	予習・復習の内容と時間
------	-------	------	-------------

1回目	授業の目的、進め方、評価について説明 保育・教育相談、カウンセリングマインドとは何か(第1章)	オンデマンド配信	予習:教科書 pp. 10～17(2時間) 復習:カウンセリングマインドの定義をまとめる(1時間)
2回目	発達理解と相談・支援 保育・教育相談を行うための発達理解(第2章)	対面授業	予習:発達段階の整理(1時間) 復習:教科書 pp. 18-31の内容をまとめる(2時間)
3回目	子ども理解のための発達理論とカウンセリング的アプローチ(第5章)	対面授業	予習:誰かに話を聞いてもらいたいと思う時のエピソードを振り返ってノートに記入する(1時間) 復習:教科書 pp. 61-71の内容をまとめる(2時間)
4回目	仲間同士のいざこざの理解と対応 カウンセリングマインド 事例A ケースシートの書き方・シート①提出	対面授業	復習:ケースシートの仕上げ、教科書 pp. 72-85の内容をまとめる(3時間)
5回目	仲間同士のいざこざ FB	オンデマンド配信	予習:子どもの頃のケンカについて振り返りノートにまとめる(1時間) 復習:ケースシートの修正・教科書 pp. 110-124の内容をまとめる(3時間)
6回目	仲間に入れない子の理解とタイプ カウンセリングマインド 事例B ケースシート②の提出	対面授業	予習:教科書130～133をまとめる(1時間) 復習:ケースシートの仕上げ・教科書 pp. 99-109の内容をまとめる(3時間)
7回目	仲間に入れない子 FB カウンセリングマインドとは「万引きと過食」	オンデマンド配信	予習:教科書130～133をまとめる(1時間) 復習:ケースシートの修正・教科書 pp. 126-129の内容をまとめる(3時間)
8回目	すぐに暴力を振るう子どもの理解 カウンセリングマインド 事例C ケースシート③の提出	対面授業	予習:教科書134～137をまとめる(1時間) 復習:ケースシートの仕上げる(3時間)
9回目	すぐに暴力を振るう子ども FB 「保護者との信頼関係、立場の違い」	オンデマンド配信	予習:教科書134～137をまとめる(1時間) 復習:ケースシートの修正・内容をまとめる(3時間)
10回目	不登園の子どもの理解 システムアプローチ 事例理解D ケースシート④提出	対面授業	予習:教科書138～141をまとめる(1時間) 復習:ケースシートの仕上げる(3時間)
11回目	不登園の子どもFB 「子どもを褒める時と叱る時の配慮」	オンデマンド配信	予習:教科書138～141をまとめる(1時間) 復習:ケースシートの修正・内容をまとめる(3時間)
12回目	文化の違いをもつ子の理解 「保育環境への働きかけ」事例理解E ケースシート⑤提出 ビデオ製作①(またはレポート作成)	対面授業	予習:教科書158～161をまとめる(1時間) 復習:ケースシートの仕上げる(3時間)
13回目	「文化の違いをもつ子」FB ビデオ製作②(またはレポート作成)	対面授業	予習:教科書158～161をまとめる(1時間)

			復習: ケースシートの修正・内容をまとめる(3時間)
14回目	ビデオ製作③(またはレポート作成)	対面授業	予習: 役割の確認(1時間) 復習: ケースシートの修正・内容をまとめる(3時間)
15回目	授業のまとめ ビデオ発表(またはレポート提出) 保育者の専門性	対面授業	予習: これまでのケースシート内容と対応を整理する(2時間) 復習: 点数の低かったケースシートについてオンデマンド配信で振り返る(6時間)
			授業外学修時間 60時間

科目(教職課程用)	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目
教育職員免許法施行規則に定める科目区分または事項等	教育相談の理論及び方法
教科書・参考書	小田豊・秋田喜代美 編『子どもの理解と保育・教育相談』(株)みらい 2014 第2版
履修条件	
履修上の注意	
オフィスアワー	授業の前後で、Googleclassroom教室、研究室で質問を受け付ける。
備考・メッセージ	授業についてのあなたの意見、疑問、授業内容についての新たな理解、授業への要望などを書いてください。次回の授業で扱います。

講義科目名称:総合保育技術 I	授業コード:
英文科目名称:	ナンバリング:CM102

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
前期	1	1	選択	演習
担当教員				
友廣憲子 戸田恵理子 吉元千加里 末岡まゆり				

授業概要	①幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育保育要領に示されたねらいや内容を踏まえ、表現方法を学ぶ。 ②幼児教育において育みたい資質・能力を踏まえ、様々な表現方法を理解する。 ③表現技術を学び理解することにより、幼児との主体的・対話的な関わり方を学ぶ。 ④表現あそびの指導法と援助方法を理解する。 ⑤様々な保育教材を作成し、プレ実習に活用する。
------	--

資質・能力	授業における到達目標	評価方法	評価比率
心豊かな人間力			
確かな専門的知識や技能	・対象の子どもの年齢に応じた活動を体験し、技術向上を目指すことができる。	保育教材 レポート	40% 40%
コミュニケーション能力	・自ら他者に関わろうとする姿勢を持ち、他者の意見を聞こうとすることができる。	授業への参加・態度	5%
課題解決能力	・様々な問題を解決できる能力や方法を身に付けることができる。	授業への参加・態度	5%
主体的に学ぶ力	・積極的に活動に取り組むことができる。	授業への参加・態度	10%
合計			100%
補足事項			
・授業に関する質問は各授業の前後に受け付けるが、必要に応じてgoogle Classroomでも受け付け、web上あるいは授業回で答える。 ・保育教材40%、レポート40%、授業への参加、意欲、積極性20%の割合で評価する。 ・対面授業やオンデマンド授業で行っていく。 ・授業開始から15分以前の早退及び授業時間中15分以上離席した際は欠席扱い、授業開始から15分経過した遅刻3回で「欠席1回」とみなす。			

授業計画	授業の内容	実施形式	予習・復習の内容と時間
1回目	オリエンテーション 本演習の授業のねらい	面接授業	予習:シラバスの内容を読んでおくこと(0.5時間) 復習:授業で学んだ事をまとめておく(0.5時間)
2回目	音楽活動 音楽あそび 動画から効果的な効果音とBGMについて	面接授業	予習:音楽活動について調べておく。(0.5時間)

	学ぶ		復習:授業で学んだ事をまとめておく (0.5時間)
3回目	・幼稚園での子どもを観察する視点 ・保育教材制作 フェルトを用いた活動	面接授業	予習:フェルトを使用した制作について調べておく。(0.5時間) 復習:授業で学んだ事をまとめておく (0.5時間)
4回目	保育教材制作 フェルトを用いた活動 制作物の提出	面接授業	予習:様々な教材について調べておく 復習:本日の授業の振り返りを行う (0.5時間)
5回目	様々な表現活動を学ぶ ・ダンス ・リズムあそび	面接授業	予習:子どもの年齢・発達、興味関心のある活動等についてまとめる。 復習:授業で取り組んだ内容や次回の授業で必要な準備確認を日誌に記録し整理する(0.5時間)
6回目	様々な表現活動を学ぶ ・ダンス ・リズムあそび	面接授業	予習:活動に必要な衣装・小道具等の制作に必要な材料を準備しておく。 復習: 授業で取り組んだ内容や次回の授業で必要な準備確認を日誌に記録し整理する(0.5時間)
7回目	様々な表現活動を学ぶ ・ダンス ・レクリエーション活動	面接授業	予習:活動に必要な衣装・小道具等の制作に必要な材料を準備しておく。 復習: 授業で取り組んだ内容や次回の授業で必要な準備確認を日誌に記録し整理する(0.5時間)
8回目	様々な表現活動を学ぶ ・ダンス ・レクリエーション活動	面接授業	予習:制作状況の確認をグループで行う。 復習: 授業で取り組んだ内容や次回の授業で必要な準備確認を日誌に記録し整理する(0.5時間)
9回目	幼稚園園見学オリエンテーション	面接授業	予習:制作状況の確認をグループで行う。 復習: 中間発表に向け活動記録(日誌)をもとに課題を整理する(0.5時間)
10回目	地域の幼稚園への見学	面接授業	予習:衣装・小道具等の確認をメンバーで行う(0.5時間) 復習:本日の授業の振り返りを行う (0.5時間)
11回目	地域の幼稚園への見学 子ども達との交流	面接授業	予習:実践に向けて準備を行う0.5時間) 復習:本日の授業の振り返りを行う (0.5時間)
12回目	地域の幼稚園への見学 子ども達との交流	面接授業	予習:発表に向けた準備・確認をメンバーで行う0.5時間) 復習:本日の授業の振り返りを行う (0.5時間)
13回目	保育教材制作	面接授業	予習:実践に向けて準備を行う0.5時

	プレ実習教材		間) 復習:本日の授業の振り返りを行う (0.5時間)
14回目	保育教材制作 プレ実習教材	面接授業	予習:実践に向けて準備を行う0.5時間) 復習:本日の授業の振り返りを行う (0.5時間)
15回目	保育教材制作 プレ実習教材	面接授業	予習:実践に向けて準備を行う0.5時間) 復習:本日の授業の振り返りを行う (0.5時間)
16回目	教材制作提出とレポート		授業外学修時間 15時間

科目(教職課程用)	
教育職員免許法施行規則に定める科目区分または事項等	
教科書・参考書	教科書:必要に応じて資料を配布 参考書:幼稚園教育要領 保育所保育指針 認定こども園教育保育要領
履修条件	
履修上の注意	与えられた課題に取り組み受講する
オフィスアワー	各授業の前後に質問を受け付ける
備考・メッセージ	

講義科目名称:総合保育技術Ⅱ	授業コード:
英文科目名称:	ナンバリング:CM205

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
後期	1	1	選択	演習
担当教員				
友廣憲子 戸田恵理子 吉元千加里 末岡まゆり				

授業概要	①総合保育技術Ⅰで学んだ内容を更に発展させる。 ②「音楽と動きのひろば」での発表に向けて表現方法を身に付ける。 ③学園祭、音楽と動きのひろばに向け集中講義を交えながら完成を目指していく。
------	---

資質・能力	授業における到達目標	評価方法	評価比率
心豊かな人間力	豊かな感性を持ち、子どもと関わりを持つことができる。	授業への参加・態度	5%
確かな専門的知識 や技能	対象の子どもの年齢に応じた活動を考案し実践に向けた知識と技術を身に付けることができる。 音楽と動きのひろばで発表を行うことができる。	発表	20%
		発表	60%
コミュニケーション 能力	他の人の意見を傾聴し協力して制作することができる。	授業への参加・態度	5%
課題解決能力	様々な問題を解決できる能力や方法を身に付けることができる。	授業への参加・態度	5%
主体的に学ぶ力	積極的に活動に取り組むことができる。	授業への参加・態度	5%
合計			100%
補足事項			
・授業に関する質問は各授業の前後に受け付けるが、必要に応じてクラスルームでも受け付け、web上あるいは授業回で答える。 ・ひろばでの発表80%、授業への意欲・課題に向き合う姿勢20%の割合で評価する。 ・面接授業を中心に実施し、zoomでやオンデマンドで行う場合もある。			

授業計画	授業の内容	実施形式	予習・復習の内容と時間
1回目	「オリエンテーション」 授業の概要を説明する 前回の「昨年度の発表映像」を見せながら確認する。	面接授業	予習:配布資料を読んでおくこと (0.5時間) 復習:授業で学んだ事をまとめておく(0.5時間)
2回目	「グループ活動」 前期の活動を振り返る。	面接授業	予習:必要な用具を準備する。 (0.5時間) 復習:授業で学んだ事をまとめておく(0.5時間)
3回目	「グループ活動」	面接授業	予習:必要な用具を準備する。

	台本を確認し必要な箇所に工夫をする。		(0.5時間) 復習:授業で学んだ事をまとめておく(0.5時間)
4回目	「グループ活動」 発表に向け、練習を行っていく。	面接授業	予習:子どもの発達について調べておく(0.5時間) 復習:本日の授業の振り返りを行う(0.5時間)
5回目	「グループ活動」 発表に向け、動きを確認しながら練習を行っていく。	面接授業	予習:子どもの発達について調べておく(0.5時間) 復習:本日の授業の振り返りを行う(0.5時間)
6回目	「グループ活動」 発表に向け、自分たちの作品を映像にとり確認していく。	面接授業	予習:子どもの発達について調べておく(0.5時間) 復習:本日の授業の振り返りを行う(0.5時間)
7回目	「グループ活動」 発表に向け、通し練習を行っていく。	面接授業	予習:観察実習振り返りシートを見直す(0.5時間) 復習:本日の授業の振り返りを行う(0.5時間)
8回目	「グループ活動」 発表に向け、通し練習を行っていく。	面接授業	予習:観察実習振り返りシートを見直す(0.5時間) 復習:本日の授業の振り返りを行う(0.5時間)
9回目	「発表」 仕上がった作品披露 見極め	面接授業	予習:観察実習振り返りシートを見直す(0.5時間) 復習:本日の授業の振り返りを行う(0.5時間)
10回目	「グループ、活動」 発表に向け、通し練習を行っていく。	面接授業	予習:観察実習振り返りシートを見直す(0.5時間) 復習:本日の授業の振り返りを行う(0.5時間)
11回目	「グループ活動」 発表に向け、通し練習を行っていく。	面接授業	予習:実践に向けて準備を行う0.5時間 復習:本日の授業の振り返りを行う(0.5時間)
12回目	「グループ活動」 発表に向け、通し練習を行っていく。	面接授業	予習:実践に向けて準備を行う0.5時間 復習:本日の授業の振り返りを行う(0.5時間)
13回目	「グループ活動」 発表に向け、通し練習を行っていく。	面接授業	予習:実践に向けて準備を行う0.5時間 復習:本日の授業の振り返りを行う(0.5時間)
14回目	「グループ活動」 音楽と動きのひろば 仕上がった作品披露	面接授業	予習:実践に向けて準備を行う0.5時間 復習:本日の授業の振り返りを行う(0.5時間)
15回目	発表を通しての振り返り 振り返りを行い、総合保育技術Ⅲの授業に繋	面接授業	予習:実践に向けて準備を行う0.5時間

	げていく。		復習:本日の授業の振り返りを行う(0.5時間)
16回目	定期試験		授業外学修時間 15時間

科目(教職課程用)	
教育職員免許法施行規則に定める科目区分または事項等	
教科書・参考書	教科書:必要に応じて資料を配布 参考書:幼稚園教育要領 保育所保育指針 認定こども園教育保育要領
履修条件	
履修上の注意	与えられた課題に取り組み受講する
オフィスアワー	各授業の前後に質問を受け付ける
備考・メッセージ	

講義科目名称:総合保育技術Ⅲa	授業コード:
英文科目名称:	ナンバリング:CM307

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
前期	2年生	1単位	選択	演習
担当教員				
石多加代子				

授業概要	オペレッタの作品を作り上げる過程を通して、歌唱、演技、大道具、小道具、衣装作成に慣れてゆく。そのために、①演目の選択、②台本作成、③基礎練習と音取り④グループ練習、⑤役割分担による制作を実践する。
------	--

資質・能力	授業における到達目標	評価方法	評価比率
心豊かな人間力	様々な人間関係の中で1つの演目を作り上げるということを通して協調性、忍耐力、達成感を感じることができる。	授業への参加態度 振り返りレポート	20%
確かな専門的知識 や技能	基礎練習の積み重ね、制作実施により、必要な技術を習得することができる。	授業への参加態度	20%
コミュニケーション 能力	グループ練習で動きや振り付け等話し合い、助け合いながら作ってゆくことができる。	グループ練習での発言や制作態度	20%
課題解決能力	お互いが知恵や自分の特技を出し合い助け合いながら作ってゆくことができる。	分担作業	20%
主体的に学ぶ力	自分の役割分担を責任と想像力を駆使して遂行できる	グループ練習、役、係への 取り組み。	20%
合計			100%
補足事項			
課題のフィードバックは授業内またはGoogle Classroomで行う。			

授業計画	授業の内容	実施形式	予習・復習の内容と時間
1回目	昨年度の作品の鑑賞と説明会	面接受業	作品を探す(1時間)
2回目	発声練習①、パート分け、演目選定	面接受業	台本作成(1時間)
3回目	発声練習②音取り練習①	面接受業	台本作成(1時間)
4回目	発声練習③音取り練習②	面接受業	台本作成(1時間)
5回目	発声練習④音取り練習③台本読み合わせ	面接受業	自主練(1時間)
6回目	発声練習⑤音取り練習④オーディション	面接受業	自主練(1時間)
7回目	発声練習⑥音取り練習⑤	面接受業	自主練(1時間)
8回目	発声練習⑦音取り練習⑥	面接受業	自主練(1時間)
9回目	発声練習⑧立ち稽古①	面接受業	自主練(1時間)

10回目	発声練習⑨立ち稽古②	面接受業	自主練(1時間)
11回目	発声練習⑩立ち稽古③	面接受業	自主練(1時間)
12回目	制作物役割分担の話し合い、立ち稽古④	面接受業	制作物を考えてくる(1時間)
13回目	係ごとに必要な制作物を考える 立ち稽古⑤	面接受業	材料の調達(1時間)
14回目	係ごとに必要な制作物を作る① 立ち稽古⑥	面接受業	自分が担当した制作物を作る(1時間)
15回目	係ごとに必要な制作物を作る② 立ち稽古⑦	面接受業	制作自分が担当した制作物 を作る物を作る(1時間)
			授業外学修時間 15時間

科目(教職課程用)	
教育職員免許法施行規則に定める科目区分または事項等	
教科書・参考書	選択した作品をコピーして使う
履修条件	
履修上の注意	
オフィスアワー	ライン等にて連絡
備考・メッセージ	

講義科目名称:総合保育技術IVa	授業コード:
英文科目名称:	ナンバリング:CM404

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
後期	2年生	1単位	選択	演習
担当教員				
石多加代子				

授業概要	オペレッタ制作を通して①歌唱技術を習得する。②振り付けを考える。③グループで話し合い創作や、制作をする。④集いに向けて計画的に取り組む。⑤発表を通して表現活動することや、それによる達成感を体感する。
------	---

資質・能力	授業における到達目標	評価方法	評価比率
心豊かな人間力	様々な人間関係の中で一つの作品を作り上げ、乗り切ることにより、協調性、忍耐力達成感を感じることができる。	集いへ楽しく参加する	60%
確かな専門的知識や技能	基礎練習で技術を磨く	授業への参加態度	10%
コミュニケーション能力	グループ練習で、動きや振り付け等、話し合いながら作ってゆくことができる。	グループ練習態度	10%
課題解決能力	お互いが知恵や経験、自分の特技を出し合う事により、様々な問題を解決することができる。	制作時の態度	10%
主体的に学ぶ力	自分の役割分担を責任と想像力を駆使して遂行できる	自主練の成果	10%
合計			100%
補足事項			
課題のフィードバックは授業内またはGoogle Classroomで行う。			

授業計画	授業の内容	実施形式	予習・復習の内容と時間
1回目	前期の復習	面接受業	自主練(1時間)
2回目	立ち稽古、部分通し稽古①	面接受業	自主練(1時間)
3回目	制作	面接受業	自主練、持ち帰り制作(1時間)
4回目	部分通し稽古②	面接受業	自主練、持ち帰り制作(1時間)
5回目	制作	面接受業	自主練、持ち帰り制作(1時間)
6回目	部分通し稽古③	面接受業	自主練、持ち帰り制作(1時間)

7回目	制作と、出来上がり作品のチェック	面接受業	自主練、持ち帰り制作 (1時間)
8回目	部分通し稽古④	面接受業	自主練、持ち帰り制作 (1時間)
9回目	制作	面接受業	自主練、持ち帰り制作 (1時間)
10回目	部分通し稽古⑤	面接受業	自主練、持ち帰り制作 (1時間)
11回目	制作物を使って通し稽古①	面接受業	自主練(1時間)
12回目	制作物を使って通し稽古②	面接受業	自主練(1時間)
13回目	制作物を使って通し稽古③	面接受業	自主練(1時間)
14回目	制作物を使って通し稽古④本番積み込み準備	面接受業	自主練(1時間)
15回目	鑑賞と振り返り	面接受業	振り返り(1時間)
			授業外学修時間 15時間

科目(教職課程用)	
教育職員免許法施行規則に定める科目区分または事項等	
教科書・参考書	選択した作品をコピー
履修条件	
履修上の注意	
オフィスアワー	ライン、メリーにて連絡

講義科目名称:総合保育技術Ⅲb	授業コード:
英文科目名称:	ナンバリング:CM308

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
前期	2年	1単位	選択	演習
担当教員				
釜元 晶子				

授業概要	本演習では、身体表現に必要なダンスの基礎を学び、自分にふさわしい表現方法で、「音楽と動きのつどい」に参加できることをねらいとしている。 本演習では、①基本的なダンステクニックを学ぶ、②多様なダンスの表現方法を学ぶ、③ダンス創作方法を学ぶ、④ダンスの創作活動を通してコミュニケーションについて学ぶ、ことを目標にする。
------	---

資質・能力	授業における到達目標	評価方法	評価比率
心豊かな人間力	・ダンスを通して身体をコントロールする楽しさが分かる ・ダンスを通して身体で表現することの楽しさが分かる ・ダンスを通して人と交流する楽しさが分かる	作品発表会	10%
確かな専門的知識や技能	・子どもにダンスを教えるために必要な知識と技術が分かる	レポート	10%
コミュニケーション能力	・ダンスが人に伝える手段であることが分かる	グループディスカッション	20%
課題解決能力	・ダンス技術習得過程や創作活動中の問題などに対してどのように対処したら良いか考えて取り組むことができる	課題作品 創作作品	15% 15%
主体的に学ぶ力	・ダンス技術やダンス作品をよりよくしようと積極的に取り組むことができる	授業への参加・態度	30%
合計			100%
補足事項			
課題作品 15%、創作作品 15%、グループディスカッション 20%、作品発表会 10%、レポート 10%、授業への参加・態度 30%を評価する。それらについては、都度指導及び評価についてフィードバックを行う。その際は Web 等で個別に対応もおこなう。 本授業では、遅刻 3 回で欠席 1 回とする。			

授業計画	授業の内容	実施形式	予習・復習の内容と時間
1回目	過年度作品の鑑賞 授業(a、b、cの選択)	面接授業	予習:シラバス及び参考図書などを読む(0.5時間) 復習:自分の選択したコースの活動を調べる(0.5時間)
2回目	子どもと一緒に踊ることができるダンスを踊り、その特徴を考える。	面接授業	予習:子どもと踊れるダンスを調べる(0.5時間) 復習:子どもと一緒に踊れるダンス

			の特徴をまとめる(0.5 時間)
3回目	課題の動きを覚える (0 秒～40 秒) 動きの力性について学ぶ	面接授業	予習:子どもと踊れるダンスを練習する(0.5 時間) 復習:動きの力性についてまとめる(0.5 時間)
4回目	課題の動きを覚える (40 秒～1 分 20 秒) 動きの時間性について学ぶ	面接授業	予習:課題の動きを練習する(0.5 時間) 復習:動きの時間性についてまとめる(0.5時間)
5回目	課題の動きを覚える (1 分 20 秒～2 分 00 秒) 動きの空間性について学ぶ	面接授業	予習:課題の動きを練習する(0.5 時間) 復習:動きの空間性についてまとめる(0.5時間)
6回目	課題の動きを覚える (2 分 00 秒～2 分 40 秒) 動きの関係性について学ぶ	面接授業	予習:課題の動きを練習する(0.5 時間) 復習:動きの関係性についてまとめる(0.5時間)
7回目	課題の動きを覚える (2 分 40 秒～3 分 20 秒) ダイナミックな動きについて	面接授業	予習:課題の動きを練習する(0.5 時間) 復習:ダイナミックな動きについてまとめる(0.5時間)
8回目	課題の動きを覚える (3 分 20 秒～4 分 00 分) メリハリのある動きについて	面接授業	予習:課題の動きを練習する(0.5 時間) 復習:ダイナミックな動きについてまとめる(0.5時間)
9回目	グループ決めと作品の選択	面接授業	予習:課題の動きを練習する(0.5 時間) 復習:いろいろなダンス作品を鑑賞する(0.5 時間)
10回目	テーマ決めと作品の構想	面接授業	予習:いろいろなダンス作品を鑑賞し、作品の構想を調べる(0.5 時間) 復習:作品の構想をまとめる (0.5 時間)
11回目	主題となる動きやイメージの抽出	面接授業	予習:いろいろなダンス作品を鑑賞し、動きやイメージについて調べる(0.5時間) 復習:動きやイメージについてまとめる(0.5 時間)
12回目	効果的な音の選択・編集	面接授業	予習:いろいろなダンス作品を鑑賞し、効果的な音について調べる(0.5 時間) 復習:効果的な音についてまとめる(0.5 時間)
13回目	ひとながれの動きづくり	面接授業	習:いろいろなダンス作品を鑑賞し、モチーフとなる動きについて調べる(0.5 時間) 復習:モチーフとなった動きをまとめる(0.5 時間)
14回目	ひとまとまりの動きづくり	面接授業	予習:いろいろなダンスを鑑賞し、連続した動きについて調べる(0.5 時間) 復習:連続した動きをまとめる(0.5 時間)
15回目	作品の見せあい 意見交流会	面接授業	予習:創作作品、課題作品の練習(0.5 時間)

			復習:自分の意見をレポートにまとめる(0.5 時間)
16回目			授業外学修時間 15時間

科目(教職課程用)	領域及び保育内容の指導法に関する科目
教育職員免許法施行規則に定める科目区分または事項等	保育内容の指導法
教科書・参考書	教科書:必要に応じてプリントを配布する 参考書:水村真由美(著)『ダンスのかがく』、昭和システム、2013
履修条件	
履修上の注意	
オフィスアワー	授業の前後で対応可
備考・メッセージ	円滑なグループ活動を進められるよう、協力的な態度で臨むこと

講義科目名称:総合保育技術IVb	授業コード:
英文科目名称:	ナンバリング:CM405

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
後期	2年	1単位	選択	演習
担当教員				
釜元 晶子				

授業概要	本演習では、身体表現に必要なダンスの基礎を学び、自分にふさわしい表現方法で、「音楽と動きのつどい」に参加できることをねらいとしている。 本演習では、①基本的なダンステクニックを習得する、②多様なダンスの表現方法を習得する、③ダンス創作方法を習得する、④ダンスの創作活動を通してコミュニケーション能力を習得することを目標にする。
------	---

資質・能力	授業における到達目標	評価方法	評価比率
心豊かな人間力	・ダンスを通して身体をコントロールすることができる ・ダンスを通して身体で表現することができる ・ダンスを通して人と交流することができる	作品発表会	10%
確かな専門的知識や技能	・子どもにダンスを教えるために必要な知識と技術が習得できる	成果レポート	10%
コミュニケーション能力	・自分の思いや考えを身体で表現することができる	グループディスカッション	20%
課題解決能力	・ダンス技術習得過程や創作活動中の問題などに対してどのように対処すべきか考えて取り組むことができる	課題作品 創作作品	15% 15%
主体的に学ぶ力	・ダンス技術やダンス作品をよりよくしようと積極的に取り組むことができる	授業への参加・態度	30%
合計			100%

補足事項

課題作品 15%、創作作品 15%、グループディスカッション 20%、作品発表会 10%、成果レポート10%、授業への参加・態度 30%を評価する。それらについては、都度指導及び評価についてフィードバックを行う。その際は Web 等で個別に対応もおこなう。

本授業では、遅刻 3 回で欠席 1 回とする。本授業では、遅刻 3 回で欠席 1 回とする。

授業計画	授業の内容	実施形式	予習・復習の内容と時間
1回目	創作作品前半の動き決め	面接授業	予習:前期の内容を復習する(0.5 時間) 復習:前半の動きをまとめる(0.5 時間)
2回目	創作作品後半の動き決め	面接授業	予習:前半の動きを練習する(0.5 時間) 復習:後半の動きをまとめる(0.5 時間)
3回目	創作作品前半の動き通し練習	面接授業	予習:前半の動きを練習する(0.5 時間) 復習:前半の動きを踊り込む(0.5 時間)
4回目	創作作品後半の動き通し練習	面接授業	予習:後半の動きを練習する(0.5 時間) 復習:後半の動きを踊り込む(0.5 時間)

5回目	課題作品前半の構成決め	面接授業	予習:いろいろなダンス作品を鑑賞し、構成について調べる(0.5 時間) 復習:課題作品前半の構成をまとめる(0.5時間)
6回目	創作作品前半の構成決め	面接授業	予習:いろいろなダンス作品を鑑賞し、構成について調べる(0.5 時間) 復習:創作作品前半の構成をまとめる(0.5時間)
7回目	課題作品後半の構成決め	面接授業	予習:いろいろなダンス作品を鑑賞し、構成について調べる(0.5 時間) 復習:創作作品後半の構成をまとめる(0.5時間)
8回目	創作作品後半の構成決め	面接授業	予習:いろいろなダンス作品を鑑賞し、構成について調べる(0.5 時間) 復習:創作作品後半の構成をまとめる(0.5時間)
9回目	課題作品の通し練習	面接授業	予習:課題作品を練習する(0.5 時間) 復習:課題作品を復習する(0.5 時間)
10回目	創作作品の通し練習	面接授業	予習:創作作品を練習する(0.5 時間) 復習:創作作品を復習する(0.5 時間)
11回目	衣装製作	面接授業	予習:衣装のデザインを考える(0.5時間) 復習:衣装を完成させる(0.5時間)
12回目	小道具制作	面接授業	予習:小道具のデザインを考える(0.5 時間) 復習:小道具を完成させる(0.5 時間)
13回目	作品の演出(音響・照明など)	面接授業	予習:いろいろな作品を鑑賞し、音響や照明について調べる(0.5 時間) 復習:音響案、照明案をまとめる(0.5 時間)
14回目	完成発表	面接授業	予習:舞台発表に必要なものを準備する(0.5 時間) 復習:準備物の見直し、踊りの復習を行う(0.5時間)
15回目	つどいの反省と総括	面接授業	予習:つどいの映像等を見て自分の意見をまとめる(0.5 時間) 復習:成果レポートを作成する(2時間)
16回目			授業外学修時間 16.5時間

科目(教職課程用)	領域及び保育内容の指導法に関する科目
教育職員免許法施行規則に定める科目区分または事項等	保育内容の指導法
教科書・参考書	教科書:必要に応じてプリントを配布する 参考書:水村真由美(著)『ダンスのかがかく』、昭和システム、2013
履修条件	
履修上の注意	
オフィスアワー	授業の前後で対応可
備考・メッセージ	円滑なグループ活動を進められるよう、積極的な態度で臨むこと

講義科目名称:総合保育技術Ⅲc	授業コード:
英文科目名称:	ナンバリング:CM309

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
前期	2年	1単位	選択	演習
担当教員				
中村 明夫				

授業概要	音楽の基礎的理論を学び、確かな読譜力と表現力を習得する。また楽器の実技指導により幼児教育において必要となるコミュニケーション方法や表現力を身に付ける。
------	---

資質・能力	授業における到達目標	評価方法	評価比率
心豊かな人間力	・楽器の演奏力を身に付けることで、言葉では表現できない心を表現できる。	・実技演奏(合奏)	25%
確かな専門的知識や技能	・各楽器の仕組みを理解し、演奏技術を向上させる。 ・読譜に於いて必要な専門用語を理解できる。	・実技演奏(個人練習)	25%
コミュニケーション能力	・必要に応じ各楽器ごとのセクション練習や合奏箇所を話し合い、遂行できる。	・グループディスカッション	25%
課題解決能力	・合奏や個人練習等の際に生じた不足点を分析し、改善できる。	・実技演奏(セクション練習)	20%
主体的に学ぶ力	・器楽に於ける専門的知識を理解し、積極的に学ぶことができる。	・授業への参加・態度	5%
合計			100%
補足事項			
本授業では、実技演奏 70%、グループディスカッション 25%、授業への参加・態度 5%の割合で評価する。			

授業計画	授業の内容	実施形式	予習・復習の内容と時間
1回目	オリエンテーション 授業の流れや使用する楽器の説明	面接授業	各楽器の名称を覚える(1時間)
2回目	楽器体験 実際に様々な楽器に触れ、各担当楽器を決定する	面接授業	各楽器の名称を覚え、演奏方法を調べる(1時間)
3回目	楽器の仕組み 各担当楽器の仕組みやメンテナンスの方法について学ぶ	面接授業	各楽器に必要なメンテナンス用品の確認・楽器の構造について調べる(1時間)
4回目	個人練習(音だし) 各担当楽器を個人で練習し、音を鳴らせるようにする	面接授業	音の出る仕組みについて調べ、個人で練習する(1時間)
5回目	個人練習(運指等の確認) 各担当楽器の基礎練習に必要な運指や演奏方法について学ぶ	面接授業	各楽器の演奏可能音域や運指表を調べ、運指等を確認する(1時間)

6回目	基礎練習(音階 Bb-Major) 基礎合奏の基本となる Bb-Major の音階を覚える	面接授業	音階における運指の確認・復習する(1時間)
7回目	基礎練習(アーティキュレーション) 器楽演奏に於いて必要な演奏技術であるアーティキュレーション(スラー・タンギング等)の演奏方法を覚える	面接授業	アーティキュレーションの種類を調べ、種類毎の奏法を復習する(1時間)
8回目	基礎合奏(スラー・タンギングを用いての音階練習) 前回で学んだ音階・アーティキュレーションの確認を全体合奏で行う。また、合奏時の各楽器の配置場所について学ぶ	面接授業	音階とアーティキュレーションの奏法を再確認し、復習する(1時間)
9回目	基礎練習(譜読み) 決定した楽曲の譜読みをし、演奏する	面接授業	楽曲の参考音源を聴いておく(1時間)
10回目	基礎練習(音楽表現記号) 楽譜に記載されている音楽表現・強弱記号について学び、それを演奏で実践する	面接授業	演奏楽曲に記載されている音楽表現・強弱記号について調べておく(1時間)
11回目	基礎合奏(ハーモニー) 前回学んだ音楽表現・強弱記号を用い、ハーモニーのバランスについて学ぶ	面接授業	長調・短調のハーモニーの取り方を復習する(1時間)
12回目	合奏練習(基礎と楽曲) 基礎合奏で各個人の演奏技術を向上させ、楽曲の合奏で応用する	面接授業	基礎合奏の内容確認・合奏曲を復習する(1時間)
13回目	パート・セクション練習 楽曲のスコアを読み、同じセクションやパート毎に分かれて練習に取り組む	面接授業	パート毎に配布するスコアをパート内で読んでおく(1時間)
14回目	合奏練習(楽曲の分析) 楽曲を演奏するにあたり、自分がどの役割(旋伸・伴奏等)を担当しているのかを把握し、フレージングを理解する	面接授業	役割毎に打ち合わせ・練習をする(1時間)
15回目	合奏練習 基礎・楽曲の合奏や後期の課題の確認	面接授業	自主練習(1時間)
16回目			授業外学修時間 15時間

科目(教職課程用)	領域及び保育内容の指導法に関する科目
教育職員免許法施行規則に定める科目区分または事項等	保育内容の指導法
教科書・参考書	
履修条件	
履修上の注意	楽器使用前後のメンテナンスや取扱に十分配慮すること
オフィスアワー	授業前後に対応可能
備考・メッセージ	課題はWeb上に掲載する 回収した課題はフィードバックを行う

講義科目名称:総合保育技術Ⅳc	授業コード:
英文科目名称:	ナンバリング:CM406

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
後期	2年	1単位	選択	演習
担当教員				
中村 明夫				

授業概要	総合保育技術Ⅲcで学んだ基礎知識と演奏技術をもとに、更に楽器を用いての表現方法のレパートリーを増やし、保育現場での指導力や表現力を身に付けることを目標とする。
------	---

資質・能力	授業における到達目標	評価方法	評価比率
心豊かな人間力	・総合保育技術ⅢCで習得した楽器の演奏力をより向上させ、演奏により自己表現ができる	実技演奏(合奏) 成果発表(つどい)	15% 50%
確かな専門的知識 や技能	・読譜に於いて必要な専門用語を理解し、応用できる	実技演奏(個人練習)	10%
コミュニケーション 能力	・必要に応じ各楽器ごとのセクション練習や合奏箇所を話し合い、練習の効率化ができる	グループディスカッション	10%
課題解決能力	・合奏や個人練習等の際に生じた不足点を分析し、対策と改善ができる	実技演奏(セクション練習)	10%
主体的に学ぶ力	・器楽に於ける専門的知識を理解し、積極的に学ぶことができる。	授業への参加・態度	5%
合計			100%
補足事項			
本授業では、成果発表 50%、実技演奏 45%、グループディスカッション 10%、授業への参加・態度 5%の割合で評価する。			

授業計画	授業の内容	実施形式	予習・復習の内容と時間
1回目	基礎練習(音階・半音階) 運指や呼吸法の確認を行い、演奏技術をさらに向上させる	面接授業	楽器毎に運指の確認をしておく(1時間)
2回目	基礎合奏(音階・半音階) 合奏時に指定の速さで音階・半音階を演奏し、楽曲の演奏に応用する	面接授業	指定した速さで音階・半音階の練習をしておく(1時間)
3回目	パート練習 楽器毎に分かれて、楽曲の練習(リズム・ハーモニー等の確認)	面接授業	楽器毎に練習箇所を話し合っておく(1時間)
4回目	セクション練習 セクション毎に分かれて、楽曲の練習(リズム・	面接授業	楽器毎のリーダー同士で打ち合わせをしておく(1時間)

	ハーモニー等の確認)		
5回目	合奏練習 演奏楽曲のテーマや構成を再確認し、演奏する	面接授業	練習箇所の確認をし、復習する(1時間)
6回目	合奏練習(演出) 成果発表時の演出を話し合い、演奏楽曲の構成と組み合わせていく	面接授業	各係の担当毎に打ち合わせをする(1時間)
7回目	合奏練習(楽曲) 合奏時に周囲の楽器の演奏を聴くことで各個人の役割を再確認し、演奏の表現力を高める	面接授業	楽曲の譜読みをしておき、合奏時の不足点を復習する(1時間)
8回目	セクション練習(楽曲) 前回の合奏時の気づきをまとめ、セクション毎に練習をする	面接授業	楽器毎のリーダー同士で打ち合わせをしておく(1時間)
9回目	合奏練習(楽曲・演出) 演出を合奏と並行しながら確認していき、進行の方法について学ぶ	面接授業	各係の担当毎に打ち合わせをしておく(1時間)
10回目	合奏練習(楽曲・演出) 演出の進行に応じて楽曲の合奏練習を行い、演出に合わせた演奏技術について学ぶ	面接授業	練習箇所の確認をし、復習する(1時間)
11回目	合奏練習(進行確認) 成果発表の進行を確認し、決められた時間内に進行が収まるようにする為の確実な進行表を作成する	面接授業	各係で集まり、話し合いをする(1時間)
12回目	合奏練習(進行確認) 前回作成した進行表をもとに、合奏と演出を進行する	面接授業	進行表の流れを各自確認しておく(1時間)
13回目	成果発表の通し練習 実際の本番通りに演出を進行し、スムーズな動きが出来るようにする	面接授業	進行表の流れを各自確認しておく(1時間)
14回目	成果発表の通し練習 前回での復習を踏まえ、演出だけでなく演奏面でも内容を充実させる		演奏時のテンポ・バランス等を再確認しておく(1時間)
15回目	成果発表の反省と楽器のメンテナンス 成果発表の反省後、楽器毎に必要なメンテナンス用品を用い、正しくメンテナンスを行う	面接授業	メンテナンス(1時間)
16回目			授業外学修時間 15時間

科目(教職課程用)	領域及び保育内容の指導法に関する科目
教育職員免許法施行規則に定める科目区分または事項等	保育内容の指導法
教科書・参考書	
履修条件	総合保育技Ⅲcを履修していること

履修上の注意	楽器使用前後のメンテナンスや取扱に十分配慮すること
オフィスアワー	授業前後に対応可能
備考・メッセージ	課題はWeb 上に掲載する 回収した課題はフィードバックを行う

講義科目名称:保育内容演習Ⅱ(保育教材研究 a)	授業コード:
英文科目名称:	ナンバリング:CM206

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
後期	1年	1単位	選択	演習
担当教員				
末岡 まゆり				

授業概要	授業では、以下の事項を踏まえ、子どもの年齢や発達段階に応じた様々なあそびを理解し演習を通して保育技術習得することを目指す。 ①あそびの重要性を学び、主体的なあそび活動によって子どもに身につく力を理解することができる。 ②子どもの興味・関心を引き出す保育教材を知り、子どもの興味・関心に基づいた保育教材を考えることができる。 ③身近な素材や用具を活用した保育教材を考えることができる。
------	---

資質・能力	授業における到達目標	評価方法	評価比率
心豊かな人間力	子どもの世界に共感し、子どもの活動を援助する保育者の役割を理解することができる。	レポート 絵本ノート	10% 20%
確かな専門的知識 や技能	子どもにとっての遊びの重要性を理解し、子どもの興味・関心に基づいた教材を考えることができる。	レポート 課題作品	10% 10%
コミュニケーション 能力	仲間のアイデアを受容し、多様な意見、考え方を取り入れていく事ができる。	課題作品	20%
課題解決能力	他者からのアドバイスを分析し、自身のアイデアをより良いものしていく事ができる。	課題作品	10%
主体的に学ぶ力	意欲的に学び、より深い学びにつなげていこうと積極的に取り組むことができる。	レポート 課題作品	10% 10%
合計			100%
補足事項			
○レポート課題 30%、課題作品 50%、絵本ノート 20%で評価を行う。 ○課題のフィードバックは授業内またはGoogle Classroomで行う。			

授業計画	授業の内容	実施形式	予習・復習の内容と時間
1回目	「授業オリエンテーション」 ・授業の概要について ・授業毎の準備物 ・授業の進め方について	面接授業 オンライン等で行う場合がある	予習:シラバスを熟読し授業概要を理解しておく(0.5 時間)
2回目	「子どもと絵本」 ・絵本ノートについて ・子どもにとっての絵本とは何か ・絵本ノートを実際に作成	面接授業 オンライン等で行う場合がある	予習:自分の好きな絵本を用意し、紹介したいポイントなどをまとめておく(1時間) 復習:絵本ノートの作成を行う(1時

			間)
3回目	「子どもにとっての遊びとは」 ・幼児期における遊びの意味や重要性について ・学習内容に関してレポート作成 ・保育教材制作	面接授業 オンライン等 で行う場合がある	予習: 幼少期に夢中になった遊びを調べる(0.5時間) 復習: 授業内容についての復習と、保育教材の制作を行う(2時間)
4回目	「遊びを支える保育者の役割とは」 ・子どもの遊びにおける保育者の役割について ・保育教材制作	面接授業 オンライン等 で行う場合がある	予習: 指示された内容について事前に調べ、準備しておくこと(1時間) 復習: 授業内容についての復習と、保育教材の制作を行う(2時間)
5回目	「保育教材の安全性について」 ・保育教材の使用例 ・保育教材の役割について ・子どもたちを意識した安全面への配慮について	面接授業 オンライン等 で行う場合がある	予習: 指示された内容について事前に調べ、準備しておくこと(1時間) 復習: 授業内容についての復習と、保育教材の制作を行う(2時間)
6回目	「環境を通した保育」 ・子どもの姿を捉える視点 ・状況や場面に応じた保育教材の在り方	面接授業 オンライン等 で行う場合がある	予習: どのような保育環境があるが事前に調べておく(1時間) 復習: 保育現場でどのような保育教材が使用できるか考える(1時間)
7回目	「保育教材の意義と実践」 ・子どもの姿を捉える視点 ・状況や場面に応じた保育教材の考案 ・絵本ノート提出	面接授業 オンライン等 で行う場合がある	予習: 計画書に基づき、制作に必要なものを準備する(1時間) 復習: 製作した保育教材を実際に使用する(1時間)
8回目	「実践と振り返り」 ・保育教材の使用実践と振り返り ・実際の子どもの姿をイメージする ・レポート作成	面接授業 オンライン等 で行う場合がある	予習: 製作した保育教材を使用した結果や改善点をまとめておく(1時間) 復習: 改善点やより工夫する点はないか考え、保育教材を修正していく(2時間)
9回目	「環境を通した保育」 ・保育現場の実態や子どもの姿をイメージしながら、保育教材の在り方について考える ・状況や場面に応じた保育教材の考案 ・保育教材制作計画シートへの記入	面接授業 オンライン等 で行う場合がある	予習: 保育現場の実態や子どもの姿についてまとめる(1時間) 復習: 保育教材の考案・作成に向けた準備を行う(2時間)
10回目	「保育教材製作」 ・場面に応じた保育教材製作を行う	面接授業 オンライン等 で行う場合がある	予習: 保育教材の作成に必要な物を準備する(1時間) 復習: 保育教材の作成を進める(2時間)
11回目	「保育教材製作」 ・場面に応じた保育教材製作を行う	面接授業 オンライン等 で行う場合がある	予習: 保育教材の作成と修正を行う(1時間) 復習: 保育教材の作成を進め、改善点等について考える(1時間)
12回目	「保育教材製作」 ・場面に応じた保育教材製作を行う ・発表に向けた準備 ・使用方法動画撮影、提出	面接授業 オンライン等 で行う場合がある	予習: 保育教材の製作を進める(1時間) 復習: 発表に向けた準備を行う(1時間)
13回目	「グループ内発表」 ・保育場面の設定理由や保育教材のテーマ、使用方法について小グループ内で発	面接授業 オンライン等 で行う場合がある	予習: 保育教材制作計画書を基に、必要物を準備する(1時間) 復習: 制作を進めておく

	表する ・感想シートへの記入 ・計画シート、保育教材、使用方法動画の提出	ある	(1時間)
14回目	「学習のまとめ」 ・小テスト ・絵本ノートの提出	面接授業 オンライン等 で行う場合がある	予習:制作を進めながら、改善点やより工夫できる点について考える(1時間) 復習:発表に向けて保育教材の使用例や工夫点についてまとめておく(1時間)
15回目	「学習のまとめ」 ・小テスト振り返り ・学習のまとめレポート作成	面接授業 オンライン等 で行う場合がある	予習:発表の準備を行う(1時間) 復習:学んだことを振り返り、学びをどう活かすか考える(1時間)
16回目	定期試験 なし		授業外学修時間 34時間

科目(教職課程用)	
教育職員免許法施行規則に定める科目区分または事項等	
教科書・参考書	参考書:幼稚園教育要領、保育所保育指針、 幼保連携型認定こども園教育・保育要領
履修条件	
履修上の注意	授業に必要な道具・用具の準備を行い受講すること
オフィスアワー	授業、会議、実習巡回、出張等が入っていない場合は随時対応可
備考・メッセージ	自ら好奇心、探求心をもって積極的に受講すること

講義科目名称:保育内容演習Ⅱ(マーチングa)	授業コード:
英文科目名称:	ナンバリング:CM209

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
後期	1年	1単位	選択	演習
担当教員				
中村 明夫				

授業概要	本授業では音と動きの総合芸術であるマーチングの良さを体感し、子どもたちが音楽と共に成長していく上で必要な様々な要素を理解しながら、基本的な演奏演技力を身につける 本授業では①マーチングの基礎用語・基本動作を学ぶ②スカードによるフォーメーションの基本動作を身につける③楽器演奏を伴った基本動作の実践を行う④マーチングの演技をしながら演奏できる技術を身につける⑤マーチングの演奏演技に対して指導・助言ができるようになることを目標とする
------	---

資質・能力	授業における到達目標	評価方法	評価比率
心豊かな人間力	・マーチング活動を通して、音と動きの調和を感じ取ることができる	授業への参加・態度	10%
確かな専門的知識や技能	・マーチングの基礎・基本を身につけ、正確な演奏・演技を行うことができる	定期試験(実技)	70%
コミュニケーション能力			
課題解決能力	・演奏、演技の問題点に気づき、原因の究明と改善へのアドバイスをすることができる	授業への参加・態度	10%
主体的に学ぶ力	・実践の中で自分自身の演奏・演技を振り返り、改善方法を考案できる	授業への参加・態度	10%
合計			100%
補足事項			
・本授業では、授業内の実技70%、授業への参加・態度30%の割合で評価する。 ・授業に関する質問は直接のほかGoogle classroomでも受け付け、web上あるいは以降の授業回で答える。 ・本授業では、授業開始15分までを遅刻とし、それ以降は欠席とする。また、早退については75分間授業を受けていない場合は欠席とする。遅刻3回を欠席1回でカウントする。			

授業計画	授業の内容	実施形式	予習・復習の内容と時間
1回目	マーチングの基礎、担当楽器の選考	面接授業	予習:担当楽器の事前選考(1時間) 復習:担当楽器の練習(1時間)
2回目	マーチングの基本動作、楽器演奏練習	面接授業	予習:担当楽器の練習(1時間) 復習:動きの確認と担当楽器の練習(1時間)
3回目	マーチングの基本動作、楽器演奏練習	面接授業	予習:動きの確認と担当楽器の練習(1時間) 復習:動きの確認と担当楽器の練習(1時間)
4回目	マーチングの基本動作、楽器演奏練習	面接授業	予習:動きの確認と担当楽器の練習

			(1時間) 復習:動きの確認と担当楽器の練習 (1時間)
5回目	マーチングの基本動作、楽器演奏練習	面接授業	予習:動きの確認と担当楽器の練習 (1時間) 復習:動きの確認と担当楽器の練習 (1時間)
6回目	スカードによる基本動作、楽器演奏練習	面接授業	予習:動きの確認と担当楽器の練習 (1時間) 復習:動きの確認と担当楽器の練習 (1時間)
7回目	スカードによる基本動作、楽器演奏練習	面接授業	予習:動きの確認と担当楽器の練習 (1時間) 復習:動きの確認と担当楽器の練習 (1時間)
8回目	スカードによる基本動作、楽器演奏練習	面接授業	予習:動きの確認と担当楽器の練習 (1時間) 復習:動きの確認と担当楽器の練習 (1時間)
9回目	スカードによる基本動作、楽器演奏練習	面接授業	予習:動きの確認と担当楽器の練習 (1時間) 復習:動きの確認と担当楽器の練習 (1時間)
10回目	スカードによる基本動作、楽器演奏練習	面接授業	予習:動きの確認と担当楽器の練習 (1時間) 復習:動きの確認と担当楽器の練習 (1時間)
11回目	簡易なフォーメーション考案と実践	面接授業	予習:動きの確認と担当楽器の練習 (1時間) 復習:動きの確認と担当楽器の練習 (1時間)
12回目	簡易なフォーメーション考案と実践	面接授業	予習:動きの確認と担当楽器の練習 (1時間) 復習:動きの確認と担当楽器の練習 (1時間)
13回目	簡易なフォーメーション考案と実践	面接授業	予習:動きの確認と担当楽器の練習 (1時間) 復習:動きの確認と担当楽器の練習 (1時間)
14回目	簡易なフォーメーション考案と実践	面接授業	予習:動きの確認と担当楽器の練習 (1時間) 復習:動きの確認と担当楽器の練習 (1時間)
15回目	簡易なフォーメーション考案と実践	面接授業	予習:動きの確認と担当楽器の練習 (1時間) 復習:動きの確認と担当楽器の練習 (1時間)
16回目			授業外学修時間 30時間

科目(教職課程用)	領域及び保育内容の指導法に関する科目
教育職員免許法施行規則に定める科目区分	保育内容の指導法に関する科目(情報機器及び教材の活用を含む)

たは事項等	
教科書・参考書	参考書 「指導者とリーダーのためのハンドブック解説書」 上巻:マーチングバンド基本動作の解説と指導のポイント 下巻:ドラムメジャー、カラーガーズの解説と指導のポイント 「カラーガーズ／マーチングパーカッション基本テクニック」 発行:一般社団法人日本マーチングバンド協会
履修条件	
履修上の注意	管楽器または打楽器の演奏が必須となります(未経験でも可)
オフィスアワー	質問等は授業の前後に教室にてまたはGoogle classroom 等で受け付ける
備考・メッセージ	マーチングは音と動きの総合芸術です。子供たちが音楽と共に成長していく上で必要な様々な要素が含まれています。まずはマーチングの良さを体感し、意欲をもって取り組み、基本的な演奏演技力を身につけましょう

講義科目名称:保育内容演習Ⅱ(マーチングb)	授業コード:
英文科目名称:	ナンバリング:

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
前期	2年	1	選択	演習
担当教員				
中村 明夫				

授業概要	①マーチングの演奏、演技を学ぶ ②フォーメーション作成能力を身につける ③演奏、演技の指導力を身につける ④マーチングの演奏・演技をしながら全体への指導をする技術を身につける ⑤マーチングの演奏演技に対して指導・助言ができるようになる
------	---

資質・能力	授業における到達目標	評価方法	評価比率
心豊かな人間力	・マーチング活動を通して、音と動きの調和を感じ取ることができる	・授業への参加・態度	10%
確かな専門的知識や技能	マーチングの基礎・基本を身につけ、正確な演奏・演技を行うことができる	・定期試験(実技)	70%
コミュニケーション能力			
課題解決能力	・演奏、演技の問題点に気づき、原因の究明と改善へのアドバイスをすることができる	・授業への参加・態度	10%
主体的に学ぶ力	・実践の中で自分自身の演奏・演技を振り返り、改善方法を考案できる	・授業への参加・態度	10%
合計			100%

補足事項
・本授業では、授業内の実技70%、授業への参加・態度30%の割合で評価する。 ・授業に関する質問は直接のほかGoogle classroomでも受け付け、web上あるいは以降の授業回で答える。 ・本授業では、授業開始15分までを遅刻とし、それ以降は欠席とする。また、早退については75分間授業を受けていない場合は欠席とする。遅刻3回を欠席1回でカウントする。

授業計画	授業の内容	実施形式	予習・復習の内容と時間
1回目	スカード編成、担当楽器の選考	面接授業	予習:担当楽器の事前選考(1時間) 復習:担当楽器の練習(1時間)

2回目	スカードによるマーチングの動作、楽器演奏練習	面接授業	予習: 担当楽器の事前選考(1時間) 復習: 担当楽器の練習(1時間)
3回目	スカードによるマーチングの動作、楽器演奏練習	面接授業	予習: 担当楽器の事前選考(1時間) 復習: 担当楽器の練習(1時間)
4回目	スカードによるマーチングの動作、楽器演奏練習	面接授業	予習: 担当楽器の事前選考(1時間) 復習: 担当楽器の練習(1時間)
5回目	スカードによるマーチングの動作、楽器演奏練習	面接授業	予習: 担当楽器の事前選考(1時間) 復習: 担当楽器の練習(1時間)
6回目	フォーメーション作成と実践	面接授業	予習: 担当楽器の事前選考(1時間) 復習: 担当楽器の練習(1時間)
7回目	フォーメーション作成と実践	面接授業	予習: 担当楽器の事前選考(1時間) 復習: 担当楽器の練習(1時間)
8回目	フォーメーション作成と実践	面接授業	予習: 担当楽器の事前選考(1時間) 復習: 担当楽器の練習(1時間)
9回目	フォーメーション作成と実践	面接授業	予習: 担当楽器の事前選考(1時間) 復習: 担当楽器の練習(1時間)
10回目	フォーメーション作成と実践	面接授業	予習: 担当楽器の事前選考(1時間) 復習: 担当楽器の練習(1時間)
11回目	マーチング演奏、演技指導の実践	面接授業	予習: 担当楽器の事前選考(1時間) 復習: 担当楽器の練習(1時間)
12回目	マーチング演奏、演技指導の実践	面接授業	予習: 担当楽器の事前選考(1時間) 復習: 担当楽器の練習(1時間)
13回目	マーチング演奏、演技指導の実践	面接授業	予習: 担当楽器の事前選考(1時間) 復習: 担当楽器の練習(1時間)
14回目	マーチング演奏、演技指導の実践	面接授業	予習: 担当楽器の事前選考(1時間) 復習: 担当楽器の練習(1時間)
15回目	マーチング演奏、演技指導の実践	面接授業	予習: 担当楽器の事前選考(1時間) 復習: 担当楽器の練習(1時間)

			1時間) 復習:担当楽器の練習(1時間)
16回目			授業外学習時間30時間

科目(教職課程用)	領域及び保育内容の指導法に関する科目
教育職員免許法施行規則に定める科目区分または事項等	保育内容の指導法に関する科目(情報機器及び教材の活用を含む)
教科書・参考書	参考書 「指導者とリーダーのためのハンドブック解説書」 上巻:マーチングバンド基本動作の解説と指導のポイント 下巻:ドラムメジャー、カラーガーズの解説と指導のポイント 「カラーガーズ/マーチングパーカッション基本テクニック」 発行:一般社団法人日本マーチングバンド協会
履修条件	
履修上の注意	管楽器または打楽器の演奏が必須となります(未経験でも可)。
オフィスアワー	質問等は授業の前後に教室にてまたはGoogle classroom 等で受け付ける。
備考・メッセージ	マーチングは音と動きの総合芸術です。子供たちが音楽と共に成長していく上で必要な様々な要素が含まれています。マーチングの良さを観衆や子供たちに伝えるためにも、意欲をもって取り組み、演奏演技力を高め、より良い演奏を創り上げる能力を身につけましょう。

講義科目名称:子どもと表現(ピアノ・楽典Ⅰa)	授業コード:
英文科目名称:	ナンバリング:CM103

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
前期	1	1	選択	演習
担当教員				
友廣憲子 中村明夫 濱崎典子 西沢素登子 黒田照子				

授業概要	・子どもと表現(ピアノ・楽典Ⅰa)は、子どもの表現活動に欠かせない弾き歌いの技術を習得することを目的としている。 ・基本的な技術を身に付けるために個人ピアノレッスンと自己練習で 90分、楽譜を読むための知識を習得するための楽典 45 分の授業で進めていく。 ・楽典は理解度調査を行い、クラス分けして授業を進めていく。
------	--

資質・能力	授業における到達目標	評価方法	評価比率
心豊かな人間力			
確かな専門的知識 や技能	・ハ長調とト長調のスケール ・課題曲5曲(童謡)を弾き歌いすることができる。 ・課題曲以外の童謡曲を弾き歌いすることができる。 ・楽典の基礎を習得することができる。	実技試験 実技試験 授業内 授業内	20% 50% 10% 15%
コミュニケーション 能力			
課題解決能力			
主体的に学ぶ力	毎回出された課題に向き合い取り組むことができる。	授業への参加・態度	5%
合計			100%

補足事項
・授業に関する質問は各授業の前後に受け付けるが、必要に応じて Google classroomでも受け付け、web上あるいは授業回で答える。 ・ピアノ定期試験 70%、レッスン時の課題への取り組み10% 楽典筆記試験 15% 授業に向き合う姿勢5%の割合で評価する。 ・面接授業を中心に実施し、zoom でのレッスンやオンデマンドで行う場合もある。 ・本授業では、授業開始15 分までを遅刻とし、それ以降は欠席とする。また、早退については75 分間授業を受けていない場合は欠席とする。遅刻3回を欠席1回でカウントする。

授業計画	授業の内容	実施形式	予習・復習の内容と時間
1回目	オリエンテーション 授業の進め方、心構え、レッスンの注意点、授業の進め方について説明する。	面接授業	予習:課題として出された曲を練習する。(1時間) 復習:レッスンで指摘された箇所を練習する(1時間)
2回目	進度別個人レッスン 指つかいつきバイエル、ブルクミュラー25	面接授業	予習:課題として出された曲を練習する。(1時間)

	番、ソナチネアルバム、ソナタアルバム 幼児のための音楽教育(童謡) 楽典 理論と実習 楽譜の読み方		復習:レッスンで指摘された箇所を 練習する(1時間)
3回目	進度別個人レッスン 楽典	面接授業	予習:課題として出された曲を練習 する。(1時間) 復習:レッスンで指摘された箇所を 練習する(1時間)
4回目	進度別個人レッスン 楽典	面接授業	予習:課題として出された曲を練習 する。(1時間) 復習:レッスンで指摘された箇所を 練習する(1時間)
5回目	進度別個人レッスン 楽典	面接授業	予習:課題として出された曲を練習 する。(1時間) 復習:レッスンで指摘された箇所を 練習する(1時間)
6回目	進度別個人レッスン 楽典	面接授業	予習:課題として出された曲を練習 する。(1時間) 復習:レッスンで指摘された箇所を 練習する(1時間)
7回目	進度別個人レッスン 楽典	面接授業	予習:課題として出された曲を練習 する。(1時間) 復習:レッスンで指摘された箇所を 練習する(1時間)
8回目	進度別個人レッスン 楽典	面接授業	予習:課題として出された曲を練習 する。(1時間) 復習:レッスンで指摘された箇所を 練習する(1時間)
9回目	進度別個人レッスン 楽典	面接授業	予習:課題として出された曲を練習 する。(1時間) 復習:レッスンで指摘された箇所を 練習する(1時間)
10回目	進度別個人レッスン 楽典	面接授業	予習:課題として出された曲を練習 する。(1時間) 復習:レッスンで指摘された箇所を 練習する(1時間)
11回目	進度別個人レッスン 楽典	面接授業	予習:課題として出された曲を練習 する。(1時間) 復習:レッスンで指摘された箇所を 練習する(1時間)
12回目	進度別個人レッスン 楽典	面接授業	予習:課題として出された曲を練習 する。(1時間) 復習:レッスンで指摘された箇所を 練習する(1時間)
13回目	進度別個人レッスン 楽典	面接授業	予習:課題として出された曲を練習 する。(1時間) 復習:レッスンで指摘された箇所を 練習する(1時間)
14回目	進度別個人レッスン 楽典 復習	面接授業	予習:課題として出された曲を練習 する。(1時間) 復習:レッスンで指摘された箇所を 練習する(1時間)
15回目	進度別個人レッスン 楽典試験(授業内)	面接授業	予習:課題として出された曲を練習 する。(1時間)

			復習:レッスンで指摘された箇所を練習する(1時間)
16回目	定期試験(ピアノ)		授業外学修時間 30時間

科目(教職課程用)	
教育職員免許法施行規則に定める科目区分または事項等	
教科書・参考書	・改訂 幼児のための音楽教育 教育芸術社 ・楽譜がスラスラ読める本 永岡書店 ・楽典 理論と実習 音楽之友社
履修条件	
履修上の注意	
オフィスアワー	授業の前後に対応します。
備考・メッセージ	・必要に応じてプリントを配布する。 ・課題にしっかり取り組むようにしましょう。

講義科目名称:子どもと表現(ピアノ・楽典Ⅰb)	授業コード:
英文科目名称:	ナンバリング:CM208

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
後期	1	1	選択	演習
担当教員				
友廣憲子 中村明夫 濱崎典子 西沢素登子 黒田照子				

授業概要	子どもと表現(ピアノ・楽典Ⅰa)を土台として技術と知識を向上させるための学習を進めていく。ピアノレッスンと自己の練習 90分、楽典 45 分で授業を行う。保育者として音楽表現活動を行うため、Ⅰa で修得したピアノ演奏技術と楽典の内容を更に発展していく。
------	--

資質・能力	授業における到達目標	評価方法	評価比率
心豊かな人間力			
確かな専門的知識 や技能	・へ長調・二長調の音階を演奏することができる。 ・課題の童謡を弾き歌いすることができる。 ・課題曲以外の童謡を弾き歌いすることができる。 ・楽典Ⅰaで習得した内容から更に進んだ内容(楽典)を理解することができる。	実技試験 実技試験 授業内 授業内テスト	20% 50% 10% 15%
コミュニケーション 能力			
課題解決能力			
主体的に学ぶ力	積極的に課題に向き合い、授業に参加すること ができる。	授業内	5%
合計			100%
補足事項			
・ピアノ定期試験 70%、童謡曲の意欲 10%、楽典 筆記試験 15% 課題に向き合う姿勢5%とする。 ・授業に関する質問は各授業の前後に受け付けるが、必要に応じてgoogle classroomでも受け付け、web上あるいは授業回で答える。 ・対面授業を中心に実施し、zoom やオンデマンドで行う場合がある。 ・本授業では、授業開始15 分までを遅刻とし、それ以降は欠席とする。また、早退については75 分間授業を受けていない場合は欠席とする。遅刻3回を欠席1回でカウントする。			

授業計画	授業の内容	実施形式	予習・復習の内容と時間
1回目	オリエンテーション(教員紹介) 授業の進め方、心構え、レッスンの注意点 楽典の授業の進め方について説明する。	面接授業	楽典のテーマについて調べておく (1時間) ピアノ課題を復習する(1時間)
2回目	幼児のための音楽教育 指つかいつきバイエルピアノ教本 ブルグミュラ-25 番練習曲 幼児の為の音楽教育 楽典 理論と実習 楽譜の読み方	面接授業	楽典のテーマについて調べておく (1時間) ピアノ課題を復習する(1時間)
3回目	進度別個人レッスン 楽典	面接授業	楽典のテーマについて調べておく (1時間) ピアノ課題を復習する(1時間)

4回目	進度別個人レッスン 楽典	面接授業	楽典のテーマについて調べておく (1時間) ピアノ課題を復習する(1時間)
5回目	進度別個人レッスン 楽典	面接授業	楽典のテーマについて調べておく (1時間) ピアノ課題を復習する(1時間)
6回目	進度別個人レッスン 楽典	面接授業	楽典のテーマについて調べておく (1時間) ピアノ課題を復習する(1時間)
7回目	進度別個人レッスン 楽典	面接授業	楽典のテーマについて調べておく (1時間) ピアノ課題を復習する(1時間)
8回目	進度別個人レッスン 楽典	面接授業	楽典のテーマについて調べておく (1時間) ピアノ課題を復習する(1時間)
9回目	進度別個人レッスン 楽典	面接授業	楽典のテーマについて調べておく (1時間) ピアノ課題を復習する(1時間)
10回目	進度別個人レッスン 楽典	面接授業	楽典のテーマについて調べておく (1時間) ピアノ課題を復習する(1時間)
11回目	進度別個人レッスン 楽典	面接授業	楽典のテーマについて調べておく (1時間) ピアノ課題を復習する(1時間)
12回目	進度別個人レッスン 楽典	面接授業	楽典のテーマについて調べておく (1時間) ピアノ課題を復習する(1時間)
13回目	進度別個人レッスン 楽典	面接授業	楽典のテーマについて調べておく (1時間) ピアノ課題を復習する(1時間)
14回目	進度別個人レッスン 楽典	面接授業	楽典のテーマについて調べておく (1時間) ピアノ課題を復習する(1時間)
15回目	進度別個人レッスン 楽典試験	面接授業	楽典のテーマについて調べておく (1時間) ピアノ課題を復習する(1時間)
16回目	定期試験		授業外学修時間 30時間

科目(教職課程用)	
教育職員免許法施行規則に定める科目区分または事項等	
教科書・参考書	・改訂 幼児のための音楽教育 教育芸術社 ・超やさしい楽譜の読み方 音楽之友社 ・楽典 理論と実習 音楽之友社
履修条件	
履修上の注意	
オフィスアワー	授業の前後に対応します。
備考・メッセージ	・必要に応じてプリントを配布する。 ・課題にしっかり取り組むようにしましょう。

講義科目名称:子どもと表現(ピアノ・楽典Ⅱa)	授業コード:
英文科目名称:	ナンバリング:CM311

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
後期	2	1	選択	演習
担当教員				
友廣憲子 中村明夫 濱崎典子 西沢素登子 黒田照子				

授業概要	子どもと表現(ピアノ・楽典Ⅰb)を取得した学生に更なるピアノ技術の向上を目標とする 科目である。 ① 教育実習や保育所実習に向け季節の童謡と生活の歌の弾き歌いを学習する。 ② 実習園の課題曲を学習していく。 ③ 童謡曲の弾き歌いを学習していく。 ④ 子どもと表現(楽典Ⅰb)楽典で習得した内容から更に進んだ内容(楽典)を学習する。
------	--

資質・能力	授業における到達目標	評価方法	評価比率
心豊かな人間力			
確かな専門的知識 や技能	・実習曲の課題曲や童謡曲を 5曲弾き歌いできる ・ハ長調のスケールを演奏することができる。 ・課題曲以外の童謡を弾き歌いすることができる ・ピアノ学習成果発表会に向けた曲を中間発表できる。。 ・子どもと表現(楽典Ⅰb)で習得した内容から更に進んだ内容(楽典)を理解することができる。	実技試験 実技試験 授業内 実技試験 筆記試験	50% 10% 10% 10% 15%
コミュニケーション 能力			
課題解決能力			
主体的に学ぶ力	与えられた課題に積極的に取り組む姿勢を身に付けることができる。	授業内	5%
合計			100%

補足事項	
・ピアノ定期試験 70%、童謡曲への意欲 10%、楽典 筆記試験 15% 課題に向き合う姿勢で5%とする。 ・授業に関する質問は各授業の前後に受け付けるが、必要に応じてgoogle classroomでも受け付け、web上あるいは授業回で答える。 ・対面授業を中心に実施し、zoom、携帯でのオンラインレッスンやオンデマンドで行う場合がある。 ・本授業では、授業開始15 分までを遅刻とし、それ以降は欠席とする。また、早退については75 分間授業を受けていない場合は欠席とする。遅刻3回を欠席1回でカウントする。	

授業計画	授業の内容	実施形式	予習・復習の内容と時間
1回目	オリエンテーション(教員紹介) 授業の進め方、心構え、レッスンの注意点 楽典の授業の進め方について説明する。	面接授業	楽典のテーマについて調べておく(1時間) ピアノ課題を復習する(1時間)

2回目	・個人進度別レッスン 幼児のための音楽教育(教育芸術社) ・楽典	面接授業	音階の練習と読譜をしておく。(1時間) 復習:ピアノ課題を練習する(1時間)
3回目	・個人進度別レッスン 幼児のための音楽教育(教育芸術社) ・楽典	面接授業	音階の練習と読譜をしておく。(1時間) 復習:ピアノ課題を練習する(1時間)
4回目	・個人進度別レッスン 幼児のための音楽教育(教育芸術社) ・楽典	面接授業	音階の練習と読譜をしておく。(1時間) 復習:ピアノ課題を練習する(1時間)
5回目	・個人進度別レッスン 幼児のための音楽教育(教育芸術社) ・楽典	面接授業	音階の練習と読譜をしておく。(1時間) 復習:ピアノ課題を練習する(1時間)
6回目	・個人進度別レッスン 幼児のための音楽教育(教育芸術社) ・楽典	面接授業	音階の練習と読譜をしておく。(1時間) 復習:ピアノ課題を練習する(1時間)
7回目	・個人進度別レッスン 幼児のための音楽教育(教育芸術社) ・楽典	面接授業	音階の練習と読譜をしておく。(1時間) 復習:ピアノ課題を練習する(1時間)
8回目	・個人進度別レッスン 幼児のための音楽教育(教育芸術社) ・楽典	面接授業	音階の練習と読譜をしておく。(1時間) 復習:ピアノ課題を練習する(1時間)
9回目	・個人進度別レッスン 幼児のための音楽教育(教育芸術社) ・楽典	面接授業	音階の練習と読譜をしておく。(1時間) 復習:ピアノ課題を練習する(1時間)
10回目	・個人進度別レッスン 幼児のための音楽教育(教育芸術社) ・楽典	面接授業	音階の練習と読譜をしておく。(1時間) 復習:ピアノ課題を練習する(1時間)
11回目	・個人進度別レッスン 幼児のための音楽教育(教育芸術社) ・楽典	面接授業	音階の練習と読譜をしておく。(1時間) 復習:ピアノ課題を練習する(1時間)
12回目	・個人進度別レッスン 幼児のための音楽教育(教育芸術社) ・楽典	面接授業	音階の練習と読譜をしておく。(1時間) 復習:ピアノ課題を練習する(1時間)
13回目	・個人進度別レッスン 幼児のための音楽教育(教育芸術社) ・楽典	面接授業	音階の練習と読譜をしておく。(1時間) 復習:ピアノ課題を練習する(1時間)
14回目	・個人進度別レッスン 幼児のための音楽教育(教育芸術社)	面接授業	音階の練習と読譜をしておく。(1時間) 復習:ピアノ課題を練習する

	・楽典		(1時間)
15回目	進度別個人レッスン 楽典試験	面接授業	音階の練習と読譜をしておく。(1時間) 復習:ピアノ課題を練習する(1時間)
16回目	定期試験		

科目(教職課程用)	
教育職員免許法施行規則に定める科目区分または事項等	
教科書・参考書	教科書:幼児のための音楽教育(教育芸術社) ・楽譜がスラスラ読める本 永岡書店 ・楽典 理論と実習 音楽之友社 参考書:大人のための音楽ワークテキスト「YAMAHA」 大人のための音楽ワークドリル「YAMAHA」 指つかいつきバイエルピアノ教本 ブルグミュラ-25 番練習曲 ソナチネアルバム ソナタアル 保育者のためのピアノの基礎(朝日出版社)
履修条件	
履修上の注意	与えられた課題に取り組み受講する
オフィスアワー	各授業の前後に質問を受け付ける
備考・メッセージ	普段から楽譜をよく読む習慣を身に付ける

講義科目名称:子どもと表現(ピアノ・楽典Ⅱb)	授業コード:
英文科目名称:	ナンバリング:CM407

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
後期	2	1	選択	演習
担当教員				
友廣憲子 中村明夫 濱崎典子 西沢素登子 黒田照子				

授業概要	子どもと表現(ピアノ・楽典Ⅱa)を取得した学生に更なるピアノ技術向上を目標とする科目である。 ① ピアノ学習成果発表会での演奏を目指し様々なジャンルの曲を修得する。 ② 子どもの興味・関心を引き出す童謡曲を数多く演奏することができる。 ③ 子どもと表現(楽典Ⅱa)で習得した内容から更に進んだ内容を理解することができる。
------	--

資質・能力	授業における到達目標	評価方法	評価比率
心豊かな人間力			
確かな専門的知識 や技能	・童謡課題曲5曲弾き歌いができる。 ・学習成果発表会で様々なジャンルの曲から1曲暗譜で演奏することができる。 ・課題曲以外の童謡曲を弾き歌いできるようになる。 ・楽典は子どもと表現(楽典Ⅱa)で学んだ内容から更に進んだ内容を理解することができる。	実技試験 実技試験 授業内 授業内小テスト	20% 50% 10% 15%
コミュニケーション 能力			
課題解決能力			
主体的に学ぶ力	・与えられた課題に積極的に取り組む姿勢を身に付けることができる。	授業内	5%
合計			100%
補足事項			
・授業に関する質問は各授業の前後に受け付けるが、必要に応じてgoogle classroom でも受け付け、web上あるいは授業回で答える。 ・対面授業を中心に実施し、zoom やオンデマンドで行う場合がある。 ・本授業では、授業開始15分までを遅刻とし、それ以降は欠席とする。また、早退については75分間授業を受けていない場合は欠席とする。遅刻3回を欠席1回でカウントする。			

授業計画	授業の内容	実施形式	予習・復習の内容と時間
1回目	オリエンテーション 授業の進め方、心構え、レッスンの注意点について説明する。	面接授業	楽典のテーマについて調べておく(1時間) ピアノ課題を復習する(1時間)
2回目	・童謡曲の弾き歌い ・ピアノ学習成果発表曲のレッスン ・楽典	面接授業	楽典のテーマについて調べておく(1時間) ピアノ課題を復習する(1時間)
3回目	・童謡曲の弾き歌い	面接授業	楽典のテーマについて調べて

	・ピアノ学習成果発表曲のレッスン ・楽典		おく (1時間) ピアノ課題を復習する (1時間)
4回目	・童謡曲の弾き歌い ・ピアノ学習成果発表曲のレッスン ・楽典	面接授業	楽典のテーマについて調べて おく (1時間) ピアノ課題を復習する (1時間)
5回目	・童謡曲の弾き歌い ・ピアノ学習成果発表曲のレッスン ・楽典	面接授業	楽典のテーマについて調べて おく (1時間) ピアノ課題を復習する (1時間)
6回目	・童謡曲の弾き歌い ・ピアノ学習成果発表曲のレッスン ・楽典	面接授業	楽典のテーマについて調べて おく (1時間) ピアノ課題を復習する (1時間)
7回目	・童謡曲の弾き歌い ・ピアノ学習成果発表曲のレッスン ・楽典	面接授業	楽典のテーマについて調べて おく (1時間) ピアノ課題を復習する (1時間)
8回目	・童謡曲の弾き歌い ・ピアノ学習成果発表曲のレッスン ・楽典	面接授業	楽典のテーマについて調べて おく (1時間) ピアノ課題を復習する (1時間)
9回目	・童謡曲の弾き歌い ・ピアノ学習成果発表曲のレッスン ・楽典	面接授業	楽典のテーマについて調べて おく (1時間) ピアノ課題を復習する (1時間)
10回目	・童謡曲の弾き歌い ・ピアノ学習成果発表曲のレッスン ・楽典	面接授業	楽典のテーマについて調べて おく (1時間) ピアノ課題を復習する (1時間)
11回目	・童謡曲の弾き歌い ・ピアノ学習成果発表曲のレッスン ・楽典	面接授業	楽典のテーマについて調べて おく (1時間) ピアノ課題を復習する (1時間)
12回目	・童謡曲の弾き歌い ・ピアノ学習成果発表曲のレッスン ・楽典	面接授業	楽典のテーマについて調べて おく (1時間) ピアノ課題を復習する (1時間)
13回目	・童謡曲の弾き歌い ・ピアノ学習成果発表曲のレッスン ・楽典	面接授業	楽典のテーマについて調べて おく (1時間) ピアノ課題を復習する (1時間)
14回目	・童謡曲の弾き歌い ・ピアノ学習成果発表曲のレッスン ・楽典	面接授業	楽典のテーマについて調べて おく (1時間) ピアノ課題を復習する (1時間)
15回目	実技試験(ピアノ)に向けたレッスン 楽典(筆記試験)	面接授業	楽典のテーマについて調べて おく (1時間) ピアノ課題を復習する (1時間)
16回目	ピアノ定期試験		授業外学修時間 30時間

科目(教職課程用)	
教育職員免許法施行規則に定める科目区分または事項等	
教科書・参考書	教科書:幼児のための音楽教育(教育芸術社) 参考書大人のための音楽ワークテキスト「YAMAHA」 大人のための音楽ワークドリル「YAMAHA」 指つかいつきバイエルピアノ教本 ブルグミュラ-25 番練習曲 ソナチネアルバム ソナタアル 保育者のためのピアノの基礎(朝日出版社)
履修条件	
履修上の注意	与えられた課題に取り組み受講する
オフィスアワー	各授業の前後に質問を受け付ける
備考・メッセージ	普段から楽譜をよく読む習慣を身に付ける

講義科目名称:子どもと表現(歌唱)	授業コード:
英文科目名称:	ナンバリング:CM104

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
前期	1	1	選択	演習
担当教員				
内田 奈美				

授業概要	保育者として必要な音楽理論、基礎知識及び技能を習得する。また、活動を通し、声の持つ表現の多様性、歌うことの楽しさを子どもに指導できる技術を身に付ける。
------	---

資質・能力	授業における到達目標	評価方法	評価比率
心豊かな人間力	・様々な音楽を、表情豊かに、子供たちに伝えるように歌うことができる。	実技演奏	10%
確かな専門的知識や技能	・呼吸法や発声法を習得し、楽譜を正しく読み、音楽を表現することができる。	定期試験実技演奏	60%
コミュニケーション能力	・重唱・合唱において他者とのハーモニーを感じとり、豊かな音楽を表現することができる。 ・他者の演奏の良い点を見つけることができる。	実技演奏	10%
課題解決能力	・歌唱やソルフェージュの未達成部分に対し、努力し改善できる。	小テスト実技演奏	10%
主体的に学ぶ力	・音程、リズム練習を通して、自分で楽譜を読むことができる。	授業への参加・態度	10%
合計			100%
補足事項			
・本授業では、実技演奏80%、小テスト10%、授業への参加・態度10%で評価を行う。 ・小テストは、2回行う。全て授業開始時に行い、既習内容(ソルフェージュ理解度)の筆記試験とする。 ・対面授業を中心に実施し、zoomやオンデマンドで行う場合もある。 ・授業に関する質問は各授業の前後に受け付けるが、必要に応じてweb上あるいは授業回で答える。			

授業計画	授業の内容	実施形式	予習・復習の内容と時間
1回目	「オリエンテーション」 ・授業の進め方について ・コンコーネ50番 ・幼児のための音楽教育	面接授業	予習:シラバスとテキスト2冊に目を通しておく(1時間) 復習:この授業の概要を整理しておく(1時間)
2回目	・コンコーネ50番 ・幼児のための音楽教育より季節の歌(4、5月)	面接授業	予習:授業内で出された課題を読譜・練習する(2時間) 復習:授業内で未達成の部分の練習をする(2時間)
3回目	・コンコーネ50番 ・幼児のための音楽教育より季節の歌(6、7月)	面接授業	予習:授業内で出された課題を読譜・練習する(2時間) 復習:授業内で未達成の部分の練習をする(2時間)
4回目	・重唱	面接授業	予習:授業内で出された課題を読譜・

	・コンコーネ50番		練習する(2時間) 復習:授業内で未達成の部分の練習をする(2時間)
5回目	・重唱(発表) ・コンコーネ50番	面接授業	予習:重唱の歌詞を考えチームで振りを考える(2時間) 復習:授業内で未達成の部分の練習をする(2時間)
6回目	・小テスト(1回目) ・コンコーネ50番 ・幼児のための音楽教育より季節の歌(8、9月)	面接授業	予習:小テストの為の既習楽典内容の学習(2時間) 復習:授業内で未達成の部分の練習をする(2時間)
7回目	・小テストフィードバック ・コンコーネ50番 ・幼児のための音楽教育より季節の歌(10、11月)	面接授業	予習:授業内で出された課題を読譜・練習する(2時間) 復習:授業内で未達成の部分の練習をする(2時間)
8回目	・合唱 ・コンコーネ50番	面接授業	予習:授業内で出された課題を読譜・練習する(2時間) 復習:授業内で未達成の部分の練習をする(2時間)
9回目	・合唱 ・コンコーネ50番 ・他プリント	面接授業	予習:授業内で出された課題を読譜・練習する(2時間) 復習:授業内で未達成の部分の練習をする(2時間)
10回目	・合唱 ・コンコーネ50番 ・他プリント	面接授業	予習:合唱の歌詞を考える。(2時間) 復習:授業内で未達成の部分の練習をする(2時間)
11回目	・小テスト(2回目) ・コンコーネ50番 ・幼児のための音楽教育より ・季節・行事の歌(12、1月)	面接授業	予習:小テストの為の既習楽典内容の学習(2時間) 復習:授業内で未達成の部分の練習をする(2時間)
12回目	・小テストフィードバック ・定期試験課題曲発表 ・コンコーネ50番 ・幼児のための音楽教育より ・季節・行事の歌(2、3月)	面接授業	予習:授業内で出された課題を読譜・練習する(2時間) 復習:授業内で未達成の部分の練習をする(2時間)
13回目	・コンコーネ50番 ・幼児のための音楽教育より ・課題曲を1人ずつ歌唱確認	面接授業	予習:課題曲の中から1曲を選び練習(2時間) 復習:授業内で未達成の部分の練習をする(2時間)
14回目	・コンコーネ50番 ・幼児のための音楽教育 ・定期試験課題曲練習・リハーサル	面接授業	予習:既習曲の見直し(2時間) 復習:試験課題曲のポイントを整理する(2時間)
15回目	・授業内で定期試験		
			授業外学修時間 54時間

科目(教職課程用)	
教育職員免許法施行規則に定める科目区分または事項等	
教科書・参考書	・コンコーネ50番(カワイ出版) ・幼児のための音楽教育(教育芸術社)→ピアノで使用するので特別に購入しなく

	てよい。
履修条件	
履修上の注意	・講義中の携帯電話・スマートフォンの使用、撮影、録音録画は原則禁止とします。
オフィスアワー	授業の前後で対応します。
備考・メッセージ	・次回の学習曲は毎回提示しますので、授業にスムーズに入れるよう譜読みをしてきて下さい。

講義科目名称:子どもと表現(造形a)	授業コード:
英文科目名称:	ナンバリング:CM109

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
後期	1年	1単位	選択	演習、複数
担当教員				
陣内敦 陣内智子				

授業概要	①自分を表現したい心を理解する 相手に伝えたい心を理解する 感じる心を理解する ②自然の中にある形を発見する感覚を理解する 偶然による形から発想する感覚を理解する 素材を構成する技術を修練する ③幼児の描画概念の発達段階を理解する 幼児の描画道具の扱い方について理解する 幼児への言葉かけ等の支援方法について考察する ④壁画装飾がもたらす幼児への効用を理解する 季節を表す素材について理解する 室内環境が与える保育活動の効用を考察する ⑤個人の個性の享受と意見の構築の方法を理解する 自分の役割を見つけ達成することの大切さを理解する
------	---

資質・能力	授業における到達目標	評価方法	評価比率
心豊かな人間力			
確かな専門的知識や技能	・絵画の原理について理解する ・絵画技術と幼児の絵画活動について理解する ・幼児の絵画活動に対する保育者の支援方法を理解する	作品の成果 作品の成果 作品の成果	20% 20% 20%
コミュニケーション能力	・保育施設で保育者がおこなう造形に関連する役割を理解する	作品の成果	20%
課題解決能力			
主体的に学ぶ力	・保育者が備えるべき造形教育の資質を高める(共同制作について)	学修の取り組み	20%
合計			100%
補足事項			
課題のフィードバックは授業内またはGoogle Classroomで行う。			

授業計画	授業の内容	実施形式	予習・復習の内容と時間
1回目	オリエンテーション 子どもと造形についてのイントロダクション 「子どもたちへの自己紹介」制作 ※課題提出方法ならびに提出日は別途指示する	面接授業を基本とする	予習:造形の意味について、自分なりの考えを持つ(0.5時間) 復習:造形の意義について確認する(0.5時間)
2回目	モダンテクニック(1) フロッタージュによる絵画制作(こすり絵)	面接授業を基本とする	予習:フロッタージュについて予備知識を得る(0.5時間)

			復習:フロッタージュ技法の可能性について考える(0.5時間)
3回目	モダンテクニック(2) コラージュによる絵画制作「私の夢」 ※課題提出方法ならびに提出日は別途指示する	面接授業を基本とする	予習:コラージュについて予備知識を得る(0.5時間) 復習:コラージュ技法の可能性について考える(0.5時間)
4回目	折り紙 「カエル」「小箱」他の制作 ※課題提出方法ならびに提出日は別途指示する	面接授業を基本とする	予習:折り紙の予備知識を得る(0.5時間) 復習:他の折り紙についても体験してみる(0.5時間)
5回目	切り紙 「切り紙あそび」伝統的なもん切り遊びを体験する ※課題提出方法ならびに提出日は別途指示する	面接授業を基本とする	予習:切り紙について予備知識を得る(0.5時間) 復習:切り紙技法の可能性について考える(0.5時間)
6回目	ちぎり絵(1) 童謡をテーマにしたちぎり絵の制作 テーマ設定 下絵 配色計画	面接授業を基本とする	予習:ちぎり絵について予備知識を得る(0.5時間) 復習:自作品の構想を考える(0.5時間)
7回目	ちぎり絵(2) 童謡をテーマにしたちぎり絵の制作	面接授業を基本とする	予習:制作途中の自作品を見直す(0.5時間) 復習:自作品の構想を考える(0.5時間)
8回目	ちぎり絵(3) 童謡をテーマにしたちぎり絵の制作	面接授業を基本とする	予習:制作途中の自作品を見直す(0.5時間) 復習:自作品の構想を考える(0.5時間)
9回目	ちぎり絵(4) 童謡をテーマにしたちぎり絵の制作 ※課題提出方法ならびに提出日は別途指示する	面接授業を基本とする	予習:制作途中の自作品を見直す(0.5時間) 復習:自作品の構想を考える(0.5時間)
10回目	インスタレーション 「おかおつくっちゃお」 身近な日用品に目鼻等を色紙等で作り遊ぶ ※課題提出方法ならびに提出日は別途指示する	面接授業を基本とする	予習:子どもの視点で周囲を観察する(0.5時間) 復習:想像遊びについての省察をおこなう(0.5時間)
11回目	染紙 短冊づくり 七夕の笹に願い事を書く うちわの和紙づくり	面接授業を基本とする	予習:染め紙の活用法について想像する(0.5時間) 復習:染め紙の他の活用について考える(0.5時間)
12回目	うちわ作り 染紙をうちわに貼ってオリジナルうちわの制作 ※課題提出方法ならびに提出日は別途指示する	面接授業を基本とする	予習:日本の伝統工芸を知る(0.5時間) 復習:作業工程の事後反省をおこなう(0.5時間)
13回目	ぶんぶんごま ダンボールとタコ糸を用いてぶんぶんごまを制作 ※課題提出方法ならびに提出日は別途指示する	面接授業を基本とする	予習:色彩の調和を想像する(0.5時間) 復習:作業工程の事後反省をおこなう(0.5時間)
14回目	指人形(1) 保育で使える指人形の制作	面接授業を基本とする	予習:作品の全体図を構想する(0.5時間)

	トイレットペーパー、紙粘土、色和紙で工作する		復習:作業工程の事後反省をおこなう(0.5時間)
15回目	指人形(2) 保育で使える指人形の制作 顔などを絵具で着彩する ※課題提出方法ならびに提出日は別途指示する	面接授業を基本とする	予習:指人形を用いる保育の場面を構想する(0.5時間) 復習:保育活動を想定し練習する(0.5時間)
16回目	定期試験		授業外学修時間 15時間

科目(教職課程用)	領域及び保育内容の指導法に関する科目
教育職員免許法施行規則に定める科目区分または事項等	領域に関する専門的事項 表現
教科書・参考書	課題ごとに、必要な参考資料を提示。また、手順を解説したプリントを配布。
履修条件	特になし
履修上の注意	自らの創造力を活性化させるよう、感性を磨くことに心掛けること。
オフィスアワー	授業時間前後に教室で質問を受け付ける。任意に研究室を訪ね質問することも可能である。
備考・メッセージ	課題ごとの材料と道具は、一括購入する物と各自準備する物との別があり、事前連絡に留意すること。 また、課題ごとに設けた作品提出期限を厳守すること。

講義科目名称:子どもと表現(造形b)	授業コード:
英文科目名称:	ナンバリング: C M 4 0 8

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
後期	2年	1単位	選択	演習、複数
担当教員				
陣内敦 陣内智子				

授業概要	①熟達する喜びを理解する 工夫することの喜びを理解する 造り上げる喜びを理解する ②素材の材質感や特徴を理解する 素材の加工方法を理解する 発想を構築していく方法を修練する ③幼児の工作概念の発達段階を理解する 幼児の工作道具の扱い方について理解する 幼児への言葉かけ等の支援方法について考察する ④手作りの造形がもたらす幼児への効用を理解する 手作りの造形の種類と構造について理解する ⑤絵本や人形劇の児童文化財の価値を理解する 人形劇における話の展開方法を理解する 人形劇によって幼児に伝達される内容について考察する
------	---

資質・能力	授業における到達目標	評価方法	評価比率
心豊かな人間力			
確かな専門的知識や技能	・工作の原理について理解する ・工作技術と幼児の工作活動について理解する ・幼児の工作活動に対する保育者の支援方法を理解する	作品の成果 作品の成果 作品の成果	20% 20% 20%
コミュニケーション能力	・保育施設で保育者がおこなう造形に関連する役割を理解する	作品の成果	20%
課題解決能力			
主体的に学ぶ力	・保育者が備えるべき造形教育の資質を高める(児童文化財について)	学修の取り組み	20%
合計			100%
補足事項			
課題のフィードバックは授業内またはGoogle Classroomで行う。			

授業計画	授業の内容	実施形式	予習・復習の内容と時間
1回目	オリエンテーション 子どもと造形についての講話「折り紙」制作 ※課題提出方法ならびに提出日は別途指示する	面接授業を基本とする	予習:造形の意味について、自分なりの考えを持つ(0.5時間) 復習:造形の意義について確認する 折り紙の楽しさを感じる(0.5時間)
2回目	粘土の工作(1)	面接授業を基	予習:粘土の工作について

	技法の詳解を見る(ビデオ鑑賞)	本とする	予備知識を得る(0.5時間) 復習:粘土の技法について確認する(0.5時間)
3回目	粘土の工作(2) 粘土作品を素手やへらを用いながら成形する	面接授業を基本とする	予習:制作する作品のイメージを作る(0.5時間) 復習:素材について感じたものを味わう(0.5時間)
4回目	粘土の工作(3) 粘土作品の装飾をひっかきや釉薬によってほどこす ※課題提出方法ならびに提出日は別途指示する	面接授業を基本とする	予習:装飾についてイメージを作る(0.5時間) 復習:粘土の工作の可能性について考える(0.5時間)
5回目	紙の工作(1) 技法の詳解を聞く 自作品の構想を作る	面接授業を基本とする	予習:制作するもののイメージを作る(0.5時間) 復習:アイディアスケッチから制作工程について計画する(0.5時間)
6回目	紙の工作(2) 新聞紙と和紙で成形	面接授業を基本とする	予習:紙の成形方法について計画する(0.5時間) 復習:成形手順について再構想と修正をおこなう(0.5時間)
7回目	紙の工作(3) 新聞紙と和紙で成形	面接授業を基本とする	予習:自作品の成形手順について計画する(0.5時間) 復習:成形手順について修正をおこなう(0.5時間)
8回目	紙の工作(4) 新聞紙と和紙で成形	面接授業を基本とする	予習:成形手順を再構成する(0.5時間) 復習:自作品の立体的な構造等について鑑賞する(0.5時間)
9回目	紙の工作(5) 部分的に色和紙を貼り装飾する ※課題提出方法ならびに提出日は別途指示する	面接授業を基本とする	予習:色彩案を作る(0.5時間) 復習:色和紙の調和を鑑賞し、紙の工作の肌合いを楽しむ(0.5時間)
10回目	紙芝居制作(共同制作)(1) 童話を選び劇の展開を考える	面接授業を基本とする	予習:紙芝居の体験を思い出す(0.5時間) 復習:話の展開について修正する(0.5時間)
11回目	紙芝居制作(共同制作)(2) 物語を紙芝居用に再構成する 下絵を描く	面接授業を基本とする	予習:展開をまとめる(0.5時間) 復習:話の内容と感情表現などを登場人物の表情や情景に活かす方法を考える(0.5時間)

12回目	紙芝居制作(共同制作)(3) 下絵を写す	面接授業を基本とする	予習:色彩の計画をおこなう(0.5時間) 復習:着彩の修正をおこなう(0.5時間)
13回目	紙芝居制作(共同制作)(4) 下絵を写す 着彩をほどこす	面接授業を基本とする	予習:色彩の調和を想像する(0.5時間) 復習:色彩による画面の空間表現について再検討をおこなう(0.5時間)
14回目	紙芝居制作(共同制作)(5) 着彩をほどこす	面接授業を基本とする	予習:話の展開やせりふを推敲する(0.5時間) 復習:絵とせりふが整合していることを確認する(0.5時間)
15回目	紙芝居制作(共同制作)(6) 教室内でグループごとに劇の実演をおこなう ※課題提出方法ならびに提出日は別途指示する	面接授業を基本とする	予習:紙芝居の実演の練習をおこなう(0.5時間) 復習:紙芝居の楽しさを味わう(0.5時間)
			授業外学修時間 15時間

科目(教職課程用)	領域及び保育内容の指導法に関する科目
教育職員免許法施行規則に定める科目区分または事項等	領域に関する専門的事項表現
教科書・参考書	課題ごとに、必要な参考資料を提示。また、手順を解説したプリントを配布。
履修条件	特になし
履修上の注意	自らの創造力を活性化させるよう、感性を磨くことに心掛けること。
オフィスアワー	授業時間前後に教室で質問を受け付ける。任意に研究室を訪ね質問することも可能である。
備考・メッセージ	課題ごとの材料と道具は、一括購入する物と各自準備する物との別があり、事前連絡に留意すること。 また、課題ごとに設けた作品提出期限を厳守すること。

講義科目名称:子どもの表現(リズム)	授業コード:
英文科目名称:	ナンバリング:CM105

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
前期	1年	1単位	選択	演習
担当教員				
釜元 晶子				

授業概要	本演習は、子どもと表現・リズム遊びを中心に、幼児期にふさわしい運動内容を学び、さらにその適切な指導法と援助方法を理解することをねらいとしている。本演習では、①リズム・表現遊びの実践ができる、②リズム・表現遊びの計画ができる、③リズム・表現遊びの指導や援助方法が分かる、ことをねらいにしている。
------	--

資質・能力	授業における到達目標	評価方法	評価比率
心豊かな人間力			
確かな専門的知識 や技能	なぜ、子どもにとって表現・リズム遊びが必要なのか説明できる。 子どもにふさわしい表現・リズム遊びの活動が分かる。 表現・リズム遊びの指導法と援助方法を説明できる	授業への参加・態度 成果レポート	40%
コミュニケーション 能力	表現・リズム遊びの実践を通して、いろいろな人と交流し、意見を交わすことができる	創作などのグループ活動	30%
課題解決能力	分からなかったことなどを調べて 解決することができる	課題レポート	20%
主体的に学ぶ力	学んだ成果をまとめ発表する	作品発表	10%
合計			100%
補足事項			
課題レポート、作品発表、創作活動、授業への参加・態度を評価する。 課題については都度指導し、評価についてはフィードバックを行う。その際はオンラインで個別に対応もおこなう。本授業は、遅刻 3 回で欠席 1 回とする。			

授業計画	授業の内容	実施形式	予習・復習の内容とh
1回目	授業のねらいと内容について	面接授業	予習:リズム・表現遊びとは何か調べる(0.5 h) 復習:リズム・表現遊びについてまとめる(0.5h)
2回目	「内的リズム」について リズムを使った遊びの実践	面接授業	予習:リズムとは何か調べる(0.5 h) 復習:リズムを使った遊びをまとめる(0.5 h)
3回目	「h性」「力性」「空間性」「関係性」について 4 つのキーワードで動く遊びの実践	面接授業	予習:動きとは何か調べる(0.5 h) 復習:4つのキーワードで動く遊びをまとめる(0.5 h)
4回目	ボールを使って動きを広げよう ボールを使って動く遊びの実践	面接授業	予習:ボールの使った遊びを調べる(0.5 h) 復習:ボールを使った遊びをまとめる

			(0.5 h)
5回目	フープを使って動きを広げよう フープを使って動く遊びの実践	面接授業	予習:フープを使った遊びを調べる (0.5 h) 復習:フープを使った遊びをまとめる (0.5 h)
6回目	紙を使って動きを広げよう 紙を使って動く遊びの実践	面接授業	予習:紙を使った遊びを調べる(0.5h) 復習:紙を使った遊びをまとめる(0.5 h)
7回目	イメージを使って動きを広げよう イメージを使って動く遊びの実践	面接授業	予習:イメージを使った遊びを調べる (0.5 h) 復習:イメージを使った遊びをまとめる (0.5 h)
8回目	子どもの手本になる良い動きとは何か考える	面接授業	予習:良い動きについて調べる(0.5h) 復習:授業で学習した動きを復習する (0.5 h)
9回目	自分の表したいイメージを動きで表現する	面接授業	予習:自分の動きをひとまとまりの動きにする (0.5 h) 復習:授業で学習した動きの練習をする(0.5 h)
10回目	イメージで表現した動きをつなげて、連続した動きにする	面接授業	予習:自分の動きをまとめる(0.5 h) 復習:授業で学習した動きを復習する (0.5 h)
11回目	表現あそび中の子どもへの声かけなど、適切な指導にふさわしい言葉がけについて考える	面接授業	予習:声かけ、言葉がけについて調べる(0.5 h) 復習:指導言語についてまとめる(0.5 h)
12回目	連続した動きにメリハリをつけて、ダイナミックな動きに変化させる。	面接授業	予習:自分の動きをデフォルメする (0.5 h) 復習:授業で学習した動きを練習する (0.5 h)
13回目	発表できるように動きをまとめる	面接授業	予習:作品の動きを覚える(0.5h) 復習:完成した動きを練習する(0.5h)
14回目	作品発表	面接授業	予習:作品の動きを練習する(0.5h) 復習:発表会を振り返る(0.5 h)
15回目	子どもの表現をどのように評価すれば良いのか考える	面接授業	予習:評価について調べる(0.5h) 復習:成果レポートを作成する(3h)
16回目			授業外学修時間 17.5時間

科目(教職課程用)	領域及び保育内容の指導法に関する科目
教育職員免許法施行規則に定める科目区分または事項等	領域に関する専門的事項
教科書・参考書	教科書:必要に応じてプリントを配布する 参考書: 岩崎洋子(編著)『保育と幼児期の運動あそび』、萌文書林、2018 高野牧子(編著)『うきうきわくわく 身体表現遊び ー豊かに広げよう!こどもの表現世界ー』、同文書院、2015 小谷隆真 『あたらしい表現遊び』、すずき出版、1994
履修条件	授業の前後で対応可
履修上の注意	自分の体感から学びが広げられるよう、積極的に取り組むこと 運動できる服装、体育館シューズで受講すること
オフィスアワー	
備考・メッセージ	

講義科目名称:子どもと健康	授業コード:
英文科目名称:Children and Health	ナンバリング:CM106

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
前期	1年	1単位	選択	演習
担当教員				
中尾健一郎				

授業概要	「領域『健康』に関する専門的事項」として専門的事項や理論を踏まえた根拠に基づく指導ができるよう以下を目標にして知識や技術を学ぶ。 ①健康の定義について理解する 健康で安全な生活や乳幼児期にふさわしい生活について理解する ②子どもの身体の発育・発達について理解する 乳幼児期の生活習慣の形成について理解する 乳幼児の生活と食について理解する ③乳幼児期の運動について理解する 体を動かす遊びの環境について理解する 乳幼児期の遊びと運動について理解する ④乳幼児期の安全教育とけがの予防について理解する 健康を育む園外環境について理解する ⑤体を良く動かす子どもを育てるために必要なことを理解する 健康をめぐる現代的問題について理解する
------	--

資質・能力	授業における到達目標	評価方法	評価比率
心豊かな人間力			
確かな専門的知識 や技能	乳幼児期の健康の意義を説明できる 乳幼児期の基本的生活習慣の形成の意義について説明できる 安全教育・安全管理の基本的な考え方を説明できる 領域「健康」のねらい・内容について説明できる	定期試験 小テスト	60% 20%
コミュニケーション 能力			
課題解決能力			
主体的に学ぶ力	保育者を目指す者として、健康を意識し積極的な学習ができる	リフレクションカード 授業への参加・態度	10% 10%
合計			100%

補足事項			
・オンライン・オンデマンド配信授業については、課題提出で出席とみなす ・毎回、授業のポイント、意見・質問、授業態度の自己評価をリフレクションカードとして提出 ・リフレクションカードの意見・質問はgoogleclassroom等や授業内にてコメントする。 ・定期試験(レポート)60%、リフレクションカード20%、授業への参加・態度20%の割合で評価する ・確認テストについては、14回目の授業内で実施し、結果をその時間内で解説してフィードバックする 採点は学生同士で交換して行う 【面接授業における遅刻、早退、欠席について】 ・授業開始15分までを遅刻とし、それ以降は欠席とする。また、早退については75分間授業を受けていない			

場合は欠席とする。遅刻3回で1回の欠席としてカウントする

授業計画	授業の内容	実施形式	予習・復習の内容と時間
1回目	「健康とは何か」 健康の定義について学び、健康で安全な生活や乳幼児期にふさわしい生活、体を良く動かす子どもを育てるために必要なことを学ぶ	面接授業 (オンライン等の対応可能)	予習: シラバスに目を通しておくこと 「健康の定義」について調べておくこと(0.5時間) 復習: 配布資料に目を通し、理解できなかったところを調べておくこと(0.5時間)
2回目	「子どもの身体の発育・発達について」 乳幼児の形態的発達と生理的機能の発達について学ぶ	面接授業 (オンライン等の対応可能)	予習: 「子どもの身体の発育・発達」について調べておくこと(0.5時間) 復習: 教科書及び配布資料に目を通し、理解できなかったところを調べておくこと(0.5時間)
3回目	「乳幼児期の運動について」 発達段階に応じた運動発達と環境について、運動遊びへのかかわりについて学ぶ	面接授業 (オンライン等の対応可能)	予習: 「発達段階に応じた運動発達と環境、運動遊びへのかかわり」について調べておくこと(0.5時間) 復習: 教科書及び配布資料に目を通し、理解できなかったところを調べておくこと(0.5時間)
4回目	「乳幼児期の安全教育とけがの予防について」 けが・事故の実態と予防・安全管理について学ぶ	面接授業 (オンライン等の対応可能)	予習: 「けが・事故の実態と予防・安全管理」について調べておくこと(0.5時間) 復習: 教科書及び配布資料に目を通し、理解できなかったところを調べておくこと(0.5時間)
5回目	「乳幼児期の生活習慣の形成について」 発達段階に応じた生活習慣形成と環境について学ぶ	面接授業 (オンライン等の対応可能)	予習: 「発達段階に応じた生活習慣形成と環境」について調べておくこと(0.5時間) 復習: 教科書及び配布資料に目を通し、理解できなかったところを調べておくこと(0.5時間)
6回目	「乳幼児期の遊びと運動について」 豊かな遊びと動きの体験と運動遊びの意義、日常生活の動きの経験について学ぶ	面接授業 (オンライン等の対応可能)	予習: 「豊かな遊びと動きの体験」について調べておくこと(0.5時間) 復習: 教科書及び配布資料に目を通し、理解できなかったところを調べておくこと(0.5時間)
7回目	「乳幼児の生活と食について」 生活リズムと食および乳幼児期の食の大切さについて学ぶ	面接授業 (オンライン等の対応可能)	予習: 「生活リズムと食および乳幼児期の食の大切さ」について調べておくこと(0.5時間) 復習: 教科書及び配布資料に目を通し、理解できなかったところを調べておくこと(0.5時間)
8回目	「領域「健康」について」 幼児教育の基本と領域の考え方および幼稚園教育要領、保育所保育指針、教育・保育要領における領域「健康」について学ぶ	面接授業 (オンライン等の対応可能)	予習: 「幼児教育の基本と領域の考え方、幼稚園教育要領、保育所保育指針、教育・保育要領における領域「健康」について調べておくこと(0.5時間) 復習: 教科書及び配布資料に目を通し、理解できなかったところを調べておくこと(0.5時間)
	定期試験		授業外学修時間 8時間

科目(教職課程用)

領域及び保育内容の指導法に関する科目

教育職員免許法施行規則に定める科目区分または事項等	領域に関する専門的事項
教科書・参考書	教科書：演習保育内容健康-基礎的事項の理解と指導法- 建帛社 参考書：乳幼児教育・保育シリーズ 保育内容健康 吉田伊津美他編著 光生館 ：幼稚園教育要領 保育所保育指針、幼保連携型認定子ども園教育・保育要領 幼児期運動指針
履修条件	質問等は授業の前後に教室にてまたはgoogle classroom等で受け付ける
履修上の注意	オンライン等の授業についてはPC、タブレット(パソコン)等を準備し、対応できるようにすること
オフィスアワー	質問等は授業の前後に教室にてまたはgoogle classroom等で受け付ける
備考・メッセージ	オンライン等の授業についてはPC、タブレット(パソコン)等を準備し、対応できるようにすること 保育者を目指す者として、自分の健康も意識し積極的な学習をすること

講義科目名称:子どもと言語	授業コード:
英文科目名称:	ナンバリング:CM107

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
前期	1年	1単位	選択	演習
担当教員				
新井 悦子				

授業概要	幼児教育において育みたい資質・能力を理解し、かつ幼稚園教育要領に示された領域のねらい・内容を理解し、幼児の発達に則した保育を構想する方法を身に付ける。具体的には、子どもの言葉を育む児童文化財として、絵本・紙芝居を中心に学ぶ。どのような絵本や紙芝居があるのか、集団への読み語りする方法、発達段階や目的にあった選び方など班活動を中心にグループで討議しながら身につける。各自が集団への読み語りに適切な絵本を1冊ずつ選び読み語りを実演し、最終的には班単位でおはなし会を企画、実演する。
------	---

資質・能力	授業における到達目標	評価方法	評価比率
心豊かな人間力			
確かな専門的知識や技能	①絵本と紙芝居の児童文化財としての特徴と教育的意義の理解ができる。 ②子どもの発達や目的に合った絵本・紙芝居を選ぶことができる。 ③子どもの発達や目的を考慮し、適切に読み語りすることができる。	レポート 絵本の読み語り発表	50% 20%
コミュニケーション能力	④グループ内で協力し、おはなし会を企画・運営できる。	グループディスカッション	20%
課題解決能力			
主体的に学ぶ力	⑤自分の意見を持ち、積極的に意見を言うことができる。	グループディスカッション	10%
合計			100%
補足事項			
本授業では、レポート(授業内、授業後)50%、グループ活動・ディスカッション 30%、発表 20%の割合で評価する。 課題のフィードバックは授業内またはGoogle Classroomで行う。			

授業計画	授業の内容	実施形式	予習・復習の内容と時間
1回目	オリエンテーション ・授業のねらい・進め方 ・評価・アンケートについての説明	面接授業 オンライン可	復習 授業のねらいや進め方などについて振り返る(0.5時間) 予習 言葉を育む児童文化の概要・絵本について考える(0.5時間)
2回目	児童文化の概要 ・言葉を育む児童文化の概要・絵本について特徴と留意点	面接授業	復習 言葉を育む児童文化の概要・絵本に関する学習内容の確認(1時間) 予習 集団への読み語りについて考える(1時間)

3回目	絵本研究 ・集団への読み語りについて	面接授業	復習 集団への読み語りについて振り返る(1時間) 予習 絵本の種類について調べる(1時間)
4回目	絵本研究 ・絵本の種類	面接授業	復習 絵本の種類に関する学習内容の確認(1時間) 予習 子どもの発達と絵本について考える(1時間)
5回目	絵本研究 ・子どもの発達と絵本	面接授業	復習 子どもの発達と絵本に関する学習内容を振り返る(1時間) 予習 読み語りにふさわしい絵本の準備(1時間)
6回目	絵本の読み語り ・読み語りの練習(小グループでの読み語りの練習)	面接授業	復習 読み語りの練習(1時間) 予習 読み語りの発表準備(1.5時間)
7回目	絵本の読み語り ・読み語りの練習と発表(1) ・紙芝居の活用	面接授業	復習 紙芝居の活用について振り返る(1時間) 予習 読み語りの発表準備(1.5時間)
8回目	絵本の読み語り ・読み語りの練習と発表(2) ・課題別研究	面接授業	復習 課題別絵本について振り返る(1時間) 予習 読み語りの発表準備(1時間)
9回目	絵本の読み語り ・読み語りの練習と発表(3)	面接授業	復習 課題別絵本について振り返る(1時間) 予習 読み語りの発表準備(1時間)
10回目	絵本の読み語り ・読み語りの練習と発表(4) ・素話の活用	面接授業	復習 素話の活用について振り返る(1時間) 予習 読み語りの発表準備(1時間)
11回目	絵本の読み語り ・読み語りの練習と発表(5) ・保育絵本の活用	面接授業	復習 保育絵本の活用について振り返る(1時間) 予習 読み語りの発表準備 (1時間)
12回目	絵本の読み語り ・読み語りの練習と発表(6) ・手遊びの活用	面接授業	復習 読み語り発表と手遊びの活用について振り返る(1時間) 予習 おはなし会について調べる(1時間)
13回目	おはなし会の研究(1) ・おはなし会の準備・指導案作り	面接授業	復習 おはなし会の指導案について振り返る(1時間) 予習 おはなし会の準備(1.5時間)
14回目	おはなし会の研究(2) ・おはなし会の実施	面接授業	復習 おはなし会を振り返る(1時間) 予習 おはなし会の準備(1.5時間)
15回目	おはなし会の研究(3) ・おはなし会の実施	面接授業	復習 おはなし会を振り返る(1時間)
			授業外学修時間 30時間

科目(教職課程用)	領域及び保育内容の指導法に関する科目
教育職員免許法施行規則に定める科目区分または事項等	領域に関する専門的事項
教科書・参考書	テキスト:購入「保育内容・言葉」太田光洋編著 岸井勇雄・武藤隆・柴崎正行監修 同文書院 参考書:幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定子ども園教育・保育要領

履修条件	
履修上の注意	
オフィスアワー	授業の前後で対応します。
備考・メッセージ	2回目の講義後、読み語り発表用の絵本を準備すること。読み語りの練習、おはなし会の練習が重要になる。

講義科目名称:子どもの心	授業コード:
英文科目名称:	ナンバリング:CM108

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
2Q	1学年	1単位	選択	演習
担当教員				
下池 洸史朗				

授業概要	この授業では、子どものそだちにかかわる保育者として、子どものこころの発達に関する基本的な知識とその内容を多角的から視点で捉えられる専門性の基礎を養うことを目指します。また、授業のなかで、子どもの遊びを通して、その活動の楽しさとその中で育まれる育ちについて体験を学んでいきます。この授業が終了した際に、受講者のみなさんが次のような知識、技能、態度を身につけることを目標とします。 ①子どものこころの発達の基礎的な知識について説明できる。 ②子どもにかかわる保育者としての基本的な視点を説明することができる。 ③遊びの実践を通して、積極的に他者とのコミュニケーションを行い、活動を楽しむことができる。 ④子どもの発達に関する問題について資料等を用いて解決策を見出すことができる。
------	--

資質・能力	授業における到達目標	評価方法	評価比率
心豊かな人間力			
確かな専門的知識や技能	・子どものこころに関する基礎的な知識について説明できる。 ・子どもにかかわる保育者としての基本的な視点を説明することができる。	定期試験	70%
コミュニケーション能力	・遊びの実践を通して、積極的に他者とのコミュニケーションを行い、活動を楽しむことができる。	参加・取り組み	20%
課題解決能力	・子どもの発達に関する問題について資料等を用いて解決策を見出すことができる。	課題・レポート	10%
主体的に学ぶ力			
合計			100%

補足事項
授業に関する質問は、直接のほか Google classroom でも受けつけ、Web上または授業回で答える。本授業は、定期試験70%、参加・取り組み20%、課題・レポート10%の割合で評価する。課題の作成には、MicrosoftのWord・Excelを積極的に使ってください。 各授業で出された課題について、授業終了時に回収します。また、課題の内容については、授業内で取り扱います。

授業計画	授業の内容	実施形式	予習・復習の内容と時間
1回目	子どもの育ちと保育者の役割 子どもの世界と大人のかかわり	面接授業 オンライン授業対応可	予習:事前に配布された課題に取り組む。(1時間) 復習:授業内で配布された資料を復習する。(1時間)
2回目	子どもの発達理論	面接授業 オンライン授	予習:事前に配布された課題に取り組む。(1時間)

		業対応可	復習:授業内で配布された資料を復習する。(1時間)
3回目	子どもの育ちと親子関係 子どもの主体性と保育者のかかわり	面接授業 オンライン授業 業対応可	予習:事前に配布された課題に取り組む。(1時間) 復習:授業内で配布された資料を復習する。(1時間)
4回目	子どもの育ちと環境 子どもとあそび	面接授業 オンライン授業 業対応可	予習:事前に配布された課題に取り組む。(1時間) 復習:授業内で配布された資料を復習する。(1時間)
5回目	子どもと遊び	面接授業 オンライン授業 業対応可	予習:事前に配布された課題に取り組む。(1時間) 復習:授業内で配布された資料を復習する。(1時間)
6回目	子どもと遊び	面接授業 オンライン授業 業対応可	予習:事前に配布された課題に取り組む。(1時間) 復習:授業内で配布された資料を復習する。(1時間)
7回目	子どものこころのケア 子どもの育ちと障害	面接授業 オンライン授業 業対応可	予習:事前に配布された課題に取り組む。(1時間) 復習:授業で行う活動の準備をする。(1時間)
8回目	授業全体の総括	面接授業	予習:授業で行う活動の準備をする。(1時間) 復習:授業で行った活動の振り返りを行う。(1時間)
9回目	定期試験		授業外学修時間 30時間

科目(教職課程用)	領域及び保育内容の指導法に関する科目
教育職員免許法施行規則に定める科目区分または事項等	領域の専門的事項(これらの内容を合わせた科目)
教科書・参考書	参考書:新保育ライブラリー 子どもを知る 乳幼児心理学, 無藤隆・岩立京子編著, 北大路書房
履修条件	
履修上の注意	
オフィスアワー	授業時間後の時間もしくは教員の空き時間等で対応します(研究室)
備考・メッセージ	授業を受講するにあたり、他の受講者の権利を侵害する行為、もしくは受講する学生としての規範を逸脱する行為を行った場合はそれ相応の対応を行います。

講義科目名称:保育実習Ⅰ(施設)(1年次)	授業コード:
英文科目名称:	ナンバリング:CE201

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
1年4Q／2年5Q	1～2	4	卒業:選択 保育士:必修	実習
担当教員				
花城 暢一 ・ 吉元 千加里 ・ 下池 洸史朗				

授業概要	施設実習を通して、保育士資格の取得のために必要な専門的知識・技術の習得、実習生としての姿勢を学習していく。本実習では以下の事項を学習の目標とする。 ①社会福祉施設の役割・機能などを実践現場で体験を通して理解する。 ②既習の教科全体の知識・技能を基礎とし、これらを総合的に実践する応用力を身につける。 ③子どもに直接に関わることを通して、子どもや子どもを取り巻く環境について理解を深めることができる。 ④保育の計画、観察、記録及び自己評価等について具体的に理解し、実践できる。 ⑤保育士としての職業倫理と子どもの最善の利益の具体的内容について理解する。
------	---

資質・能力	授業における到達目標	評価方法	評価比率
心豊かな人間力	実習の意義・目的を理解し、保育者に求められる専門性や専門職としての資質を身に着けることができる。	・実習中の取り組み ・事前事後指導	15% 5%
確かな専門的知識や技能	保育者の役割と仕事内容を理解し、保育者に求められる専門的な知識や技能について習得することができる。	・実習施設からの評価 ・実習日誌	15% 5%
コミュニケーション能力	関係者との協働を通して、児童や利用者の状況を理解しながら支援していく姿勢を身に着けることができる。	・実習施設からの評価	20%
課題解決能力	児童および利用者の人権と最善の利益の考察、プライバシーの保護と守秘義務等について理解し、課題解決に必要な実践力を身につけることができる。	・実習施設からの評価	15%
主体的に学ぶ力	実習の計画・実践・観察・記録・評価の方法や内容について具体的に理解し、実習の目標および自己課題を明確にしながら主体的に実習に臨むことができる。	・実習中の取り組み ・事前事後指導 ・実習日誌	15% 5% 5%
合計			100%
補足事項			
○実習日誌(10%) ○実習施設からの評価(80%) ○事前事後指導内容(10%)を総合評価しておこなう。 ※「保育実習Ⅰ」の全体評価は、「保育所実習(50%)」と「施設実習(50%)」で総合評価する。			

実践実習(実習計画と学習内容)
<福祉施設での実習>(1日8時間以上×10日間)

(内容)	
1	実習施設の役割と機能について学ぶ。
2	観察や記録を通し子どもを理解し、個々の状態に応じた援助やかかわりを学ぶ。
3	養護内容や生活環境について学ぶ。
4	生活や援助などの一部分を担当し、養護技術を習得する。
5	職員間の役割とチームワークについて理解する。
6	記録や保護者とのコミュニケーションなどを通して家庭・地域社会を理解する。
7	安全及び疾病予防への配慮について理解する。
8	専門職として保育士の役割と職業倫理について学ぶ。

科目(教職課程用)	
教育職員免許法施行規則に定める科目区分または事項等	
教科書・参考書	
履修条件	オリエンテーションを事前におこない、実習生カードの提出や必要であれば車両通勤許可を得て、オリエンテーション報告書を学校に提出し、持参する必要書類(腸内検査等含む)を揃え、実習遵守事項を確認の上捺印し本実習にのぞむ。
履修上の注意	実習指導は実習準備の大切な授業である。そのため、本授業では以下の事に十分注意する事。 ・欠席時は、事前に教科担当者へ欠席とその理由の報告を行う。 ・特段の理由(病気や出席停止に該当するもの)無く、3回以上欠席した場合は、実習が可能か否かを学科で協議する場合がある。 ・遅刻や提出物の不備が続いた場合も減点の対象となり、場合によっては実習が可能か否かを協議することがある。 ・欠席した場合は、次回授業の準備に不足が無いよう、自ら考えて行動する事。 ・授業で毎時配布するプリントは、必要箇所の記入をすませ、まとめて綴じておく。 ・授業時間のうち、15分以上退室すると欠席扱いとなる。
オフィスアワー	授業、会議、実習巡回、出張等が入っていない場合は随時対応します。
備考・メッセージ	実習中は遅刻・欠席がないように心がけましょう。

講義科目名称:保育実習Ⅰ(保育所)(2年次)	授業コード:
英文科目名称:	ナンバリング:CE201

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
1年後期／2年前期	1～2	4	卒業:選択 保育士:必修	実習
担当教員				
戸田 恵理子 吉元 千加里 末岡 まゆり				

授業概要	保育所実習を通して、 1. 保育所・認定こども園の生活を知り、乳幼児への理解を深め、保育所の機能・保育士の職務について学ぶ 2. 既習の教科全体の知識・技能を基礎として、これらを総合的に実践する応用力を身につける 3. 子どもに直接関わることを通して、子どもや子どもを取り巻く環境について理解を深める 4. 保育の計画、観察、記録及び自己評価等について具体的に理解する 5. 保育士としての職業倫理と子どもの最善の利益の具体的内容について理解することを学習の目標とする。
------	--

資質・能力	授業における到達目標	評価方法	評価比率
心豊かな人間力	実習の意義・目的を理解し、子どもたちとの関わりを楽しみながら実習に臨むことができる。	・実習中の取り組み ・事前事後指導	15% 5%
確かな専門的知識や技能	保育士に必要な、保育に関する専門的知識・技能を積極的に習得することができる。	・実習施設からの評価 ・実習日誌	15% 5%
コミュニケーション能力	子どもとの関わりを通して、子どもの年齢や発達に応じた声かけや援助の方法を身につけることができる。	・実習施設からの評価	20%
課題解決能力	子どもの最善の利益を保障する日々の保育を理解し、場面に応じた課題解決法を見出すことができる。	・実習施設からの評価	15%
主体的に学ぶ力	日々の実習において、自己課題を明確にし、主体的に実習に臨むことができる。	・実習中の取り組み ・事前事後事後 ・実習日誌	15% 5% 5%
合計			100%
補足事項			
○実習施設からの評価 80% ○実習日誌 10% ○事前事後指導内容 10% を総合して評価を行う。 ※保育実習Ⅰの全体評価は「施設実習:50%」と「保育所実習:50%」で総合評価する			

実践実習(実習計画と学習内容)	
＜保育所での実習＞(1日 8時間以上×10日間)	
実習内容	
1	施設及び保育所・認定こども園の役割と機能について学ぶ
2	観察や記録を通し子どもを理解し、適切な援助や関わりを学ぶ
3	発達過程に応じた保育内容・保育環境について理解する
4	生活や余暇活動及び遊びの一部分を担当し、保育技術の習得をする
5	保育計画立案、実践、反省、改善ができる
6	施設及び保育所、認定こども園と家庭・地域社会との連携を理解する
7	安全及び疾病予防への配慮について理解する
8	専門職としての保育士の役割と職業倫理について学ぶ

科目(教職課程用)	
教育職員免許法施行規則に定める科目区分または事項等	
教科書・参考書	
履修条件	・保育実習Ⅰ(施設実習)を履修すること ・実習施設でのオリエンテーションを事前に行い、実習生カードの提出や 必要であれば車両通勤許可を得ること ・オリエンテーション報告書を作成し、巡回担当教員への提出及び事前指導の日程調整を行うこと ・持参する必要書類(腸内検査等含む)を揃え、誓約書・実習遵守事項等 書類を確認(捺印)し本実習に臨むこと ・実習の目的・内容を確認して必要な準備を確実に行うこと ・実習の事前・事後指導において、明確になった自己課題の解決に向けて 真摯な姿勢で取り組むこと
履修上の注意	・実習前後及び実習期間中の健康管理には十分留意する ・実習に関わる準備を丁寧に行う ・実習前の実習指導の授業出席3分の2以上の場合、実習参加を可とする
オフィスアワー	授業・実習巡回・会議研修などの業務以外は随時対応する
備考・メッセージ	積極的な姿勢で実習に臨み、実践を通し自らの気づきや学びを深めること

講義科目名称:保育実習Ⅱ	授業コード:
英文科目名称:	ナンバリング:CE401

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
前期	2年次	2単位	卒業:選択、保育士:選必選択必修	実習
担当教員				
戸田 恵理子 吉元 千加里 末岡 まゆり				

授業概要	保育所実習を通して、 1. 保育所・認定こども園の生活を知り、乳幼児への理解を深め、保育所の機能・保育士の職務について学ぶ 2. 既習の教科全体の知識・技能を基礎として、これらを総合的に実践する応用力を身につける 3. 子どもに直接関わることを通して、子どもや子どもを取り巻く環境について理解を深める 4. 保育の計画、観察、記録及び自己評価等について具体的に理解する 5. 保育士としての職業倫理と子どもの最善の利益の具体的内容について理解することを学習の目標とする。
------	--

資質・能力	授業における到達目標	評価方法	評価比率
心豊かな人間力	対人援助職である保育士の仕事に携わる者として、明るく柔和な態度と責任感を持ちながら行動できる。	・実習中の取り組み ・事前事後指導	15% 5%
確かな専門的知識や技能	保育に関する専門的知識・技能を実習現場で生かしながら、保育者からの指導助言を柔軟に受け止め、自身の知識・技術向上につなげることができる。	・実習施設からの評価 ・実習日誌	15% 5%
コミュニケーション能力	保育者の子どもや保護者との関係性に着目しながら、状況に応じたコミュニケーションの方法を習得することができる。	・実習施設からの評価	20%
課題解決能力	1日1日の実習を丁寧に振り返ることや、子ども・保育者との継続的な関係性のもとに成り立つ保育中の様々な場면을多面的に分析・考察することができる。	・実習施設からの評価	15%
主体的に学ぶ力	保育士としての職業倫理と子どもの最善の利益の具体的内容について理解しながら積極的に実習に臨むことができる。	・実習中の取り組み ・事前事後指導 ・実習日誌	15% 5% 5%
合計			100%
補足事項			
○実習施設からの評価 80% ○実習日誌 10% ○事前事後指導内容 10% を総合して評価を行う。			

実践実習(実習計画と学習内容)	
＜保育所での実習＞(1日8時間以上×10日間)	
(内容)	
1	保育全般に参加し、保育技術を修得する。
2	子どもの個人差について理解し、対応方法を理解する。特に発達の遅れや生活環境にともなう子どものニーズを理解し、その対応について具体的に学ぶ。
3	子どもの年齢・発達段階に応じた指導計画を立案し実践する。
4	子どもの家族とのコミュニケーションの方法を具体的に習得する。
5	地域社会に対する理解を深め、連携の方法について具体的に学ぶ。
6	子どもの最善の利益への配慮を学ぶ。
7	保育士としての職業倫理を理解する。
8	保育所の保育士に求められる資質・能力・技術に照らしあわせて自己の課題を明確化する

科目(教職課程用)	
教育職員免許法施行規則に定める科目区分または事項等	
教科書・参考書	
履修条件	・保育実習Ⅰ(保育実習)を履修すること ・実習施設でのオリエンテーションを事前に行い、実習生カードの提出や 必要であれば車両通勤許可を得ること ・オリエンテーション報告書を作成し、巡回担当教員への提出及び事前指導の日程調整を行うこと ・持参する必要書類(腸内検査等含む)を揃え、誓約書・実習遵守事項等 書類を確認(捺印)し本実習に臨むこと ・実習の目的・内容を確認して必要な準備を確実に行うこと ・実習の事前・事後指導において、明確になった自己課題の解決に向けて 真摯な姿勢で取り組むこと
履修上の注意	・実習前後及び実習期間中の健康管理には十分留意する ・実習に関わる準備を丁寧に行う ・実習前の実習指導の授業出席3分の2以上の場合、実習参加を可とする
オフィスアワー	授業・実習巡回・会議研修などの業務以外は随時対応する
備考・メッセージ	積極的な姿勢で実習に臨み、実践を通し自らの気づきや学びを深めること

講義科目名称:保育実習Ⅲ	授業コード:
英文科目名称:	ナンバリング:CE402

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
6Q	2	2	卒業:選択 保育士:選択必修	実習
担当教員				
花城 暢一 ・ 吉元 千加里 ・ 下池 洸史朗				

授業概要	1 年時の保育実習Ⅰ(施設)で学んだ実習内容を踏まえ、専門的知識・技術の習得、保育士の資質等を学習していく。本実習では以下の事項を学習の目標とする。 ①「保育実習Ⅰ」で体験し、習得した知識や理解内容をもとに、さらに施設保育士に必要な知恵や指導技術を身につけることができる。 ②児童福祉施設(保育所以外)、その他社会福祉施設の役割や機能について実際に実践し、保育士として必要な資質・能力・技術を習得することができる。 ③家庭と地域の生活に触れて、子ども、家庭福祉ニーズに対する理解力・判断力を養うとともに、子育てを支援するために必要とされる能力を身につけることができる。 ④児童に直接的に関わることを通して、児童や児童を取り巻く環境について理解を深めることができる。 ⑤保育士としての自己の課題を明確化することができる。
------	---

資質・能力	授業における到達目標	評価方法	評価比率
心豊かな人間力	家庭と地域の生活に触れて、子ども、家庭福祉ニーズに対する理解力・判断力を養うとともに、子育てを支援するために必要とされる能力を身につけることができる。	・実習中の取り組み ・巡回指導訪問	10% 5%
確かな専門的知識や技能	児童福祉施設(保育所以外)その他社会福祉施設の役割や機能について実際に実践し、保育士として必要な資質を習得することができる。	・実習施設からの評価 ・実習日誌	10% 10%
コミュニケーション能力	「保育実習Ⅰ」で体験し、習得した知識や理解内容をもとに、さらに施設保育士に必要な知識や指導技術を身につけることができる。	・実習施設からの評価	20%
課題解決能力	児童および利用者の生活課題を踏まえ、課題解決に必要な実践力を身につけることができる。	・実習施設からの評価 ・実習日誌	10% 10%
主体的に学ぶ力	実習の目標および自己課題を明確にしながら主体的に実習に臨む姿勢を身に着けることができる。	・実習中の取り組み ・振り返りレポート	10% 15%
合計			100%
補足事項			
○実習中の取り組み(20%)、○実習日誌(20%)、○実習施設からの評価(40%) ○振り返りレポート(15%)、○巡回訪問指導(5%)を総合評価して行なう。			

実践実習(実習計画と学習内容)	
＜保育所以外での施設実習＞(1日8時間以上×10日間)	
(内容)	
1	実習施設事前オリエンテーション(上記実習期間前に実施する)
	実習施設の理解① 目的、沿革、運営方針、環境(地理的、物的、人的)、1日の生活の流れ、児童の姿、子ども・利用者の姿
	実習施設の理解② 実習中の行事、実習計画(担当予定など)、実習中の心得(持ち物、服装等)、準備するものなど
2	(1)養護全般に参加し、養護技術を習得する。
	(2)個人差や生活環境に伴う子ども・利用者のニーズの把握とその理解。
	(3)子ども・利用者の観察や関わりを通して、児童の発達・利用者の援助を理解する。
	(4)子どもの最善の利益を具体化する方法について学ぶ。
	(5)子どもの家族とのコミュニケーションの方法を具体的に習得する。
	(6)保育士としての倫理を具体的に学ぶ。
	(7)児童福祉施設等の保育士に求められる資質・能力・技術に照らし合わせて、自己の課題を明確化する。
	(8)多様な専門職との連携や、地域社会との連携について学ぶ。

科目(教職課程用)	
教育職員免許法施行規則に定める科目区分または事項等	
教科書・参考書	
履修条件	オリエンテーションを事前におこない、実習生カードの提出や必要であれば車両通勤許可を得て、オリエンテーション報告書を学校に提出し、持参する必要書類(腸内検査等含む)を揃え、実習遵守事項を確認の上捺印し本実習にのぞむ。
履修上の注意	実習指導は実習準備の大切な授業である。そのため、本授業では以下の事に十分注意する事。 ・欠席時は、事前に教科担当者へ欠席とその理由の報告を行う。 ・特段の理由(病気や出席停止に該当するもの)無く、3回以上欠席した場合は、実習が可能か否かを学科で協議する場合がある。 ・遅刻や提出物の不備が続いた場合も減点の対象となり、場合によっては実習が可能か否かを協議することがある。 ・欠席した場合は、次回授業の準備に不足が無いよう、自ら考えて行動する事。 ・授業で毎時配布するプリントは、必要箇所の記入をすませ、まとめて綴じておく。 ・授業時間のうち、15分以上退室すると欠席扱いとなる。
オフィスアワー	授業、会議、実習巡回、出張等が入っていない場合は随時対応します。
備考・メッセージ	実習中は遅刻・欠席がないように心がけましょう。

講義科目名称:教育実習	授業コード:
英文科目名称:	ナンバリング:CE301

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
後期	2年	4単位	卒業:選択、幼免:必修	実習
担当教員				
戸田 恵理子 吉元 千加里 末岡 まゆり				

授業概要	すでに学んだ理論をもとに、幼稚園・認定こども園において実際に園児と接し、幼児の実態を知り、幼稚園教諭・保育教諭としての職務内容や役割について理解が深まるよう、以下の事項を目標とする。 1. 実習を通して幼児への理解を深め、幼児の発達に応じた保育内容と環境構成を学ぶ。 2. 自身の具体的な子どもとの関りや幼稚園教諭・保育教諭の保育を通して、保育における個々の援助の重要性及び総合的に保育を捉える視点を学ぶ。 3. 既習の学習全体の知識・技能を基礎とし、指導計画の作成と実践を通し、PDCAサイクルの重要性を理解する。 4. 専門職としての幼稚園教諭・保育教諭の職業倫理を学び、自己の課題を明確にする。 5. 多様な保育のニーズ・保護者支援・地域連携など幼稚園の社会的役割及び幼稚園教諭・保育教諭の職務内容や役割について理解を深める。
------	---

資質・能力	授業における到達目標	評価方法	評価比率
心豊かな人間力	実習の意義・目的を理解し、保育者に求められる専門性や専門職としての資質及び職業倫理を身に付けることができる	・実習園の評価	20%
確かな専門的知識や技能	幼稚園教諭・保育教諭の役割と仕事内容を理解し、専門的な知識や技能を習得することができる。	・実習園の評価 ・実習日誌	20% 5%
コミュニケーション能力	保育者との協同を通して、幼児の状況を理解しながら支援していく姿勢を身に付けることができる。	・実習園の評価	20%
課題解決能力	実習を通して、自らの課題をより明確にし、幼稚園教諭・保育教諭になるにあたっての課題解決に必要な実践力を身につけることができる。	・実習園の評価 ・事前事後指導	10% 5%
主体的に学ぶ力	実習の中で目標設定・計画・実践・振り返り・考察を繰り返し、自己課題を明確にしながら主体的に実習に臨むことができる。	・実習園の評価 ・実習日誌 ・事前事後指導	10% 5% 5%
合計			100%
補足事項			
○実習園の評価 80% ○実習日誌 10% ○事前事後指導 10% ※以上を総合して評価を行う			

実践実習(実習計画と学習内容)

＜幼稚園での実習＞ 1日8時間以上×20日間	
(内容)	
1	保育全般に参加し、保育技術を習得する
2	子どもとの関りを通して年齢発達・個人差について理解し、それに応じた保育方法を学ぶ
3	安全・健康に配慮した物的環境や人的配慮について理解する
4	子どもの姿に応じた保育計画を立案し、実践と振り返りを行う中で保育における PDCA サイクルを学ぶ
5	様々な家庭環境や発達の遅れに伴う個々の子どもに対する配慮について理解し、その具体的方法について学ぶ
6	幼稚園・こども園に求められる保育ニーズや子育て支援・地域連携等について具体的に学ぶ
7	幼稚園教諭・保育教諭としての職業倫理を理解する
8	幼稚園教諭・保育教諭に求められる資質・能力・技術に照らし合わせ自己の課題を明確化する

科目(教職課程用)	教育実践
教育職員免許法施行規則に定める科目区分または事項等	教育実習
教科書・参考書	
履修条件	・実習の目的・内容を確認して必要な準備を確実に行うこと ・事前事後指導を受け、明確になった自己課題の解決に向けて真摯な姿勢で取り組むこと ・持参する必要書類(腸内検査等含む)を揃え、誓約書・実習遵守事項を確認(捺印)し本実習に臨むこと
履修上の注意	実習実施前の「実習指導Ⅰ」への授業出席が2/3以上ある者に教育実習Ⅰへの参加を認める
オフィスアワー	授業・実習巡回・会議研修などの業務以外は随時対応する
備考・メッセージ	積極的な姿勢で実習に臨み、実践を通し自らの気づきや学びを深めること

講義科目名称:実習指導(保育実習指導Ⅰ・教育実習指導)(1年次)	授業コード:
	ナンバリング:CE202

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
1年4Q／2年5Q	1	2	卒業:選択 保育士:必修 幼免:必修	演習
担当教員				
花城 暢一 ・吉元 千加里 ・ 下池 洸史朗				

授業概要	授業では、保育士資格の取得のために必要な施設実習について専門的な知識・技術、実習生としての姿勢を学習していく。本授業では以下の事項を学習の目標とする。 ① 施設実習の 意義・目的を理解する。 ② 実習内容 を理解し、実習生としての心構えを学び、自らの 実習の課題を明確化する。 ③ プライバシーの保護と守秘義務について 理解する。 ④ 子どもの人権と最善の利益の尊重の具現化について 理解する。 ⑤ 実習の計画・実践・観察・記録・評価の方法や内容について具体的に理解する。 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、今後の学習に向けた課題や目標を明確にする。
------	---

資質・能力	授業における到達目標	評価方法	評価比率
心豊かな人間力	実習の意義・目的を理解し、 保育者に求められる専門性や専門職としての資質を 述べることができる	・学習に取り組む姿勢	5%
確かな専門的知識や技能	保育者の役割と仕事内容を理解し、保育者 に求められる専門的な知識や技能について述べる ことができる	・確認テスト ・小テスト	50% 10%
コミュニケーション能力	関係者との協働を通して、児童や利用者の状況を理解しながら支援していくために必要なことを述べる ことができる	・確認テスト	10%
課題解決能力	児童および利用者の人権と最善の利益の考察、プライバシーの保護と守秘義務等について理解し、 課題解決に必要な 知識について述べる ことができる	・確認テスト	10%
主体的に学ぶ力	実習の計画・ 実践 ・ 観察 ・ 記録 ・ 評価の方法や内容について具体的に理解し、実習の目標および自己課題を明確にしながら主体的に実習に臨むことができる	・確認テスト ・事前準備	10% 5%
合計			100%
補足事項			

授業計画	授業の内容	実施形式	予習・復習の内容と時間
1回目	実習オリエンテーション 実習とは 施設・幼稚園・保育実習について	対面授業	予習:教科書p8 11 を読み、まとめる(2 時間) 復習:幼稚園・保育所・施設実習の内

	施設実習までのスケジュール 施設実習の基本理解		容(意義・目的)について理解する2時間)
2回目	実習までに確認する事・身に付けておくべき事障がい者施設及び事業所について①	対面授業	予習;教科書p16 37、62、89を読み、まとめる(2時間) 復習;各実習施設について授業内容を振り返り、要点をまとめる(2時間)
3回目	障がい者施設及び事業所について②	対面授業	予習;教科書p16-37、62、89を読み、まとめる(2時間) 復習;p20を完成させ、また実習期間の日程、施設での生活支援などについて要点をまとめる(2時間)
4回目	施設および障害についての学習 実習施設希望調査	対面授業	予習;自らが実習で何を学びたいかを考える(2時間) 復習;希望した施設のうち、実習可能な施設を整理し、希望調査を完成させる(2時間)
5回目	実習日誌について① 実習日誌とは	対面授業	予習;教科書p90-95を読み、まとめる(2時間) 復習;実習中の記録(日誌の構成と内容)について理解を深める。教科書p97を完成させる(2時間)
6回目	保健衛生について インフルエンザ予防接種について	対面授業	予習;子どもの保健の教科書やプリントを見て、復習をしておく(2時間) 復習;授業内容を振り返り、要点をまとめる(2時間)
7回目	実習日誌について② 日誌の書き方	対面授業	予習;教科書p98-100を読み、まとめる(2時間) 復習;p100を完成させる(2時間)
8回目	守秘義務・実習におけるトラブルシューティング・遵守事項・緊急連絡先について	対面授業	予習;教科書p42-43、116、122を読み、まとめる(2時間) 復習;実習に関する個人情報の保護、守秘義務、人権尊重等について要点をまとめる(2時間)
9回目	リーダー決め、実習先(施設)の事前学習、課題設定について	対面授業	予習;教科書p44-47、112を読み、まとめる(2時間) 復習;授業内容を振り返り、要点をまとめる(2時間)
10回目	実習課題設定・振り返りについて *実習生カード下書き提出	対面授業	予習;教科書p112-115を読み、まとめる(2時間) 復習;立案した実習課題が実現可能なものであるか、課題解決方法について具体的に考察する(2時間)
11回目	日誌の書き方③ 日誌の確認(名前記入など) 責任実習について	対面授業	予習;p102-111を読み、まとめる(2時間) 復習;授業内容を振り返り、要点をまとめる(2時間)
12回目	実習生カード清書・書類配布 お礼状について、腸内検査について①	対面授業	予習;教科書p124-125を読み、まとめる(2時間) 復習;授業を振り返り、要点をまとめる(2時間)
13回目	オリエンテーションについて・電話のかけ方・訪問の仕方・応答の仕方腸内検査②	対面授業	予習;p48-57を読み、まとめる(2時間) 復習;電話のかけ方、オリエンテーションでの質問項目等について要点をまと

			める(2 時間)
14回目	実習最終準備 事前指導・事後指導について 書類作成(遵守事項・誓約書・車両通勤 許可書)	対面授業	予習;p126-131 を読み、まとめる(2 時間) 復習;施設実習の留意点・遵守事項等 について要点をまとめる(2時間)
15回目	実習時の学び・実習後のQand A 実習確認テスト	対面授業	予習;p132-138 を読み、まとめる(2 時間) 復習;授業内容を振り返り、要点をまと める。確認テストの内容を振り返る。(2 時間)
16回目	書類作成(出勤簿・評価表) 遵守事項等返却	対面授業	
17回目	事後指導	対面授業	予習;実習時の記録を振り返り、自己 の課題を明確にしておく(2時間) 復習;振り返りを基に保育士としての 自己課題をまとめる(2 時間)
			授業外学修時間 64時間

科目(教職課程用)	
教育職員免許法施行規 則に定める科目区分ま たは事項等	
教科書・参考書	テキスト:『施設実習 パーフェクトガイド』守 巧 他 著 わかば社 参 考 書:関連資料 実習日誌
履修条件	
履修上の注意	実習指導は実習準備の大切な授業である。そのため、本授業では以下の 事 に十分 注意する事。 ・欠席時は、事前に教科担当者へ欠席とその理由の報告を行う。 ・特段の理由(病気や出席停止に該当するもの)無く、3 回以上欠席した 場合は、実習が可能か否かを学科で協議する場合がある。 ・遅刻や提出物の不備が続いた場合も減点の対象となり、場合によっては実習 が可能か否かを協議することがある。 ・欠席した場合は、次回授業の準備に不足が無いよう、自ら考えて行動する事。 ・授業で毎時配布するプリントは、必要箇所の記入をすませ、まとめて綴じてお く。 ・授業時間のうち、15分以上退室すると欠席扱いとなる。
オフィスアワー	授業、会議、実習巡回、出張等が入っていない場合は随時対応します
備考・メッセージ	レポートや実習に必要な書類などの提出期限厳守

講義科目名称:実習指導(保育実習指導Ⅰ・教育実習指導)(2年次)	授業コード:
	ナンバリング:CE202

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
1年後期／2年前期	1	2	卒業:選択、保育士:必修、幼免:必修	演習
担当教員				
戸田 恵理子 吉元 千加里 末岡 まゆり				

授業概要	資格取得のために必要な専門的知識・技術の習得、実習生としての姿勢を習得していく。本授業では以下の事項を学習の目的とする。 1 保育者としての職業倫理を理解する実習園の概要を理解する実習園の保育の目標を理解する。 2 実習記録の意義と方法を習得する指導計画立案をする模擬保育等を行い多様な保育技術の習得をする。 3 実習の自己課題を明確にする子どもの発達を理解する実習に必要な書類の確認・提出や遵守事項に沿った実習内容に取り組む。 4 実習後の自己点検・自己評価をするグループディスカッションやロールプレイによって実習の振り返りをおこない、実習の成果や新たな学習課題を確認する。 5 保育者の仕事の現状を丹念に把握しながら保育者としての資質向上への意欲を持つ。
------	--

資質・能力	授業における到達目標	評価方法	評価比率
心豊かな人間力	実習の意義・目的を理解し、保育者に求められる専門性や専門職としての資質を身に着けることができる	・学習に取り組む姿勢	5%
確かな専門的知識や技能	保育者の役割と仕事内容を理解し、保育者に求められる専門的な知識や技能について述べるができる	・小テスト ・確認テスト ・指導案 ・レポート	10% 20% 20% 10%
コミュニケーション能力	保育施設における関係者との協働を通して、入園・入所している子どもの状況を理解しながら援助していくために必要なことがらを述べるができる	・グループワーク	10%
課題解決能力	幼稚園・保育所・認定こども園における実習の目的・内容・方法を理解することができる。 「事前指導」では、各自の学習内容や課題を明確にする。 「事後指導」では、実習で得た学習内容を振り返り、多面的に検討する視点を持つことができる。 実習での反省・評価を行うことを通して課題解決に必要な知識について述べるができる。	・事前準備 ・確認テスト	5% 10%
主体的に学ぶ力	実習の計画・実践・観察・記録・評価の方法や内容について具体的に理解し、実習の目標および自己課題を明確にししながら主体的に実習に臨むことができる。	・確認テスト	10%
合計			100%

補足事項
確認テスト40% 指導案20% 小テスト10% レポート10% グループワーク10% 学習に取り組む姿勢5% 事前準備5% を総合して評価する。 ①資料・課題はオンラインで実施する前に配布します。 保育者としての自分を認識するため予習・復習をして受講して下さい。 ②対面授業時に説明及び自己採点と解釈をします。定期試験後に解答を開示します。 ③オンライン授業時は、カメラは基本的に「ON」、発言時以外は、マイクは「OFF」で 受講して下さい。 ④課題やレポートはGoogle Classroom、WordやExcelを必要に応じて活用して下さい。 ⑤授業開始から15分経過した遅刻、授業開始から15分以前の早退及び授業時間中15分以上離席した際は欠席扱いとし、遅刻3回で欠席1回とみなします。

授業計画	授業の内容	実施形式	予習・復習の内容と時間
1回目	幼稚園教育実習の意義・目的について ・確認シートの内容を理解し、実習の目的及び自己課題について説明できる ・守秘義務について理解する	面接授業 (オンライン等の対応可能)	予習: シラバス確認 (2時間) 復習: 確認シートの完成 (2時間)
2回目	幼稚園教育実習に向けて ・幼稚園・認定こども園(幼児部)の1日の流れについて理解する ・保育及び実習のねらいなど日誌の記入項目について説明できる(確認)	面接授業 (オンライン等の対応可能)	予習: 幼稚園の1日の生活の流れと内容を確認する(2時間) 復習: 日々のねらいの立て方について参考資料をもとに確認する(2時間)
3回目	オリエンテーション及び事前指導について ・オリエンテーション報告書の項目について説明できる ・実習生カードの作成の目的や記入内容について説明できる ・園への電話のかけ方や訪問について説明できる ・事前指導についての手続きについて説明できる	面接授業 (オンライン等の対応可能)	予習: 実習先のホームページを確認し、教育方針や保育内容について整理する(2時間) 復習: 幼稚園教育実習Ⅰ実習生カード(下書き)作成(2時間)
4回目	・幼稚園教育実習先オリエンテーション ・実習内容について実習施設側と確認を行うことができる	対面 (オンライン等の対応可能)	予習: 実習先とのオリエンテーション内容を再確認する(2時間) 復習: オリエンテーション報告書を作成し必要な書類・証明書等の発行手続きを行う(2時間)
5回目	実習書類に関する書類の作成について ・評価表・出勤簿の作成や持参書類(証明書等の申請)を確認する。 ・実習通勤方法や実習期間中の連絡・相談方法について説明できる。 ・実習にかかわる誓約書、遵守事項の内容について理解する。	面接授業 (オンライン等の対応可能)	予習: 実習期間や実習内容について確認する(2時間) 復習: 車両通勤許可証や申請書類等について実習初日の提出物などのリストを作成する(2時間)
6回目	教育実習内容の理解について(確認テスト) ・教育実習の目的等について理解できる。	面接授業 (オンライン等の対応可能)	予習: 実習期間や実習内容について確認する(2時間) 復習: 授業内容を振り返り、要点をまとめる。確認テストの内容を振り返る(2時間)

7回目	保育実践に向けた指導案立案について ・3歳児・4歳児・5歳児の年齢・発達段階・興味関心に応じた活動について理解する。 ・保育実践に必要な用具・準備内容をイメージした立案・見本作成・シミュレーションを行う必要性を理解する。	面接授業 (オンライン等の対応可能)	予習: 1年次の指導案のチェックと反省・改善(2時間) 復習: 担当クラスの指導案立案(2時間)
8回目	保育実践について ・グループ毎、担当年齢の保育実践に必要な保育環境を設定することができる。 ・実践を通じた振り返りを行い、子どもの姿に応じた保育者の配慮・援助事項に気づき説明することができる。	面接授業 (オンライン等の対応可能)	予習: グループメンバーと模擬保育に必要な準備物等の確認を行う(2時間) 復習: 感想レポートの作成・提出(2時間)
9回目	幼稚園教育実習Ⅰ 直前指導 ・確認チェックシートの項目を確認し、健康観察カード及び腸内検査結果の同封することをリーダーと共に確認することができる。	対面実施	予習: 自身の実習施設のホームページ確認(2時間) 復習: 各保育施設の教育・保育方針等を整理し実習・就職活動までの流れを理解する(2時間)
10回目	幼稚園教育実習Ⅰ 期間(6月1日～6月14日) ・巡回担当者と実習状況等の確認を通して改善点を具体的に理解・把握した上で、今後の実習に取り組むことができる	面接授業 (オンライン等の対応可能)	予習: 翌日の保育活動の確認を行う(2時間) 復習: 日誌記入を通して、ねらいに対する振り返りを行う(2時間)
11回目	実習直後の振り返り・自己評価 ・「実習報告会」の中で自身の実習体験の報告と、幼稚園教育実習Ⅱに向けた具体的な自己課題の設定ができる。	面接授業 (オンライン等の対応可能)	予習: 日誌の受取及び実習担当者への提出日確認(1時間) 復習: 幼稚園教育実習Ⅱ実習生カード(下書き)作成(2時間)
12回目	保育実習Ⅰ(保育所)の意義・目的について ・確認シートの内容を理解し、実習の目的及び自己課題について説明できる。 ・オリエンテーション実施に必要な連絡や準備内容について説明できる。 ・実習生カードの作成の目的や記入内容について説明できる。 ・オリエンテーション後の事前指導に関する手続きについて説明することができる。	面接授業 (オンライン等の対応可能)	予習: シラバス参照し保育所実習の内容にて確認する(2時間) 復習: 実習生カード及びオリエンテーション報告書の作成(2時間)
13回目	保育実習Ⅰ(保育)に向けて ・保育所・認定こども園(乳児部)のデイリープログラムについて理解する ・保育及び実習のねらいなど日誌の記入項目について説明できる(確認)	面接授業 (オンライン等の対応可能)	予習: 保育所のデイリープログラムを確認する(2時間) 復習: 日々のねらいの立て方について参考資料をもとに確認する(2時間)
14回目	子どものあそび・発達段階を理解 (保育所実習に向けた模擬保育計画) ・3歳未満児へのかかわりについて理解する。 ・0歳児・1歳児・2歳児の年齢・発達の個人差・興味関心に応じた活動について説明できる。 ・保育実践に必要な用具・準備内容をイメージした立案・見本作成・シミュレーションを行う必要性について説明できる。	面接授業 (オンライン等の対応可能)	予習: 3歳未満児の保育内容について指針をもとに整理する(2時間) 復習: 複数担任制であることと、個別的なかわりに配慮した指導案立案(2時間)
15回目	保育実習内容の理解について(確認テスト) ・保育実習の目的等について理解できる。	面接授業 (オンライン等の対応可能)	予習: 実習期間や実習内容について確認する(2時間) 復習: 授業内容を振り返り、

		能)	要点をまとめる。確認テストの内容を振り返る(2時間)
16回目	実習書類に関する書類の作成について ・評価表・出勤簿の作成や持参書類(証明書等の申請)を確認する。 ・実習通勤方法や実習期間中の連絡・相談方法について説明できる。 ・実習にかかわる誓約書、遵守事項の内容について理解する。	面接授業 (オンライン等の対応可能)	予習:実習期間や実習内容について確認する(2時間) 復習:車両通勤許可証や申請書類等について実習初日の提出物などのリストを作成する(2時間)
			授業外学修時間

科目(教職課程用)	
教育職員免許法施行規則に定める科目区分または事項等	
教科書・参考書	テキスト:幼稚園・保育所・認定こども園実習パーフェクトガイド 小櫃智子・守 巧・佐藤 恵・小山朝子 わかば社 実習日誌・実習指導案パーフェクトガイド 小櫃智子・田中君枝・小山朝子・遠藤純子 参考書 平成29年告示 『幼稚園教育要領』文部科学省 2017 年 『保育所保育指針』厚生労働省 2017 年 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』内閣府・文部科学省・厚生労働省 2017 年 他、内容に応じて必要なプリントを配布
履修条件	実習前の実習指導の授業出席3分の2以上の場合、実習参加を可とする
履修上の注意	実習指導は実習準備の大切な授業である。そのため、本授業では以下の事に十分注意する事。 ・欠席時は、事前に教科担当者へ欠席とその理由の報告を行う。 ・特段の理由(病気や出席停止に該当するもの)無く、3回以上欠席した場合は、実習が可能か否かを学科で協議する場合がある。 ・遅刻や提出物の不備が続いた場合も減点の対象となり、場合によっては実習が可能か否かを協議することがある。 ・欠席した場合は、次回授業の準備に不足が無いよう、自ら考えて行動する事。 ・授業で毎時配布するプリントは、必要箇所の記入をすませ、まとめて綴じておく。 ・授業時間のうち、15分以上退室すると欠席扱いとなる。
オフィスアワー	授業、会議、実習巡回等が入っていない場合は随時対応する
備考・メッセージ	授業内でのレポートや実習に必要な書類の準備等の提出期限厳守すること 日頃より報告・連絡・相談を心掛けや取り組む姿勢を意識すること

講義科目名称:保育実習指導Ⅱ	授業コード:
英文科目名称:	ナンバリング:CE302

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
前期(集中講義)	2年次	1	保育士:選択必修	演習
担当教員				
戸田 恵理子 吉元 千加里 末岡 まゆり				

授業概要	1. 保育実習の意義と目的を理解し、保育について総合的に理解する。 2. 実習や既習の教科目の内容やその関連性を踏まえ、保育の実践力を習得する。 3. 保育の観察、記録及び自己評価等を踏まえた保育の改善について、実践や事例を通して理解する。 4. 保育士の専門性と職業倫理について理解する。 5. 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にする。
------	---

資質・能力	授業における到達目標	評価方法	評価比率
心豊かな人間力	子どもに関わる「保育」という職業において、あたたかなまなざしや優しさを持ち、子ども・保育者・保護者に対する重要性を理解できる。	・学習に取り組む姿勢	5%
確かな専門的知識や技能	既習の学習内容と関連させ専門的知識を活用し、保育の実践につなげる応用力を身に着けることができる。	・確認テスト ・レポート	20% 10%
コミュニケーション能力	グループディスカッションやロールプレイによって 実習の振り返りをおこない、実習の成果や新たな学習課題を確認する。	・指導案 ・保育実践(模擬保育等)	10% 10%
課題解決能力	実習を通して明らかになった自己課題を、様々な観点から分析し保育の実践力を高めていくことができる。	・確認テスト ・保育実践(模擬保育等) ・レポート	10% 10% 10%
主体的に学ぶ力	授業への意欲、提出書類の正確さ、事前準備(指導案立案)や実習後の対応含め実習全体を振り返り総合して評価を行うことができる。	・レポート ・事前準備	10% 5%
合計			100%

補足事項	
確認テスト30%、指導案10%、保育実践20%、レポート30%、事前準備5%、学習に取り組む姿勢5%を総合して評価する。 1 資料・課題はオンラインで実施する前に配布します。保育者としての自分を認識するため予習・福習をして受講して下さい。 2 対面授業時に説明及び自己採点と解釈をします。定期試験後に解答を開示します。 3 オンライン授業時は、カメラは基本的に「ON」、発言時以外は、マイクは「OFF」にして下さい。 4 課題やレポートの提出方法については授業時に確認対応して下さい。。	

5 授業開始から15分以前の早退及び授業時間中15分以上離席した際は欠席扱い、授業開始から15分経過した遅刻3回で欠席1回とみなします。

授業計画	授業の内容	実施形式	予習・復習の内容と時間
1回目	保育実習Ⅱに向けて ・保育実習Ⅱの内容及び到達目標について ・実習に行くための要件について ・実習に臨むための事前準備について	面接授業 (オンライン 等の対応可能)	予習:事前配布資料に目を通しておく 復習:保育実習Ⅱの内容及び評価項目を提示し、実習に臨むにあたり必要な準備・心構えを確認する
2回目	保育実習による総合的な学び ・子どもの最善の利益を考慮した保育について説明できる	面接授業 (オンライン 等の対応可能)	予習:保育所保育指針 1章・4章を読んでおく(2時間) 復習:実習園で取り組んでいる保護者支援内容についてレポートを作成する(2時間)
3回目	計画と観察、記録、自己評価Ⅰ ・保育の全体計画に基づく具体的な計画について理解する ・実習経験をもとに、記録から保育者の視点やかかわりや子どもの行動の変容について整理を通して理解する	面接授業 (オンライン 等の対応可能)	予習:日誌を通して、子ども・保育者・実習生に関する記述を抽出する(2時間) 復習:保育場面の捉え方、記録の方法などについて振り返り、実習シートにまとめる。
4回目	計画と観察、記録、自己評価Ⅱ ・保育の観察、記録、自己評価に基づく保育の改善について説明できる ・乳幼児の保育の流れを踏まえた保育を計画することができる(指導案立案)	面接授業 (オンライン 等の対応可能)	予習:保育者の具体的な援助の内容及び方法について考えをまとめておく(2時間) 復習:担当年齢の指導案を立案する(2時間)
5回目	保育の実践力の育成Ⅰ ・子どもの姿に応じた適切な保育者の援助について説明できる ・模擬保育に必要な準備・実践内容を理解しメンバーと協力して取り組むことができる	面接授業 (オンライン 等の対応可能)	予習:立案の際、保育者の具体的な援助の内容及び方法について熟考する(2時間) 復習:担当年齢の指導案立案において内容の共有をメンバーと共に十分に行う(2時間)
6回目	保育の実践力の育成Ⅱ ・保育の知識・技術を活かした保育実践(1歳児)にメンバーと協力して取り組むことができる	面接授業 (オンライン 等の対応可能)	予習:模擬保育において主担当・補助の保育士との連携をはかる(2時間) 復習:1歳児の模擬保育を通して振り返りを行う(2時間)
7回目	保育の実践力の育成Ⅲ ・保育の知識・技術を活かした保育実践(2歳児)にメンバーと協力して取り組むことができる	面接授業 (オンライン 等の対応可能)	予習:模擬保育において主担当・補助の保育士との連携をはかる(2時間) 復習:2歳児の模擬保育を通して振り返りを行う(2時間)
8回目	保育の実践力の育成Ⅳ ・保育の知識・技術を活かした保育実践(3歳児)にメンバーと協力して取り組むことができる	面接授業 (オンライン 等の対応可能)	予習:模擬保育において主担当・補助の保育士との連携をはかる(2時間) 復習:3歳児の模擬保育を通して振り返りを行う(2時間)
9回目	保育の実践力の育成Ⅳ ・保育の知識・技術を活かした保育実践(5歳児)にメンバーと協力して取り組むことができる	面接授業 (オンライン 等の対応可能)	予習:模擬保育において主担当・補助の保育士との連携をはかる(2時間) 復習:5歳児の模擬保育を通して振り返りを行う(2時間)
10回目	保育所実習に向けてⅠ(保育の合同面談会)	面接授業 (オンライン)	予習:実習園の参加があるか事前に参加教育・保育施設について調べて

	・実習園(保育所・認定こども園)の保育について理解することができる	等の対応可能)	おく(2時間) 復習:見学・自主実習・採用試験に関する情報収集ができるよう参加施設一覧をもとに訪問する(2時間)
11回目	保育所実習に向けてⅡ(保育の合同面談会) ・実習園(保育所・認定こども園)の保育について理解することができる	面接授業 (オンライン等の対応可能)	予習:訪問等の希望園がある場合、質問事項をまとめておく(2時間) 復習:オリエンテーション・自主実習・採用試験に関する情報収集ができるよう積極的に参加を目指す(2時間)
12回目	保育士の専門性と職業倫理Ⅰ (佐世保市保育士会等) ・保育士の業務内容や職業倫理について理解することができる	面接授業 (オンライン等の対応可能)	予習:保育士倫理綱領に目を通しておく(2時間) 復習:現場保育者の講話から実習に向けての準備事項を整理する(2時間)
13回目	保育士の専門性と職業倫理Ⅱ (佐世保市保育士会等) ・保育士の業務内容や職業倫理について理解することができる	面接授業 (オンライン等の対応可能)	予習:自身がイメージする保育の仕事について考えをまとめておく(2時間) 復習:現場保育者の講話から自身が目指す保育者像についてレポートを作成する(2時間)
14回目	事後指導における実習の総括と評価Ⅰ ＜帰校日＞ ・保育実習Ⅰ(保育所)の自己評価を通して実習内容を振り返ることができる	面接授業 (オンライン等の対応可能)	予習:保育実習Ⅰの日誌から子どもを捉える視点の変化を整理する(2時間) 復習:保育実習Ⅰ(10日間)を通して子どもへのかかわりの変容を加筆修正する(2時間)
15回目	事後指導における実習の総括と評価Ⅱ ＜帰校日＞ ・グループディスカッションを通して、実習経験を共有することができる ・保育実習Ⅱ(保育所)に向けた自己課題を設定することができる	面接授業 (オンライン等の対応可能)	予習:保育実習Ⅰの日誌から保育者の具体的な援助についての記述を整理する(2時間)。 復習:保育実習Ⅱ(10日間)に向けて設定した自己課題の具体的な解決策を掲げる(2時間)
			授業外学修時間 60時間

科目(教職課程用)	
教育職員免許法施行規則に定める科目区分または事項等	
教科書・参考書	テキスト:幼稚園・保育所・認定こども園実習パーフェクトガイド 小櫃智子・守 巧・佐藤 恵・小山朝子 わかば社 参考書 『幼稚園教育要領』文部科学省 2017 年 『保育所保育指針』厚生労働省 2017 年 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』内閣府・文部科学省・厚生労働省 2017 年 他、内容に応じて必要なプリントを配布
履修条件	実習前の実習指導の授業出席3分の2以上の場合、実習参加を可とする
履修上の注意	毎回の予習・復習実施の上、受講すること
オフィスアワー	(前期)月曜日の1・2限目(研究室) (後期)木曜日の1・2限目(研究室)

	授業時間・会議等以外の時間は対応可能
備考・メッセージ	オリエンテーション報告書提出も含む事前事後指導時に必要な書類(提出物)を 期日までに揃えること 日頃より物事へ丁寧に取り組むことを意識すること

講義科目名称:保育実習指導Ⅲ	授業コード:
英文科目名称:	ナンバリング:CE303

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
5Q	2	1	卒業:選択 保育士:選択必修	演習(集中講義)
担当教員				
花城 暢一 ・ 吉元 千加里 ・ 下池 洸史朗				

授業概要	授業では、保育士 資格の取得のために必要 な 施設実習について専門的な 知識・技術、実習生としての姿勢を学習していく。本授業 では 保育実習Ⅰ(施設)で習得した知識や技術をさらに向上していくために以下の事項を学習の目標とする。 ① 保育実習Ⅲ(施設)の意義と目的を理解し、保育について総合的に理解する。 ② 実習内容および実習課題を明確化する。 ③ 保育の観察、記録及び自己評価等を踏まえた保育の改善について、実践や事例を通して理解する。 ④ 子どもおよび利用者の最善の利益と職業倫理について理解する。 ⑤ 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にする。 ⑥ 社会資源と関係機関との連携を理解する。 ⑦ 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にする。
------	---

資質・能力	授業における到達目標	評価方法	評価比率
心豊かな人間力	家庭と地域の生活に触れて、子ども、家庭福祉ニーズに対する理解力・判断力を養うとともに、子育てを支援するために必要とされる能力を身につけることができる。	・学習に取り組む姿勢	40%
確かな専門的知識や技能	児童福祉施設(保育所以外)その他社会福祉施設の役割や機能について実際に実践し、保育士として必要な資質を習得することができる。	・レポート課題	10%
コミュニケーション能力	「保育実習Ⅰ」で体験し、習得した知識や理解内容をもとに、さらに施設保育士に必要な知識や指導技術を身につけることができる。	・レポート課題	10%
課題解決能力	児童および利用者の生活課題を踏まえ、課題解決に必要な実践力を身につけることができる。	・レポート課題	20%
主体的に学ぶ力	実習の目標および自己課題を明確にしながら主体的に実習に臨む姿勢を身に着けることができる。	・レポート課題	20%
合計			100%
補足事項			
○授業内レポート(40%) ○振り返りレポート(20%) ○授業の取り組み(40%)を総合評価しておこなう。			

授業計画	授業の内容	実施形式	予習・復習の内容と時間
1回目	オリエンテーション・保育実習Ⅰの振り返りと自己課題の明確化 保育実習Ⅲ(施設)の意義と目的について、保育実習Ⅰにおける反省と自己課題の設定	対面授業	予習: 授業内容に合わせた振り返りをする(2時間) 復習: 配布資料や授業内容をまとめ、ファイルに整理する(2時間)
2回目	保育実習Ⅲ実習先についての内容と理解 各実習施設を理解する	対面授業	予習: 授業内容に合わせた振り返りをする(2時間) 復習: 配布資料や授業内容をまとめ、ファイルに整理する(2時間)
3回目	施設種別毎の理解と実習内容 保育実習Ⅲの実習施設について理解する	対面授業	予習: 授業内容に合わせた振り返りをする(2時間) 復習: 配布資料や授業内容をまとめ、ファイルに整理する(2時間)
4回目	施設種別毎の理解と実習内容 保育実習Ⅲの実習施設について理解する	対面授業	予習: 授業内容に合わせた振り返りをする(2時間) 復習: 配布資料や授業内容をまとめ、ファイルに整理する(2時間)
5回目	実習先の決定 実習施設を決める	対面授業	予習: 授業内容に合わせた振り返りをする(2時間) 復習: 配布資料や授業内容をまとめ、ファイルに整理する(2時間)
6回目	養護技術を習得する 施設実習での生活援助について学ぶ	対面授業	予習: 授業内容に合わせた振り返りをする(2時間) 復習: 配布資料や授業内容をまとめ、ファイルに整理する(2時間)
7回目	子ども・利用者の個人差・ニーズについて理解する 子ども・利用者のニーズについて学ぶ	対面授業	予習: 授業内容に合わせた振り返りをする(2時間) 復習: 配布資料や授業内容をまとめ、ファイルに整理する(2時間)
8回目	実習計画を立案する 保育実習Ⅰの内容を基に実習Ⅲの計画の立案を行う	対面授業	予習: 授業内容に合わせた振り返りをする(2時間) 復習: 配布資料や授業内容をまとめ、ファイルに整理する(2時間)
9回目	保育技術の発表と反省・評価① 指導案立案・実践・振り返り①	対面授業	予習: 授業内容に合わせた振り返りをする(2時間) 復習: 配布資料や授業内容をまとめ、ファイルに整理する(2時間)
10回目	保育技術の発表と反省・評価② 指導案立案・実践・振り返り②	対面授業	予習: 授業内容に合わせた振り返りをする(2時間) 復習: 配布資料や授業内容をまとめ、ファイルに整理する(2時間)
11回目	関係機関との連携方法を具体的事例で学ぶ 事例検討(グループワーク)	対面授業	予習: 授業内容に合わせた振り返りをする(2時間)

			復習:配布資料や授業内容をまとめ、ファイルに整理する(2時間)
12回目	地域社会との連携について学ぶ 事例検討(グループワーク)	対面授業	予習:授業内容に合わせた振り返りをする(2時間) 復習:配布資料や授業内容をまとめ、ファイルに整理する(2時間)
13回目	実習先事前訪問の理解 オリエンテーションの準備	対面授業	予習:授業内容に合わせた振り返りをする(2時間) 復習:配布資料や授業内容をまとめ、ファイルに整理する(2時間)
14回目	お礼状の書き方・反省会について 実習の振り返りについて	対面授業	予習:授業内容に合わせた振り返りをする(2時間) 復習:配布資料や授業内容をまとめ、ファイルに整理する(2時間)
15回目	施設実習直前の全体的事前指導 実習内容、心得注意等	対面授業	予習:授業内容に合わせた振り返りをする(2時間) 復習:配布資料や授業内容をまとめ、ファイルに整理する(2時間)
			授業外学修時間 60時間

科目(教職課程用)	
教育職員免許法施行規則に定める科目区分または事項等	
教科書・参考書	テキスト:『施設実習 パーフェクトガイド』守 巧 他 著 わかば社 参 考 書:関連資料 実習日誌
履修条件	
履修上の注意	1回目～4回目の授業は、5Qの5月～7月に実施する。(予定) 実習指導は実習準備の大切な授業である。そのため、本授業では以下の事に十分注意する事。 ・欠席時は、事前に教科担当者へ欠席とその理由の報告を行う。 ・特段の理由(病気や出席停止に該当するもの)無く、3 回以上欠席した場合は、実習が可能か否かを学科で協議する場合がある。 ・遅刻や提出物の不備が続いた場合も減点の対象となり、場合によっては実習が可能か否かを協議することがある。 ・欠席した場合は、次回授業の準備に不足が無いよう、自ら考えて行動する事。 ・授業で毎時配布するプリントは、必要箇所の記入をすませ、まとめて綴じておく。 ・授業時間のうち、15分以上退室すると欠席扱いとなる。
オフィスアワー	授業、会議、実習巡回、出張等が入っていない場合は随時対応します。
備考・メッセージ	レポートや実習に必要な書類などの提出期限厳守

講義科目名称:保育実践演習(教職実践演習 幼稚園)	授業コード:13355
英文科目名称:	ナンバリング:CE403

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
8Q	2	2	卒業:選択 保育士:必修 幼免:必修	演習
担当教員				
川原・陣内・中尾・花城・友廣・戸田・滝川・中村・吉元・末岡・下池				

授業概要	①教育・保育に対する使命感や情熱を持つ 子どもから学び共に成長する姿勢を身につける ②子どもの成長や安全・健康を第一に考え、適切に行動する ③保育者としての自覚に基づき、適切な行動をとる 組織の一員として協力して組織を遂行する 保護者や地域と良好な人間関係を築く ④子どもに対して受容的に接し、豊かな交流をおこなう 子どもの発達や心身の状況を理解し、 適切な援助をおこなう 子どもと信頼関係を築き、活力ある学級経営をおこなう ⑤情報収集力を高めるために、タブレット等を活用し、保育・教育の基本的な知識と保育技能を 身につける 保育の援助技術を身につける 子どもの育ちを確かめながら保育計 画を立てる
------	---

資質・能力	授業における到達目標	評価方法	評価比率
心豊かな人間力			
確かな専門的知識 や技能			
コミュニケーション 能力	・社会や組織の一員としての自覚を持ち、良好な 人間関係を築くことができる		
課題解決能力	・子どもの成長や安全、健康を第一に考え、適切 に行動することができる。 ・教科・保育内容等の内容を理解し、指導法を工 夫することができる ・子どもや学級経営などを理解し、適切に行動す ることができる	各回の課題シート	60%
主体的に学ぶ力	・保育者としての使命感や責任感を持ち、子ども から学び共に成長しようと努力できる	ポートフォリオファイ ルの作成状況 口頭発表	20% 20%
合計			100%
補足事項			
毎回の課題シート60%、ポートフォリオファイルの作成状況20%、口頭発表20%の割合で評価する			

授業計画	授業の内容	実施形式	予習・復習の内容と時間
1回目	使命感や責任感に関する事項 養護的・教育的愛情等に関する事項① ・オリエンテーション(花城) ・実習の振り返り(自己評価)と保育のPDCA	面接授業を基本とする	予習:テーマに合わせた実習時の振り返りをする(2時間) 復習:配布資料や授業内容をまとめ、ファイルに整理する(2

	サイクル(実習担当)		時間)
2回目	使命感や責任感に関する事項 養護的・教育的愛情等に関する事項② ・保育に対する使命感と自己の職責を果たす意思について(実習担当)	面接授業を基本とする	予習:テーマに合わせた実習時の振り返りをする(2時間) 復習:配布資料や授業内容をまとめ、ファイルに整理する(2時間)
3回目	使命感や責任感に関する事項 養護的・教育的愛情等に関する事項③ ・実習の振り返りと保育者としての課題(グループ協議)(実習担当)	面接授業を基本とする	予習:テーマに合わせた実習時の振り返りをする(2時間) 復習:配布資料や授業内容をまとめ、ファイルに整理する(2時間)
4回目	使命感や責任感に関する事項養護的・教育的愛情等に関する事項④ ・体験の共有(まとめ・発表)(実習担当)	面接授業を基本とする	予習:テーマに合わせた実習時の振り返りをする(2時間) 復習:配布資料や授業内容をまとめ、ファイルに整理する(2時間)
5回目	使命感や責任感に関する事項養護的・教育的愛情等に関する事項⑤ ・保育者の持つべき養護的・教育的愛情とは(実習担当)	面接授業を基本とする	予習:テーマに合わせた実習時の振り返りをする(2時間) 復習:配布資料や授業内容をまとめ、ファイルに整理する(2時間)
6回目	使命感や責任感に関する事項養護的・教育的愛情等に関する事項⑥ ・保育者として成長するための課題の認識と解決に向けて(実習担当)	面接授業を基本とする	予習:テーマに合わせた実習時の振り返りをする(2時間) 復習:配布資料や授業内容をまとめ、ファイルに整理する(2時間)
7回目	社会性や対人関係に関する事項① ・組織の一員としての自覚と職務遂行(川原)	面接授業を基本とする	予習:テーマに合わせた実習時の振り返りをする(2時間) 復習:配布資料や授業内容をまとめ、ファイルに整理する(2時間)
8回目	社会性や対人関係に関する事項② ・少子高齢化と世代間交流(花城)	面接授業を基本とする	予習:テーマに合わせた実習時の振り返りをする(2時間) 復習:配布資料や授業内容をまとめ、ファイルに整理する(2時間)
9回目	幼児理解や学級経営に関する事項① ・発達障害のある子どもの理解と援助(下池)	面接授業を基本とする	予習:テーマに合わせた実習時の振り返りをする(2時間) 復習:配布資料や授業内容をまとめ、ファイルに整理する(2時間)
10回目	幼児理解や学級経営に関する事項② ・長時間保育と子どもの心身の発達の(戸田)	面接授業を基本とする	予習:テーマに合わせた実習時の振り返りをする(2時間) 復習:配布資料や授業内容をまとめ、ファイルに整理する(2時間)
11回目	教科・保育内容等の指導力に関する事項① ・保育の中の表現造形の意義と捉え方(陣内)	面接授業を基本とする	予習:テーマに合わせた実習時の振り返りをする(2時間) 復習:配布資料や授業内容をまとめ、ファイルに整理する(2時間)
12回目	教科・保育内容等の指導力に関する事項② ・保育の中の健康の意義と捉え方-特に、子ども	面接授業を基本とする	予習:テーマに合わせた実習時の振り返りをする(2時間)

	もの運動発達の課題と運動遊び指導について -(中尾)		復習:配布資料や授業内容を まとめ、ファイルに整理する(2 時間)
13回目	教科・保育内容等の指導力に関する事項③ ・保育の中の音楽表現の意義ととらえかた(友 廣)	面接授業を 基本とする	予習:テーマに合わせた実習 時の振り返りをする(2時間) 復習:配布資料や授業内容を まとめ、ファイルに整理する(2 時間)
14回目	1. 実習の振り返りと保育のPDCAサイクル ①実習におけるPDCAサイクル (部分・全日実習などにおける PDCAサイクル) ②学生生活におけるPDCAサイクル など	面接授業を 基本とする	予習:テーマに合わせた実習 時の振り返りをする(2時間) 復習:配布資料や授業内容を まとめ、ファイルに整理する(2 時間)
15回目	2. 保育者の持つべき養護的・教育的愛情に ついて 日誌及び振り返りシートを活用した実習の振 り返り ①己課題解決シートへの記入 ②他学生(4人程度)と記入内容の共有し、新 たな解決の視点を発見する	面接授業を 基本とする	予習:テーマに合わせた実習 時の振り返りをする(2時間) 復習:配布資料や授業内容を まとめ、ファイルに整理する(2 時間)
16回目	3. 保育者として成長するための自己課題の 認識と解決方法について ・施設・保育所・幼稚園教育実習体験の 共有化 G討議用個人記入Pへの記入	面接授業を 基本とする	予習:振り返りシートの項目に 沿って記入内容を整理する(2 時間) 復習:配布資料や授業内容を まとめ、ファイルに整理する(2 時間)
17回目	4. 保育者として成長するための課題の認識と 解決に向けて (3)実習体験報告会 (4)課題整理 ①討議内容の補足説明・確認 G討議用個人プリントへ転記	面接授業を 基本とする	予習:テーマに合わせた実習 時の振り返りをする(2時間) 復習:グループ討議での内容 を個人プリントへ転記し提出す る(2時間)
18回目	ポートフォリオファイルの作成 資料をまとめポートフォリオファイルを作成す る	面接授業を 基本とする	予習:テーマに合わせた実習 時の振り返りをする(2時間) 復習:配布資料や授業内容を まとめ、ファイルに整理する(2 時間)
20回目	口頭発表と学習の振り返り 口頭発表シートを作成し、発表を行い、レポート をまとめる	面接授業を 基本とする	予習:テーマに合わせた実習 時の振り返りをする(2時間) 復習:配布資料や授業内容を まとめ、ファイルに整理する(2 時間)
			授業外学修時間 80時間

科目(教職課程用)	教育実践
教育職員免許法施行規則に定める科目区分または事項等	教職実践演習
教科書・参考書	各担当の教員の内容において、必要に応じて資料などを配布する
履修条件	特になし
履修上の注意	自らの保育研究の課題解決のために、主体的な学修姿勢を心掛けること

オフィスアワー	各授業担当教員が授業の前後に教室で質問を受け付ける
備考・メッセージ	毎回の資料および課題シートについてはファイルに綴じておくこと

講義科目名称:卒業研究Ⅰ	授業コード:
英文科目名称:	ナンバリング:CE304

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
5Q・6Q	2	1	選択	演習
担当教員				
陣内・中尾・花城・友廣・戸田・滝川・吉元・末岡・下池				

授業概要	①自ら課題にするゼミナールを選択する。地域活動や講演会等に参加し問題意識を持つ。文献などから現代の保育・教育に関する課題を理解する。 ②子育て支援機関の現状を知る。子育て支援機関の役割について考察する。保育・教育関連機関の連携の現状について理解を深める。 ③ゼミ活動における議論を通し自らの興味関心を探る。自己の保育観・保育者観を見つめる。ゼミで取り組むテーマを見つける。 ④地域の保育・教育機関を訪問し調査する。実地研修に参加する。調査の方法を習得する。 ⑤調査した結果や研修で学んだことをまとめる。調査結果や研修にて修得したことをもとに議論し、理解を深める。新たな課題を見つけ解決策を模索する。
------	--

資質・能力	授業における到達目標	評価方法	評価比率
心豊かな人間力			
確かな専門的知識や技能			
コミュニケーション能力			
課題解決能力	・保育に関する現代の社会的課題について問題意識を持つことができる ・保育の現場で実際に起こっている課題を捉え、それについて考えることができる ・情報収集力を高めるため、タブレット等を活用し、自らの追求すべき研究課題を発見することができる ・地域の保育実践現場を見学し、課題の現状分析を行うことができる ・保育の現場で得た学習内容とこれまでの学習内容を有機的に関連付けることができる	授業への参加・態度 取り組みへの積極性・協調性	40% 60%
主体的に学ぶ力			
合計			100%
補足事項			
授業への参加・態度40%、取り組みへの積極性・協調性60%の割合で、ゼミごとに評価する課題のフィードバックは授業内またはGoogle Classroomで行う。			

授業計画	授業の内容	実施形式	予習・復習の内容と時間
------	-------	------	-------------

分野1 陣内	造形を通した子育て支援 造形ワークショップ実践による子どもと子育て 事情の理解について ・造形活動における子どもの情操と創造性の 発達についての理解 ・子どもいっしょに作って遊べる造形教材の開 発 ※課題提出方法ならびに提出日は別途指示する	面接授業を基 本とする	予習: 毎回の活動内容に関 する資料を収集し、調べてお く(0.5時間) 復習: 毎回の活動内容を振り 返し、改善点をまとめておくこ と(0.5時間)
分野2 中尾	子どもの健康について考える ～運動と食育 活動を通して～ ・健康と運動の関係について体験を通して理 解する ・健康と食育の関係について体験を通して理 解する ・地域の運動遊びの環境、食育活動について 体験を通して理解する。 ※課題提出方法ならびに提出日は別途指示する	面接授業を基 本とする	予習: 毎回の活動内容に関 する資料を収集し、調べてお く(0.5時間) 復習: 毎回の活動内容を振り 返し、改善点をまとめておくこ と(0.5時間)
分野3 花城	地域の子育て環境について考える ～地域交 流・フィールドワークを通して～ ・地域の子育て環境や様々な取組みについて 考える ・地域の自然や公園等を調査し、子育てと自 然環境の関わりについて考察する ・地域の自然環境を活かした遊びの教材開発 を通して保育者に必要な資質を身に付ける ※課題提出方法ならびに提出日は別途指示する	面接授業を基 本とする	予習: 毎回の活動内容に関 する資料を収集し、調べてお く(0.5時間) 復習: 毎回の活動内容を振り 返し、改善点をまとめておくこ と(0.5時間)
分野4 友廣	保育における音楽教育を考える ・保育における音楽活動について理解する ・保護者や子どもたちとの交流を通した音楽活 動を実践する ・様々な身体表現を理解する ※課題提出方法ならびに提出日は別途指示する	面接授業を基 本とする	予習: 毎回の活動内容に関 する資料を収集し、調べてお く(0.5時間) 復習: 毎回の活動内容を振り 返し、改善点をまとめておくこ と(0.5時間)
分野5 戸田	子どもとあそびについて ・子どもが「あそぶ」ことについて ・子どもの年齢・発達などに応じた保育教材を 考え制作する ・「子ども」や「保育」に関するワークショップ等 に参加し、様々な保育資源を知る ※課題提出方法ならびに提出日は別途指示する	面接授業を基 本とする	予習: 毎回の活動内容に関 する資料を収集し、調べてお く(0.5時間) 復習: 毎回の活動内容を振り 返し、改善点をまとめておくこ と(0.5時間)
分野6 滝川	乳幼児の睡眠について ・自分自身や乳幼児の睡眠について理解す る。 ・乳幼児の睡眠の実際について調査する。 ※課題提出方法ならびに提出日は別途指示する	面接授業を基 本とする	予習: 毎回の活動内容に関 する資料を収集し、調べてお く(0.5時間) 復習: 毎回の活動内容を振り 返し、改善点をまとめておくこ と(0.5時間)
分野7	ピア・グループ活動の体験 ・保育者としてピア関係を構築する意義を理解 する ・自己表現と集団の凝集性を高めるワークを 体験する ※課題提出方法ならびに提出日は別途指示する	面接授業を基 本とする	予習: 毎回の活動内容に関 する資料を収集し、調べてお く(0.5時間) 復習: 毎回の活動内容を振り 返し、改善点をまとめておくこ と(0.5時間)
分野8 吉元	保育者と保護者の関わりについて ・保育者の役割について学ぶ ・保護者との関わりについて体験を通して学ぶ ・地域の子育て環境について体験を通して知	面接授業を基 本とする	予習: 毎回の活動内容に関 する資料を収集し、調べてお く(0.5時間) 復習: 毎回の活動内容を振り

	る		返り、改善点をまとめておくこと(0.5時間)
分野9 末岡	子どもを取り巻く環境と保育者の役割について ・子どもたちが過ごす環境について知る。 ・環境を通した保育について学ぶ。 ・自らの体験を通し、子どもの育ちと環境の関わりについて考察する。	面接授業を基本とする	予習: 毎回の活動内容に関する資料を収集し、調べておく(0.5時間) 復習: 毎回の活動内容を振り返り、改善点をまとめておくこと(0.5時間)
分野10 下池	子どもの発達と障害 ・子どもの発達に関する学習や調査を行う ・子どもの発達を体験を通して学ぶ ・障害児に対する支援やかかわりについて学ぶ ※課題提出方法並びに提出日は別途指示する	面接授業を基本とする	予習: 毎回の活動内容に関する資料を収集し、調べておく(0.5時間) 復習: 毎回の活動内容を振り返り、改善点をまとめておくこと(0.5時間)
			授業外学修時間 15時間

科目(教職課程用)	
教育職員免許法施行規則に定める科目区分または事項等	
教科書・参考書	各担当の教員の内容において、必要に応じて資料などを配布する
履修条件	特になし
履修上の注意	自らの保育研究の課題解決のために、主体的な学修姿勢を心掛けること
オフィスアワー	各ゼミ担当教員が授業の前後に質問を受け付ける
備考・メッセージ	各ゼミの活動においては主体的な学ぶ姿勢をもち、地域に必要とされる保育人材になるため資質向上に努めること

講義科目名称:卒業研究Ⅱ	授業コード:
英文科目名称:	ナンバリング:CE404

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	授業形態
7Q・8Q	2	1	選択	演習
担当教員				
陣内・中尾・花城・友廣・戸田・滝川・吉元・末岡・下池				

授業概要	①設定したテーマについて調査学習する 関連事項について文献資料などを収集し熟読する 各教科が横断的に関連していることを理解する ②議論の際に他者の意見を聞く姿勢を学ぶ 結論を導き出していく過程を学ぶ 情報リテラシーについて理解する ③問題を解決するために様々な視点の情報を収集する 様々な立場からの意見を聞く 自己の意見を再構成する方法を学ぶ ④取り組んで行く課題を自己の問題として考察する 調べた内容をまとめ発表する お互いに発表要項をまとめる ⑤卒業研究活動報告会で他ゼミの発表を聞く 発表内容について理解を深める ゼミ仲間と協力して取り組んだことを振り返る
------	--

資質・能力	授業における到達目標	評価方法	評価比率
心豊かな人間力			
確かな専門的知識や技能			
コミュニケーション能力			
課題解決能力	・保育に関する自発的、科目横断的な学習能力を身につけている ・課題解決のための対応・判断方法などについて検討する力を身につけている ・情報収集能力を高めるために、タブレット等を活用し、多視的な観点によって課題を考察することができる ・地域の保育現場で活用するための知識・技能を習得し、自らその習得内容を確認することができる ・表現力や人間関係力を向上させ、他者理解を広げることができる	授業への参加・態度 活動報告集の資料 活動報告会の発表	40% 40% 30%
主体的に学ぶ力			
合計			100%
補足事項			
授業への参加・態度40%、活動報告資料30%、活動報告会の発表30%の割合で、ゼミごとに評価する課題のフィードバックは授業内またはGoogle Classroomで行う。			

授業計画	授業の内容	実施形式	予習・復習の内容と時間
分野1	造形を通した子育て支援	面接授業を基	予習:毎回の活動内容に関

陣内	造形ワークショップ実践による子どもと子育て事情の理解について ・造形活動における子どもの情操と創造性の発達についての理解 ・子どもいっしょに作って遊べる造形教材の開発 ・子どもや保護者とのコミュニケーション能力の涵養	本とする	する資料を収集し、調べておく(0.5時間) 復習: 毎回の活動内容を振り返り、改善点をまとめておくこと(0.5時間)
分野2 中尾	運動遊び・食育活動の企画・実践 ・活動の体験を活かし、食育活動を企画し実践する ・活動の体験を生かし、運動遊びを企画し、実践する ・体験を通して、子どもや保護者との関わりについて理解する	面接授業を基本とする	予習: 毎回の活動内容に関する資料を収集し、調べておく(0.5時間) 復習: 毎回の活動内容を振り返り、改善点をまとめておくこと(0.5時間)
分野3 花城	地域の子育て環境について考える ～地域交流・フィールドワークを通して～ ・地域の子育て環境や様々な取組みについて考える ・地域の自然や公園等を調査し、子育てと自然環境の関わりについて考察する ・地域の自然環境を活かした遊びの教材開発を通して保育者に必要な資質を身に付ける ・地域の子ども達との交流活動を企画運営し、フィールドワークを実施する	面接授業を基本とする	予習: 毎回の活動内容に関する資料を収集し、調べておく(0.5時間) 復習: 毎回の活動内容を振り返り、改善点をまとめておくこと(0.5時間)
分野4 友廣	保育における音楽教育を考える ・保育における音楽活動について理解する ・保護者や子どもたちとの交流を通じた音楽活動を実践する ・様々な身体表現を理解する ・保育現場で子どもたちに音楽活動を実践する	面接授業を基本とする	予習: 毎回の活動内容に関する資料を収集し、調べておく(0.5時間) 復習: 毎回の活動内容を振り返り、改善点をまとめておくこと(0.5時間)
分野5 戸田	子どもとあそびについて ・子どもが「あそぶ」ことについて ・子どもの年齢・発達などに応じた保育教材を考え制作する ・子どもの主体的なあそびに大切な保育の環境を考える ・制作した保育教材を保育場面において活用し、改良点等の再考(再製作)を行う ・「子ども」や「保育」に関するワークショップ等に参加し習得した保育者に必要な要素をまとめる	面接授業を基本とする	予習: 毎回の活動内容に関する資料を収集し、調べておく(0.5時間) 復習: 毎回の活動内容を振り返り、改善点をまとめておくこと(0.5時間)
分野6 滝川	生命(いのち)の教育について ・生命の誕生について理解する ・生命を育むために必要な要素について理解する ・生命にまつわる教育についての考察を深める ・生命にまつわる教育の実践をする	面接授業を基本とする	予習: 毎回の活動内容に関する資料を収集し、調べておく(0.5時間) 復習: 毎回の活動内容を振り返り、改善点をまとめておくこと(0.5時間)
分野7	ピア・グループ活動の企画 ・保育者としてピア関係を構築する意義を理解する	面接授業を基本とする	予習: 毎回の活動内容に関する資料を収集し、調べておく(0.5時間)

	・自己表現と集団の凝集性を高めるワークを体験する ・安心して自己表現ができる工夫や集団の凝集性を高める要素を理解する ・ピア・グループ活動を企画、実施する		復習: 毎回の活動内容を振り返り、改善点をまとめておくこと(0.5時間)
分野8 吉元	保育者と保護者の関わりについて ・保育の場における保護者のニーズを調査する ・調査結果をもとに子どもたちとの交流活動を企画する	面接授業を基本とする	予習: 毎回の活動内容に関する資料を収集し、調べておく(0.5時間) 復習: 毎回の活動内容を振り返り、改善点をまとめておくこと(0.5時間)
分野9 末岡	子どもを取り巻く環境と保育者の役割について ・実践を通して、保育者の役割について学ぶ。 ・子どもの姿を捉える視点や、保育者の援助について理解を深める。 ・子どもを中心とした保育や、保育者が行う環境構成について学ぶ。	面接授業を基本とする	予習: 毎回の活動内容に関する資料を収集し、調べておく(0.5時間) 復習: 毎回の活動内容を振り返り、改善点をまとめておくこと(0.5時間)
分野10 下池	子どもの発達と障害 ・子どもの発達に関する学習や調査を通して、子どもの発達の様相を理解する ・様々な活動の実践を通して子どもの発達を体験的に学ぶ ・障害児の育ちに合わせた関わりや支援について学ぶ	面接授業を基本とする	予習: 毎回の活動内容に関する資料を収集し、調べておく(0.5時間) 復習: 毎回の活動内容を振り返り、改善点をまとめておくこと(0.5時間)
			授業外学修時間 15時間

科目(教職課程用)	
教育職員免許法施行規則に定める科目区分または事項等	
教科書・参考書	各担当の教員の内容において、必要に応じて資料などを配布する
履修条件	特になし
履修上の注意	自らの保育研究の課題解決のために、主体的な学修姿勢を心掛けること
オフィスアワー	各ゼミ担当教員が授業の前後に質問を受け付ける
備考・メッセージ	各ゼミの活動においては主体的な学ぶ姿勢をもち、地域に必要とされる保育人材になるため資質向上に努めること